PORSCHE

Cayenne Turbo, Cayenne Turbo S

取扱説明書

WKD 948 170 **10** 02/09

「ポルシェ」、ポルシェ・クレスト、「カイエン」、「PCCB」、「PCM」、「PSM」、「ティプトロニック」、「テクイップメント」はポルシェ社の登録商標です。

Printed in Japan

本書の一部または全部の複製は、ポルシェ社の文書による許可がない限り禁止致します。

© Dr.Ing.h.c.F.Porsche AG

車載マニュアル

取扱説明書や整備手帳など、車に付属の印刷物は車内に常備してください。車を売却されるときは、次に購入されるお客様にお渡しください。

ご質問・ご提案

車両本体、車載マニュアルについてのご質問やご提案がございましたら、下記までご連絡ください。

東京都目黒区下目黒1-8-1
ポルシェ ジャパン株式会社
アフターセールス部サービスグループ

車の装備について

ポルシェ社は絶えず製品の開発と改良を行っており、お客様の車の装備品や仕様等が、この取扱説明書の内容と一部異なることがあります。あらかじめご了承ください。

オプション装備品や地域別の仕様、法律等の基準によっては、この取扱説明書の内容と異なります。そのような項目にはアスタリスク（＊印）を付けていますのでご留意ください。
この取扱説明書に掲載した装備品の一部はオプション仕様です。車の購入後にオプション装備品を追加したいときは、ポルシェ正規販売店にご相談ください。

この取扱説明書に掲載していない装備品等の取り扱いについて、不明な点はポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ正規販売店は、装備品のすべての操作方法とメンテナンスについて説明致します。

各国の法律等の違いから、この取扱説明書の内容の一部が車の仕様と異なることがあります。

目次

外観図 4
コックピット 5
ステアリング・ホイールと
インストルメント・クラスタ 6
センター・コンソール（フロント） 7

開閉操作とロック 8
概説—車外からの開閉とロック 9
車外からの開閉とロック 10
車内からドアを開く、
またはロックする 19
エンジン・フードの開閉 21
ロック／ロック解除の異常 22
キーおよびセントラル・ロッキング・
システムの知識 24
ポルシェ・エントリー＆ドライブ 25a

**シート、ミラー、
ステアリング・ホイール 26**
フロント・シート 27
コンフォート・メモリー機能付き
フロント・シート 28
イージー・エントリー機能 30
ヘッドレスト 31
消火器 32
シート・ヒータ（フロントおよびリア） ... 32
シートベルト 34
エアバッグ・システム 37
幼児用補助拘束装置 39
ドア・ミラー 45
サイドビュー・モニター付きルーム・
ミラー 47
ステアリング・ホイール 48
ステアリング・ホイール・ヒータ 48
ステアリング調節 49
マルチ･ファンクション･ステアリング ... 50
サンバイザ 52
バニティー・ミラー 52
サン・ブラインド
（リア・サイド・ウィンドウ） 52

**エアコン、補助ヒータ、
リア・ウィンドウ・ヒータ 53**
カバー・フラップを開く 54
エアコン・システムの概要 54
すべてのエアコン・システムに共通の
操作 55
概説—2ゾーン・オート・エアコン 56
2ゾーン・オート・エアコン 57
概説—4ゾーン・オート・エアコン、
フロント・コントロール・パネル 60
概説—4ゾーン・オート・エアコン、
リア・コントロール・パネル 61
4ゾーン・オート・エアコン 62
エア・ベント 66
リア・ウィンドウ・ヒータ 67
補助ヒータ 68

**ウィンドウ、スライディング／
チルティング・ルーフ 73**
パワー・ウィンドウ 74
概説—スライディング／チルティング・
ルーフ 77
スライディング／チルティング・
ルーフ 78
概説—パノラマ・ルーフ・システム 82
パノラマ・ルーフ・システム 83
パノラマ・ルーフ・システムの
緊急操作 87

**ランプ、方向指示灯、
フロント・ワイパー 89**
ランプ・スイッチ 90
メータ・パネル・ランプ 91
ヘッドランプ自動高さ調整 92
方向指示灯／ハイ・ビーム／パッシング・
レバー 92
ハザード・ランプ 93
ルーム・ランプ 93
コンフォート・ランプ 94
ウェルカム・ホーム機能（消灯遅延機能） ... 95
カーテシ・ランプ 95
概説—フロント・ワイパー 96
フロント・ワイパー／ウォッシャ・
レバー 97

マルチ･ファンクション･ディスプレイ、メータ･パネル 101
メータ・パネル 103
油温計 104
タコメータ（回転計） 104
積算距離計 104
時計 104
燃料計 104
スピードメータ（速度計） 105
エンジン・ブースト圧計 105
クーリング・システム 105
バッテリ／オルタネータ 106
エミッション・コントロール 107
マルチ･ファンクション･ディスプレイの操作... 108
メイン・メニューを開く 109
操作の例：平均燃費を表示する 109
平均速度の表示／リセット 111
燃料残量による可走距離の表示 111
タイヤ空気圧の表示 111
コンパスの表示 111
ナビゲーション情報の表示 111
電話の操作 112
制限速度の設定 113
警告メッセージの表示 114
レベリング・システム（車高）のステータス表示 115
ロック／リダクションのステータス表示 115
平均燃費の表示 116
タイヤ空気圧モニタリング･システムの設定... 116
室内モニタ・システムおよび傾斜センサの停止 125
ドア・ミラーの同期調節 125
車の開閉およびロックの設定変更 126
デイタイム・ドライビング・ランプの点灯／消灯 128
消灯遅延機能の設定 129
時計の設定 129
ディスプレイ表示言語の変更 130
ディスプレイ表示単位の変更 130
初期設定への表示のリセット 130
警告灯および警告メッセージ 131

安全運転について 138
お出かけの前に 139
慣らし運転 139
車の技術的な仕様変更 140
テール・パイプ 140
ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ（PCCB） 140
イグニッション・ロック／ステアリング・ロック 141
エンジンの始動と停止 143
自動車電話、無線機 144
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM） 144
ラジオ 144
パーキング・ブレーキ 146
フット・ブレーキ 146
クルーズ・コントロール 148
ティプトロニックS 150
セレクタ・レバーの位置 151
オンロードおよびオフロード走行プログラム 157
トランスミッションおよびシャシー・コントロール・システム 161
レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション 170
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM） 173
ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC） 174
オフロード走行 175
オフロード走行用のドライビング・システム 176
上り坂走行 177
下り坂走行 178
水たまりや浅瀬の走行 179
障害物 180

ラゲッジ･コンパートメント､ローディング･スペースおよび収納スペース.... 182
リア・シートを倒す、戻す 183
ローディング・スペース 186
カーゴ・マネージメント・システム..... 187
荷物の積載 190
ラゲッジ・コンパートメント・カバー... 191
ラゲッジ・セーフティ・ネット 192
スキー・バッグ 194
ルーフ・トランスポート・システム..... 196
収納スペース 197
カップ・ホルダ 200
灰皿 202
シガー・ライタ 203

トレーラー車両の連結..... 204
トレーラー・ヒッチ 205
着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチ 207
電動格納式トレーラー･ヒッチ 212

駐車..... 214
パーキング・アシスタント 215
駐車時の助手席ドア･ミラーの下向き自動調節 219

ガレージ・ドア・オープナー 219

警報システムと盗難防止..... 222
警報システム 223
イモビライザー..... 225
ステアリング・ロック..... 225
盗難を防止するために..... 225

車のお手入れ 226
メンテナンス上の諸注意..... 227
オイル・レベルの点検..... 228
エンジン・オイルの補充..... 229
クーラント・レベルの点検と補充 230
ブレーキ液レベルの点検と交換 232
ウォッシャ液の補充..... 233
エア・クリーナの交換..... 234
室内防塵用フィルタの交換..... 234
パワー・ステアリング..... 234
ワイパー・ブレード..... 235
エミッション・コントロール・システム..... 238
予備燃料タンク..... 238
燃料の給油 239
車のお手入れ 241

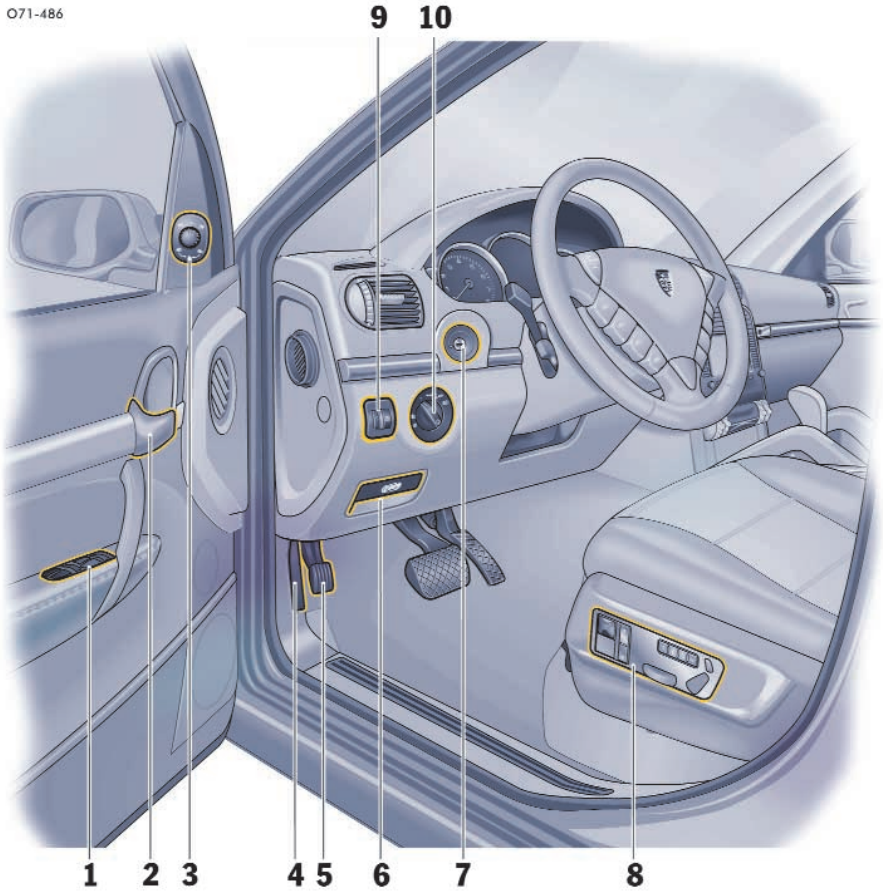
万一のときは 248
軽修理について..... 249
発炎筒 249
タイヤとホイール..... 251
ジャッキ 256
工具セット 257
コンプレッサー..... 257
スペーサ 257
ホイール・ボルト..... 258
パンクしたときの処置..... 259
タイヤ空気の充填..... 269
スペア・タイヤ..... 270
電気系統 274
バッテリ 282
リモート・コントロールの電池交換..... 285
ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動..... 286
バルブの交換 288
ヘッドランプ 289
リア・ランプ 295
ライセンス・ランプ..... 297
ヘッドランプの調整..... 298
右側通行から左側通行への変更に伴うヘッドランプの切り替え 298
バルブ・リスト..... 299
けん引とけん引によるエンジンの始動..... 300

タイヤ空気圧とテクニカル・データ..... 304
車両の識別データ..... 305
エンジン 306
燃費..... 306
タイヤ、ホイール、トレッド 307
冷間時（20℃）のタイヤ空気圧..... 308
車両重量 309
地上高..... 310
容量..... 311
車両寸法 312
動力性能 313

さく引..... 314

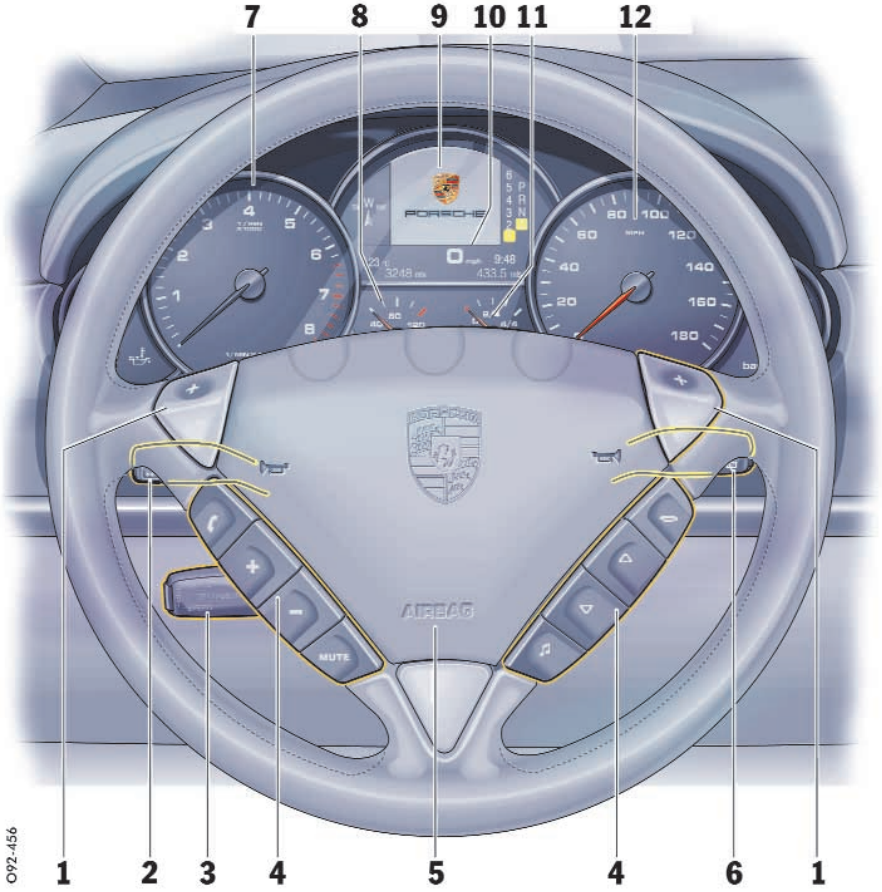
外観図

コックピット..... 5
ステアリング・ホイールとインストルメント・
クラスタ..... 6
センター・コンソール（フロント）..... 7



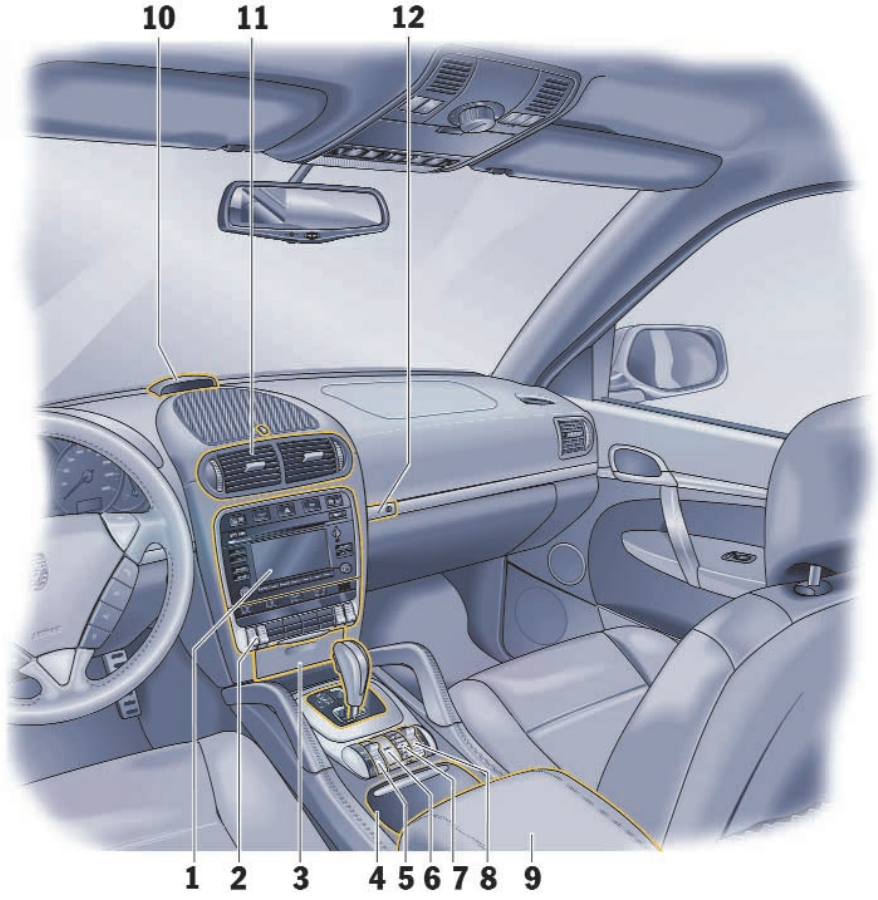
コックピット

1. パワー・ウィンドウ（74ページ）
2. インナー・ドア・ハンドル（20ページ）
3. ドア・ミラー調節（45ページ）
4. エンジン・フード・リリース（21ページ）
5. パーキング・ブレーキ（146ページ）
6. パーキング・ブレーキ・リリース（146ページ）
7. イグニッション・ロック／ステアリング・ロック（141ページ）
8. シート調節（27ページ）
9. メータ・パネル・ランプ（91ページ）
10. ランプ・スイッチ（90ページ）



ステアリング・ホイールと インストルメント・クラスタ

1. ティプトロニック・ロッカー・スイッチ（48ページ）
2. 方向指示灯レバー（92ページ）
3. クルーズ・コントロール操作レバー（148ページ）
4. ファンクション・ボタン（50ページ）
5. ホーン（48ページ）
6. フロント・ワイパー（96ページ）
7. タコメータ（104ページ）
8. 水温計（105ページ）
9. マルチ・ファンクション・ディスプレイ（108ページ）
10. 積算距離計（105ページ）
11. 燃料計（104ページ）
12. スピードメータ（106ページ）



センター・コンソール（フロント）

1. ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊
（別冊の取扱説明書を参照）
2. エアコン（54ページ）
3. 灰皿／シガー・ライタ（202ページ）
4. カップ・ホルダ（200ページ）
5. リダクション（ロー・レンジ）、ディファレンシャル・ロック（157ページ）
6. スポーツ・モード（159ページ）
7. ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）ーシャシーの設定（173ページ）
8. エア・サスペンションの車高調整（170ページ）
9. アームレスト、小物入れ（198ページ）
10. パーキング・アシスタント警告灯（217ページ）
11. エア・ベント（66ページ）
12. グローブ・ボックス（198ページ）

＊日本仕様に設定はありません。

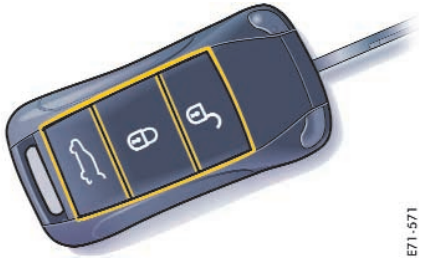
開閉操作とロック

概説ー車外からの開閉とロック..... 9
車外からの開閉とロック 10
車内からドアを開く、または
ロックする 19
エンジン・フードの開閉 21
ロック／ロック解除の異常 22
キーおよびセントラル・ロッキング・
システムの知識..... 24
ポルシェ・エントリー＆ドライブ 25a

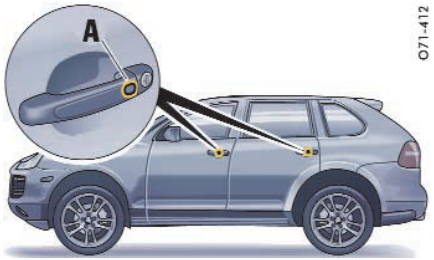
概説ー車外からの開閉とロック

ポルシェ・エントリー&ドライブは、ドア・ハンドルのボタン**A**の操作でロック／ロック解除ができるシステムです。

この概要説明は後述の「車外からのロック／ロック解除」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「車外からのロック／ロック解除」の項を参照してください。



キー



ポルシェ・エントリー&ドライブ

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？	その結果は？
ロックを解除する	キーを使用する： キーの🔓ボタンを押します。	キーを使用する： ハザード・ランプが1回点滅してロックが解除されます。 ドアを開けることができます。
	ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車： ドア・ハンドルをしっかりと握ります。	ポルシェ・エントリー&ドライブを使用する： ロックが解除され、ドアを開けることができます。
ロックする	キーを使用する： キーの🔒ボタンを押します。	ハザード・ランプが2回点滅してドアがロックされます。
	ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車： ドア・ハンドルのボタン**A**を押します。	
人や動物を車内に残したままロックする （室内モニタ・システムをOFFにする）	キーを使用する： キーの🔒ボタンを2回押します。 （約2秒以内）	ハザード・ランプが4回点滅してドアがロックされます。 このときインナー・ドア・ハンドルを2回引くと、ドア・ロックを解除できます。
	ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車： ドア・ハンドルのボタン**A**を2回押します。 （約2秒以内）	
警報システムをOFFにする	キーの🔓ボタンを押します。	

車外からの開閉とロック

車の装備仕様により、キーまたはポルシェ・エントリー&ドライブで車のロックおよびロック解除ができます。

キーによるロック／ロック解除
キーのボタン操作でロックおよびロック解除を行います。

ポルシェ・エントリー&ドライブによるロック／ロック解除
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、キーを身に着けていれば（例えばズボンのポケットに入れているだけで）、キーを使用することなく車のロック／ロック解除およびエンジンの始動ができます。

▷ キーを強い電磁波にさらさないでください。ポルシェ・エントリー&ドライブの機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。

知識
この章では、工場で初期設定している機能をもとに説明しています。
メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、機能の設定を変更することができます。変更した設定は、そのとき使用しているキーの設定情報として記憶することができます。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイで設定できる機能の詳細については：
「車の開閉およびロックの設定変更」（126ページ）を参照してください。

ドア・ロックを解除してドアを開ける

キーによるロックの解除

1. キーの🔓ボタンを短押しします。ハザード・ランプが1回点滅し、ドアのロックが解除されます。
2. ドア・ハンドルを引いてドアを開けます。

ポルシェ・エントリー&ドライブによるロックの解除（キーレス操作）

キーを身に着けて運転席ドアの近くにいれば、車のロックを解除できます。

▷ ドア・ハンドルをしっかり握ると、ドアのロックが解除されます。

▷ ドア・ハンドルを引いてドアを開けます。

知識

ドア・ロックを解除してから30秒以内にドアを開けないと、自動的に再ロックされます。

室内モニタ・システムおよび傾斜センサ＊をOFFにしているとき（盗難防止機能を制限しているとき）は、30秒後に自動的に再ロックされた後も、その状態を維持します。つまりこの状態では、インナー・ドア・ハンドルを2回引くとドアを開けることができます。

自動的に再ロックされた後は、室内モニタ・システムと傾斜センサ＊が再作動します。

＊日本仕様に設定はありません。

ドアをロックする

キーによるロック

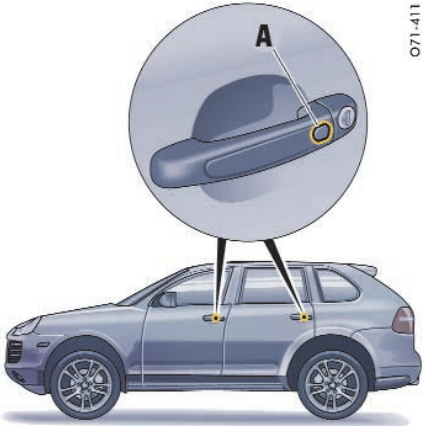
▷ ドアを閉めます。

▷ キーの🔒ボタンを1回短押しします。ハザード・ランプが2回点滅してドアがロックされます。このときは、車外からも車内からもドアを開けることができません。
または、
人や動物を車内に残したままロックするときは、キーの🔒ボタンを2回短押しします。ハザード・ランプが4回点滅してドアがロックされます。このときは、インナー・ドア・ハンドルを2回引くとドアを開けることができます。

▷ ドアを開けると盗難防止警報システムが作動することを車内に残る人にお知らせください。

知識

運転席ドアが開いていると、車をロックできません。



ポルシェ・エントリー&ドライブによるロック（キーレス操作）

この操作を行うときは、キーを身に着けていなければなりません。

▷ ドアを閉めます。

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**（ポルシェ・エントリー&ドライブのロック・ボタン）を短押しします。ハザード・ランプが2回点滅してドアがロックされます。このときは、車外からも車内からもドアを開けることができません。
または、
人や動物を車内に残したままロックするときは、ドア・ハンドルのボタン**A**（ポルシェ・エントリー&ドライブのロック・ボタン）を2回短押しします。ハザード・ランプが4回点滅してドアがロックされます。このときは、インナー・ドア・ハンドルを2回引くとドアを開けることができます。

▷ ドアを開けると盗難防止警報システムが作動することを車内に残る人にお知らせください。

知識

— 運転席ドアが開いていると、車をロックできません。

— ドアをロックするときはキーを車外に持ち出してください。キーが車内にあるとドアをロックできません。

— キー・リモート・コントロールが作動範囲外にあるときは、車をロックした後にドアを開けることができません。

リア・リッド・ロックを解除してリッドを開ける

スペア・タイヤ・ブラケット装備車＊は、リア・リッドを開ける前にスペア・タイヤ・ブラケットを横に開く必要があります。スペア・タイヤ・ブラケットの開け方については：
「スペア・タイヤ・ブラケットの開け方」（271ページ）を参照してください。

リア・リッドのロックを解除してもドアはロックされたままです。
リア・リッド・ロックを解除してから30秒以内にリア・リッドを開けないと、自動的に再ロックされます。

キーによるロックの解除

▷ キーの ボタンを押します。
▷ リア・リッドのリリース・ハンドル（矢印）を押して、リア・リッドを開けます。

ポルシェ・エントリー&ドライブによるロックの解除（キーレス操作）

⚠ 警 告

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、キーを閉じ込む恐れがあります。

▷ 車をロックしてリア・リッドから出入りするときは、キーを車内に残さないでください。リア・リッドを閉めると車が自動的にロックされます。

キーを車内に残したままリア・リッドを閉めると、ハザード・ランプが2回点滅して警告音が鳴ります。リア・リッドを閉めてから約30秒以内であれば、リッドを開けることができます。リア・リッドを閉めてから約30秒が経過するとリッドがロックされ、スペア・キーを使用しないと開けることができません。

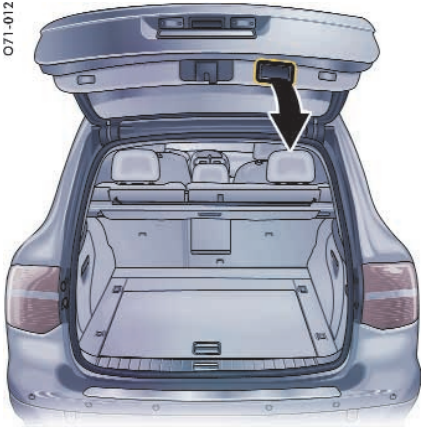
＊日本仕様に設定はありません。

⚠ 危 険

リア・リッドが開いていると排気ガスが車内に浸入して中毒を起こす恐れがあります！

▷ エンジンがかかっているときは必ずリア・リッドを閉めてください。
▷ リア・リッドを開けたままで走行しないでください。

キーを身に着けてリア・リッドの近くにいれば、リア・リッドのロックを解除できます。
▷ リア・リッドのリリース・ハンドル（矢印）を押して、リア・リッドを開けます。



リア・リッドをロックする

リア・リッドにはパワー・クロージング・メカニズムが組み込まれています。

1. リア・リッド内側のハンドル（矢印）を引き下げて、ロックに軽く押し込みます。
   リア・リッドが自動的に引き込まれ、ロックされます（リア・リッドがアンロックのときのみ）。
2. 車をロックします。

⚠ 警 告

リア・リッドは自動的に引き込まれて閉じる（ロックされる）ため、怪我をする恐れがあります。

- ▷ リア・リッドの下に指を入れないでください。
- ▷ パワー・クロージング・メカニズムの可動部品（ラッチ・ストライカ）に手足や物などを近づけないでください。
- ▷ お子様だけを車内に残さないでください。

知識

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車では、キー・リモート・コントロールが作動範囲外にあるとリア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケット＊を開けることができません。

＊日本仕様に設定はありません。

オートマチック・リア・リッド

リア・リッドを自動開閉する

⚠ 警 告

リア・リッドを不注意に自動開閉すると、怪我をしたり車が損傷する恐れがあります。

- ▷ 停車中のみ、リア・リッドを開閉してください。
- ▷ リア・ウィンドウまたはリア・リッドを開けたまま走行しないでください。排気ガスが車内に侵入して中毒を起こす恐れがあります。
- ▷ 周囲に人、動物、障害物などがないことを確認してからリア・リッドを開閉してください。
- ▷ リア・リッドの開閉中は、必ず動作を見守ってください。いざというときは緊急停止することができます。
- ▷ 車体後方や上方に十分なスペースがあることを確認してからリア・リッドを開閉してください。リア・リッドがルーフ・トランスポート・システムやガレージの屋根などに衝突する恐れがあります。
- ▷ リア・リッドを自動で開ける前に、リア・ラック・システムを取り外してください。

⚠ 警 告

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、キーを閉じ込む恐れがあります。

▷ 車をロックしてリア・リッドから出入りするときは、キーを車内に残さないでください。リア・リッドを閉めると車が自動的にロックされます。

キーを車内に残したままリア・リッドを閉めると、ハザード・ランプが2回点滅して警告音が鳴ります。リア・リッドを閉めてから約30秒以内であれば、リッドを開けることができます。リア・リッドを閉めてから約30秒が経過するとリッドがロックされ、スペア・キーを使用しないと開けることができません。

リア・リッドを自動で開ける

トレーラー車両をけん引しているときは、リア・リッドのリリース・ボタンを操作したときだけリア・リッドが開きます。
リア・リッドを開けるには、以下の3通りの方法があります：

オプション1

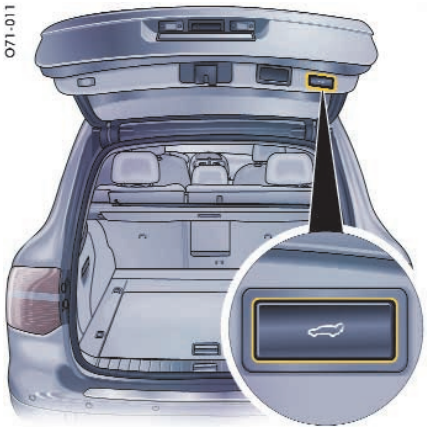
▷ 車のロックが解除されている状態で、リア・リッドのリリース・ハンドルを短押しします。
ただしポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、車がロックされていてもリア・リッドが開きます。ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、キーを身に着けていれば（例えばズボンのポケットに入れているだけで）、キーを使用することなくリア・リッドのロックが解除されます。

オプション2

▷ キーの ボタンを約1秒間押します。
このとき車がロックされていれば、リア・リッドを開けてもドアはロックされたままです。

オプション3

▷ イグニッションをONにして、リア・リッドが完全に開くまで運転席ドアのボタンを引き続けます。
リア・リッドが開く動作の途中でボタンから手を放すと、リッドの開動作が中断されます。



リア・リッドを自動で閉める

リア・リッドを閉める前に、リッドの可動範囲に荷物などがないことを確認してください。リッドが障害物に衝突すると、閉動作が中断され、数センチメートル開きます。

▷ リア・リッド内側のトリム・パネルにあるボタンを短押しします。

緊急時の開閉動作の中断

以下のいずれかの操作を行うと、リア・リッドの開閉動作が中断されます：

▷ キーの ボタンを押したとき
または、
運転席ドアのボタンから手を放したとき
または、
リア・リッド・トリム・パネルのボタンを短押ししたとき
または、
リア・リッドのリリース・ボタンを短押ししたとき

リア・リッドの自動開閉動作は、いずれかのボタンを押すと、いつでも再開できます。

リア・リッド開動作中の障害物の検出

リア・リッドが開く動作の途中で障害物に衝突すると、動作が中断されて警告音が鳴ります。
障害物を取り除いた後、以下の操作で動作を再開できます：
キーの ボタンを押す
または、
運転席ドアのボタンを引く
または、
リア・リッドのリリース・ボタンを押す

リア・リッド閉動作中の障害物の検出
リア・リッドが閉まる動作の途中で障害物に衝突すると、動作が中断されて警告音が鳴り、リッドが数センチメートル開きます。障害物を取り除いた後、リア・リッド・トリム・パネルのボタンを押すとリア・リッドを閉めることができます。

リア・リッドを開く高さの設定
例えば天井が低い車庫の中でリア・リッドを開くときなど、リッドを開く高さをあらかじめ設定することができます。
レベリング・システム装備車は、レベリング・システムの設定に応じて車高が変化します。このため、車高を最も高い状態にしてからリア・リッドが開く高さを設定してください。車高が低い状態でリア・リッドの高さを設定すると、レベリング・システムの設定を切り替えたときにリア・リッドが障害物と衝突する原因になります。

1. 車の後方に立ってリア・リッドを開きます。
2. リア・リッドが全開時の約2/3の高さまで開いたときに、キーの ボタンを押して自動開動作を中断します。
3. そこから、設定したい高さになるまでリア・リッドを手で開きます。このとき、天井などの障害物との距離が十分に保たれていることを確認します。
4. リア・リッド・トリム・パネルのボタンを約3秒間押し続けます。
   リア・リッドを開く高さが記憶されると、確認音が鳴って方向指示灯が1回点灯します。
   上記の操作を完了したら、ボタンを短押ししてリア・リッドを閉めます。

この設定は、1度記憶させると消去ができません。リア・リッドを開く高さを変更したいときは、前記1〜4の手順を繰り返してください。

リア・リッド・ドライブ・メカニズムの作動停止
バッテリ電圧が低下すると、リア・リッドの自動開閉機能が作動しません。
ボタンを押すと、リア・リッド・ロックが解除されて警告音が約3秒間鳴ります。このときリア・リッドは手動で開閉することができます。
▷ バッテリを充電してください。

リア・リッドの緊急操作
メカニズムの故障などでリア・リッドの自動開閉動作が中断されると、警告音が約3秒間鳴ります。
▷ リア・リッドを手で開閉してください。

リア・ウィンドウ・ロックを解除してリア・ウィンドウを開ける

リア・ウィンドウのロックを解除してもドアはロックされたままです。
リア・ウィンドウ・ロックを解除してから30秒以内にリア・ウィンドウを開けないと、自動的に再ロックされます。

キーによるロックの解除（オートマチック・リア・リッド非装備車）

▷ キーの ボタンを約2秒間押します。
リア・ウィンドウ・ロックが解除され、ウィンドウが少し開きます。

キーによるロックの解除

1. キーの ボタンを押します。
2. リア・ウィンドウのリリース・ボタン**A**を押して、リア・ウィンドウを開けます。

ポルシェ・エントリー&ドライブによるロックの解除（キーレス操作）

⚠ 警 告

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、キーを閉じ込む恐れがあります。

▷ 車をロックしてリア・ウィンドウから出入りするときは、キーを車内に残さないでください。リア・ウィンドウを閉めると車が自動的にロックされます。

キーを車内に残したままリア・ウィンドウを閉めると、ハザード・ランプが2回点滅して警告音が鳴ります。リア・ウィンドウを閉めてから約30秒以内であれば、ウィンドウを開けることができます。リア・ウィンドウを閉めてから約30秒が経過するとウィンドウがロックされ、スペア・キーを使用しないと開けることができません。

⚠ 危 険

リア・ウィンドウが開いていると排気ガスが車内に浸入して中毒を起こす恐れがあります！

▷ エンジンがかかっているときは必ずリア・ウィンドウを閉めてください。

▷ リア・ウィンドウを開けたままで走行しないでください。

キーを身に着けてリア・リッドの近くにいれば、リア・ウィンドウのロックを解除できます。

▷ リア・ウィンドウのリリース・ボタン**A**を押して、リア・ウィンドウを開けます。

リア・ウィンドウを閉める

▷ リア・ウィンドウを閉めて、完全にロックされるまで手でウィンドウを押し付けます。

知識

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車では、キー・リモート・コントロールが作動範囲外にあるとリア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケット＊を開けることができません。

＊日本仕様に設定はありません。

車内からドアを開く、またはロックする

この章では、工場で初期設定している機能をもとに説明しています。
メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、機能の設定を変更することができます。変更した設定は、そのとき使用しているキーの設定情報として記憶することができます。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイで設定できる機能（オート・ロックおよびオート・ロック解除など）の詳細については：
「車の開閉およびロックの設定変更」（126ページ）を参照してください。

ドアをロックする

アームレストのボタンによるロック

▷ ドア・パネルにあるボタンの右半分を押します。
すべてのドアがロックされます。このときインナー・ドア・ハンドルを2回引くと、ドアが開きます。

オート・ロック機能による自動ロック
速度が約6km/hを超えると車が自動的にロックされます。

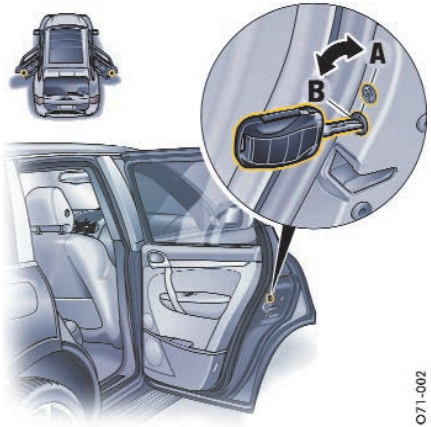
ドア・ロックを解除する

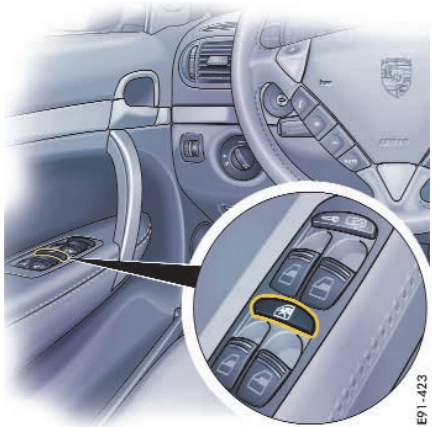
アームレストのボタンによるロック解除

▷ ドア・パネルにあるボタンの左半分を押します。
リア・ドア・パネルのボタンを押したときは、ボタン操作を行ったドア・ロックだけが解除されます。

オート・ロック解除による自動ロック解除
イグニッションをOFFにするか、またはイグニッション・キーを抜き取ると、車が自動的にロック解除されます。

知識
リモート・コントロールまたはキーで車がロックされているときは、セントラル・ロッキング・ボタンの操作でロックを解除できません。





ドアを開ける

ロックが解除されているドアを開ける

▷ インナー・ドア・ハンドルを1回引きます。

ロックされているドアを開ける

(ボタンを1回押して車がロックされている場合は、この操作を行ってもドアが開きません。)

▷ インナー・ドア・ハンドルを2回引きます。

リア・ドアのチャイルド・ロック

走行中、誤操作でリア・ドアが開くことを防ぐための機能です。

チャイルド・ロック機能の作動／解除

チャイルド・ロックを作動／解除するためのキー・スイッチがリア・ドア開口部のキャッチ付近にあります。

チャイルド・ロックを作動させると、インナー・ドア・ハンドルの操作でリア・ドアが開きません。

▷ 作動させるには：キー・スイッチを**A**の位置に回します。

▷ 解除するには：キー・スイッチを**B**の位置に回します。

チャイルド・プロテクションのON/OFF

運転席ドア・アームレストのセーフティ・ボタンを操作すると、リア・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチとセントラル・ロッキング・ボタン、さらにエアコンのリア・コントロール・パネルの機能をキャンセルできます。

▷ セーフティ・ボタンを押して、チャイルド・プロテクション機能をON/OFFします。
チャイルド・プロテクション機能がONになると、セーフティ・ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

エンジン・フードの開閉

エンジン・フードを開ける

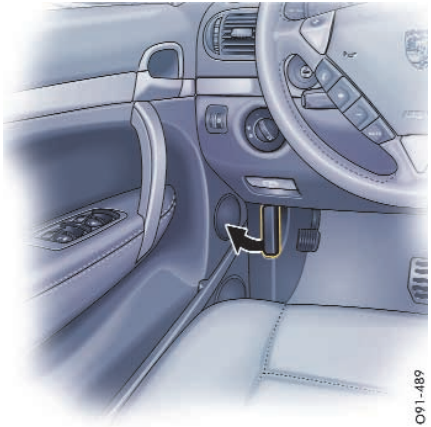
⚠ 注 意

エンジン・フードまたはフロント・ワイパーを損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・フードを開けるときは、フロント・ワイパー・アームが起きていないことを確認してください。

▷ エンジン・フードを開ける前に必ずワイパー・システムをOFF（ワイパー・レバーを**0**の位置）にしてください。

イグニッションをOFFにしていても、フロント・ワイパーが停止位置にないときは、エンジン・フードを開けたときに自動的に停止位置まで動きます。エンジン・フードを閉めてワイパー・システムをOFFにしてから再度ONにするまで、ワイパー・アームがその位置に保持されます。



1. リリース・レバー（矢印）を引きます。エンジン・フードのロックが解除されます。
2. セーフティ・キャッチ**A**のロックを解除します。
3. エンジン・フードを完全に開きます。

エンジン・フードを閉める

1. エンジン・フードが閉まる直前まで手で下ろし、そこで手を放してエンジン・フードをロックします。必要であれば、セーフティ・キャッチの真上付近を手のひらで押して、エンジン・フードを確実にロックします。
2. エンジン・フードのロックが確実にかかっていることを確認します。

エンジン・フードが完全に閉まっていないと、車を発進させたときにメータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

ロック／ロック解除の異常

リア・リッドの緊急操作

リモート・コントロールでリア・リッドが開かないとき（リモート・コントロールの電池が弱まったときなど）は、以下の緊急操作を行ってください。

1. キーを使用して運転席ドアのロックを解除し、ドアを開けます。
2. イグニッションをONにして盗難防止警報システムを解除します。
3. マルチ・ファンクション・ディスプレイのTAILGATE（リア・リッド）メニューでリア・リッド・ロックの機能を作動させます。「リア・リッド・ロックの設定」（127ページ）を参照してください。
4. アームレストのセントラル・ロッキング・ボタンを押します。リア・リッドのロックが解除されリリース・ハンドルでリア・リッドを開けることができます。

1つのドアだけロックが解除される

ドアおよびリア・リッドのロック／ロック解除機能は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して設定を変更することができます。ただし、どの設定に切り替えてもすべてのドアを開けることができます。

▷ キーのボタンを1回押し、約2秒以内にもう1回押します。

車のロックを解除できない

キー・リモート・コントロールが、以下のいずれかの状態になっている可能性があります：

— 電磁波などの影響でリモート・コントロールが正常に機能していません。（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のリモート・コントロールと車の交信でも、同様の不具合が発生することがあります。）
— システムが故障しています。
— リモート・コントロールに内蔵している電池が消耗しています。

▷ キー・シリンダにキーを差し込んでロックを解除してください。
▷ ドアのキー・シリンダにキーを差し込んでロックを解除した場合は、運転席ドアだけが開きます。
盗難防止警報システムの作動を回避するため、ドアを開けてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。

車をロックできない

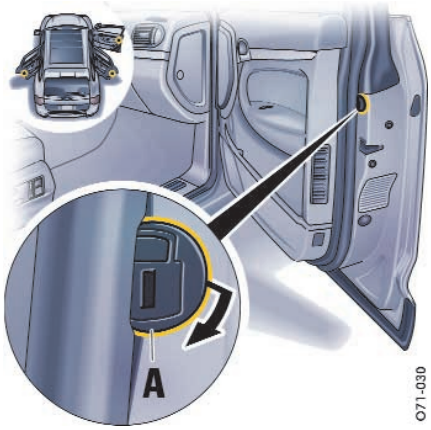
車がロックされない場合は、ハザード・ランプが点滅せず、ロック音も聞こえません。この場合は、キー・リモート・コントロールが、以下のいずれかの状態になっている可能性があります：

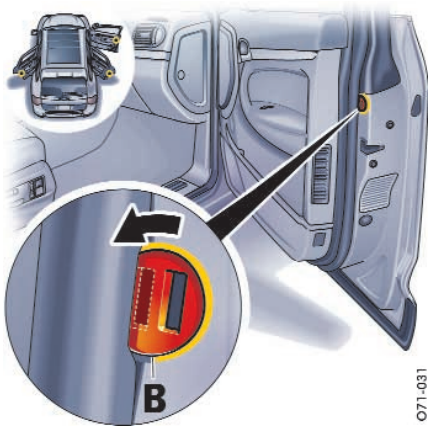
— 電磁波などの影響でリモート・コントロールが正常に機能していません。（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のリモート・コントロールと車の交信でも、同様の不具合が発生することがあります。）
— システムが故障しています。
— リモート・コントロールに内蔵している電池が消耗しています。

▷ キー・シリンダにキーを差し込んでロックしてください。

セントラル・ロッキング・システムが故障したときは、運転席ドアのキー・シリンダにキーを差し込んでロックするとセントラル・ロッキング・システムで作動するすべての部位がロックされます。

▷ 緊急操作によるドアのロックについては：
「すべてのドアがロックできない」（23ページ）を参照してください。
▷ セントラル・ロッキング・システムが故障したときはポルシェ正規販売店に修理を依頼してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。





すべてのドアがロックできない

セントラル・ロッキング・システムの故障が考えられます。この場合は、緊急用のロッキング・メカニズムを使用してドアをロックします。

1. 助手席ドアを開けます。
2. カバー**A**を取り外します。
3. キーを使用して、赤色のスライド**B**を矢印に方向に押します。
   キー・ブレードの取り出しについては：
   「キー・ブレードを取り出す」（24ページ）を参照してください。
4. カバー**A**を取り付けます。
5. リア・ドアについても同様の作業を行います。
6. すべてのドアを閉めます。
7. 運転席ドアのキー・シリンダにキーを差し込んで、ドアをロックします。

キーおよびセントラル・ロッキング・システムの知識

キー

この車には折りたたみ式のキー2本が付属しており、すべてのキー・シリンダをロック／ロック解除できます。

- ▷ キーの取り扱いには十分注意してください： 特別な場合を除いて、キーを放置しないでください。
- ▷ わずかな時間でも車から離れるときは、キーを放置せず所持してください。
- ▷ キーを紛失したときや盗難に遭ったとき、スペア・キーを作成したり交換したときは、ご契約の保険会社にお知らせください。
- ▷ 紛失したキーを使用すれば、キーの電子コードを無効にしていても、第三者がキー・シリンダを使用して機械的に車をロック／ロック解除できます。

知識

イグニッションをOFFにして車をロックすると、そのときのエアコンの設定が、そのとき使用しているキーの設定情報として記憶されます。

キー・ブレードを取り出す

- ▷ リリース・ボタンを押します。収納されているキー・ブレードが出てきます。

キー・ブレードを収納する

- ▷ リリース・ボタンを押したままキー・ブレードを折りたたみます。

キーの交換

この車のキーは、ポルシェ正規販売店だけでお求めいただくことができます。新しいキーを注文してから入手するまでには大変時間がかかりますので、いつでもスペア・キーを利用できるように用意しておくことをお勧めします。スペア・キーは盗難の恐れがない安全な場所に保管し、車内や車の近くに置かないでください。

新しいキーを使用するためには、キーの電子コードを車のコントロール・ユニットに登録する必要があります。この登録作業はポルシェ正規販売店だけで実施が可能です。なお、この登録作業を行うときは、現在使用しているすべてのキーを同時に再登録しなければなりません。再登録しなかったキーは、電子コードが抹消されてしまいます。

セントラル・ロッキング・システム

この車にはセントラル・ロッキング・システムを装備しています。セントラル・ロッキング・システムは、以下の部位をロック／ロック解除します：

— ドア
— リア・リッドおよびリア・ウィンドウ
— フィラー・フラップ（燃料給油口）

車をロック／ロック解除すると、セントラル・ロッキング・システムが自動的に作動します。

ドアおよびリア・リッドのロック／ロック解除機能は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して設定を変更することができます。ただし、どの設定に切り替えてもすべてのドアを開けることができます。

▷ キーのボタンを1回押し、約2秒以内にもう1回押します。

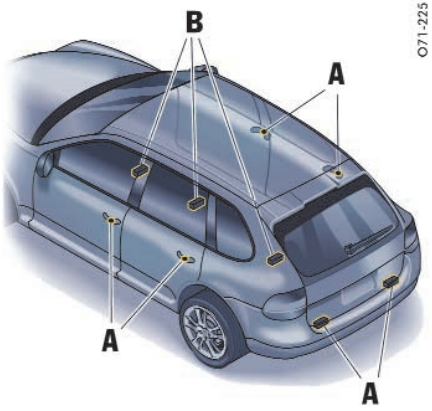
作動待機の解除

（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車）

車のロックを一定時間以内に解除しないと、ポルシェ・エントリー＆ドライブの作動待機が解除されます。運転席ドアは約90時間後、その他のドアは約30時間後に作動待機が解除されます。

▷ ドア・ハンドルを1回引きます。システムが作動待機状態に戻ります。
▷ 再度ドア・ハンドルを引くとドアが開きます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ



ポルシェ・エントリー&ドライブのアンテナの取り付け位置

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車は、リモート・コントロール付きキーと車両のアンテナが電波で通信することで、ドアやリア・リッドをロック解除およびロックできます。

植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を装着されているお客様へ

⚠ 警 告

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車室外アンテナ“A”および車室内アンテナ“B”から約22cm以内の範囲に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を近づけないでください。

▷ 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、車室外アンテナ**“A”**および車室内アンテナ**“B”**から約22cm以内の範囲に近づかないでください。アンテナからは電波が出ており、植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える恐れがあります。

▷ 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用されている方は、医師や医療用電気機器製造業者などに電波の影響の有無について事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える恐れがあります。

memo

シート、ミラー、ステアリング・ホイール

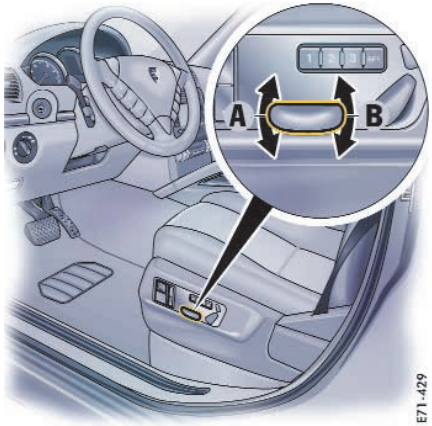
フロント・シート 27
コンフォート・メモリー機能付き
フロント・シート 28
イージー・エントリー機能 30
ヘッドレスト 31
消火器 32
シート・ヒータ（フロントおよびリア） ... 32
シートベルト 34
エアバッグ・システム 37
幼児用補助拘束装置 39
ドア・ミラー 45
サイドビュー・モニター付きルーム・
ミラー 47
ステアリング・ホイール 48
ステアリング・ホイール・ヒータ 48
ステアリング調節 49
マルチ・ファンクション・ステアリング 50
サンバイザ 52
バニティー・ミラー 52
サン・ブラインド
（リア・サイド・ウィンドウ） 52

フロント・シート

シート位置

安全で疲れにくい運転には、正しいシート位置が重要です。運転者の体格など必要条件に応じて、以下の要領で運転席のシート位置を調節してください。

1. シートの高さを調節します。頭上の空間に余裕があり、周囲の視界が開ける高さに調節してください。
2. シートの前後位置を調節します。アクセル・ペダルをいっぱいまで踏み込んだ状態でシートを前後に動かし、脚が自然に伸びた状態で、足の裏全体がアクセル・ペダルを踏み込める位置に調節してください。
3. バックレストの角度を調節します。ステアリング・ホイールの上部を握ったままバックレストを動かし、肘が少し曲がる位置に調節してください。このとき、肩がバックレストから離れていないことを確認してください。
4. 必要に応じて、シートの前後位置を再調節します。
5. ヘッドレストの高さを調節します。ヘッドレストの上端が目の高さ（または目の高さより少しだけ上）になるように調節してください。



シートの調節

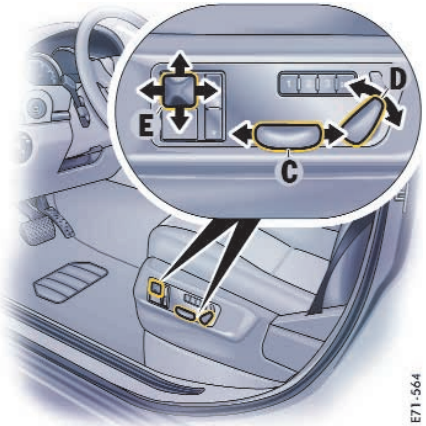
⚠ 警 告

運転中はシート位置を調節しないでください。シートが予想以上に大きく動いて運転操作を誤り、事故を起こす恐れがあります。

▷ 走行中はシート位置を調節しないでください。

シートが動く範囲に人や動物がいると、シート位置を調節するときに怪我をする恐れがあります。

▷ シートが動く範囲に人や動物がいないことを確認してからシート位置を調節してください。



A 座面前部の高さ調節

B 座面後部の高さ調節

C 前後位置の調節

D バックレストの角度調節

E ランバー・サポートの位置調節
リラックスした状態で運転操作に集中できるように、バックレストの曲がり加減を上下左右に調節できます。骨盤や脊柱の形に合わせて快適と感じる位置に調節してください。

▷ 各スイッチを矢印の方向に押して、お好みのシート位置に調節します。

コンフォート・メモリー機能付きフロント・シート

シート、ドア・ミラー、ステアリング・ホイール、およびシートベルト高さを、パーソナル・ボタン**A**とそのとき使用しているキーのメモリーに保存し、運転者のお好みに応じて呼び出すことができます。

⚠ 警 告

誤った方法で保存しているメモリーを呼び出すと、メモリーが消えることがあります。

▷ シート調節スイッチのいずれかを押すと、自動呼び出し機能がキャンセルされます。

▷ お子様だけを車内に残さないでください。

コンフォート・メモリー・オプション

— シート調節

— ドア・ミラー調節

— ステアリング・ホイール、シートベルト高さ調節

キーまたはポルシェ・エントリー&ドライブによるメモリーの呼び出し

▷ 運転席ドアを開けます。
運転席シートのメモリーが自動的に呼び出されます。

自動呼び出し機能のキャンセル

運転席シート調節スイッチのいずれかを押すと、自動呼び出し機能がただちにキャンセルされます。

パーソナル・ボタン1〜3によるメモリーの呼び出し（運転席および助手席シート）

1. 車のロックを解除します。
2. メモリー位置へのシート調節が完了するまで、任意のパーソナル・ボタンを押し続けます。

   または、

   キーを差し込んだ状態で任意のパーソナル・ボタンを短押しすると、メモリーが呼び出されてシート位置が自動的に調節されます。ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、イグニッションをONにした状態で任意のパーソナル・ボタンを短押しすると、メモリーが呼び出されてシート位置が自動的に調節されます。

自動呼び出し機能のキャンセル

シート調節スイッチのいずれかを押すと、自動呼び出し機能がただちにキャンセルされます。

運転席シート・メモリー

パーソナル・ボタンおよび、そのとき使用しているキーへのメモリー保存

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションをONにします。
3. シート、ドア・ミラー、ステアリング・ホイール、およびシートベルト高さをお好みの位置に調節します。
4. メモリー・ボタン「SET」を短押しした後、10秒以内にパーソナル・ボタン**1～3**のいずれかを確認音が聞こえるまで押し続けてください。確認音が鳴ると、そのとき押しているパーソナル・ボタンにメモリーが保存されます。
5. キーを抜き取ります。ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、イグニッションをOFFにします。
6. 10秒以内にメモリー・ボタン「SET」を押し、確認音が聞こえるまでボタンを押し続けます。そのとき使用しているキーに、メモリー位置が記憶されます。

A—*ドア・ミラー調節*
C—*助手席側ドア・ミラー調節*

駐車時の助手席ドア・ミラー位置の記憶

車を後退させるときに、助手席側ドア・ミラーを下向きに切り替えることができます。この下向きミラー位置は、運転席シート・メモリーに記憶させることができます。

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションをONにします。
3. パーソナル・ボタンのいずれかを押します。
4. リバース（後退）ギヤを選びます。
5. ドア・ミラー・コントロール・スイッチ**A**を助手席側**C**の位置にします。助手席側ドア・ミラーが下向きになります。
6. 助手席側ドア・ミラーの角度をお好みの位置に調節します。
7. メモリー・ボタン「SET」を短押しした後、10秒以内にパーソナル・ボタン1～3のいずれかを確認音が聞こえるまで押し続けてください。確認音が鳴ると、そのとき押しているパーソナル・ボタンにメモリーが保存されます。

助手席シート・メモリー

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションをONにします。
3. シート位置とシートベルト高さをお好みの位置に調節します。
4. メモリー・ボタン「SET」を短押しした後、10秒以内にパーソナル・ボタン**1～3**のいずれかを確認音が聞こえるまで押し続けてください。確認音が鳴ると、そのとき押しているパーソナル・ボタンにメモリーが保存されます。

運転席シートの自動メモリー

運転席ドアを開けた後にメモリー位置から動かすと、車をロックしたときに、その位置が新しい設定として一時的に記憶されます。この設定は、メモリーを記憶しているキーで車のロックを解除し、運転席ドアを開けると消去されます。その後、キーに記憶しているメモリー位置が呼び出されます。

イージー・エントリー機能

イージー・エントリー機能は、車への乗り降りをしやすくするための装備です。

⚠ 警 告

運転席の真後ろに乗員がいるときにメモリー設定を呼び出すと、シートに押しつぶされて乗員が怪我をする恐れがあります。
リア・シートを前方に倒したままメモリー設定を呼び出すと、車を損傷する恐れがあります。

▷ 運転席の真後ろに乗員がいるときや、リア・シートを前方に倒しているときは、イージー・エントリー機能を解除してください。

イージー・エントリー機能の作動／解除

▷ スイッチ**A**を押します。

乗車するとき

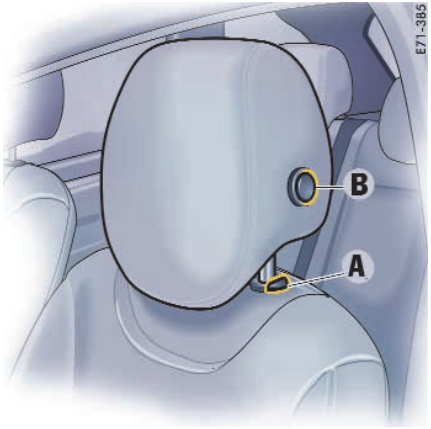
運転席ドアを開けると、運転席シートが後方に移動します。
運転席ドアを閉めてイグニッション・キーを差し込むと（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車はイグニッションをONにすると）、シートとステアリング・ホイールがメモリー設定の運転位置に戻ります。

降車するとき

以下の操作を行うと、ステアリング・ホイールが前方および上方にいっぱいまで移動します。

— イグニッション・キーを抜き取った後
または、
— ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車はイグニッションをOFFにして運転席ドアを開けた後
または、
— ステアリング・ロックを作動させたとき

運転席ドアを開けると、運転席シートが後方に移動します。



例： フロント・シート

ヘッドレスト

取り外し

フロント・シート

▷ ボタン**A**を押しながらヘッドレストを完全に取り外します。

リア・シート

▷ ボタン**B**を押し、ヘッドレストを完全に押し下げます。

▷ ボタン**A**を押しながらヘッドレストを完全に取り外します。

取り付け

知識

リア・シート中央座席のヘッドレストは、リア・シート中央の位置だけに取り付けてください。

1. ヘッドレストをガイドに差し込みます。
2. ボタン**B**を押しながらヘッドレストを押し下げ、お好みの位置に調節します。

   リア・シート中央座席のヘッドレストをリア・シート中央の位置に取り付け、いっぱいまで押し下げます。

調節

フロント・シートおよびリア・シート左右外側のヘッドレストは、高さを調節できます。

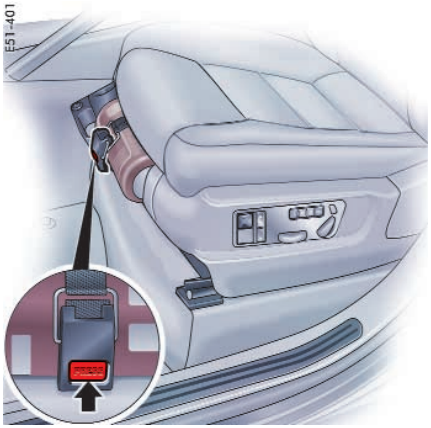
ヘッドレストを上げる

▷ お好みの位置になるまでヘッドレストを持ち上げます。

リア・シートのヘッドレストを持ち上げるときはボタン**B**を押します。

ヘッドレストを下げる

▷ ボタン**B**を押しながらヘッドレストを押し下げ、お好みの位置に調節します。



消火器＊

消火器を装備している車は、右側または左側フロント・シートの下に消火器が取り付けてあります。

左側フロント・シート下の消火器

▷ 緊急時に消火器を取り出すには、片手で消火器本体を持ち、消火器ホルダのPRESSボタン（矢印）を反対側の手で押します。

右側フロント・シート下の消火器

▷ シート下の引き出しから消火器を取り出します。

知識

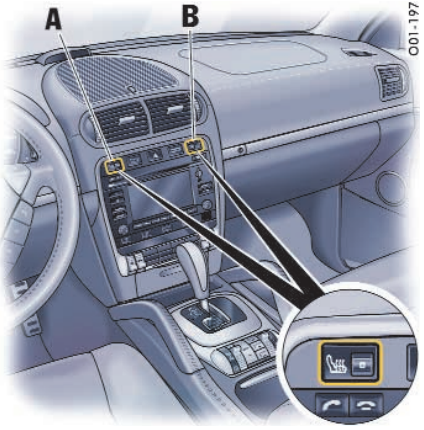
▷ 消火器の最終点検日を確認してください。定期点検の期間を過ぎた消火器は正しく作動しないことがあります。

▷ 必ず消火器の取扱説明書の指示に従ってください。

▷ 消火器は1～2年毎にポルシェ正規販売店で点検を受けてください。

▷ 消火器を使用した場合は、消火剤を充填してください。

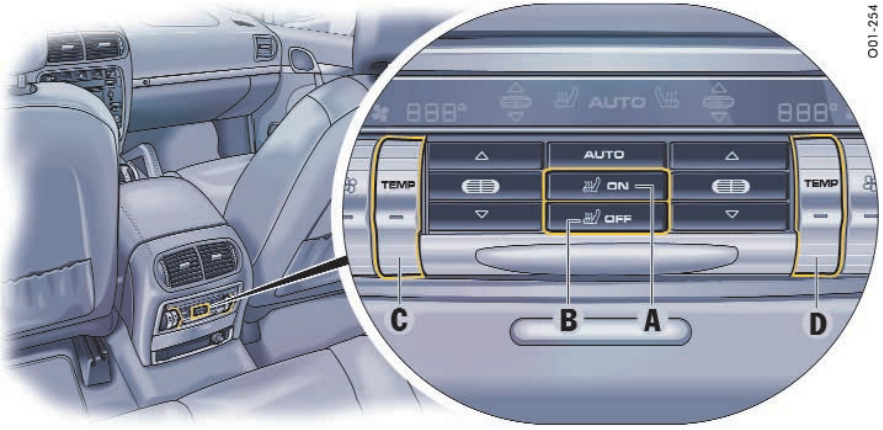
＊日本仕様に設定はありません。



A—フロント・シート（左側）
B—フロント・シート（右側）

シート・ヒータ（フロントおよびリア）

シート・ヒータはイグニッションがONのときに作動します。ヒータの強さはダイヤルで無段階に調節できます。



C—*リア・シート（左側）*
D—*リア・シート（右側）*

ヒータを作動させる

▷ お好みの位置までダイヤルを回します。

ヒータを停止する

▷ ダイヤルを**0**の位置にします。

A—*シート・ヒータ作動ボタン*
B—*シート・ヒータ停止ボタン*
C—*左側シート温度調節スイッチ*
D—*右側シート温度調節スイッチ*

リア・シート・ヒータ（4ゾーン・オート・エアコン装備車）

ヒータを作動させる

▷ ボタン**A**を押します。

シート・ヒータを作動させると、エアコン・ディスプレイが約10秒間シート・ヒータ・モードに切り替わります。

温度を調節する

▷ スイッチ**C**または**D**を、上または下に押して、お好みの温度に調節します。

ヒータを停止する

▷ ボタン**B**を押します。

シートベルト

この車のシートベルトは身長150cm以上の乗員用に設計しています。身長が150cmに満たない乗員は、適切な補助拘束装置を使用しなければなりません。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 安全のため、走行中はすべての乗員がシートベルトを着用してください。運転者は、この章に説明している内容をすべての乗員に伝えてください。

▷ 1本のシートベルトを複数の乗員が共用しないでください。

▷ だぶついた衣服を着たままシートベルトを着用すると、シートベルトを正しく着用できない恐れがあります。また、身体の動きが妨げられますので、脱いでからシートベルトを着用してください。

▷ 硬い物や壊れやすい物（眼鏡、ボールペン、煙草のパイプなど）の上にシートベルトをかけないでください。衝突の際に怪我をする危険性が高まります。

▷ シートベルトの捩れやたるみを取り除いてください。

▷ シートベルトの生地に損傷がないか、バックルやアタッチメントが正常に機能するかを、すべてのシートベルトについて定期的に点検してください。

▷ 損傷しているシートベルトや、事故などで強い衝撃を受けたシートベルトはただちに交換してください。また、事故などでシートベルト・プリテンショナー・システムが作動したときは、プリテンショナー・システムをただちに交換してください。このとき、シートベルトのアンカー部分に異常がないか点検してください。
詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ シートベルトを使用しないときはリトラクターに完全に巻き取らせてください。汚れや損傷から保護することができます。

警告灯および警告メッセージ

シートベルトの着用を促すため、運転席シートベルトを完全に着用するまで以下の機能が作動し続けます：

— イグニッションをONにするとメータ・パネルの警告灯が点灯します。

— メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告を表示します。

— 速度が24km/hを超えると、警告音が約90秒間鳴ります。

シートベルト・プリテンショナー

事故の衝撃の大きさにより作動して、着用しているシートベルトが巻き取られ、乗員の拘束効果を高めます。

シートベルト・プリテンショナーの作動条件：

— 前方または後方から強い衝撃を受けたとき

— 側面衝突のとき（フロント・シートベルト・プリテンショナー）

— 車が転倒したとき

知識

1度作動したシートベルト・プリテンショナー・システムは再使用できません。作動後はただちに交換してください。
シートベルト・プリテンショナー・システムに関連する作業は、必ずポルシェ正規販売店に依頼してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
シートベルト・プリテンショナー・システムが作動すると煙が発生しますが異常ではありません。この煙は車両火災の兆候ではありません。

シートベルトの着用

▷ 自然な姿勢で安全に運転できる位置に着座します。シートベルトを着用したとき、肩部のシートベルトが肩の中央を通って上半身を斜めに横切るようにフロント・シートのバックレストを調節します。

▷ シートベルトのバックル・プレートを手で持ち、ゆっくりと一定の速さで引き出して、胸部と腰の下部にかかるように着用します。

知識

坂道など傾斜地に停車中や、シートベルトを急に引き出すと、ベルトがロックされて引き出せないことがあります。

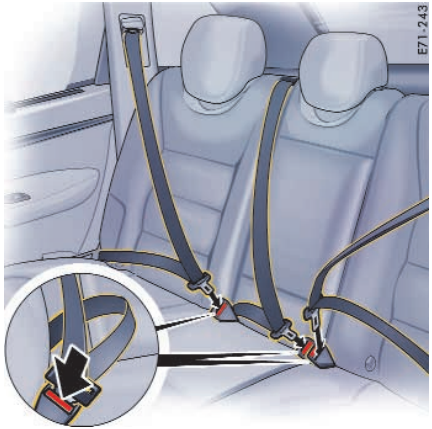
▷ 加速中や減速中、コーナリング中、および上り坂を走行中はシートベルトがロックされて、引き出すことができません。

▷ シートベルトのプレートは、着座しているシート用のバックルに差し込んでください。また、カチッという音がして確実にロックされるまで差し込んでください。

▷ シートベルトが引っかかったり捩れていないこと、鋭利な部分に当たっていないことを確認してください。

▷ シートベルトを着用した後、肩部のシートベルトを引き上げて、腰部のシートベルトを骨盤の低い位置に密着させてください。妊娠中の方は腰部のシートベルトをできる限り低い位置まで下げて、腹部の圧迫を避けてください。

▷ 走行中も肩部のシートベルトを定期的に引き上げ、腰部のシートベルトを骨盤の低い位置に密着させてください。



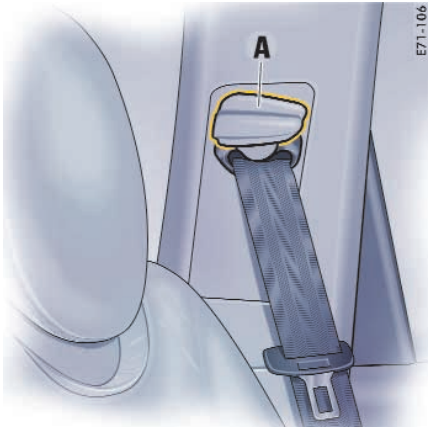
▷ リア・シートの乗員も、フロント・シートの乗員と同様にシートベルトを着用してください。

シートベルトの外し方

▷ シートベルトのプレートを手で持ちます。

▷ バックルの赤色のボタン（矢印）を押します。

▷ シートベルトをリトラクターに完全に巻き取らせます。



シートベルトの高さ調節

フロント・シートおよびリア・シート左右外側のシートベルトは、肩部の取り付け高さを調節できます。
肩部のシートベルトが肩の中央を通って上半身を斜めに横切るように、シートベルトの高さを調節してください。シートベルトが首にかからないようにしてください。

高さの手動調節

▷ 上げる： シートベルト取り付け部を手で持って押し上げます。

▷ 下げる： ボタン**A**を押し、シートベルト取り付け部を押し下げます。

高さの電動調節

▷ お好みの高さになるまでロッカー・スイッチ**B**を操作します。

コンフォート・メモリー装備車は、シートベルトの高さを、パーソナル・ボタンとそのとき使用しているキーのメモリーに保存し、運転者のお好みに応じて呼び出すことができます。

シートベルト高さを、そのとき使用しているキーに記憶する方法は：

▷ 「コンフォート・メモリー機能付きフロント・シート」（28ページ）を参照してください。

エアバック・システム

一般的な知識

⚠ 危 険

- ▷ エアバッグを装備していても、**常にシートベルトを着用**してください。軽度の衝撃や衝突の角度によってはエアバッグが作動しないことがあり、非常に危険です。
- ▷ 運転席と助手席の間、または乗員とエアバッグの間に幼児を座らせたり、ペットや物を置かないでください。事故のとき、生命にかかわる負傷をする恐れがあります。
- ▷ ステアリング・ホイールは、必ずリムを外側から保持してください。
- ▷ エアバッグが効果を発揮するためには、一定の空間が必要です。フロント・シートの乗員は着座位置に注意してください。サイド・エアバッグ装備車ではドアにもたれかからないでください。万一のとき、エアバッグの作動の妨げとなります。
- ▷ ドアの小物入れから中身がはみ出ないようにしてください。

  走行中は、小物入れのカバーを閉めてください。
- ▷ 安全のため、重たい荷物を助手席や助手席の前に置かないでください。
- ▷ 同乗者の方にも、この項の内容をよく理解してもらってください。
- ▷ 運転中、足は常に足元の空間に置いてください。ダッシュボードやシート・クッションの上に足を乗せないでください。
- ▷ エアバッグ・システムに不具合が発生したときは、必ずポルシェ正規販売店に修理を依頼してください。
- ▷ エアバッグは再使用できません。エアバッグが作動したら、直ちにポルシェ正規販売店で点検または交換してください。
- ▷ エアバッグの配線や構成部品を改造しないでください。
- ▷ ステアリング・ホイール、助手席ダッシュボードのエアバッグ付近、サイド・エアバッグ付近、ヘッド・エアバッグ付近には、小物やステッカーなどを取り付けないでください。
  シートに保護カバーを装着しないでください。
- ▷ エアバッグの配線の近くには、アクセサリー類の配線を取り付けないでください。
- ▷ エアバッグ構成部品（ステアリング・ホイール、フロント・シート、ルーフ・トリムなど）の分解整備は、必ずポルシェ正規販売店で実施してください。
- ▷ 車を売却される場合は、この車がエアバッグ装備車であることを次の購入者に知らせた上で、本書「エアバッグ・システム」のページを読むことを薦めてください。
- ▷ エアバッグの機能点検は、ポルシェ正規販売店で定期的に実施してください。

機能

エアバッグは、シートベルトと併用することで衝突時の乗員の負傷を最小限に抑えるよう設計されています。正面衝突や側面衝突のとき、運転席および助手席の乗員の頭部と上半身の動きを瞬時に吸収し、保護します。
運転席側**フロント・エアバッグ**はステアリング・ホイール中央のパッド内にあり、助手席側はダッシュボードに内蔵しています。
フロント・シートの**サイド・エアバッグ**は、シート・バックレストの側面に内蔵しています。
ヘッド・エアバッグは、左右ドア上のルーフ部分にあります。
それぞれのエアバッグは、衝突の角度および衝撃力に応じて作動します。
フロント・エアバッグが作動（展開）すると瞬間的に前方視界が妨げられますが、わずかな時間で収縮します。
またエアバッグ作動（展開）時の作動音は、事故の大きな衝突音によってかき消されます。

警告灯

システムに不具合があると、メータ・パネルの警告灯よって表示されます。

▷ 次の場合は、ポルシェ正規販売店で直ちに不具合を修理してください。

— イグニッションをONにしても警告灯が点灯しない。または、

— エンジン始動後に警告灯が消灯しない。または、

— エアバッグ警告灯が走行中に点灯する。

助手席エアバッグOFF（PASSENGER AIRBAG OFF）表示灯

▷ PASSENGER AIRBAG OFF表示灯**A**の機能について：
「助手席エアバッグの作動／非作動」（42ページ）を参照してください。

⚠ 危 険

助手席エアバッグによって致命的な怪我をする恐れがあります。

イグニッションをONにして助手席エアバッグOFFスイッチをOFFの位置にしたとき、PASSENGER AIRBAG OFF表示灯が点灯しなかった場合、助手席エアバッグにより重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 幼児用補助拘束装置を助手席に取り付けないでください。

▷ 直ちに故障を修理してください。

チャイルド・シートを取り外した後、助手席エアバッグの作動を解除したままにしておくと、助手席乗員が重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ チャイルド・シートを取り外した後は、必ず助手席エアバッグを再作動させてください。

エアバッグの廃棄

未作動のガス発生器、それらを取り付けたままの車、およびエアバッグ・ユニットなどは、一般の廃棄物やスクラップとして処分できません。エアバッグ構成部品を廃棄するときは、必ずポルシェ正規販売店にお任せください。

処分に関する詳しい情報については、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

幼児用補助拘束装置

お子様が同乗するときは、必ず適切な幼児用補助拘束装置を使用し、常にリア・シートに乗車させてください。

▷ 幼児用補助拘束装置を取り付けるときは、必ずシート・ヒータを停止してください。

⚠ 危 険

助手席エアバッグにより重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ 幼児用補助拘束装置を助手席に取り付けるときは、必ず助手席エアバッグの作動を解除してください。

エアバッグの作動（展開）によって重傷または致命傷を負う潜在的な危険を回避できます。

助手席エアバッグの作動解除

▷ 「助手席エアバッグの作動/非作動」（42ページ）を参照してください。

体重グループ0、0＋のお子様：

13kgまで

この体重グループのお子様は、**後ろ向き**に着座するタイプの幼児用補助拘束装置を使用します。

▷ 助手席に取り付ける場合は、助手席エアバッグの作動を解除してください。

体重グループIのお子様：

9～18kg

この体重グループのお子様は、**前向き**に着座するタイプの幼児用補助拘束装置を使用します。

この幼児用補助拘束装置は、可能な限りリア・シートに取り付けてください。

▷ 助手席に取り付ける場合は、助手席エアバッグの作動を解除してください。

体重グループIIのお子様：

15～25kg

この体重グループのお子様は、**前向き**に着座するタイプの幼児用補助拘束装置を使用します。

この幼児用補助拘束装置は、可能な限りリア・シートに取り付けてください。

▷ 助手席に取り付ける場合は、助手席エアバッグの作動を解除してください。

体重グループIIIのお子様：

22～36kg

この体重グループのお子様は、**前向き**に着座するタイプの幼児用補助拘束装置を使用します。

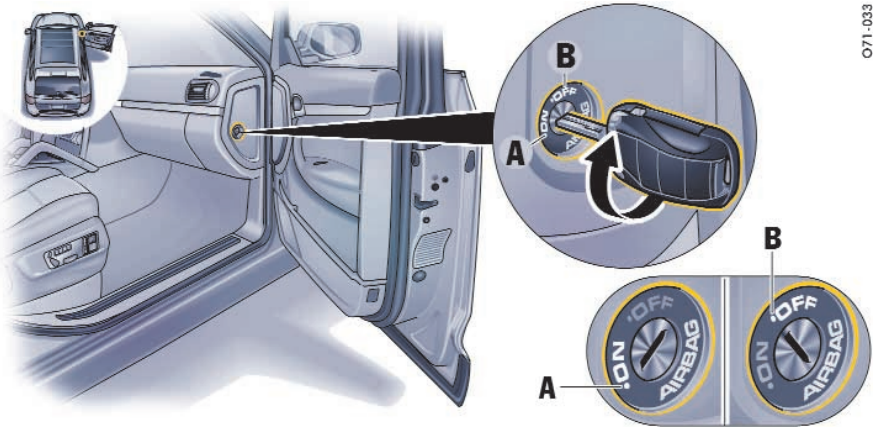
この幼児用補助拘束装置は、可能な限りリア・シートに取り付けてください。

▷ 助手席に取り付ける場合は、助手席シートをいっぱいまで後方・下方に動かします。

推奨する幼児用補助拘束装置

体重グループ/年齢	メーカー	シート・タイプ	承認番号	ポルシェ部品番号	助手席での使用	リア・シート 左右での使用	リア・シート 中央での使用
グループ0＋ 13kgまで 約18ヶ月まで	Britax-Römer	ポルシェ・ ベビー・シート ISOFIX G0＋	E_1 04301146	955.044.802.86	不可能	可能	不可能
グループI 9～18kg 約8ヶ月～4歳	Britax-Römer	ポルシェ・ ジュニア・シート ISOFIX G1	E_1 04301199	955.044.802.92	不可能	可能	不可能
グループII 15～25kg 約3.5～6歳	Britax-Römer	ポルシェ・ ジュニア・プラス G2＋G3	E_1 04301169	955.044.802.90	助手席エアバッグの作動を解除すること シートをいっぱいまで後方・下方にすること	可能	可能
グループIII 22～36kg 約6～12歳	Britax-Römer	ポルシェ・ ジュニア・プラス G2＋G3	E_1 04301169	955.044.802.90	シートをいっぱいまで後方・下方にすること	可能	可能

memo



O71-033

O01-072

A—*助手席エアバッグが作動（ON）*
B—*助手席エアバッグが非作動（OFF）*

助手席エアバッグの作動／非作動

1. カバーが装着されている場合は、取り外します。
2. キーを使用して、助手席エアバッグのOFF **“B”** とON **“A”** を切り替えます。

⚠ 危 険

チャイルド・シートを取り外したら、必ず助手席エアバッグを再作動させてください。万一のときに致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ チャイルド・シートを取り外したときは、助手席エアバッグ・スイッチをONの位置にしてください。

PASSENGER AIRBAG OFF表示灯

助手席エアバッグの作動をOFFにすると、イグニッションがONのときはPASSENGER AIRBAG OFF表示灯**C**が常時点灯します。

⚠ 危 険

助手席エアバッグの作動で致命的な怪我をする恐れがあります。
イグニッションをONにして助手席エアバッグOFFスイッチをOFFの位置にしたとき、PASSENGER AIRBAG OFF表示灯が点灯しない場合はシステムが故障しています。

▷ 助手席に幼児用補助拘束装置を取り付けないでください。

▷ ただちにポルシェ正規販売店に修理を依頼してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

エアバッグに関する重要な情報については：

▷ 「エアバッグ・システム」（37ページ）を参照してください。

ISOFIX幼児用補助拘束装置

ポルシェ社が推奨する幼児用補助拘束装置だけを使用してください。ポルシェ社推奨の幼児用補助拘束装置は、ポルシェ社がテストを実施し、この車のインテリアやお子様の体重グループに適するように調整されています。

ポルシェ社が推奨していない幼児用補助拘束装置を使用すると、万一のときに負傷する危険性が高まります。

ISOFIXシステム付きチャイルド・シートはポルシェ正規販売店で購入できます。

▷ チャイルド・シートに付属の取扱説明書をよく読み、注意事項を必ず遵守してください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ チャイルド・シートに付属の取扱説明書をよく読み、注意事項を必ず遵守してください。

▷ 幼児用補助拘束装置を使用するときは法律等を遵守してください。

▷ ポルシェが推奨する幼児用補助拘束装置だけを使用してください。

ポルシェ推奨の幼児用補助拘束装置は、ポルシェ社がテストを実施し、この車のインテリアやお子様の体重グループに適するように調整されています。

ポルシェが推奨していない幼児用補助拘束装置を使用すると、万一の衝突時に怪我をする危険性があります。

▷ 幼児用補助拘束装置はリア・シートで使用することを基本としてください。

▷ この車に適合するポルシェ推奨の幼児用補助拘束装置については、ポルシェ正規販売店にお尋ねください。

ISOFIXシステム付き
チャイルド・シートの取り付け

リア・シート左右外側席には、ISOFIXチャイルド・シートを固定するためのリテーニング・ラグがあります。シートのバックレストには、リテーニング・ラグの取り付け部位を示すマークが付いています。

マークの真下あたりのバックレストと座面のすき間を探ると、ISOFIXチャイルド・シートを固定するためのリテーニング・ラグ**A**があります。

1. チャイルド・シートに付属の取扱説明書に従って、チャイルド・シートをリテーニング・ラグ**A**に取り付けます。
2. チャイルド・シートを手前に引き、2箇所のISOFIXアンカーが確実に固定できていることを確認します。

⚠ 危 険

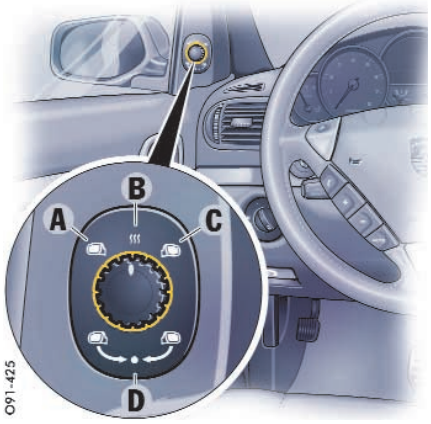
チャイルド・シートを取り外したら、必ず助手席エアバッグを再作動させてください。万一のときに致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ 助手席に幼児用補助拘束装置を取り付けるときは、助手席エアバッグの作動をキャンセルしてください。

このとき、助手席シートをいっぱいまで後方および下方に動かしてください。

助手席エアバッグを作動させるときは：

▷ 「助手席エアバッグの作動／非作動」（42ページ）を参照してください。



A—*運転席側ドア・ミラー調節*
B—*ミラー・ヒータ*
C—*助手席側ドア・ミラー調節*
D—*ドア・ミラー格納*

ドア・ミラー

ミラーの視野を広げるために、助手席側ドア・ミラーはミラー・ガラスが凸面、運転席側ドア・ミラーは非球面になっています。

⚠ 警 告

凸面のミラー・ガラスを使用する助手席側ドア・ミラーは、車や物などが小さく見えるため、実際の距離よりも遠く感じます。このことを念頭にしないと事故を起こす恐れがあります。

▷ 後続車との距離を判断するときや、後退で駐車するときは、ドア・ミラーの特性を念頭に入れてください。

▷ 後続車との距離はルーム・ミラーを併用して判断してください。

洗車機を使用するとドア・ミラーを損傷する恐れがあります。

▷ ドア・ミラーを格納してから洗車機を使用してください。

ドア・ミラーの調節

1. イグニッションをONにします。
2. コントロール・スイッチを**A**の位置（運転席側ミラーの調節）、または**C**の位置（助手席側ミラーの調節）にします。
3. コントロール・スイッチをお好みの方向に倒してミラー・ガラスの角度を調節します。

電動調節機能が故障したとき

▷ ミラー・ガラスを手で押して調節します。

ドア・ミラーの同期調節

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイで左右ドア・ミラーの同期調節機能を選択できます。

▷ 「ドア・ミラーの同期調節」（125ページ）を参照してください。

ドア・ミラーの格納

▷ イグニッションをONにします。

▷ コントロール・スイッチを**D**の位置にします。
左右ドア・ミラーが自動的に折りたたまれます。

電動格納機能が故障したとき

▷ ドア・ミラー・ハウジングを手で持って折りたたみます。

ドア・ミラーの復帰

▷ イグニッションをONにします。

▷ コントロール・スイッチを**A**または**C**の位置にします。
左右ドア・ミラーが自動的に元の位置に復帰します。

電動復帰機能が故障したとき

▷ ドア・ミラー・ハウジングを手で持って元の位置に戻します。

ドア・ミラー・ヒータ

ドア・ミラー・ヒータはイグニッションがONのときに作動します。

ヒータを作動させる

▷ コントロール・スイッチを**B**の位置にします。

左右ドア･ミラーのヒータが作動します。

ヒータを停止する

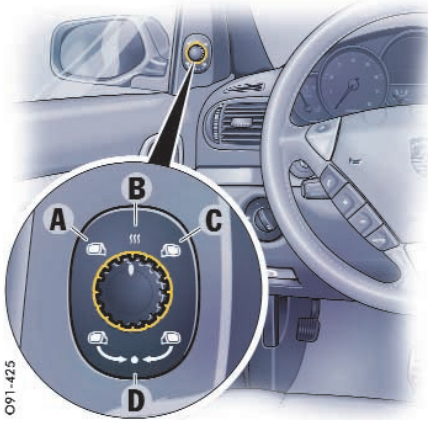
▷ コントロール・スイッチを**B**以外の位置にします。

ドア・ミラー設定の保存

シート・メモリー装備車は、左右ドア・ミラーの位置を、パーソナル・ボタンとそのとき使用しているキーのメモリーに保存し、運転者のお好みに応じて呼び出すことができます。

ドア・ミラーの位置の記憶と呼び出しについては：

▷ 「コンフォート・メモリー機能付きフロント・シート」(28ページ) を参照してください。



A—*運転席側ドア・ミラー調節*
B—*ミラー・ヒータ*
C—*助手席側ドア・ミラー調節*
D—*ドア・ミラー格納／復帰*

駐車時の助手席ドア・ミラーの下向き自動調節

リバース（後退）ギヤを選択すると、助手席側ドア・ミラーが自動的に下向きになり、助手席側の車体後方下部にある障害物を視認しやすくなります。

作動条件

— この機能はシート・メモリー装備車に取り付けられています。

— コントロール・スイッチ**A**を**C**の位置（助手席側ドア・ミラー調節の位置）にします。

— リバース・ギヤを選択します。

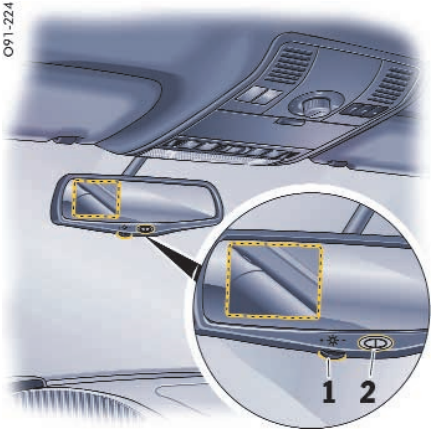
ミラーを元の位置に戻す

以下のときに助手席側ドア・ミラーが元の位置に戻ります：

— リバース・ギヤから他のギヤに切り替えたとき

または、

▷ コントロール・スイッチを**C**以外の位置にしたとき



1-*明るさ調節ノブ*
2-*電源ボタン*

サイドビュー・モニター付きルーム・ミラー

サイドビュー・モニターは、助手席の死角を補うため補助的な装備です。助手席側ドア・ミラー・カバーに小型のカメラが取り付けてあり、ルーム・ミラーにはTFT液晶を使ったディスプレイが組み込まれています。電源をONにすると、カメラの映像をルーム・ミラーで見ることができます。

⚠ 警 告

サイドビュー・モニターはドライバーの死角を補うための補助的な装備であり、その視野を完全に補うものではありません。サイドビュー・モニターが装備されていても、直接目視するなど安全確認を怠らないでください。

- ▷ サイドビュー・モニターはドライバーの注意力を補うものではありません。サイドビュー・モニターを装備していても、車の周囲の安全を常に確認することは運転者の責務です。
- ▷ 特にルーム・ミラーの映像が見えにくいときや、画像で識別できない物体があるときは、周囲の安全を必ず目視で確認してください。細い電柱や杭など、障害物の形状によっては解像度が不足して画像が鮮明に表示されなかったり、まったく表示されないこともあります。状況によっては車から降りて、周囲の人や物に危険を及ぼす恐れがないか確認してください。
- ▷ サイドビュー・モニターは高感度で、夜間など周囲の明るさが不足しているときでも使用できますが、照明などがない暗闇では映像が見えにくくなります。必要に応じて目視で安全を確認してください。
- ▷ システムの特性上、ルーム・ミラーには2次元の平面画像を表示します。したがって立体的な障害物や奥行きがある突起物などは実際の形状と異なって見えたり、画像に映らないことがあります。
- ▷ 走行中は、サイドビュー・モニターの明るさ調節や電源のON/OFFを行わないでください。また、ルーム・ミラーの画像を必要以上に注視しないでください。注意力が散漫になって事故を起こす恐れがあります。
- ▷ サイドビュー・モニターが故障した状態で運転するときは、周囲の安全に特に気を使ってください。またカメラの画像に異常を感じたときは使用しないでください。
- ▷ サイドビュー・モニターが故障したときや、障害物との接触などでカメラの取り付け状態に異常があるときは直ちに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 注 意

サイドビュー・モニターを損傷する恐れがあります。

- ▷ 高圧洗車装置などを使用するときは、高圧の水をカメラに直接かけないでください。
- ▷ レンズの汚れにより画像が曇ったときは、湿らせた布でレンズの表面を丁寧に拭き取ってください。洗浄剤や溶剤、研磨剤入りのクリーナなどは使用しないでください。レンズ表面の耐水コーティングが剥がれる恐れがあります。
- ▷ 温水や熱水をカメラにかけないでください。レンズに亀裂が入る恐れがあります。

電源のON/OFF

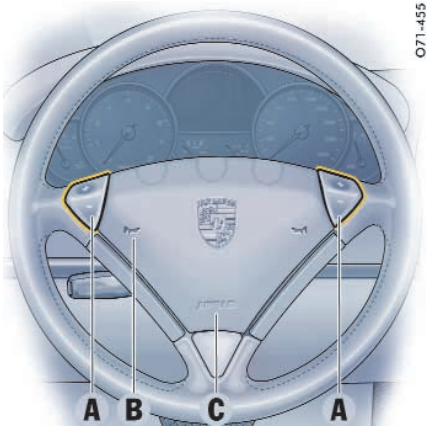
▷ イグニッションをONにすると、サイドビュー・モニターが自動的に作動します。
▷ ルーム・ミラー下部の明るさ調節ノブ1を回して、運転に適切な明るさに調節します。
▷ サイドビュー・モニターが作動しているときにルーム・ミラー下部の電源ボタン2を押すと、カメラの電源がOFFになります。再度ボタンを押すと電源がONになります。

知識：

▷ イグニッションをONにしてもサイドビュー・モニターが作動しない場合は、ルーム・ミラー下部の電源ボタンを押してください。
▷ 直射日光が当たったときなど、明るさ調節ノブを回しても映像が見えにくいときは、ルーム・ミラーを手で覆うと見えやすくなります。
▷ サイドビュー・モニターを装備する車両のルーム・ミラーには自動防眩機能を装備していません。ミラー面を着色することで眩惑作用が軽減されています。

レンズのお手入れ

▷ カメラのレンズが汚れたときは、水で湿らせた布で拭き取ります。
▷ 雪が付着したときは毛先のやわらかいブラシで取り除きます。



O71-455

ステアリング・ホイール

ティプトロニック・ロッカー・スイッチ

ポルシェ・ティプトロニックは前進6段のトランスミッションで、「オートマチック」と「マニュアル」の変速モードを備えているのが特徴です。
ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチ**A**を使用すると、一時的にマニュアル・モードを選択したり、マニュアル・モードで変速することができます。

▷ ティプトロニックSの変速について詳しくは：
「ティプトロニックS」（150ページ）を参照してください。

ホーン

▷ ボタン**B**を押すとホーンが鳴ります。

エアバッグ・ユニット

ステアリング・ホイール中央のパッド**C**にはエアバッグ・ユニットを内蔵しています。
エアバッグはシートベルトの補助拘束装置で、万一の衝突事故のときに運転者が怪我をする危険性を軽減します。

▷ エアバッグ・システムの詳細については：
「エアバッグ・システム」（37ページ）を参照してください。

ステアリング・ホイール・ヒータ

イグニッションをONにしたときの車内温度に応じて、ステアリング・ホイール・ヒータが自動的に作動／停止します。

ステアリング調節

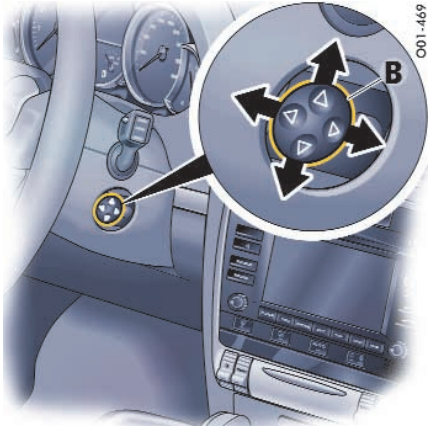
⚠ 警 告

運転中はステアリング・ホイールの位置を調節しないでください。ステアリング・ホイールが予想以上に大きく動いて運転操作を誤り、事故を起こす恐れがあります。

▷ 走行中はステアリング位置を調節しないでください。

誤った方法で保存しているシート・メモリーを呼び出すと、メモリーが消えることがあります。

▷ お子様だけを車内に残さないでください。



電動調節

▷ コントロール・スイッチ**B**を前後上下に押して、ステアリング・ホイールをお好みの位置に動かします。

ステアリング・ホイールの位置はシート・メモリーに記憶することができます。

▷ コンフォート・メモリー装備車のステアリング・ホイール位置の記憶と呼び出しについては：

「コンフォート・メモリー機能付きフロント・シート」（28ページ）を参照してください。

マルチ・ファンクション・ステアリング＊

⚠ 警 告

運転中は、マルチ・ファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話またはその他の操作および設定を行わないでください。運転以外の操作に気をとられて事故を起こす恐れがあります。

▷ 周囲の交通状況などから安全性を確保できる場合に限り、運転中に操作してください。

▷ 複雑な操作や設定は、必ず停車中に行ってください。

車の装備仕様により、マルチ・ファンクション・ステアリングのファンクション・ボタンを使用してポルシェ・コミュニケーション・システムなど以下の機能の操作ができます：

— PCM

— ラジオ

— 電話

— TVチューナ

— オーディオCD、オーディオDVD、ビデオDVD

マルチ･ファンクション･ステアリングの作動条件

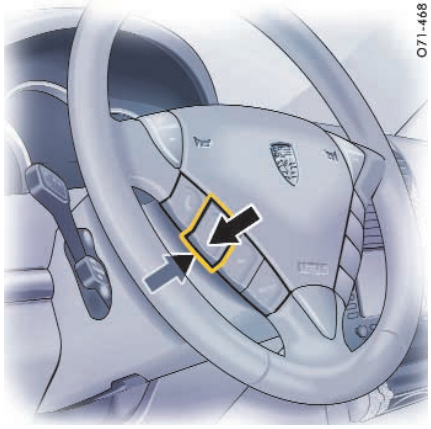
— イグニッションをONにして、

— ポルシェ・コミュニケーション・システムを作動させます。

▷ マルチ・ファンクション・ステアリングのファンクション・ボタンを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・システムに付属の取扱説明書を必ずよく読んでください。

知識

マルチ・ファンクション・ステアリングではポルシェ・コミュニケーション・システムをON/OFFできません。

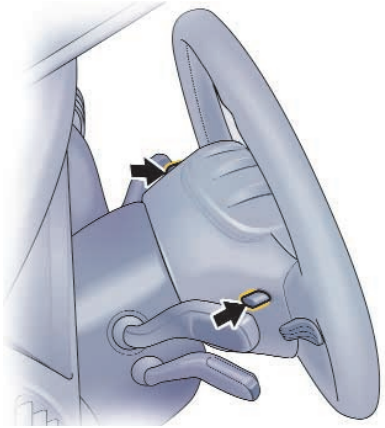


ファンクション・ボタンの操作

マルチ・ファンクション・ステアリングのファンクション・ボタン（矢印）は、手前からでも裏側からでも操作できます。

ファンクション・ボタンを数回操作することで、さまざまな機能をお好みの設定に切り替えることができます。

＊日本仕様に設定はありません。



ステアリング・ホイールの照明ボタン

ランプ・スイッチをONにすると、ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチやファンクション・ボタンの照明が自動的に点灯します。ステアリング・ホイール裏側のボタン（矢印）を押すと、この照明を点灯／消灯することができます。

照明を消灯する

▷ ボタンを押します。

照明を点灯する

▷ ボタンを再度押します。

ファンクション・ボタンの操作＊

▷ マルチ・ファンクション・ステアリングのファンクション・ボタンを操作する前に、ポルシェ・コミュニケーション・システムに付属の取扱説明書を必ず読んでください。

電話に応答する
— かかってきた電話に出るときに押します。

通話を終了する
— 通話を終了するときや、かかってきた電話を拒否するときに押します。

＋ 該当するコミュニケーション・システムの音量を上げる

－ 該当するコミュニケーション・システムの音量を下げる

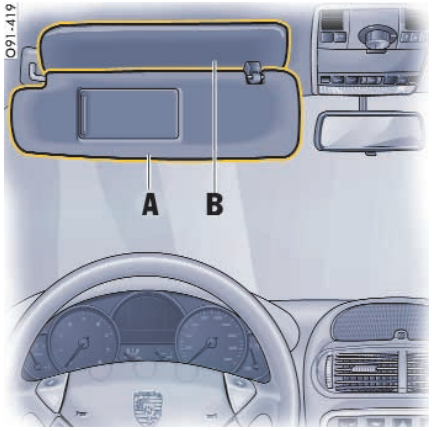
MUTE 消音する

次のラジオ放送局／曲を選択する
— 現在受信しているラジオ放送局の次の局／または現在再生している曲の次の曲に切り替わります。

前のラジオ放送局／曲を選択する
— 現在受信しているラジオ放送局の前の局／または現在再生している曲の前の曲に切り替わります。

オーディオ・ソースを選択する
— 再生したいオーディオ・ソースに切り替えます。

＊日本仕様に設定はありません。



サンバイザ

▷ サンバイザ**A**を手で下げて、正面方向からの直射日光を遮ります。

▷ 横方向からの直射日光を遮るときは、サンバイザ**A**のクリップをブラケットから外してドア・ウィンドウ側に回転させます。このときサンバイザ**B**を下げて使用することができます。

知識

サンバイザ**A**を回転させて正面に戻す前に、サンバイザ**B**を上げてください。サンバイザ**B**が元の位置に戻らなくなります。

バニティー・ミラー

サンバイザ裏側にはバニティー・ミラーがあり、スライド式のカバーが付いています。

⚠ 注 意

怪我をする恐れがあります。

▷ 運転中はスライド・カバーを閉めてください。

▷ スライド・カバーを矢印の方向に開けると、バニティー・ミラーの照明が自動的に点灯します。

サン･ブラインド(リア･サイド･ウィンドウ)

リア･ドア･ウィンドウにはサン･ブラインドがあり、ドア･トリム･パネルに収納されています。サン･ブラインドを使用するときは手で引き上げて、ウィンドウ上部のホルダ**A**にはめ込みます。

⚠ 注 意

車を損傷する恐れがあります。

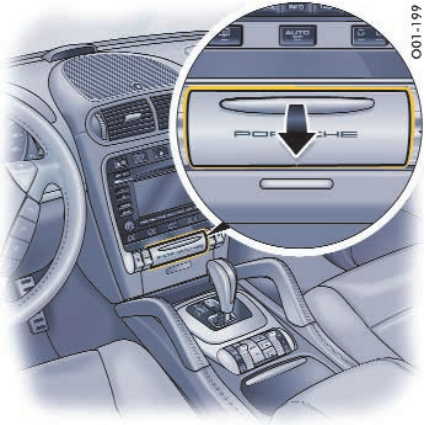
▷ 走行中にサン･ブラインドを使用するときは、リア･ドア･ウィンドウを閉めてください。

サン・ブラインドを格納する

サン・ブラインドをホルダ**A**から外し、ドア・トリムのリトラクタ・ローラーにゆっくりと巻き取らせます。

エアコン、補助ヒータ、リア・ウィンドウ・ヒータ

カバー・フラップを開く 54
エアコン・システムの概要 54
すべてのエアコン・システムに共通の操作 55
概説—2ゾーン・オート・エアコン 56
2ゾーン・オート・エアコン 57
概説—4ゾーン・オート・エアコン、フロント・コントロール・パネル 60
概説—4ゾーン・オート・エアコン、リア・コントロール・パネル 61
4ゾーン・オート・エアコン 62
エア・ベント 66
リア・ウィンドウ・ヒータ 67
補助ヒータ 68



カバー・フラップを開く

▷ カバー・フラップの突起部に指をかけて矢印の方向に引き下げます。

エアコン・システムの概要

車の装備仕様により、以下のいずれかのエアコン・システムを搭載しています。

A—2ゾーン・オート・エアコン

このエアコン・システムは、設定温度に応じてすべての機能を全自動制御します。
また車内を2つのゾーン（左側と右側）に分けて、それぞれ車内温度を個別に設定できます。

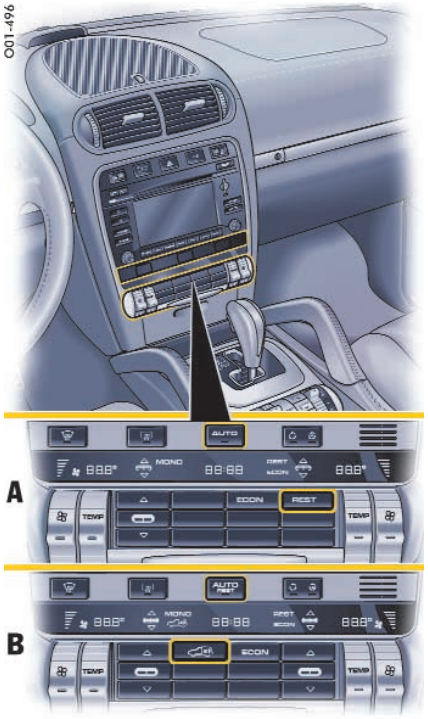
B—4ゾーン・オート・エアコン

このエアコン・システムは、設定温度に応じてすべての機能を全自動制御します。
また車内を4つのゾーン（フロント左側、フロント右側、リア左側、リア右側）に分けて、それぞれ車内温度、送風量および送風口を個別に設定できます。

車に装備しているエアコン・システムの見分け方：

A—*2ゾーン・オート・エアコン装備車は、コントロール・パネルに「AUTO」および「REST」ボタンがあります。*

B—*4ゾーン・オート・エアコン装備車は、後席乗員用のリア・コントロール・パネルを装備しています。*



すべてのエアコン・システムに共通の操作

知識

イグニッションをOFFにして車をロックすると、そのときのエアコンの設定が、そのとき使用しているリモート・コントロールの情報として保存されます。
送風OFFの設定は約60分間、内気循環の設定は約20分間維持されます。

RESTモード

エンジンの余熱を利用して暖房する

RESTモードはイグニッションをOFFにしてから最大20分間使用でき、エンジンの余熱で車内を暖めます。

▷ 2ゾーン・オート・エアコンではREST ボタン、4ゾーン・オート・エアコンではフロント・コントロール・パネルのAUTO REST ボタンを押します。

RESTモードではエアコン・システムの設定を変更できません。

RESTモードを停止する

▷ 2ゾーン・オート・エアコンではREST ボタン、4ゾーン・オート・エアコンではフロント・コントロール・パネルのAUTO REST ボタンを押します。

知識

バッテリ電圧が低いときはRESTモードが自動的に解除されます。

ECONモード

⚠ 警 告

ECONモードでは車内に取り込む外気の湿気を取り除かないため、ウィンドウが曇りやすくなり、運転視界が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

▷ 湿気が多いときはECONモードを使用しないでください。

ECONモードではエアコン・コンプレッサが作動しません（燃費の節約などに有効です）。このため、エアコン・システムの冷房機能が働きません。また温度が約3℃を下回るとエアコン・コンプレッサが**常に**停止します。

ECONモードに切り替える

▷ ECON ボタンを押します。

エアコン・ディスプレイに“ECON”の文字が表示されます。

エアコン・コンプレッサが停止します。

ECONモードを解除する

▷ 車内温度が高いときはECON ボタン、またはAUTO ボタン（2ゾーン・オート・エアコン）、またはAUTO REST ボタン（4ゾーン・オート・エアコン）を押してECONモードを解除します。

エアコン・ディスプレイの“ECON”の文字が消えます。

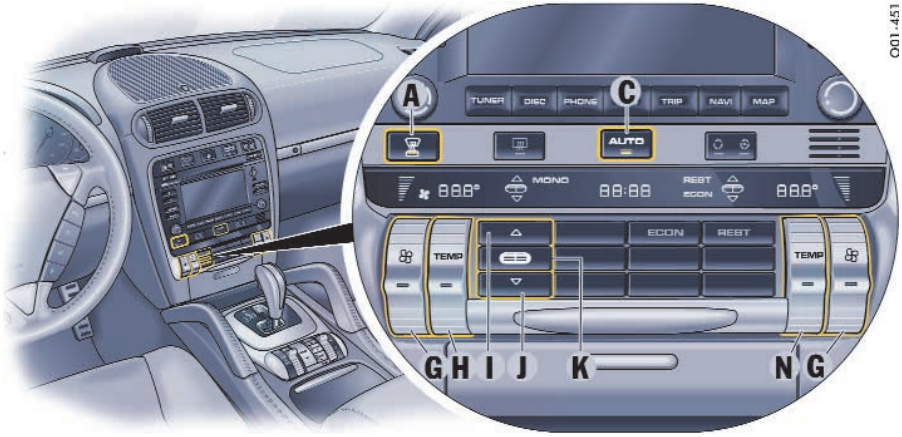
エアコン・コンプレッサが作動します。

エアコン・コンプレッサに関する知識

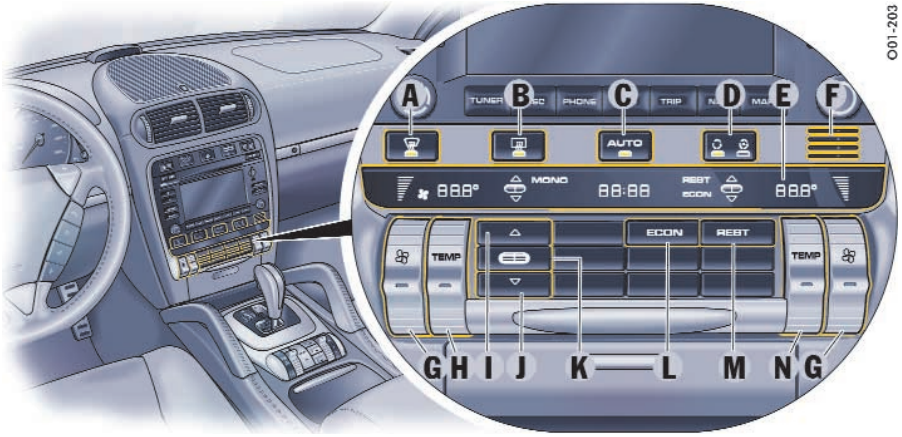
- エンジンの負荷が過渡的に大きくなると、コンプレッサを一時的に停止してエンジンの冷却性能を確保します。
- 温度が約3℃を下回るとコンプレッサが自動的に停止します。このときは、手動操作でもコンプレッサが作動しません。
- ウィンドウを閉めるとエアコン・システムの効果が高まります。
  炎天下などで長時間駐車したときは、はじめにウィンドウを全開にして車内の空気を入れ替えてからエアコンを使用すると効果的です。
- 外気温度や湿度によっては、除湿した水分が水滴となってエバポレータから排出され、車体の下に水たまりができることがあります。これはエアコン・システムの正常な働きであり、システムからの異常な漏れではありません。
- エアコン・システムを最低温度（LO）に設定していても冷たい風が出てこない場合、エアコン・コンプレッサをOFFにしてポルシェ正規販売店で点検を受けてください。
  ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

概説―2ゾーン・オート・エアコン

この概要説明は後述の「2ゾーン・オート・エアコン」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「2ゾーン・オート・エアコン」の項を参照してください。



運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
オート・エアコンを使用する	ボタン**C**を押します。
車内温度を設定する	車内左側： ロッカー・スイッチ**H**を上方向（温度を上げる）または下方向（温度を下げる）に押して希望の温度にします。 車内右側： ロッカー・スイッチ**N**を上方向（温度を上げる）または下方向（温度を下げる）に押して希望の温度にします。
送風量を調節する	ロッカー・スイッチ**G**を上方向（送風量を多くする）または下方向（送風量を少なくする）に押してお好みの風量に調節します。
送風口を切り替える	フロント・ウィンドウへの送風： ボタン**I**を押します。 中央および左右エア・ベントからの送風： ボタン**K**を押します。 足元への送風： ボタン**J**を押します。
フロント・ウィンドウ・デフロスタを作動させる	ボタン**A**を押します。



コントロール・パネル
A ― *フロント・デフロスタ*
B ― *リア・ウィンドウ・ヒータ*
C ― *AUTO（オート・モード）*
D ― *内気循環、自動内気循環*
E ― *エアコン・ディスプレイ*
F ― *温度センサ*
G ― *送風量調節*
H ― *左側温度設定*
I ― *フロント・ウィンドウへの送風口*
J ― *足元への送風口*
K ― *中央および左右エア・ベントの送風口*
L ― *ECON（エアコン・コンプレッサON/OFF）*
M ― *REST（エンジン余熱ヒータ）*
N ― *右側温度設定*

2ゾーン・オート・エアコン

さまざまな環境条件（日射量、車外の環境など）に応じて、エアコン・システムが設定温度を維持するように全自動制御されます。

また車内を2つのゾーン（左側と右側）に分けて、それぞれ車内温度を個別に設定できます。

必要に応じてオート・エアコンの制御の一部を手動に切り替えることもできます。

設定内容はエアコン・ディスプレイに表示されます。

以下の操作については
「すべてのエアコン・システムに共通の操作」（55ページ）を参照してください。
― RESTモード
― ECONモード
― エアコン・コンプレッサに関する知識

フロント・デフロスタ

▷ ボタンを押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯し、フロント・ウィンドウおよびフロント・サイド・ウィンドウに送風します。
この機能を利用すれば、ウィンドウの曇りを素早く取り除くことができます。

デフロスタ機能の停止

▷ ボタンを再度押します。または、

▷ **AUTO** ボタンを押します。

オート・モード

▷ AUTOボタンを押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。送風量と送風口が自動で制御され、外気温度など環境が変化しても車内の温度を一定に維持します。

知識

必要に応じてオート・エアコンの制御の一部を手動に切り替えることもできます。
設定を手動で切り替えると、その機能の設定を再度変更するか、またはAUTOボタンを押すまで、切り替えた設定が維持されます。

センサ

エアコン・システムの能力を維持するために：

▷ ダッシュボード上には日射センサが取り付けられており、フロント・コントロール・パネルには温度センサ**F**があります。これらのセンサにカバーをかけてセンサ表面を塞がないでください。

温度の設定

このエアコン・システムは、16～29.5℃の範囲で乗員が快適と感じる車内温度を各ゾーンで独立して設定できます。
運転に適切な快適温度（推奨）は22℃です。
設定した温度は、ロッカー・スイッチの上部にあるディスプレイに表示されます。

温度を上げる

▷ ロッカー・スイッチを上方向に押します。
車内左側：スイッチ**H**
車内右側：スイッチ**N**

温度を下げる

▷ ロッカー・スイッチを下方向に押します。
車内左側：スイッチ**H**
車内右側：スイッチ**N**

ディスプレイに“LO”または“HI”と表示されたときは、エアコン・システムが最大の冷房または暖房能力で作動します。このときオート・モードが解除されます。
オート・モードで設定温度を変更すると、その温度に適した送風量に自動で切り替わり、すみやかに希望温度を維持するようにエアコン・システムが作動します。

送風量の調節

設定した送風量は、ロッカー・スイッチの上部にあるディスプレイにバーで表示されます。バーの数が多くなるほど風量が多いことを意味します。

送風量を多くする

▷ ロッカー・スイッチ**G**を上方向に押します。

送風量を少なくする

▷ ロッカー・スイッチ**G**を下方向に押します。

オート・モードに戻るときはAUTOボタンを押します。
ロッカー・スイッチで風量を最小にすると、ディスプレイに“OFF”の文字が表示されて送風が停止します。

⚠ 警 告

送風を停止しているとウィンドウが曇りやすくなり、運転視界が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

▷ ロッカー・スイッチ**G**を上方向に押して送風を開始してください。

送風口の切り替え

フロント・ウィンドウへの送風

▷ ボタンを押します。
フロント・ウィンドウへの送風を開始します。

中央および左右エア・ベントからの送風

▷ ボタンを押します。
中央および左右エア・ベントへの送風を開始します。
エア・ベントのダイヤルを回して吹き出し口を開いてください。

足元への送風

▷ ボタンを押します。
足元への送風を開始します。

手動による送風口切り替えの解除

▷ 手動に切り替えたボタンを再度押します。または、
▷ AUTOボタンを押します。

同期（MONO）機能

この機能を利用すると、運転席側の車内温度の設定が、車内全体の設定として認識されます。

MONO機能をONにする

運転席側の設定温度が車内全体の設定温度として認識されます。
▷ AUTOボタンを2秒間押します。
エアコン・ディスプレイに“MONO”の文字が表示されます。

MONO機能をOFFにする

▷ AUTOボタンを2秒間押します。または、
▷ 助手席側の設定温度を切り替えます。

自動内気循環モード

▷ ボタンを1回押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。外気の汚れ具合に応じて、エアコン・システムが自動的に内気循環モードに切り替えます。

知識

通常は自動内気循環モードにしておくことを推奨します。

内気循環モードへの切り替え

⚠ 警 告

内気循環モードではウィンドウが曇りやすくなり、運転視界が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

▷ 内気循環モードの使用は短時間だけにしてください。
▷ 内気循環モードでウィンドウが曇りはじめたら、内気循環ボタンを再度押して外気導入モードに切り替え、さらにフロント・デフロスタをただちに作動させてください。

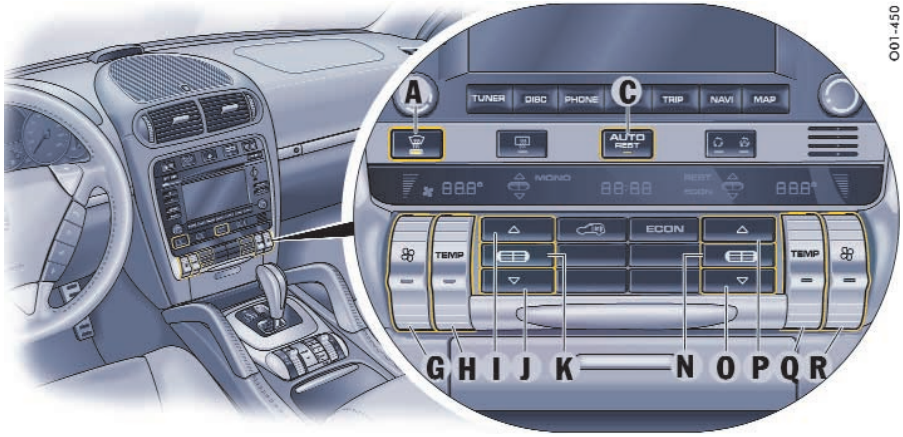
▷ ボタンを2回押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯し、外気導入が遮断されて室内の空気が循環します。

知識

自動または手動操作に関係なく、エアコン・コンプレッサが停止すると約3分後に内気循環モードが停止します。

概説—4ゾーン・オート・エアコン、フロント・コントロール・パネル

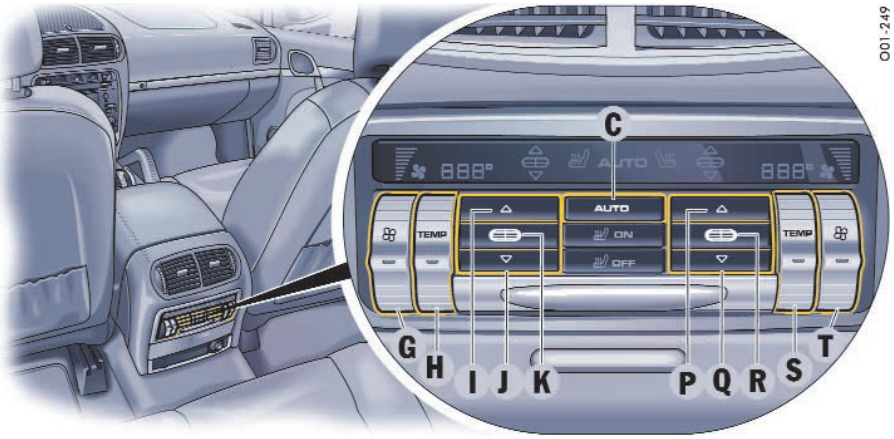
この概要説明は後述の「4ゾーン・オート・エアコン」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「4ゾーン・オート・エアコン」の項を参照してください。



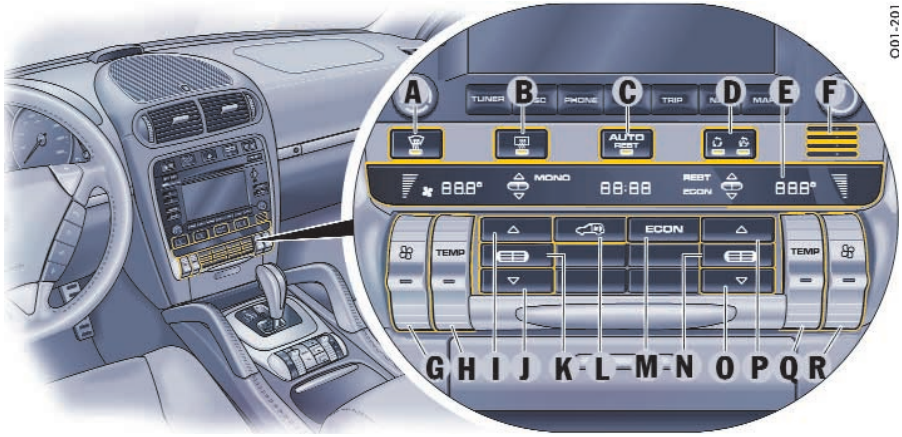
運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
フロント・コントロール・パネルでオート・エアコンを使用する	ボタン**C**を押します。
フロント・シートの車内温度を設定する	車内左側：ロッカー・スイッチ**H**を上方向（温度を上げる）または下方向（温度を下げる）に押して希望の温度にします。 車内右側：ロッカー・スイッチ**Q**を上方向（温度を上げる）または下方向（温度を下げる）に押して希望の温度にします。
フロント・シートの送風量を調節する	車内左側：ロッカー・スイッチ**G**を上方向（送風量を多くする）または下方向（送風量を少なくする）に押してお好みの風量に調節します。 車内右側：ロッカー・スイッチ**R**を上方向（送風量を多くする）または下方向（送風量を少なくする）に押してお好みの風量に調節します。
フロント・シートの送風口を切り替える	フロント・ウィンドウへの送風（左側または右側）：ボタン**I**または**P**を押します。 中央および左右エア･ベントからの送風（左側または右側）：ボタン**K**または**N**を押します。 足元への送風（左側または右側）：ボタン**J**または**O**を押します。
フロント・ウィンドウ・デフロスタを作動させる	ボタン**A**を押します。

概説―4ゾーン・オート・エアコン、リア・コントロール・パネル

この概要説明は後述の「4ゾーン・オート・エアコン」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「4ゾーン・オート・エアコン」の項を参照してください。



運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
リア・コントロール・パネルでオート・エアコンを使用する	ボタン**C**を押します。
リア・シートの車内温度を設定する	車内左側：ロッカー・スイッチ**H**を上方向（温度を上げる）または下方向（温度を下げる）に押して希望の温度にします。 車内右側：ロッカー・スイッチ**S**を上方向（温度を上げる）または下方向（温度を下げる）に押して希望の温度にします。
リア・シートの送風量を調節する	車内左側：ロッカー・スイッチ**G**を上方向（送風量を多くする）または下方向（送風量を少なくする）に押してお好みの風量に調節します。 車内右側：ロッカー・スイッチ**T**を上方向（送風量を多くする）または下方向（送風量を少なくする）に押してお好みの風量に調節します。
リア・シートの送風口を切り替える	サイド・ウィンドウへの送風（左側または右側）：ボタン**I**または**P**を押します。 中央エア・ベントからの送風（左側または右側）：ボタン**K**または**R**を押します。 足元への送風（左側または右側）：ボタン**J**または**Q**を押します。



C01-201

フロント・コントロール・パネル

A ― *フロント・デフロスタ*
B ― *リア・ウィンドウ・ヒータ*
C ― *AUTO（オート・モード）、REST（エンジン余熱ヒータ）*
D ― *内気循環、自動内気循環*
E ― *エアコン・ディスプレイ*
F ― *温度センサ*
G ― *左側送風量調節*
H ― *左側温度設定*
I ― *フロント・ウィンドウへの送風口（左側）*
J ― *足元への送風口（左側）*
K ― *中央およびサイド・エア・ベントの送風口（左側）*
L ― *リア・シートの設定*
M ― *ECON（エアコン・コンプレッサON/OFF）*
N ― *中央およびサイド・エア・ベントの送風口（右側）*
O ― *足元への送風口（右側）*
P ― *フロント・ウィンドウへの送風口（右側）*
Q ― *右側温度設定*
R ― *右側送風量調節*

4ゾーン・オート・エアコン

さまざまな環境条件（外気温度、日射量、車外の環境など）に応じて、エアコン・システムが設定温度を維持するように全自動制御されます。
また車内を4つのゾーン（フロント左側、フロント右側、リア左側、リア右側）に分けて、それぞれ車内温度、送風量および送風口を個別に設定できます。
必要に応じてオート・エアコンの制御の一部を手動に切り替えることもできます。
設定内容はエアコン・ディスプレイに表示されます。

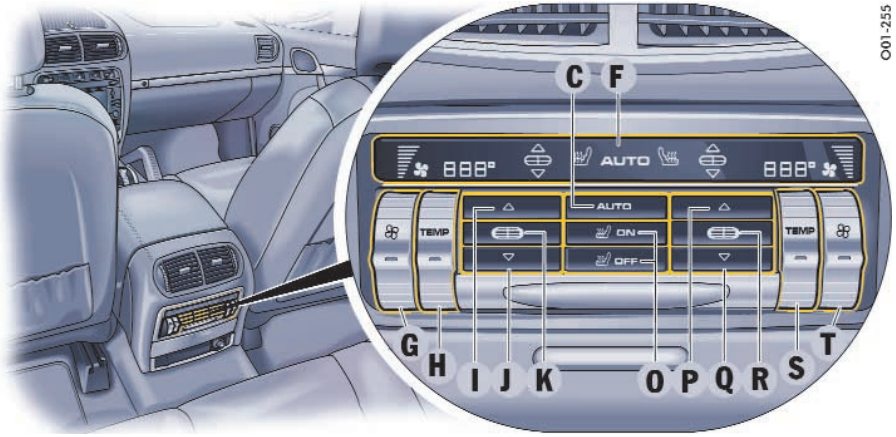
以下の操作については
「すべてのエアコン・システムに共通の操作」（55ページ）を参照してください。
― RESTモード
― ECONモード
― エアコン・コンプレッサに関する知識

フロント・デフロスタ

▷ フロント・コントロール・パネルの ボタンを押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯し、フロント・ウィンドウおよびフロント・サイド・ウィンドウに送風します。
この機能を利用すれば、ウィンドウの曇りを素早く取り除くことができます。

デフロスタ機能の停止

▷ ボタンを再度押します。または、
▷ AUTO REST ボタンを押します。



リア・コントロール・パネル
C ― *AUTO（オート・モード）*
F ― *エアコン／シート・ヒータ・ディスプレイ*
G ― *左側送風量調節*
H ― *左側温度設定、左側シート・ヒータ*
I ― *ドア・ピラー・エア・ベントの送風口（左側）*
J ― *足元への送風口（左側）*
K ― *センター・コンソールの中央エア・ベントの送風口（左側）*
O ― *シート・ヒータON/OFF*
P ― *ドア・ピラー・エア・ベントの送風口（右側）*
Q ― *足元への送風口（右側）*
R ― *センター・コンソールの中央エア・ベントの送風口（右側）*
S ― *右側温度設定、右側シート・ヒータ*
T ― *右側送風量調節*

AUTO オート・モード

フロント・シートおよびリア・シートのエアコン・システムを、個別にオート・モードにすることができます。

▷ フロントまたはリア・コントロール・パネルのAUTOボタン**C**を押します。
フロント・コントロール・パネルではボタン**C**のインジケータ・ランプが、リア・コントロール・パネルではディスプレイの“AUTO”の文字が点灯します。
送風量と送風口が自動で制御され、外気温度など環境が変化しても車内の温度を一定に維持します。

知識

必要に応じてオート・エアコンの制御の一部を手動に切り替えることもできます。
設定を手動で切り替えると、その機能の設定を再度変更するか、またはAUTOボタン**C**を押すまで、切り替えた設定が維持されます。

センサ

エアコン・システムの能力を維持するために：

▷ ダッシュボード上には日射センサが取り付けられており、フロント・コントロール・パネルには温度センサ**F**があります。これらのセンサにカバーをかけてセンサ表面を塞がないでください。

温度の設定

このエアコン・システムは、16～29.5℃の範囲で乗員が快適と感じる車内温度を各ゾーンで独立して設定できます。
運転に適切な快適温度（推奨）は22℃です。
設定した温度は、ロッカー・スイッチの上部にあるディスプレイに表示されます。

温度を上げる

▷ ロッカー・スイッチを上方向に押します。
車内左側（フロント）：スイッチ**H**
車内右側（フロント）：スイッチ**Q**
車内左側（リア）：スイッチ**H**
車内右側（リア）：スイッチ**S**

温度を下げる

▷ ロッカー・スイッチを下方向に押します。
車内左側（フロント）：スイッチ**H**
車内右側（フロント）：スイッチ**Q**
車内左側（リア）：スイッチ**H**
車内右側（リア）：スイッチ**S**

ディスプレイに“LO”または“HI”と表示されたときは、エアコン・システムが最大の冷房または暖房能力で作動します。
オート・モードで設定温度を変更すると、その温度に適した送風量に自動で切り替わり、すみやかに希望温度を維持するようにエアコン・システムが作動します。

送風量の調節

このエアコン・システムは、車内の4つのゾーンで個別に送風量の調節ができます。
設定した送風量は、ロッカー・スイッチの上部にあるディスプレイにバーで表示されます。バーの数が多くなるほど風量が多いことを意味します。

送風量を多くする

▷ ロッカー・スイッチを上方向に押します。
車内左側（フロント）：スイッチ**G**
車内右側（フロント）：スイッチ**R**
車内左側（リア）：スイッチ**G**
車内右側（リア）：スイッチ**T**

送風量を少なくする

▷ ロッカー・スイッチを下方向に押します。
車内左側（フロント）：スイッチ**G**
車内右側（フロント）：スイッチ**R**
車内左側（リア）：スイッチ**G**
車内右側（リア）：スイッチ**T**

オート・モードに戻るときはAUTOボタンCを押します。
フロント・コントロール・パネルのロッカー・スイッチで風量を最小にすると、ディスプレイに“OFF”の文字が表示されて送風が停止します。

⚠ 警 告

送風を停止しているとウィンドウが曇りやすくなり、運転視界が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

▷ ロッカー・スイッチGを上方向に押して送風を開始してください。

送風口の切り替え

△ フロントおよびサイド・ウィンドウへの送風

4つのゾーンで個別に送風量を調節できます。

— フロント・コントロール・パネル：
フロント・ウィンドウへの送風を開始します。
— リア・コントロール・パネル：
該当する側のサイド・ウィンドウへの送風を開始します。

▷ △ボタンを押します。

中央およびサイド・エア・ベントからの送風

▷ ボタンを押します。

— フロント・コントロール・パネル：
フロント中央およびサイド・エア・ベントへの送風を開始します。

— リア・コントロール・パネル：
中央エア・ベントへの送風を開始します。

▷ エア・ベントのダイヤルを回して吹き出し口を開いてください。

足元への送風

▷ ボタンを前後に押します。
足元への送風を開始します。

手動による送風口切り替えの解除

▷ 手動に切り替えたボタンを再度押します。または、AUTOボタン**C**を押します。

同期（MONO）機能

この機能を利用すると、運転席の車内温度と送風量の設定が、車内全体の設定として認識されます。

MONO機能をONにする

▷ フロント・コントロール・パネルのAUTO REST ボタンを2秒間押します。
エアコン・ディスプレイに“MONO”の文字が表示されます。

MONO機能をOFFにする

▷ フロント・コントロール・パネルのAUTO REST ボタンを2秒間押します。または、

▷ 各ゾーンの設定温度を切り替えます。

自動内気循環モード

▷ フロント・コントロール・パネルの ボタンを1回押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。外気の汚れ具合に応じて、エアコン・システムが自動的に内気循環モードに切り替えます。

知識

通常は自動内気循環モードにしておくことを推奨します。

内気循環モードへの切り替え

⚠ 警 告

内気循環モードではウィンドウが曇りやすくなり、運転視界が妨げられて事故を起こす恐れがあります。

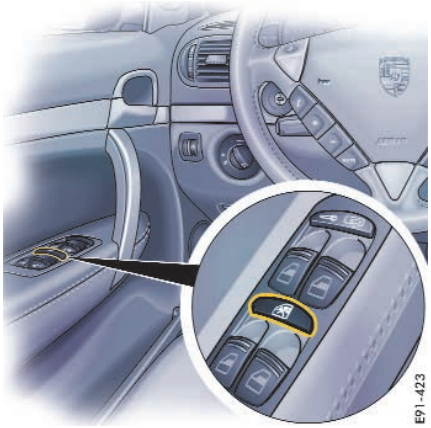
▷ 内気循環モードの使用は短時間だけにしてください。

▷ 内気循環モードでウィンドウが曇りはじめたら、内気循環ボタンを再度押して外気導入モードに切り替え、さらにフロント・デフロスタをただちに作動させてください。

▷ フロント・コントロール・パネルの ボタンを2回押します。
ボタンのインジケータ・ランプが点灯し、外気導入が遮断されて室内の空気が循環します。

知識

自動または手動操作に関係なく、エアコン・コンプレッサが停止すると約3分後に内気循環モードが停止します。



リア・コントロール・パネルの機能停止

運転席ドア・アームレストのセーフティ・ボタン操作で、リア・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチとセントラル・ロッキング・ボタン、さらにエアコン・リア・コントロール・パネルの機能が停止します。

チャイルド・プロテクションのON/OFF

▷ セーフティ・ボタンを押してチャイルド・プロテクション機能をON/OFFします。
チャイルド・プロテクション機能が作動すると、セーフティ・ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

フロント・コントロール・パネルでリア・エアコンを制御する

▷ ボタンを押します。
ディスプレイにシンボル・マークが表示され、フロント・コントロール・パネルでリア・エアコンの操作ができます。

機能の停止

▷ ボタンを再度押します。

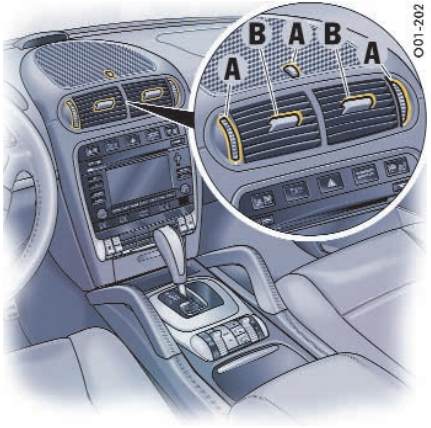
知識

▷ リア・エアコンの設定を変更してから10秒が経過すると、この機能が自動的に停止します。

リア・シート・ヒータ

4ゾーン・オート・エアコン装備車には、リア・シート・ヒータを装備しています。

▷ シート・ヒータの操作については：「リア・シート・ヒータ（4ゾーン・オート・エアコン装備車）」（33ページ）を参照してください。



A—*吹き出し口開閉ダイヤル*
B—*送風方向調節レバー*

エア・ベント（吹き出し口）

吹き出し口を開く

▷ ダイヤル**A**を上方に回します。

吹き出し口を閉じる

▷ ダイヤル**A**を下方に回します。

送風方向を調節する

▷ 吹き出し口のレバー**B**をお好みの方向に動かします。

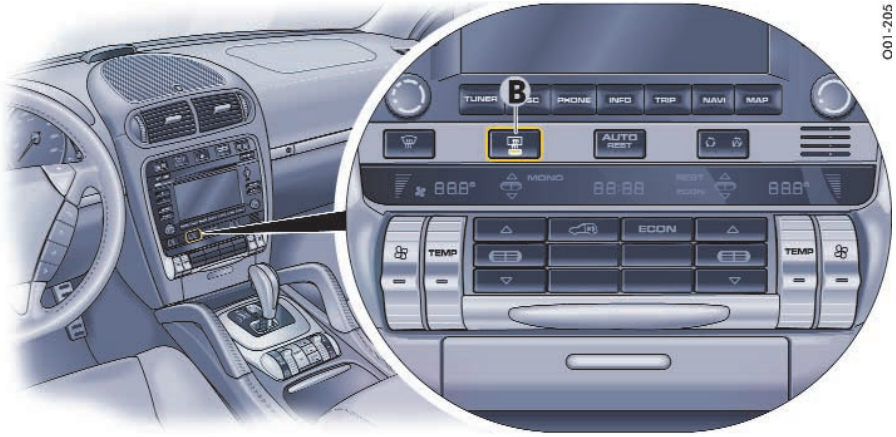
知識

車外から取り込んだ外気、およびエアコンで除湿した外気は、送風口の設定に応じてすべての吹き出し口から車内に送り出すことができます。

外気導入口

外気導入口の通気性を維持するために：

▷ フロント・ウィンドウとエンジン・フードのすき間には外気導入口があります。この部分に雪、氷、落ち葉などが詰まらないように清掃してください。



O01-205

リア・ウィンドウ・ヒータ

リア・ウィンドウ・ヒータはイグニッションがONのときに作動します。

ヒータを作動させる

▷ ボタン**B**を押します。

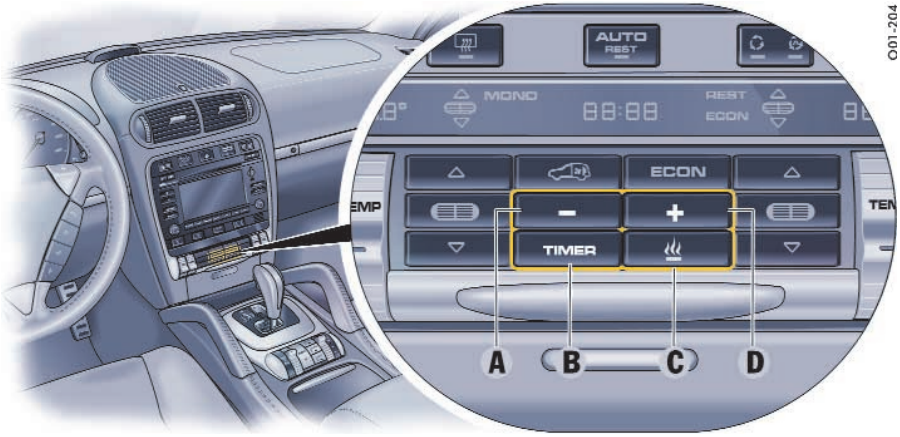
ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

リア・ウィンドウ・ヒータは、外気温度に応じて約5～20分後に自動的に停止します。ボタンを再度押すと、リア・ウィンドウ・ヒータが再作動します。

ヒータを停止する

▷ ボタン**B**を押します。

ボタンのインジケータ・ランプが消灯します。



A—“*−*”*ボタン*
B—*タイマー・ボタン*
C—*ON/OFFボタン*
D—“*+*”*ボタン*

補助ヒータ＊

補助ヒータには2つの機能があります。1つは補助ヒータ機能で、もう1つが補助ベンチレーション機能です。
補助ヒータはイグニッションの位置に関係なく使用できます。
外気温度が低いときは、手動操作で機能を停止していても作動音が聞こえることがあります。

⚠ 危 険

補助ヒータは燃料を使用するため、中毒を起こす恐れがあります。

▷ 給油する前に補助ヒータを停止してください。

▷ 密閉された場所（車庫の中など）では補助ヒータを使用しないでください。

＊日本仕様に設定はありません。

補助ヒータは、エアコン・フロント・コントロール・パネルの以下のボタンで操作します：

	補助ヒータの作動／停止、プログラムの作動
TIMER	プログラムの開始、メモリーの呼び出し
+	作動時間の設定、ヒータ機能の作動
−	作動時間の設定、ベンチレーション機能の作動

知識

補助ヒータはエンジンの燃料で作動します。したがって燃料残量警告灯が点灯した後は作動しません。

▷ 燃料残量警告については：
「燃料残量警告」（104ページ）を参照してください。

補助ヒータは、エンジンが冷えた状態で少なくとも1ヶ月に1度作動させてください。
イグニッションOFF：補助ヒータを作動させると、ディスプレイに残りの作動時間を表示します。
外気温度が低くエンジンが冷えているときは、補助ヒータの作動音がはっきりと聞こえます。
またエキゾースト・ガスが見えることがあります。

エアコン・コントロール・パネルによる補助ヒータの作動／停止

ヒータの作動

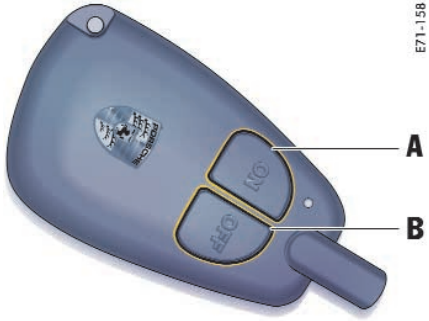
▷ ON/OFFボタン を押します。
もっとも最近使用した機能（補助ヒータまたは補助ベンチレーション）が作動します。

ヒータの停止

▷ ON/OFFボタン を再度押します。

知識

▷ ON/OFFボタン で補助ヒータを停止した後、再作動させるときは、少なくとも2分待ってから再度ボタンを押してください。この間にヒータ燃焼室のクリーニングが実行されます。



リモート・コントロールによる補助ヒータの作動／停止

補助ヒータ用リモート・コントロールの作動範囲は最大500mです。ただし建物など周辺の状況により、電波の届く範囲が狭くなることがあります。
リモート・コントロールのインジケータ・ランプは、送信した信号が受信されたときに点灯します。送信した信号の機能が実際に実行されたことを示すものではありませんので、実際の作動状況は車で確認してください。

ヒータの作動

▷ リモート・コントロールのボタン**A**を約2秒間押し続けます。リモート・コントロールのインジケータ・ランプが緑色に点灯します。

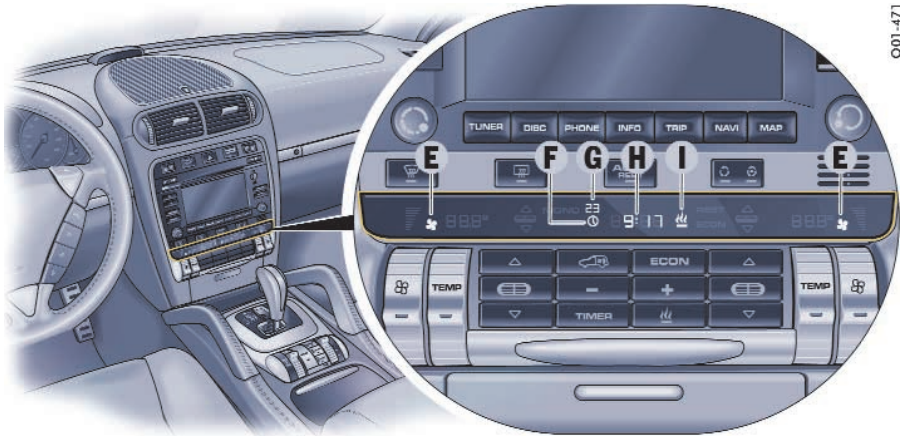
ヒータの停止

▷ リモート・コントロールのボタン**B**を約2秒間押し続けます。リモート・コントロールのインジケータ・ランプが赤色に点灯します。

知識

リモート・コントロールのインジケータ・ランプが点滅したときは、補助ヒータを作動／停止できません。
リモート・コントロールの作動範囲を外れていないか、または補助ヒータが作動するように車が設定されているか確認してください。

▷ 補助ヒータが故障したときはポルシェ正規販売店に修理を依頼してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。



E — *補助ベンチレーションのシンボル・マーク*
F — *作動時間のシンボル・マーク*
G — *メモリーのシンボル・マーク*
H — *作動時間*
I — *補助ヒータのシンボル・マーク*

補助ヒータのプログラム

補助ヒータの作動時間を記憶するメモリーが3つあり、それぞれ個別にプログラムできます。
また、各メモリーには作動時間と作動させる機能（補助ヒータまたは補助ベンチレーション）を記憶します。

メモリーには、以下の項目をプログラムする必要があります：
— 作動させる機能
　および、
— 作動時間

プログラムの実行

1. イグニッションをOFFにします。
2. エアコン・フロント・コントロール・パネルのタイマー・ボタンを押します。
   ディスプレイにある補助ヒータのシンボル・マーク**I**、または補助ベンチレーションのシンボル・マーク**E**が点滅します。
3. いずれかの機能を選択します。
   補助ヒータを使用するときは ✚ ボタン、補助ベンチレーションを使用するときは ━ ボタンを押します。

この手順の後、**10秒**以内に他の操作を行わないと、ディスプレイが初期状態に戻ります。
ただし選択した機能は記憶され、次回システムを起動したときに選択した機能が呼び出されます。

作動時間のプログラム

1. イグニッションをOFFにします。
2. TIMERボタンを押します。
3. 補助ヒータまたは補助ベンチレーションの機能を選択します。
4. TIMERボタンでメモリーを選択します。お好みのメモリーが選択されるまでTIMERボタンを繰り返し押します。
5. ✚ および ━ ボタンを使用して作動時間を設定します。
   ボタンを1度短押しする度に、分単位で時間が変化します。ボタンを長押しすると時間が早送りされます。なお作動時間は最大24時間有効です。
6. ON/OFFボタン を押します。
   ディスプレイ**F**と**G**が約10秒間点滅します。ディスプレイの点滅中にON/OFFボタン を再度押すと、ディスプレイの点滅を途中で終了できます。次に、作動時間**H**、時計シンボル**F**、メモリー**G**が2分間表示され、その後ディスプレイが消えます。
   これで補助ヒータのプログラムが完了し、選択したメモリーが有効になります（シンボル・マーク**G**が点灯します）。

知識

メモリーは1度に1つしか実行できません。

メモリーの起動

補助ヒータは30分間作動した後、自動的に停止します。
次回作動時には、プログラムを再作動する必要があります。
再作動の手順：

1. イグニッションをOFFにします。
2. TIMERボタンを押します。
3. 補助ヒータまたは補助ベンチレーションの機能を選択します。
4. TIMERボタンでメモリーを選択します。最後に保存した作動時間が表示されます。
5. ON/OFFボタン を押します。
   プログラムが再作動します。
   ディスプレイ**F**と**G**が約10秒間点滅します。ディスプレイの点滅中にON/OFFボタン を再度押すと、ディスプレイの点滅を途中で終了できます。次に、作動時間**H**、時計シンボル**F**、メモリー**G**が2分間表示され、その後ディスプレイが消えます。
   これで補助ヒータのプログラムが完了し、選択したメモリーが有効になります（シンボル・マーク**G**が点灯します）。

知識

メモリーは1度に1つしか実行できません。

プログラム例

補助ヒータを9:48 a.m.に作動させる場合の手順：

1. イグニッションをOFFにします。
2. エアコン・フロント・コントロール・パネルのTIMERボタンを押します。
   補助ヒータまたは補助ベンチレーションのシンボル・マークが点滅します。
3. ✚ ボタンを押して補助ヒータ機能を選択します。
4. TIMERボタンでメモリーを選択します。
5. ✚ および ━ ボタンを使用して、作動時間を9:48 a.m.に設定します。
6. ON/OFFボタン を押します。
   これで補助ヒータのプログラムが完了し、選択したメモリーが有効になります。

知識

メモリーを有効にしていても、プログラムした時間になる前に手動で補助ヒータを作動させると、そのプログラムが自動的に消去されます。
プログラムした時間に作動させるには、再度メモリーを起動して有効にしてください。

補助ヒータの故障

しばらく使用しなかった場合の再作動
補助ヒータを数週間使用しなかったときは、ヒータを数回作動させなければ正常な機能に戻らないことがあります。
▷ 補助ヒータの作動と停止を繰り返すときは、1度停止してから約5分間待って再作動してください。

補助ヒータを最初に使用するときは：
— エンジン冷間時に作動させてください。

以下の場合は、ポルシェ正規販売店で補助ヒータの機能を点検してください：
— 補助ヒータの作動手順を3回実行してもヒータが作動しないとき
— 補助ヒータが故障すると、ディスプレイにシンボル・マークが表示されず、残りの作動時間だけが表示されます。ディスプレイが短時間に点滅を繰り返し、その後は完全に消えます。
— 大きな衝突事故などが発生すると、安全のために補助ヒータが自動停止します。この場合は補助ヒータを再作動することができません。
— システムが過熱したときは、オーバーヒート防止機能が作動して補助ヒータが自動停止します。この場合は補助ヒータを再作動することができません。
— バッテリ電圧が低くなると補助ヒータが自動停止します。この場合は補助ヒータが一時的に使用できなくなります。

補助ヒータの点検と整備はポルシェ正規販売店に依頼してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ウィンドウ、スライディング／チルティング・ルーフ

パワー・ウィンドウ 74
概説—スライディング／チルティング・ルーフ 77
スライディング／チルティング・ルーフ 78
概説—パノラマ・ルーフ・システム 82
パノラマ・ルーフ・システム 83
パノラマ・ルーフ・システムの緊急操作 87

パワー・ウィンドウ

⚠ 警 告

ウィンドウを閉めるとき、挟まれて怪我をする恐れがありますので注意してください。特にワンタッチ作動で閉めるときは十分に注意してください。

▷ ウィンドウを閉めるときは、同乗者にも注意を促してください。

▷ 車を離れるときは必ずキーを抜き取ってください。ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車はイグニッションをOFFにしてください。またキーは必ず携帯してください。同乗者が誤ってパワー・ウィンドウを操作し、挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ 危険が生じたときは、ただちにキーのボタンを放してください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車は、ただちにドア・ハンドルのボタンを放してください。

▷ お子様だけを車内に残さないでください。

知識

▷ オフロードを走行するときは常にサイド・ウィンドウを閉めてください。

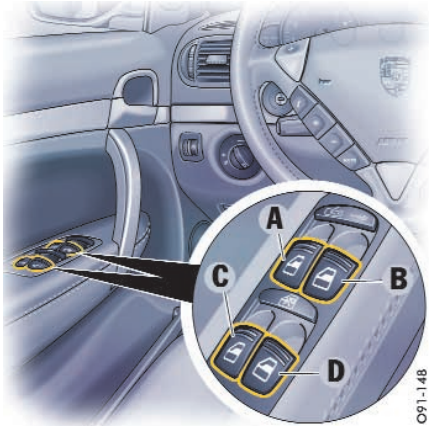
作動条件

— イグニッションをONにします。または、
— キーを抜き取ってから最大10分間は、ドアを閉めていればパワー・ウィンドウを操作できます。ただし運転席または助手席のドアを1度でも開けると操作できません。
ドア・ウィンドウのワンタッチ閉作動は、イグニッションがONのときだけ作動します。

ウィンドウの開閉

ロッカー・スイッチでウィンドウを開ける

— ウィンドウがお好みの位置になるまでロッカー・スイッチを押し続けます。



A - *運転席ドア・ウィンドウ・スイッチ*
B - *助手席ドア・ウィンドウ・スイッチ*
C - *左リア・ドア・ウィンドウ・スイッチ*
D - *右リア・ドア・ウィンドウ・スイッチ*

知識

運転席ドアのロッカー・スイッチ**A**と**B**は2段階の作動位置があります：

— 少し抵抗を感じる位置まで押し下げる、または引き上げると、スイッチを操作している間だけ該当するドア・ウィンドウが開閉します。
— スイッチを完全に押し下げる、または引き上げると、ワンタッチ作動により該当するドア・ウィンドウが自動的に全開または全閉します。

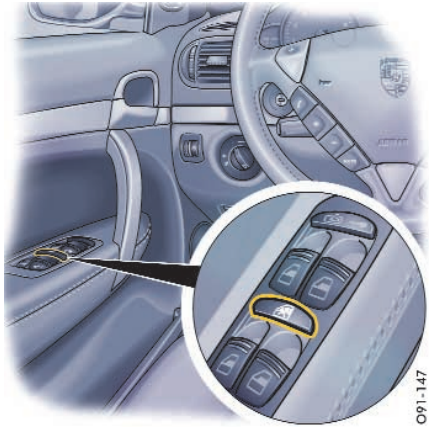
助手席ドア／リア・ドアのロッカー・スイッチ

ロッカー・スイッチでウィンドウを閉める

▷ ウィンドウがお好みの位置になるまでロッカー・スイッチを引き続けます。

フロント・ドア・ウィンドウのワンタッチ作動

運転席ドアのフロント・ドア・ウィンドウ用ロッカー・スイッチをいっぱいまで押し下げる、または引き上げます。
該当するウィンドウが全開、または全閉位置まで自動的に動きます。
ウィンドウの作動中にスイッチを再度操作すると、ウィンドウがその位置で停止します。



リア・ドア・ウィンドウの作動停止

運転席ドア・アームレストのセーフティ・ボタン操作で、リア・ドアのパワー・ウィンドウ・スイッチとセントラル・ロッキング・ボタン、さらにエアコン・リア・コントロール・パネルの機能が停止します。

チャイルド・プロテクションのON/OFF

▷ セーフティ・ボタンを押してチャイルド・プロテクション機能をON/OFFします。
チャイルド・プロテクション機能が作動すると、セーフティ・ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車

キーでウィンドウを開閉する

▷ ドア・ロックにキーを差し込み、ウィンドウがお好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除の位置にキーを回して保持します。

ドア・ロックにキーを差し込んで車のロックを解除したときは、運転席ドアだけがロック解除されます。この場合は警報システムの作動を防ぐため、ドアを開けてから15秒以内にイグニッションをONにしてください。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車

ドア・ハンドルのボタンでウィンドウを閉める（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車）

▷ ドア・ハンドルのボタンを押して車をロックするとき、ボタンを押し続けるとウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムが閉まります。お好みの位置になるまでボタンを押し続けます。

知識

このコンフォート機能は、車をロックしてから約30秒間利用できます。

知識

ウィンドウを閉めている途中で抵抗があると、動作が中断されてウィンドウが数センチメートル開きます。

ただし以下の場合は、この機能が働きません：

— ウィンドウの動きが中断されてから10秒以内に、ロッカー・スイッチを再度引き上げたとき
および、
— ドア・ロックにキーを差し込んでウィンドウを閉めているとき（コンフォート機能）

これらの場合は、パワー・ウィンドウが最大の力で閉まります。

⚠ 警 告

ウィンドウの動きが中断されてから10秒以内にロッカー・スイッチを再度引き上げると、パワー・ウィンドウが最大の力で閉まります。怪我をしないように注意してください。

▷ ウィンドウを閉めるときは、同乗者にも注意を促してください。

ドア・ウィンドウの動作が抵抗により中断されてから10秒間は、ワンタッチ作動が働きません。

バッテリ接続後のドア・ウィンドウ停止位置の記憶

バッテリの接続を切り離すと、ドア・ウィンドウ停止位置（全開および全閉位置）のメモリーが消去されます。このメモリーが消去されるとワンタッチ作動が働きません。

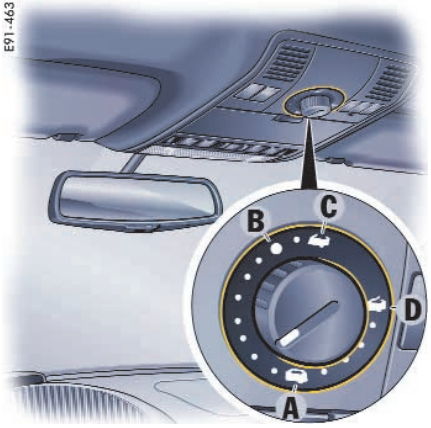
すべてのドア・ウィンドウで以下の操作を行ってください：

1. ロッカー・スイッチを引き上げて、1度ウィンドウを全閉します。
2. ロッカー・スイッチを押し下げて、1度ウィンドウを全開します。

ロッカー・スイッチを再度引き上げて、1度ウィンドウを全閉します。

概説ースライディング／チルティング・ルーフ

この概要説明は後述の「スライディング／チルティング・ルーフ」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「スライディング／チルティング・ルーフ」の項を参照してください。



ルーフ・コンソールのスイッチ

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？	その結果は？
ルーフを開ける	スイッチを**C**の位置にします。 または、 スイッチを**B**の位置にします。 （コンフォート位置）	ルーフが開きます。
ルーフをチルトアップする	スイッチを**D**の位置にします。	ルーフがチルトアップします。
ルーフを閉める	スイッチを**A**の位置にします。	ルーフが閉まります。

スライディング／チルティング・ルーフ

電動スライディング／チルティング・ルーフは、1枚構造の着色安全ガラスです。ガラス・ルーフの下方には手動開閉式のスライディング・ルーフ・カバーが付いており、頭上からの直射日光を遮ることができます。

スライディング／チルティング・ルーフは、ルーフ・コンソールのロータリー・スイッチで操作します。

⚠ 警 告

スライディング／チルティング・ルーフを開閉するとき、挟まれて怪我をする恐れがありますので注意してください。特にワンタッチ作動で閉めるときは十分に注意してください。

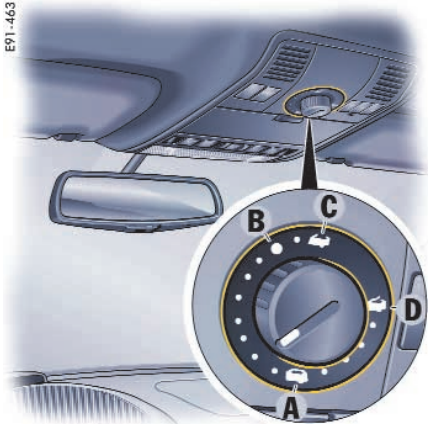
- ▷ スライディング／チルティング・ルーフを開閉するときは、同乗者にも注意を促してください。
- ▷ 車を離れるときは必ずキーを抜き取ってください。ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車はイグニッションをOFFにしてください。またキーは必ず携帯してください。同乗者（特にお子様）が誤ってスライディング／チルティング・ルーフを操作し、挟まれて怪我をする恐れがあります。
- ▷ 危険が生じたときはただちにロータリー・スイッチを逆方向に回すか、またはキーを抜き取ってください。
- ▷ オフロードを走行するときは常にスライディング／チルティング・ルーフおよびサイド・ウィンドウを閉めてください。

作動条件

— イグニッションをONにします。または、
— キーを抜き取ってから最大10分間は、ドアを閉めていればスライディング／チルティング・ルーフを操作できます。ただしドアを1度でも開けると操作できません。

スライディング／チルティング・ルーフのバッテリ・セーブ機能

車のロックを解除してから10分が経過すると、バッテリ電力の過剰消費を防止するために、スライディング／チルティング・ルーフが作動しなくなります。イグニッションをONにするか、またはエンジンを始動すると再作動させることができます。



A - *ルーフ全閉*
B - *ルーフ開（コンフォート位置）*
C - *ルーフ全開*
D - *チルトアップ*

知識

スライディング／チルティング・ルーフの開閉位置があらかじめ調節されているため、ロータリー・スイッチを操作するだけで適切な位置に開閉することができます。

A－スライディング／チルティング・ルーフを全閉する

▷ ロータリー・スイッチを**A**の位置にします。

知識

スライディング／チルティング・ルーフは挟み込み防止機能を装備しています。閉めている途中で抵抗があると、ただちにルーフが開きます。

挟み込み防止機能が作動した後にスライディング／チルティング・ルーフを閉める

▷ 障害物を取り除きます。

▷ ロータリー・スイッチを再度**A**の位置にします。

B－スライディング／チルティング・ルーフを開ける（コンフォート位置）

▷ ロータリー・スイッチを**B**の位置にします。

スイッチを**B**の位置にすると、走行ノイズが最小に抑えられる位置までスライディング／チルティング・ルーフが開きます。さらにスイッチを**C**の位置まで回すと、ルーフが全開します。

C－スライディング／チルティング・ルーフを全開する

▷ ロータリー・スイッチを**C**の位置にします。スイッチが**B**の位置で少し抵抗を感じますが、そのままいっぱいまで回すと**C**の位置になります。スイッチから手を放すと、スイッチが**B**の位置に自動的に戻ります。

D－スライディング／チルティング・ルーフをチルトアップする

▷ ロータリー・スイッチを**A**～**D**の間にして、お好みの位置までスライディング／チルティング・ルーフをチルトアップさせます。スイッチを**D**の位置にすると、ルーフが最大位置に持ち上がります。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車のコンフォート機能

スライディング／チルティング・ルーフを閉める

▷ ドア・ロックにキーを差し込み、ウィンドウとスライディング／チルティング・ルーフがお好みの位置になるまで、ロックの位置にキーを回して保持します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のコンフォート機能

スライディング／チルティング・ルーフを閉める

▷ ドア・ロックにキーを差し込み、ウィンドウとスライディング／チルティング・ルーフがお好みの位置になるまで、ロックの位置にキーを回して保持します。

または、

▷ ドア・ハンドルのボタンを押して車をロックするとき、ボタンを押し続けるとウィンドウとスライディング／チルティング・ルーフが閉まります。お好みの位置になるまでボタンを押し続けます。

スライディング／チルティング・ルーフの緊急操作

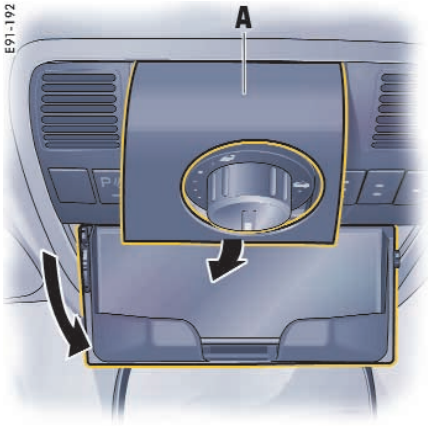
スライディング／チルティング・ルーフの動作に異常があるときは、手動で開閉できます。

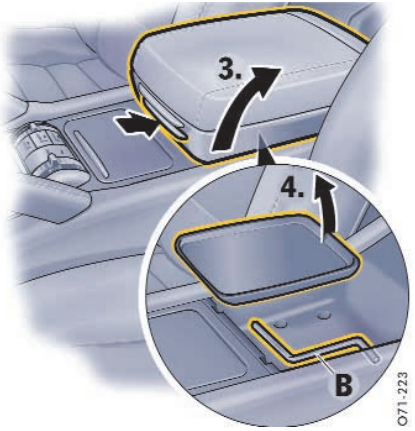
▷ この緊急操作を行う前に、ヒューズを点検してください。

⚠ 警 告

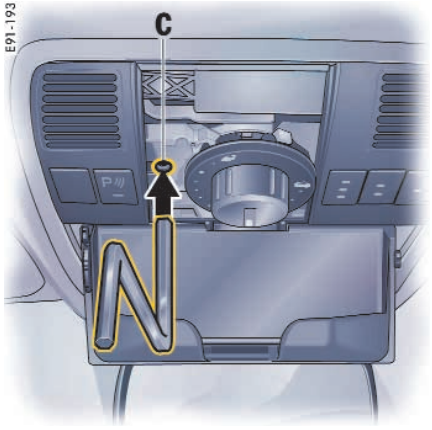
ルーフを閉めるときに怪我をする恐れがあります。

▷ スライディング／チルティング・ルーフを開閉するときは、同乗者にも注意を促してください。





1. ルーフ・コンソールのサングラス・ケースを開きます（矢印の方向）。
2. カバー**A**を外します。
3. アームレストを持ち上げます。
4. センター・コンソールの収納スペース（ゴム・マットの下）からレンチ**B**を取り出します。

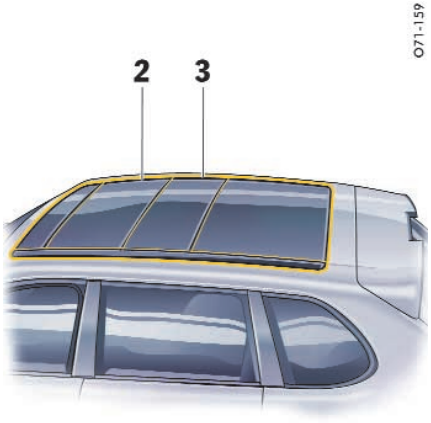


5. レンチ**B**をルーフ・コンソールの穴**C**に差し込み、しっかりと噛み合うまで押し込みます。
   この作業には、ある程度の力が必要です。
6. レンチを回します。
   ルーフを閉めるときは： 右方向に回します。
   ルーフを開けるときは： 左方向に回します。
7. レンチを取り外し、元の収納スペースに戻します。
8. カバーを元に戻します。

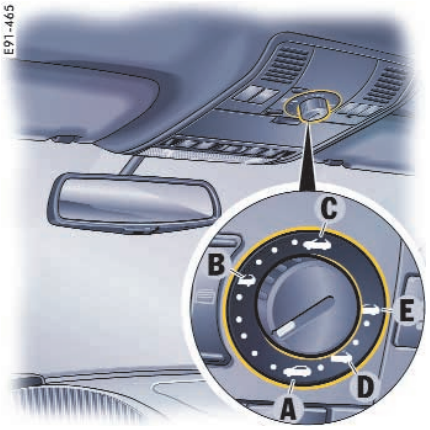
▷ スライディング／チルティング・ルーフの動作に異常があるときは、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

概説ーパノラマ・ルーフ・システム

この概要説明は後述の「パノラマ・ルーフ・システム」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「パノラマ・ルーフ・システム」の項を参照してください。



パノラマ・ルーフ・システムの構成



ルーフ・コンソールのスイッチ

運転者が何をしたいか？	その操作方法は？	その結果は？
ルーフを全開する （ルーフ2および3）	スイッチを**C**の位置にします。	ルーフ2と3が開きます。
ルーフ2を開ける	スイッチを**B**の位置にします。	ルーフ2だけが開きます。
ルーフ3を開ける	スイッチを**E**の位置にします。	ルーフ3だけが開きます。
ルーフ3をチルトアップする	スイッチを**D**の位置にします。	ルーフ3だけがチルトアップします。
ルーフを閉める	スイッチを**A**の位置にします。	開いているすべてのルーフが閉まります。

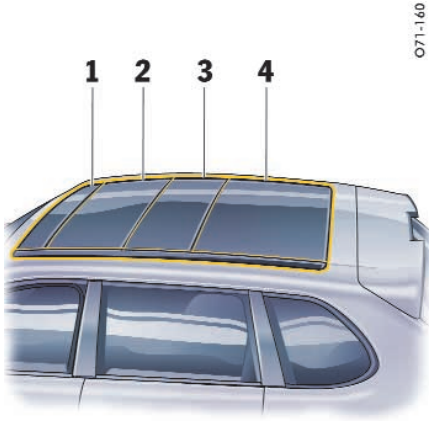
パノラマ・ルーフ・システム

パノラマ・ルーフ・システムは合計4枚のルーフ・コンポーネントで構成されています。

ルーフ1は、車内への風の巻き込みを防止するためのエア・デフレクターです。パノラマ・ルーフ・システムを開けたときは、速度に応じて角度が自動調節され、乱気流の発生を抑えます。特に高速走行時や強風のときは効果を発揮します。

ルーフ2および3は、ロータリー・スイッチの操作で前後方向にスライドします。さらに**ルーフ3**はチルトアップも可能です。これらの開閉により車内を効率よく換気できます。

パノラマ・ルーフ・システムの最後尾に位置する**ルーフ4**は、固定式のガラス・ルーフです。



1 - *エア・デフレクター*
2 - *スライディング・ルーフ*
3 - *スライディング／チルティング・ルーフ*
4 - *固定式ガラス・ルーフ*

⚠ 注 意

パノラマ・ルーフ・システムのコンポーネントの取り付けに不具合があると、ルーフを開閉したときに損傷する恐れがあります。

▷ 走行を開始する前に、パノラマ・ルーフ・システムのコンポーネントが正しい位置にあることを点検してください。

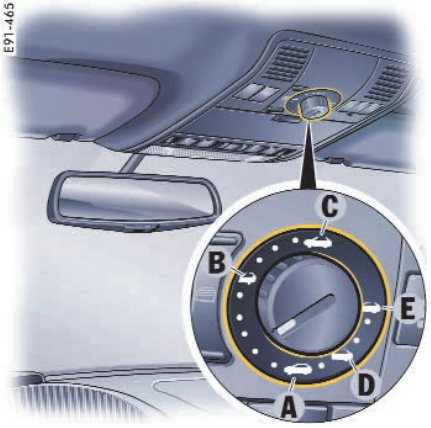
▷ パノラマ・ルーフ・システムのコンポーネントとルーフ・パネルのすき間が十分にあることを確認してください。

作動条件

— イグニッションをONにします。または、
— キーを抜き取ってから最大10分間は、ドアを閉めていればパノラマ・ルーフ・システムを操作できます。ただしドアを1度でも開けると操作できません。

パノラマ・ルーフ・システムのバッテリ・セーブ機能

車のロックを解除してから10分が経過すると、バッテリ電力の過剰消費を防止するために、パノラマ・ルーフ・システムが作動しなくなります。イグニッションをONにするか、またはエンジンを始動すると再作動させることができます。



A - *パノラマ・ルーフ・システム全閉*
B - *スライディング・ルーフ開*
C - *パノラマ・ルーフ・システム全開*
D - *スライディング／チルティング・ルーフのチルトアップ*
E - *スライディング／チルティング・ルーフ開*

知識

パノラマ・ルーフ・システムの開閉位置があらかじめ調節されているため、ロータリー・スイッチを操作するだけで適切な位置に開閉することができます。

▷ オフロードを走行するときは常にパノラマ・ルーフ・システムおよびサイド・ウィンドウを閉めてください。

⚠ 警 告

パノラマ・ルーフ・システムを開閉するとき、挟まれて怪我をする恐れがありますので注意してください。特にワンタッチ作動で閉めるときは十分に注意してください。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを開閉するときは、同乗者にも注意を促してください。

▷ 車を離れるときは必ずキーを抜き取ってください。ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車はイグニッションをOFFにしてください。またキーは必ず携帯してください。同乗者（特にお子様）が誤ってパノラマ・ルーフ・システムを操作し、挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ 危険が生じたときはただちにロータリー・スイッチを逆方向に回すか、またはキーを抜き取ってください。

A－パノラマ・ルーフ・システムを全開する

▷ ロータリー・スイッチを**A**の位置にします。

B－スライディング・ルーフを開ける

▷ ロータリー・スイッチを**B**の位置にします。

ルーフ2が全開位置までスライドします。ルーフの動きに合わせてローラー・ブラインドが自動的に開きます。

C－パノラマ・ルーフ・システムを全開する

▷ ロータリー・スイッチを**C**の位置にします（**B**の位置を超えていっぱいまで回します）。

ルーフ2と3が全開位置までスライドします。ルーフの動きに合わせてローラー・ブラインドが自動的に開きます。

D－スライディング／チルティング・ルーフをチルトアップする

▷ ロータリー・スイッチを**D**の位置にします。

ルーフ3が全開位置までチルトアップします。このときはローラー・ブラインドの位置が変化しません。

E－スライディング／チルティング・ルーフを開ける

▷ ロータリー・スイッチを**E**の位置にします。

▷ **ルーフ3**が全開位置までスライドします。ルーフの動きに合わせてローラー・ブラインドが自動的に開きます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車のコンフォート機能

パノラマ・ルーフ・システムを開閉する

▷ ドア・ロックにキーを差し込み、ウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムがお好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除の位置にキーを回して保持します。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のコンフォート機能

パノラマ・ルーフ・システムを開閉する

▷ ドア・ロックにキーを差し込み、ウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムがお好みの位置になるまで、ロックまたはロック解除の位置にキーを回して保持します。

パノラマ・ルーフ・システムを閉める

▷ ドア・ハンドルのボタンを押して車をロックするとき、ボタンを押し続けるとウィンドウとパノラマ・ルーフ・システムが閉まります。お好みの位置になるまでボタンを押し続けます。

パノラマ・ルーフ・システムの挟み込み防止機能

すべてのルーフ・コンポーネントに挟み込み防止機能を装備しています。スライディング・ルーフまたはスライディング／チルティング・ルーフの開閉途中で抵抗があると、該当するコンポーネントの動きが中断されて逆方向に動きます。

挟み込み防止機能が作動した後にルーフを閉める

1. 障害物を取り除きます。
2. ロータリー・スイッチを再度**A**の位置にします。

緊急時の電動閉機能

⚠ 警 告

緊急時の電動閉機能では挟み込み防止機能が働かず、ルーフが最大の力で閉まります。この機能を使用するときは怪我をしないように注意してください。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを閉めるときは、同乗者にも注意を促してください。

異物や氷の噛み込みなどでルーフが閉まらないときは、以下の操作を行います：

1. ロータリー・スイッチを**A**の位置にします。
2. すべてのルーフが完全に閉まるまでロータリー・スイッチを**A**の位置で保持します。

パノラマ・ルーフ・システムの停止位置の記憶

バッテリの接続を切り離したときやバッテリ電圧が異常に低下したとき、ジャンパー・ケーブルによるエンジン始動を行ったときなど、パノラマ・ルーフ・システム停止位置（全開および全閉位置）のメモリーが消去されます。

⚠ 警 告

挟み込み防止機能が働かず、ルーフが最大の力で閉まります。パノラマ・ルーフ・システムを閉めるときは怪我をしないように注意してください。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを閉めるときは、同乗者にも注意を促してください。

1. イグニッションをOFFにします。
2. ロータリー・スイッチを**A**の位置にします。
3. イグニッションをONにします。
4. ロータリー・スイッチが**A**の位置でスイッチ前部を押し上げ、そのまま保持します。
   停止位置を記憶するプロセスが約5秒後に開始されます。ローラー・ブラインドとすべてのルーフ・コンポーネントの動きが完全に止まるまで、スイッチをそのまま押し続けてください。このプロセスは最大20秒後に終了します。
5. ロータリー・スイッチから手を放します。
   チルトアップしているスライディング／チルティング・ルーフが自動的に閉まります。これですべてのプロセスが完了になります。

知識

停止位置を記憶するプロセスを中断したときは、最初からやり直してください。

ローラー・ブラインド

パノラマ・ルーフ・システムにはローラー・ブラインドが組み込まれています。ルーフ・コンソールのロッカー・スイッチを操作してローラー・ブラインドの位置を調節します。

ローラー・ブラインドを開閉する

ロッカー・スイッチには2段階の作動位置があります：

- 少し抵抗を感じる位置まで押し上げると、スイッチを操作している間だけローラー・ブラインドが開閉します。
- スイッチを完全に押し上げると、ワンタッチ作動によりローラー・ブラインドが自動的に全開または全閉します。

ローラー・ブラインドを開ける

▷ ロッカー・スイッチの後部**F**を押します。

ローラー・ブラインドを閉める

▷ ロッカー・スイッチの前部**G**を押します。

知識

ルーフ・コンポーネントが動いているときにロッカー・スイッチをいっぱいまで押し上げると、ルーフ・コンポーネントの動作が終了した後でローラー・ブラインドが全開または全閉します。

ローラー・ブラインドの清掃位置

1. パノラマ・ルーフ・システムとローラー・ブラインドを完全に閉めます。
2. ロータリー・スイッチを**C**の位置にします。
   パノラマ・ルーフ・システムが全開します。
3. パノラマ・ルーフ・システムの作動が終了した後、ローラー・ブラインドが完全に閉まるまでロッカー・スイッチの前部**G**を3秒以上押し続けます。
4. ローラー・ブラインドを清掃します(木の葉などを取り除きます)。
5. ローラー・ブラインドが完全に開くまで、ロッカー・スイッチの後部Fを押し続けます。
6. パノラマ・ルーフ・システムを閉めます。

⚠ 注 意

走行中にローラー・ブラインドを清掃位置にすると、パノラマ・ルーフ・システムやローラー・ブラインドを損傷する恐れがあります。

▷ 走行を開始する前に、パノラマ・ルーフ・システムをいったん全閉してください。

パノラマ・ルーフ・システムの緊急操作

緊急時の電動閉機能が作動しないときやパノラマ・ルーフ・システムの停止位置を記憶できない場合など、特別な状況のときだけ、この緊急操作を行ってください。

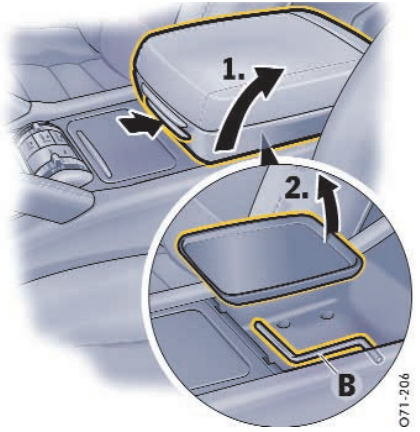
▷ この緊急操作を行う前に、ヒューズを点検してください。
ヒューズを1度取り外した場合は、パノラマ・ルーフ・システムの停止位置を記憶し直す必要があります。

⚠ 警 告

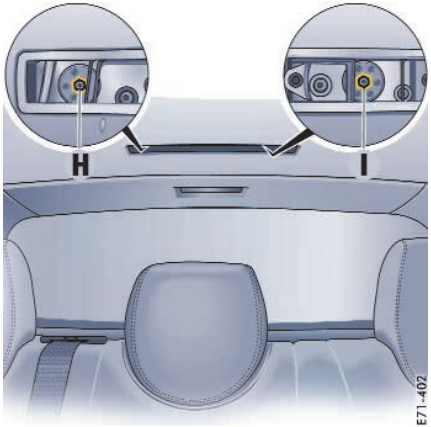
ルーフを閉めるときに怪我をしたり車を損傷する恐れがあります。

▷ パノラマ・ルーフ・システムを操作するときは、同乗者にも注意を促してください。

▷ この緊急操作を実行中とその後は、ロータリー・スイッチでパノラマ・ルーフ・システムを動かさないでください。



1. アームレストを持ち上げます。
2. センター・コンソールの収納スペース（ゴム・マットの下）からレンチ**B**を取り出します。



3. カバーを外します。
4. レンチ**B**をルーフの穴**H**または**I**に差し込み、しっかりと噛み合うまで押し込みます。
   この作業には、ある程度の力が必要です。
   穴**H**ースライディング・ルーフおよびエア・デフレクターの緊急操作用
   穴**I**ースライディング／チルティング・ルーフの緊急操作用
5. レンチを回します。
   ルーフを閉めるときは： 時計方向に回します。
   ルーフを開けるときは： 反時計方向に回します。

知識

スライディング／チルティング・ルーフを閉めるときは、ルーフが完全に閉まった位置（スライドとチルトアップの中間位置）にしてください。

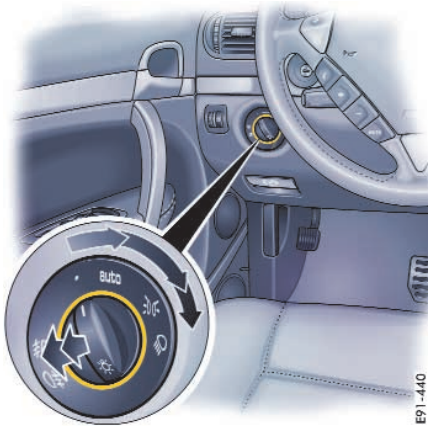
6. レンチを取り外し、元の収納スペースに戻します。
7. カバーを元に戻します。

パノラマ・ルーフ・システムの不具合を避けるため、緊急操作を行った後はパノラマ・ルーフ・システムの停止位置を記憶し直さなければなりません。

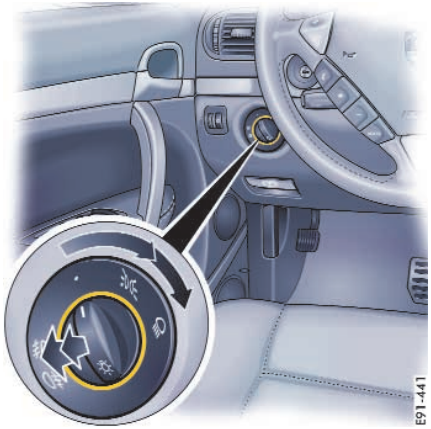
▷ パノラマ・ルーフ・システムの動作に異常があるときは、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ランプ、方向指示灯、フロント・ワイパー

ランプ・スイッチ 90
メータ・パネル・ランプ 91
ヘッドランプ自動高さ調整 92
方向指示灯／ハイ・ビーム／
パッシング・レバー 92
ハザード・ランプ 93
ルーム・ランプ 93
コンフォート・ランプ 94
ウェルカム・ホーム機能
（消灯遅延機能） 95
カーテシ・ランプ 95
概説ーフロント・ワイパー 96
フロント・ワイパー／ウォッシャ・
レバー 97



ドライビング・ランプ・アシスト装備車



ドライビング・ランプ・アシスト非装備車

ランプ・スイッチ

- **ランプ消灯**

auto ドライビング・ランプ・アシスト作動

車幅灯

ライセンス・ランプ、メータ・パネル・ランプ

ロー・ビーム、ハイ・ビーム・ヘッドランプ

イグニッションONで点灯

フォグランプ

車幅灯またはロー・ビーム・ヘッドランプ点灯時のみ点灯：
スイッチを1段階引きます。表示灯が点灯します。

リア・フォグランプ

スイッチを2段階引きます。表示灯が点灯します。

知識

ランプ（パーキング・ランプを除く）を点灯した状態でキーを抜き取ってドアを開けると、バッテリあがりを防止するために警告音が鳴ってドライバーに注意を促します。

なお各国の法律に準拠して、ランプの仕様が異なることがあります。

オートマチック・ドライビング・ランプ・アシスト

ドライビング・ランプ・アシストは運転快適性を高めるコンフォート機能です。この車のドライビング・ランプ（ヘッドランプ・ロー・ビーム）は、周囲の明るさに応じて自動的に点灯／消灯します。

ただしドライビング・ランプ・アシストを装備していても、必要に応じてランプ・スイッチの手動操作によりヘッドランプを点灯／消灯することは法律で定められたドライバーの責務です。

したがってドライビング・ランプ・アシストを使用したヘッドランプの点灯／消灯は、あくまでもドライバーの運転操作を支援するものであり、ヘッドランプを点灯／消灯するタイミングは実際の状況に応じてドライバーが判断してください。

以下の状況で、ヘッドランプ・ロー・ビームが自動的に点灯します：

- 夕暮れ時
- 夜間
- トンネル内を走行中
- 雨天時（レイン・センサの信号に基づいて点灯）
- 高速道路を走行中

知識

霧は判別できません。

▷ 霧が発生したときは、ランプ・スイッチの手動操作でヘッドランプを点灯してください。

⚠ 警 告

ヘッドランプを消灯して走行すると事故を起こす恐れがあります。

▷ オートマチック・ドライビング・ランプ・アシストの作動状況を常に監視してください。

高速道路での自動点灯機能

速度が140km/hを超えるとドライビング・ランプが自動的に点灯します。その後、速度が65km/h以下になると、周囲の明るさが十分であれば約2分後にランプが消灯します。

雨天時の自動点灯機能

ワイパーが連続動作になってから5秒が経過すると、ドライビング・ランプが自動的に点灯します。

その後、ワイパーが停止してから約4分が経過すると、ドライビング・ランプが消灯します。

消灯遅延機能、カーテシ・ランプ

オートマチック・ドライビング・ランプ・アシストを作動させると、消灯遅延機能とカーテシ・ランプが作動します。

消灯遅延機能については：

▷ 「ウェルカム・ホーム機能（消灯遅延機能）」（95ページ）を参照してください。

カーテシ・ランプについては：

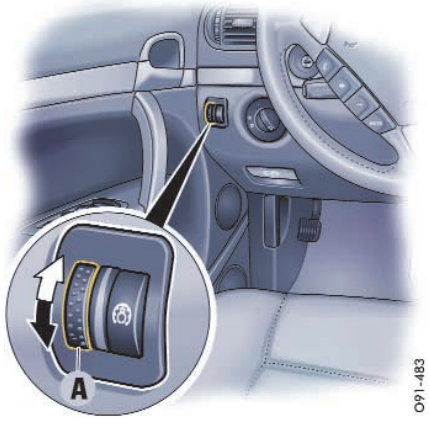
▷ 「カーテシ・ランプ」（95ページ）を参照してください。

デイタイム・ドライビング・ランプ

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイで、デイタイム・ドライビング・ランプの設定を変更できます。

デイタイム・ドライビング・ランプを点灯／消灯させるときは、各国の法律に準拠してください。

▷ デイタイム・ドライビング・ランプの点灯／消灯については：「デイタイム・ドライビング・ランプの点灯／消灯」（128ページ）を参照してください。



A - *メータ・パネル・ランプの明るさ調整ダイヤル*

メータ・パネル・ランプ

ランプを点灯中は、ダイヤル**A**を回すとメータ・パネル・ランプの明るさが調整できます。

ヘッドランプ自動高さ調整

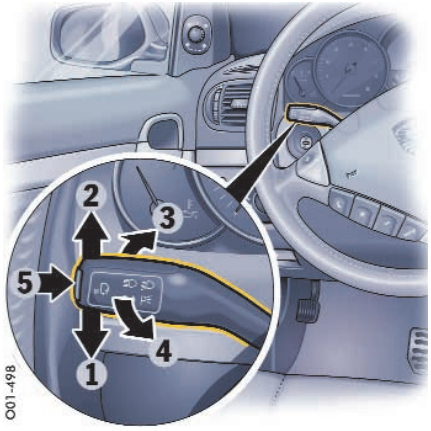
この車にはヘッドランプ自動高さ調整機能が付いています。

イグニッションをONにしてヘッドランプ・ロー・ビームを点灯すると、乗員の数や荷物の積載状態に応じてヘッドランプの照射角度が自動調整されます。また加速時や減速時は、ヘッドランプの照射角度が自動的に一定に維持されます。

機能点検

1. イグニッションOFFのままで、ランプ・スイッチをヘッドランプ・ロー・ビーム点灯位置にします。
2. イグニッションをONにします。
   イグニッションをONにすると、ヘッドランプが点灯して照射角度がもっとも下向きに調整されます。その後、乗員の数や荷物の積載状態に応じて適切な高さになるまで上方向に動きます。

上記の作動が実行されない場合は、ヘッドランプ自動高さ調整機能を点検してください。ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。



方向指示灯／ハイ・ビーム／パッシング・レバー

イグニッションをONにすると、方向指示灯、ヘッドランプ・ロー・ビームおよびハイ・ビームが点灯可能になります。

1ー方向指示灯、左側
2ー方向指示灯、右側
手ごたえを感じる位置までレバーを上下方向に動かすー方向指示灯が3回点滅します。
3ーヘッドランプ・ハイ・ビーム
4ーパッシング
（ランプ・スイッチがヘッドランプ点灯位置のとき）レバーを前後方向の中央位置にすると、ヘッドランプ・ロー・ビームが点灯します。
5ーボイス・コントロール用のボタン＊
▷ 別冊のPCM取扱説明書を参照してください。

知識

ヘッドランプ・ハイ・ビーム点灯中またはパッシングを作動させたときは、スピードメータ（速度計）内の青色の表示灯が点灯します。

パーキング・ランプ

パーキング・ランプはイグニッションがOFFのときだけ点灯します。

▷ レバーを上方向または下方向に動かすと、右側または左側のパーキング・ランプが点灯します。

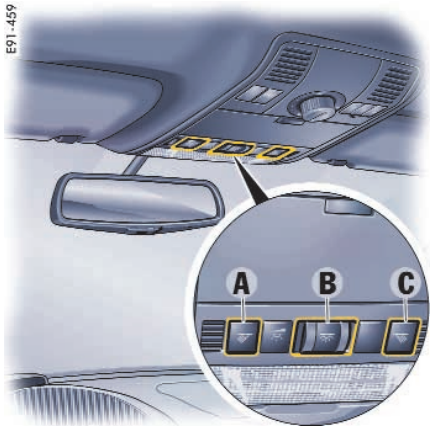
＊日本仕様に設定はありません。

ハザード・ランプ

ハザード・ランプはイグニッションの位置に関係なく使用できます。

ハザード・ランプの作動／停止

▷ ボタン**A**を押します。
ハザード・ランプを作動させると、すべての方向指示灯と、ボタンのインジケータ・ランプが点滅します。



A, C - *読書灯スイッチ*
B - *ルーム・ランプ・スイッチ*

ルーム・ランプ

読書灯（フロント）

点灯
▷ スイッチ**A**または**C**を押します。

消灯
▷ スイッチ**A**または**C**を再度押します。

ルーム・ランプ（フロント）

点灯
▷ スイッチ**B**を左方向に動かします。

自動点灯／消灯
▷ スイッチ**B**を右方向に動かします。ドア・ロックを解除したとき、ドアを開けたとき、またはイグニッション・ロックからキーを抜き取ったときに点灯します。
ドアを閉めてから約30秒が経過すると消灯します。イグニッション・ロックにキーを差し込んだとき、または車をロックするとただちに消灯します。

消灯
▷ スイッチ**B**を中央位置にします。

読書灯（リア・ルーム・ランプ）

読書灯（リア）

点灯

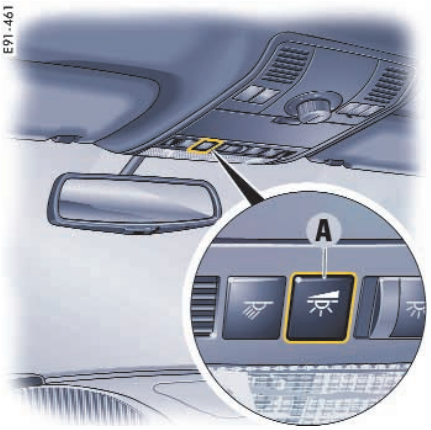
▷ スイッチの左側を押します。

自動点灯／消灯

▷ スイッチを中央位置にします。ドア・ロックを解除したとき、ドアを開けたとき、またはイグニッション・ロックからキーを抜き取ったときに点灯します。
ドアを閉めてから約30秒が経過すると消灯します。イグニッションをONにするか、または車をロックするとただちに消灯します。

0　消灯

▷ スイッチの右側を押します。



A - *コンフォート・ランプ明るさ調整ボタン*

コンフォート・ランプ

暗闇での乗降性を良くするために、足元照明およびドア・パネル・ランプを装備しています。これらのランプは車のロックを解除すると点灯し、ロックすると消灯します。

コンフォート・ランプの明るさ調整

すべてのドアを閉めると、足元照明とドア・パネル・ランプが一定の明るさまで減光されます。

これらのコンフォート・ランプは、フロント・ルーフ・コンソールの明るさ調整ボタン**A**でお好みの明るさに調整できます。

▷ お好みの明るさになるまでボタン**A**を押し続けます。

ウェルカム・ホーム機能（消灯遅延機能）

下記のランプが一定時間点灯したままになり、夕暮れ時や夜間、車から降りて歩き始めるときの足元を明るく照らして安全性を高めます：

— ヘッドランプ・ロー・ビーム
— ドア・ミラーのランプ
— 車幅灯
— ライセンス・ランプ

知識

▷ ランプ・スイッチを **auto** の位置にします。

ランプ・スイッチについては：

「ランプ・スイッチ」（90ページ）を参照してください。

車をロックするか、またはマルチ・ファンクション・ディスプレイで設定した消灯遅延時間が経過するとランプが消灯します。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの消灯遅延時間の設定については：「消灯遅延機能の設定」（129ページ）を参照してください。

カーテシ・ランプ

カーテシ・ランプは、暗闇で乗車するときの安全性を高めます。また、ドア付近の障害物（水たまりなど）を発見しやすくなります。

リモート・コントロールまたはポルシェ・エントリー&ドライブで車のロックを解除すると、以下のランプが点灯して車の周囲を照らします：

— ドア・ミラーのランプ
— 車幅灯
— ライセンス・ランプ

知識

▷ ランプ・スイッチを **auto** の位置にします。

ランプ・スイッチについては：

「ランプ・スイッチ」（90ページ）を参照してください。

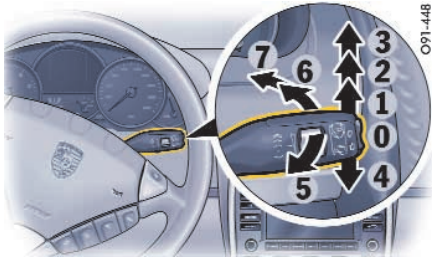
イグニッションをONにするか、またはマルチ・ファンクション・ディスプレイで設定した消灯遅延時間が経過するとカーテシ・ランプが消灯します。

マルチ・ファンクション・ディスプレイの消灯遅延時間の設定については：

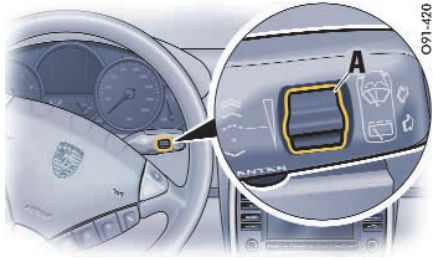
「消灯遅延機能の設定」（129ページ）を参照してください。

概説ーフロント・ワイパー

この概要説明は後述の「フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー」に代わるものではありません。操作する上での注意事項は、必ず「フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー」の項を参照してください。



ワイパー・レバー



レイン・センサ・コントロール・スイッチ

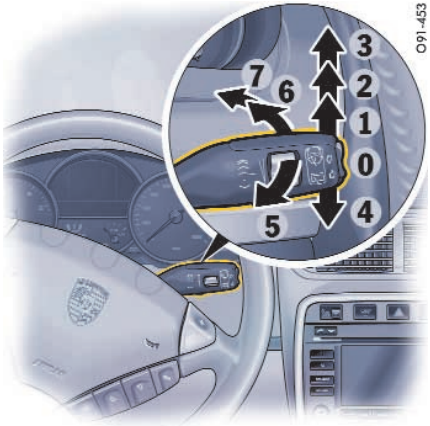
運転者が何をしたいか？	その操作方法は？
フロント・ワイパー・オート作動（レイン・センサ）	ワイパー・レバーを**1**の位置にします。
レイン・センサ感度の調節	ワイパー・レバーのコントロール・スイッチ**A**を上方向（高感度）または下方向（低感度）に回します。
フロント・ワイパー作動	低速： ワイパー・レバーを**2**の位置に押します。 高速： ワイパー・レバーを**3**の位置に押します。 ワンタッチ： ワイパー・レバーを**4**の位置に短押しします。
フロント・ワイパー&ウォッシャ作動	ワイパー・レバーを**5**の位置まで引いて保持します。
リア・ワイパー作動	間欠： ワイパー・レバーを**6**の位置に押します。 ワンタッチ： ワイパー・レバーを**7**の位置に短押しします。
リア・ワイパー&ウォッシャ作動	ワイパー・レバーを**7**の位置まで押して保持します。

フロント・ワイパー／ウォッシャ・レバー

⚠ 注 意

ワイパーが不意に作動すると怪我をする恐れがあります。また、エンジン・フード、フロント・ウィンドウ、ワイパー・システムを損傷する恐れがあります。

- ▷ フロント・ウィンドウがしっかりと濡れた状態のときにワイパーを作動させてください。ウィンドウが乾いているとワイパーによる擦り傷が付く恐れがあります。
- ▷ ワイパー・ブレードが凍結したときは、走行前に解凍してください。
- ▷ ヘッドランプ・クリーニング・システムが凍結したときは、ウォッシャを使用しないでください。
- ▷ 洗車をする前に必ずワイパーを停止してください。レイン・センサの機能によりワイパーが不意に作動することがあります。
- ▷ 洗車中はヘッドランプ・クリーニング・システムを作動させないでください。
- ▷ フロント・ウィンドウを清掃するときは、必ずワイパーを停止してください。レイン・センサの機能によりワイパーが不意に作動することがあります。
- ▷ ワイパー・ブレードを交換するときは、ワイパー・アームをしっかりと手で持ってください。
- ▷ エンジン・フードを開けるときは、必ずワイパーを停止してください（レバーを**0**の位置にしてください）。ワイパー・アームが停止位置にない場合は、イグニッションをOFFにしていても、エンジン・フードを開けるとワイパー・アームが停止位置まで動きます。エンジン・フードを閉めてワイパーを停止し、再度作動させるまでワイパー・アームがこの位置に保持されます。

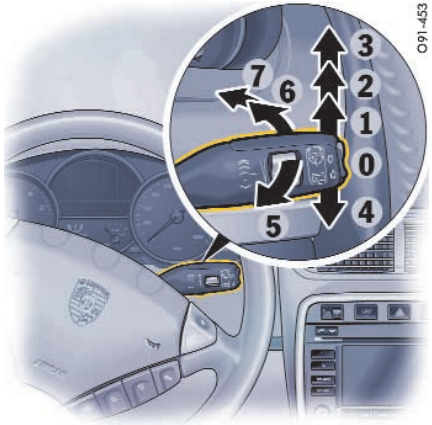


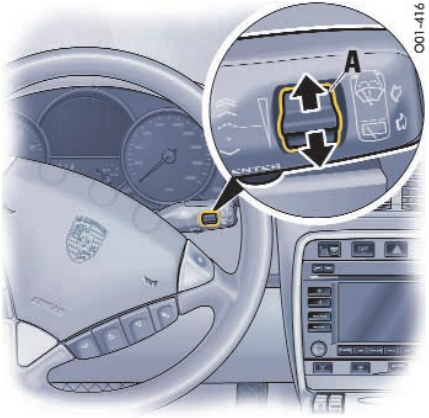
0ーフロント・ワイパー停止
1ーレイン・センサ作動（フロント・ワイパー・オート作動）

- ▷ ワイパー・レバーを1の位置にします。

知識

レイン・センサがフロント・ウィンドウに付着した水滴の量を感知して、ワイパーの作動速さを自動調節します。





イグニッションをONにしたとき、すでにワイパー・レバーが**1**の位置にあると、レイン・センサが作動しません。
レイン・センサを作動させるには：

- ▷ ワイパー・レバーを1度**0**の位置にして、再度**1**の位置にします。フロント・ワイパーが1回払拭動作を行い、レイン・センサが作動したことを知らせます。
  または、
- ▷ フロント・ウィンドウ・ウォッシャを作動させます（ワイパー・レバーを**5**の位置に引きます）。フロント・ワイパーが3回払拭動作を行い、レイン・センサが作動したことを知らせます。
  または、
- ▷ レイン・センサ・コントロール・スイッチ**A**を回してセンサの感度を切り替えます。

レイン・センサの感度調節
コントロール・スイッチ**A**を操作すると、レイン・センサの感度を4段階に切り替えることができます：

- ▷ スイッチ**A**を上方向に回すーセンサの感度が高くなります。
  フロント・ワイパーが1回払拭動作を行い、感度が切り替わったことを知らせます。
- ▷ スイッチ**A**を下方向に回すーセンサの感度が低くなります。

2ーフロント・ワイパー、低速

- ▷ ワイパー・レバーを2の位置にします。

3ーフロント・ワイパー、高速

- ▷ ワイパー・レバーを3の位置にします。

フロント・ワイパーを連続作動させているときは、速度が約4km/h以下になるとレイン・センサが作動して間欠動作に切り替わります。速度が約8km/hを超えると、ワイパーの動きがレバーで設定した速さに戻ります。

4ーフロント・ワイパー、ワンタッチ

- ▷ ワイパー・レバーを4の位置に短押しします。フロント・ワイパーが1回だけ払拭動作を行います。

5ーフロント・ワイパー&ウォッシャ

▷ ワイパー・レバーをステアリング・ホイールの方向に（5の位置まで）引きます。レバーを引いている間、ウォッシャ・システムとワイパーが作動します。レバーを放すと、さらに数回ワイパーが動いて停止します。

ヘッドランプ・クリーニング・システム：

ヘッドランプ・クリーニング・システムは、ヘッドランプ・ロー・ビームまたはハイ・ビームを点灯しているときだけ作動します。

ヘッドランプ・クリーニング・システムを作動させるときは、ワイパー・レバーを長めに引き続けます。

ただし1度ヘッドランプ・クリーニング・システムを作動させると、その後はウィンドウ・ウォッシャを5回作動させるまで、ヘッドランプ・クリーニング・システムが再作動しません。またワイパー・レバーを引き続けても、一定時間が経過するとヘッドランプ・クリーニング・システムの噴射が自動的に終了します。

知識

▷ ヘッドランプの汚れが激しいときは、ヘッドランプ・クリーニング・システムを繰り返し作動させてください。

▷ 昆虫の死骸など、頑固な汚れは定期的に清掃してください。

▷ 詳しくは「車のお手入れ」（241ページ）を参照してください。

イグニッションをONにすると、フロント・ウィンドウ・ウォッシャ・ノズルのヒータが一定時間作動して凍結を防止します。ただし、この機能を装備していても、専用のウォッシャ液を使用しないとノズルが凍結することがあります。

6ーリア・ワイパー、間欠

▷ ワイパー・レバーを6の位置に押すと、リア・ワイパーが一定のタイミングで間欠作動します。

7ーリア・ワイパー、ワンタッチ

▷ ワイパー・レバーを7の位置に短押しします。ウォッシャ・システムが作動し、リア・ワイパーが3回払拭動作を行います。

リア・ワイパー&ウォッシャ

▷ ワイパー・レバーを7の位置まで押して保持します。レバーを押している間、ウォッシャ・システムとワイパーが作動します。レバーを放すと、さらに数回ワイパーが動いて停止します。

知識

▷ ウィンドウ・クリーナを使用してワイパー・ブレードを定期的に清掃してください。特に洗車機を使用した後は必ず清掃してください。

ポルシェ社が推奨するウィンドウ・クリーナを使用してください。虫の死骸が付着したときなどウィンドウの汚れが激しいときは、スポンジまたは布で拭き取ってください。

ワイパー・ブレードが擦れたり異音が発生するときは、以下の原因が考えられます：

ー 自動洗車機を使用すると、フロント・ウィンドウにワックス成分が付着します。このワックス成分はウィンドウ・クリーナの濃縮液を使用しないと除去できません。

▷ 「ウォッシャ液の補充」（233ページ）を参照してください。

詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。

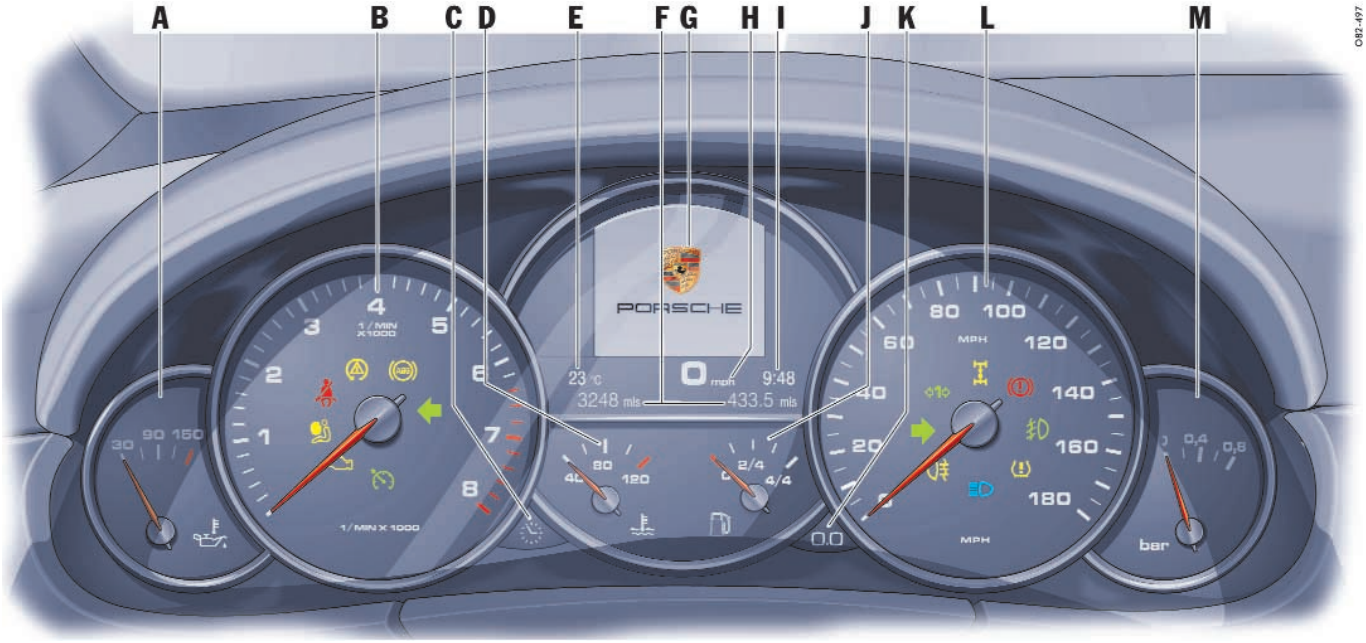
ー ワイパー・ブレードが損傷または摩耗しています。

▷ すみやかに損傷したワイパー・ブレードを交換してください。

memo

マルチ・ファンクション・ディスプレイ、メータ・パネル

メータ・パネル 103
油温計 104
タコメータ（回転計） 104
積算距離計 104
時計 104
燃料計 104
スピードメータ（速度計） 105
エンジン・ブースト圧計 105
クーリング・システム 105
バッテリ／オルタネータ 106
エミッション・コントロール 107
マルチ・ファンクション・ディスプレイの操作 108
メイン・メニューを開く 109
操作の例：平均燃費を表示する 109
平均速度の表示／リセット 111
燃料残量による可走距離の表示 111
タイヤ空気圧の表示 111
コンパスの表示 111
ナビゲーション情報の表示 111
電話の操作 112
制限速度の設定 113
警告メッセージの表示 114
レベリング・システム（車高）のステータス表示 115
ロック／リダクションのステータス表示 115
平均燃費の表示 116
タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定 116
室内モニタ・システムおよび傾斜センサの停止 125
ドア・ミラーの同期調節 125
車の開閉およびロックの設定変更 126
デイタイム・ドライビング・ランプの点灯／消灯 128
消灯遅延機能の設定 129
時計の設定 129
ディスプレイ表示言語の変更 130
ディスプレイ表示単位の変更 130
初期設定への表示のリセット 130
警告灯および警告メッセージ 131


A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
082-497
PORSCHE
23 °C
9:48
3248 mls
433.5 mls
1/MIN X1000
MPH
bar

メータ・パネル

A　油温計
B　タコメータ（回転計）
C　時計調整ボタン
D　水温計
E　外気温計
F　積算距離計
G　マルチ・ファンクション・ディスプレイ
H　デジタル式スピードメータ（速度計）
I　時計
J　燃料計
K　トリップ・メータ・リセット・ボタン
L　スピードメータ（速度計）
M　エンジン・ブースト圧計

警告灯／表示灯（タコメータ内）

エミッション・コントロール警告灯（チェック・エンジン）

エアバッグ警告灯

シートベルト警告灯

PSM警告灯

ABS警告灯

方向指示灯（左側）の作動表示灯

クルーズ・コントロール作動表示灯

警告灯／表示灯（スピードメータ内）

リア・フォグランプ作動表示灯

方向指示灯（右側）の作動表示灯

トレーラー車両方向指示灯の作動表示灯

ディファレンシャル・ロック作動表示灯

ブレーキ警告灯

フォグランプ作動表示灯

タイヤ空気圧警告灯

ハイ・ビーム作動表示灯

Aー油温計

エンジン油温が異常に高まると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 油温計の指針が赤色の部分に達したときは、ただちにエンジン回転数を下げ、エンジンの負荷を軽減してください。
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージについては：

「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

Bータコメータ（回転計）

タコメータの目盛りが赤色に切り替わる部分は、エンジン回転数の許容上限を示しています。

加速中、タコメータの指針が赤色の部分に差し掛かると、エンジンを保護するために燃料供給が遮断されます。

Fー積算距離計

マルチ・ファンクション・ディスプレイに積算距離計があります。

ディスプレイの左側には車の総走行距離（オドメータ）を、右側にはリセット後の区間走行距離（トリップ・メータ）を表示します。

トリップ・メータの最大表示値は9,999kmで、それを超えると0kmに戻ります。

トリップ・メータのリセット

▷ ボタン**K**を約1秒間押します。

Iー時計

時計**I**は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイで時刻を調整します。

▷ ボタン**C**を押します。
マルチ・ファンクション・ディスプレイ・メニューのSETTING＞CLOCK（設定＞時計）が自動的に選択されます。
▷ 時刻の調整については：
「時計の設定」（129ページ）を参照してください。

Jー燃料計

イグニッションをONにすると燃料の残量を表示します。

▷ 燃料の品質およびタンク容量については：「容量」（311ページ）を参照してください。
▷ 燃料の給油については：「燃料の給油」（239ページ）を参照してください。

上り坂や下り坂を走行するときなど、車体が傾くと燃料計の指針が少し動くことがあります。

燃料残量警告

イグニッションがONのとき、またはエンジンがかかっているときに燃料タンクの残量が約12リットルを下回るか、または燃料残量での可走距離が50kmを下回ると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにある警告灯が点灯します。

▷ すみやかに給油してください。

⚠注 意

燃料が不足したまま走行すると、エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ タンクが空になるまで運転を続けないでください。
▷ 警告灯が点灯したときは、曲がり道を高速で走行しないでください。

▷ エミッション・コントロール・システムについては：「エミッション・コントロール・システム」（238ページ）を参照してください。

L―スピードメータ（速度計）

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにはデジタル表示のスピードメータ**H**が組み込まれています。

なおマルチ・ファンクション・ディスプレイの右隣にはアナログ表示のスピードメータ**L**があります。

M―エンジン・ブースト圧計

この車のエンジンはブースト圧制御機能を装備しており、ブースト圧が変化します。ブースト圧は、速度、大気圧、燃料オクタン価などに応じて変化します。

知識

エンジン負荷が大きくなると、メータの指針がいっぱいに振り切れることがあります。

クーリング・システム

▷ クーリング・システムに何らかの異常がある場合は、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

水温計

指針が左側にあるときはエンジンが冷えています

▷ エンジンを高回転まで回したり、大きな負荷をかけないでください。

指針が中央付近にあるときはエンジンが通常の作動温度になっています

外気温度が高いとき、エンジンに大きな負荷をかけると指針が赤色の部分に差し掛かることがあります。

エンジン水温警告

エンジン水温が異常に高まると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ エンジンを停止して冷やします。

▷ ラジエータ、および車体前部の空気取り入れ口がゴミなどで塞がれていないか点検します。

▷ クーラント・レベルを点検し、必要に応じて補充します。

▷ 故障があるときは修理します。

▷ クーラント、またはクーラント・レベルの点検と補充については：

「クーラント・レベルの点検と補充」（230ページ）を参照してください。

知識

エンジンの異常な過熱を防ぐため、空気取り入れ口をフィルムやストーン・ガードなどで塞がないでください。

クーラント・レベル警告

クーラントが不足すると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ エンジンを停止して冷やします。

▷ クーラントを補充します。
クーラントが減った原因を正規ポルシェ販売店で点検してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ クーラント、またはクーラント・レベルの点検と補充については：「クーラント・レベルの点検と補充」（230ページ）を参照してください。
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

エンジンを損傷する恐れがあります。

▷ クーラント・レベルが適正でも、警告メッセージが表示されているときは運転を続けないでください。
▷ 故障を修理してください。

バッテリ／オルタネータ

車両エレクトリカル・システムの電源電圧が大きく低下したときは、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ 安全な場所に停車してエンジンを停止してください。
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

考えられる原因

— バッテリ充電系統の故障
— オルタネータ・ドライブ・ベルトの不具合

⚠ 警 告

事故を起こしたり、エンジンを損傷する恐れがあります。ドライブ・ベルトが切れるなどベルトの不具合が発生すると、パワー・ステアリングのパワー・アシスト機能が作動しないためステアリング操作に大きな力が必要です。またエンジンを冷却できなくなります。

▷ 運転を続けないでください。
▷ 故障を修理してください。
▷ ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ドライブ・ベルトが滑っている状態で雨天や水たまりの中を長時間走行すると、パワー・ステアリング装置が故障する恐れがあります。

▷ パワー・ステアリングのパワー・アシスト機能が作動しないと、ステアリング操作に大きな力が必要です。

エミッション・コントロール

警告灯

エミッション・コントロール・システムは、例えば排気ガスに含まれる環境汚染物質の増加や重大な損傷の原因になる不具合を、できるだけ早期に発見するシステムです。不具合を検出すると、メータ・パネルの警告灯が点灯または点滅します。さらに故障の状況をコントロール・ユニットのフォルト・メモリーに記憶します。

イグニッションをONにすると、警告灯のバルブ切れがないことを確認するために警告灯が点灯します。その後、エンジンを始動すると約4秒後に消灯します。

エンジンがかかっているときに、エミッション・コントロール・システムの部品に損傷を与えるような不具合（エンジンの失火など）が発生すると警告灯が点滅します。

▷ この場合はただちにアクセル・ペダルを戻し、エンジンの負荷を下げてください。
部品を損傷するような深刻な状況が解消されると警告灯が点滅から点灯に切り替わります。

エンジンやエミッション・コントロール・システム（触媒コンバータなど）の損傷を避けるため：

▷ ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 注 意

アクセル・ペダルから足を放しても警告灯が点滅し続ける場合は、エミッション・コントロール・システムがオーバーヒートしており損傷する恐れがあります。

▷ すみやかに安全な場所に停車してください。このとき乾燥した草や木の葉など、燃えやすい物が過熱したエキゾースト・システムの部品の近くにないことを確認してください。
▷ エンジンを停止してください。
▷ 故障を修理してください。

マルチ・ファンクション・ディスプレイの操作

マルチ・ファンクション・ディスプレイにはオンボードコンピュータの情報を表示できます。その他、メイン・メニューの操作で車の設定を変更してさまざまな機能を使用することができます。

⚠ 警 告

運転中は、マルチ・ファンクション・ディスプレイ、ラジオ、ナビゲーション・システム、電話またはその他の操作および設定を行わないでください。運転以外の操作に気をとられて事故を起こす恐れがあります。

▷ 周囲の交通状況などから安全性を確保できる場合に限り、運転中に操作してください。

▷ 複雑な操作や設定は、必ず停車中に行ってください。

この取扱説明書で機能のすべてを詳細に説明することはできません。
ここではメニューの構成および主な機能について例示し、操作方法をわかりやすく説明します。

知識
車の装備仕様により、マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示できる情報や機能が異なります。
また、いくつかのメニューは停車中のみ呼び出すことができます。

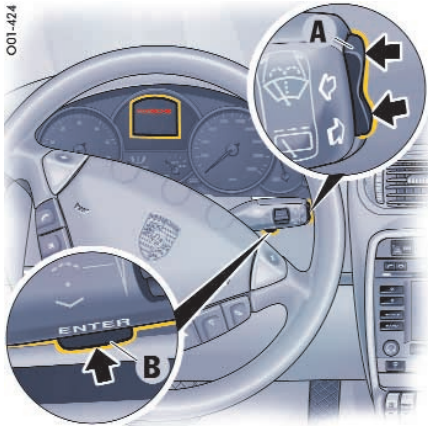
知識
マルチ・ファンクション・ディスプレイはイグニッションがONのときだけ使用できます。

知識
以下の操作で、すべての設定を初期設定に戻すことができます。
MAIN MENU＞SETTINGS＞FACTORY SET（メイン・メニュー＞設定＞初期設定）

知識
メニュー・リストの上下に矢印が表示されているときは、メニュー項目がさらに存在することを示します。

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上または下を押してリストをスクロールさせます。

COMFORT（コンフォート）メニューでは、表示されているリストが最後になると自動的にスクロールします。



基本操作
マルチ・ファンクション・ディスプレイは、ワイパー・レバーにあるロッカー・スイッチ**A**とENTERボタン**B**で操作します。

選択と設定
ロッカー・スイッチ**A**を使用して選択項目（バーの強調表示で選択されているメニュー）を上下に動かすと、メニュー項目を選ぶ、表示を切り替える、設定するなどの操作ができます。

選択した項目の決定
選択した項目を決定するときはENTERボタン**B**を押します。選択した項目の機能が実行されます。

メイン・メニューを開く

1. イグニッションをONにします。
2. MAIN MENU（メイン・メニュー）を選択します。
3. 選択項目を決定します。メイン・メニューが表示されます。

メイン・メニューには以下の機能があります：

▷ PHONE（電話）＊
SPEED LIMIT（速度制限）
VEHICLE INFO（車両情報）
TYRE PRESS（タイヤ空気圧）＊
SETTINGS（設定）

操作の例： 平均燃費を表示する

ワイパー・レバーにあるロッカー・スイッチで項目を選択し、ENTERボタンで決定します。

1. MAIN MENU＞VEHICLE INFO（メイン・メニュー＞車両情報）選択および決定します。
2. ΦCONSUM（燃費）を選択します。
3. 選択項目を決定すると、平均燃費が表示されます。

基本メニューに戻る

4. BACK（戻る）を選択します。
5. 選択項目を決定します。VEHICLE INFO（車両情報）メニューが表示されます。
6. BACK（戻る）を選択します。
7. 選択項目を決定します。MAIN MENU（メイン・メニュー）が表示されます。
8. BACK（戻る）を選択します。
9. 選択項目を決定します。基本画面が表示されます。

知識

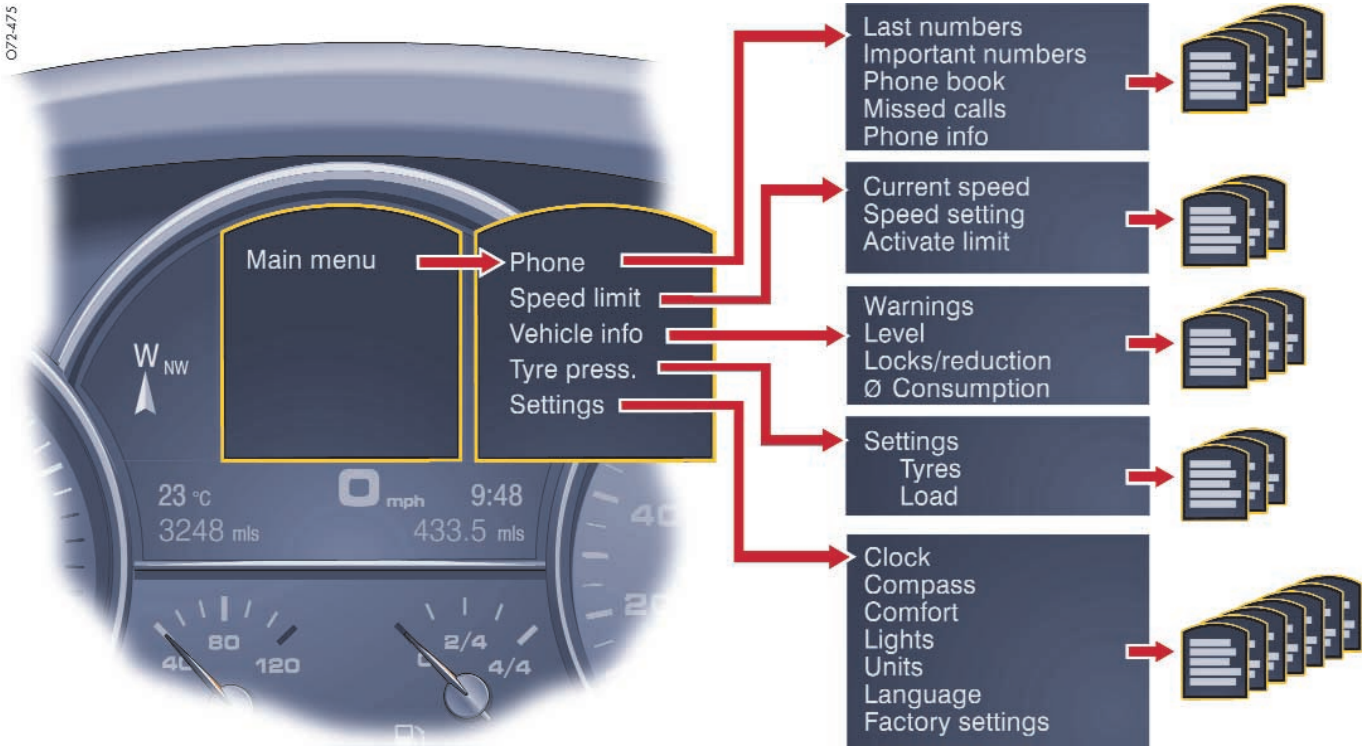
燃料残量による可走距離や平均燃費の計測値は、イグニッションをOFFにしてもリセットされません。このため長期にわたって計測を続けることができます。
なお車のバッテリーの接続を切り離すと、これらの記憶が消去されます。

オンボードコンピュータ機能についてはPCMでも表示されます。＊

▷ 別冊のPCM取扱説明書を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

マルチ・ファンクション・ディスプレイのメニュー概要



平均速度の表示／リセット

平均速度の表示

1. イグニッションをONにします。
2. ΦSPEED（速度）を選択します。平均速度が表示されます。表示される値は、最後にリセットしてからの積算値です。

平均速度のリセット

3. ΦSPEED（速度）を選択します。平均速度が表示されます。
4. ENTERボタンを1秒以上押し続けます。

燃料残量による可走距離の表示

1. イグニッションをONにします。
2. REMAINING RANGE（残量での可走距離）を選択します。

走行中は、燃料タンクの残量、現在の燃費、平均燃費をもとに可走距離が再計算され、表示値が自動更新されます。

タイヤ空気圧の表示

この機能はタイヤ空気圧モニタリング・システム装備車で利用できます。

1. イグニッションをONにします。
2. TYRE PRESS（タイヤ空気圧）を選択します。

オンボードコンピュータの「タイヤ空気圧」画面には、実測した現在のタイヤ空気圧を表示します。この表示値は、4本のタイヤ・バルブに空気圧ゲージを接続して測定したときの値と同一で、走行中は常に変化します。

- タイヤ内の温度が上がると、空気圧が高くなります（高速走行中など）。
- タイヤ内の温度が下がると、空気圧が低くなります（山岳地帯のように気温が低い地域を走行したときなど）。

したがって、この表示値からはタイヤ空気圧の偏差（異常）を判別できません。

▷ 指定タイヤ空気圧との偏差を表示するときは：
MAIN MENU（メイン・メニュー）項目の中からTYRE PRESS（タイヤ空気圧）を選択してください。

コンパスの表示

この機能はコンパスまたはPCM装備車で利用できます。

1. イグニッションをONにします。
2. COMPASS（コンパス）を選択します。

ナビゲーション情報の表示＊

マルチ・ファンクション・ディスプレイにもナビゲーション情報を表示できます。この機能はナビゲーション（PCM）装備車で利用できます。

1. イグニッションをONにします。
2. NAVIGATION（ナビゲーション）を選択します。
   ナビゲーションの矢印が表示されます。

＊日本仕様に設定はありません。

電話の操作＊

知識

マルチ・ファンクション・ディスプレイの電話機能は、PCMおよびステアリング・ホイール・マルチ・ファンクション・ボタンと連動しています。

電話機能を操作するためには、PCMのカード・リーダーにSIMカードを挿入しなければなりません。

ネットワーク通信機能が遮断されたとき、PINを入力していないとき、SIMカードを挿入していないとき、または電話の電源がOFFになっているときは、該当する情報が表示されます。

1. ENTERボタンを押します。
   ディスプレイの表示が元に戻ります。

知識

マルチ・ファンクション・ディスプレイには、かかってきた電話の相手先番号を表示します。電話帳に相手先の名称を登録していれば、その名称を表示します。

知識

ロッカー・スイッチを1秒以上押し続けると、相手先の頭文字を表示します。この機能を利用すれば、さらに検索性が高まります。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

電話を受ける、通話を拒否する、通話を終了する

マルチ・ファンクション・ディスプレイに、かかってきた電話の相手先が表示されます。（PHONE INFO（電話情報）が作動していなければなりません。）

画面の表示

1. ACCEPT（電話を受ける）またはREFUSE（通話を拒否する）を選択します。
2. 選択項目を決定します。
   通話を開始すると、END（通話を終了する）メニューが表示されます。

通話を終了する

3. END（通話を終了する）を選択します。
4. 選択項目を決定します。

電話がかかってきたときの相手先表示

マルチ・ファンクション・ディスプレイには、かかってきた電話の相手先を自動表示することができます。この機能はPHONE INFO（電話情報）メニューでON/OFFができます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞PHONE（電話）
   ＞PHONE INFO（電話情報）
   選択、決定します。

2. ONまたはOFFを選択します。

3. 選択項目を決定します。
   これで相手先の表示機能が決定されます。

最後の通話先表示

LAST NUMBERS（最後の通話先）メニューでは、現在挿入しているSIMカードに該当する相手先で、一番新しい通話先を呼び出すことができます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞PHONE（電話）
   ＞LAST NUMBERS（最後の通話先）
   選択、決定します。

2. リストから選択します。
3. 選択項目を決定します。

＊日本仕様に設定はありません。

重要な番号の表示

IMPORTANT NOS（重要な番号）メニューでは、SIMカードに重要な番号として登録している相手先を表示します。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞PHONE（電話）
   ＞IMPORTANT NOS（重要な番号）
   選択、決定します。

2. リストから選択します。
3. 選択項目を決定します。

電話帳の表示

PHONE BOOK（電話帳）メニューでは、SIMカードに登録している電話帳を呼び出すことができます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞PHONE（電話）
   ＞PHONE BOOK（電話帳）
   選択、決定します。

2. リストから選択します。

3. 選択項目を決定します。

不在通知

MISSED CALLS（不在通知）メニューでは、通話を拒否した相手先を表示します。これらの電話番号はSIMカードに記憶しています。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞PHONE（電話）
   ＞MISSED CALLS（不在通知）
   選択、決定します。

2. リストから選択します。
3. 選択項目を決定します。

制限速度の設定

走行速度を監視するための制限速度を登録することができます。制限速度を超過すると、警告音が鳴るとともに、マルチ・ファンクション・ディスプレイに「LIMIT EXCEEDED（制限超過）」のメッセージが表示されます。

知識

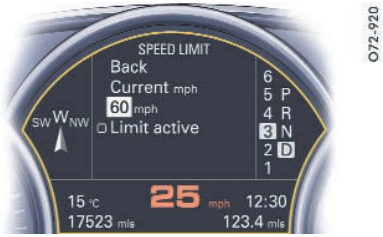
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

現在の速度を制限速度に設定する

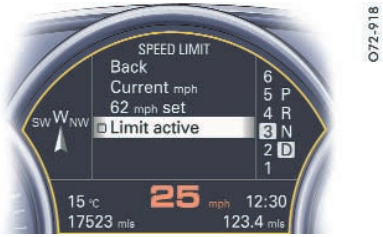
SPEED LIMIT（速度制限）メニューでは、現在の走行速度を制限速度として設定できます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SPEED LIMIT（速度制限）
   選択、決定します。

2. CURRENT MPH（現在の速度）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   LIMIT ACTIVE（制限作動）が自動的に作動し、設定した速度を表示します。



O72-920



O72-918

O72-925

例：車幅灯（サイド・ランプ）チェック警告メッセージ

任意の速度を制限速度に設定する

SPEED LIMIT（速度制限）メニューでは、任意の速度を制限速度として設定できます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）>SPEED LIMIT（速度制限）選択、決定します。
2. MPH SET（速度設定）を選択します。
3. 任意の速度を設定します：
   - 短押しします：1マイル単位で速度が高まります。
   - 2秒以上長押しします：10マイル単位で速度が高まります。
4. 選択項目を決定します。
   LIMIT ACTIVE（制限作動）が自動的に作動します。

速度制限の作動／停止

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）>SPEED LIMIT（速度制限）選択、決定します。
2. LIMIT ACTIVE（制限作動）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   - ☑ LIMIT ACTIVE（制限作動）が作動します。
   - ☐ LIMIT ACTIVE（制限作動）が停止します。
4. BACK（戻る）を選択します。
5. 選択項目を決定します。
   サブ・メニューのSPEED LIMIT（速度制限）が表示されます。

警告メッセージの表示

WARNINGS（警告）メニューでは、走行安全性に関係する現在のすべての警告や情報を表示できます。

⚠ 注 意

警告メッセージは故障の可能性があることを示しています。

▷ ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
＞VEHICLE INFO（車両情報）
選択、決定します。

2. WARNINGS（警告）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
車の不具合が発生していないときはNO WARNING（警告なし）を表示します。現在発生している不具合があれば、その警告メッセージを表示します。
4. 繰り返し押すと、メッセージを順次表示します。
5. 選択項目を決定します。
VEHICLE INFO（車両情報）メニューが表示されます。

知識

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

レベリング・システム（車高）のステータス表示

レベリング・システム装備車では、LEVEL（車高）メニューで現在の地上高を表示します。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
＞VEHICLE INFO（車両情報）
選択、決定します。

2. LEVEL（車高）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
現在の地上高が表示されます。
4. 選択項目を決定します。
VEHICLE INFO（車両情報）メニューが表示されます。

知識

車高は、センター・コンソールのギヤ・シフト・レバーの手前にあるロッカー・スイッチで切り替えます。

▷ レベリング・システムおよび車高調整機能については：
「レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション」（170ページ）を参照してください。

ロック／リダクションのステータス表示

現在選択している走行プログラム（ロー・レンジ／ハイ・レンジ）およびディファレンシャル・ロックの状態を表示します。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
＞VEHICLE INFO（車両情報）
選択、決定します。

2. LOCKS/REDUCT（ロック／リダクション）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
以下の項目について、現在の設定が表示されます：
— センター・ディファレンシャル・ロックのON/OFF
— リダクションのON/OFF
— アクスル・ディファレンシャル・ロックのON/OFF
4. 選択項目を決定します。
VEHICLE INFO（車両情報）メニューが表示されます。

知識

走行プログラムは、センター・コンソールのギヤ・シフト・レバーの手前にあるロッカー・スイッチで切り替えます。

▷ オンロードおよびオフロード走行プログラム、ディファレンシャル・ロック／リダクションについては：
「オンロードおよびオフロード走行プログラム」（157ページ）を参照してください。

平均燃費の表示

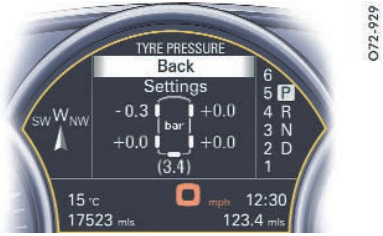
1. MAIN MENU（メイン・メニュー）＞VEHICLE INFO（車両情報）選択、決定します。
2. ΦCONSUM（燃費）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   平均燃費が表示されます。表示される値は、最後にリセットしてからの積算値です。

平均燃費のリセット

4. RESET（リセット）を選択します。
5. ENTERボタンを1秒以上押し続けます。
   表示値が“- -.-”に切り替わります。

知識

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。



O72-929

タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定

⚠ セーフティ・ノート

タイヤ空気圧モニタリング・システムはさまざまな利点がありますが、マルチ・ファンクション・ディスプレイを使用したシステムの設定、および実際のタイヤ空気圧の点検調整は運転者の責務です。タイヤ空気圧が不足すると車の走行安全性が低下するだけでなく、タイヤやホイールを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤのパンク警告が表示されたときは、適切な場所に停車してタイヤの損傷具合を点検してください。必要に応じてパンク修理剤（シーラント）で応急処置を行うか、またはスペア・タイヤに交換してください。
▷ いかなる状況でも、空気が抜けたタイヤを装着したままで走行しないでください。
▷ パンク修理剤は緊急の場合の応急措置として、最寄りの修理工場までの短距離走行だけに使用してください。また**80km/h**以下で走行してください。
▷ 破損したタイヤは、ただちにポルシェ正規販売店で交換してください。**いかなる場合もタイヤを修理しないでください。**
▷ 空気圧を調整しても短時間で空気圧が低下するタイヤは使用しないでください。ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。
▷ ホイール・トランスミッターが故障したときなど、タイヤ空気圧モニタリング・システムが正常に機能しないときは、ただちにポルシェ正規販売店で修理してください。
タイヤ空気圧モニタリング・システムが正常に機能していないときは、タイヤ空気圧を監視できません。
マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。
▷ タイヤ空気圧モニタリング・システムは、タイヤが損傷する恐れがある空気圧不足や、異物の噛み込みなどで空気圧が徐々に低下したことを検出して警告を促します。一方で、突発的な外的要因によるタイヤの破裂など、急激な空気圧の低下は警告できません。
▷ タイヤ空気圧のメッセージが表示されたときは、すみやかに空気圧を調整してください。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイへの入力情報に誤りがあると、警告とメッセージを正しく表示できなくなります。タイヤを交換したとき、スペア・タイヤを使用するとき、車の積載荷重が変化したときは、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューの設定を更新してください。

▷ タイヤ空気圧を調整するときは、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）メニューに表示している空気圧の差異、タイヤ空気圧メッセージまたは警告だけを使用してください。

▷ 正常なタイヤでも長期にわたる使用で徐々に空気圧が低下し、マルチ・ファンクション・ディスプレイにタイヤ空気圧警告が表示されることがあります。警告が表示されたらタイヤ空気圧を調整してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムの機能

タイヤ空気圧モニタリング・システムは4輪すべてのタイヤ空気圧とタイヤの温度を常時監視し、空気圧が異常に低下したときはドライバーに警告します。

タイヤ空気圧モニタリング・システムの表示と設定は、マルチ・ファンクション・ディスプレイのサブ・メニューにあるTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）で実行します。

ただし実際の空気圧は、タイヤ本体で調整しなければなりません。

サブ・メニューのTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）では、指定空気圧と実際の空気圧の差異を表示できます。

例：

ディスプレイに「−0.3bar」と表示されたときは、実際の空気圧が指定空気圧より0.3bar低下しています。この差異を補正するように空気圧を調整してください。

指定空気圧は、固定の標準値としてあらかじめ設定されており、変更できません。

タイヤ空気圧モニタリング・システムを正しく機能させるために、以下の項目を設定する必要があります：

− **タイヤ**
  車に装着しているタイヤの種類とサイズを選択します。
− **荷重**
  荷重の種類を選択します。

知識

停車中のみ調整が可能です。

▷ タイヤとホイールについては：「タイヤとホイール」（251ページ）を参照してください。

O72-933

O92-985

タイヤの種類とサイズの設定

タイヤやホイールを交換したときは、マルチ・ファンクション・ディスプレイの設定を更新しなければなりません。
新しく装着したタイヤやホイールの種類およびサイズが、これまで装着していたものと同一であったとしても、改めて選択し直してください。

知識

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）
   ＞SETTINGS（設定）
   選択、決定します。
2. TYRES（タイヤ）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   TYRE TYPE（タイヤの種類）のリストが表示されます。
4. 新しく装着したタイヤに応じて、適切な種類（サマー・タイヤなど）を選択します。
   選択したタイヤの種類に対応するサイズのリストが表示されます。例えばサマー・タイヤを選択すると、この車に装着可能なサマー・タイヤのサイズ一覧が表示されます。
5. 新しく装着したタイヤのサイズ（19インチなど）を選択します。
6. 選択項目を決定します。
   新しい設定が表示されます。

車を発進させると、システムが各ホイールおよびホイール位置を認識する学習を開始します。この間、スピードメータ内のタイヤ空気圧警告灯が点灯します。また、学習が完了するまでは現在のタイヤ空気圧情報を表示できません。

知識

タイヤの種類とサイズは、タイヤの側面（サイド・ウォール）に表示されています。

▷ この表示の詳細については：「ラジアル・タイヤの見方」（255ページ）を参照してください。

知識

ポルシェ社が承認しているにもかかわらず、マルチ・ファンクション・ディスプレイに登録されていないサイズのタイヤを装着するときは、装着の前にマルチ・ファンクション・ディスプレイの情報を追加してください。

▷ 詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 警 告

速度を超過すると事故を起こす恐れがあります。

▷ タイヤの許容最高速度を常に遵守してください。

▷ 装着しているタイヤの許容最高速度が、この車の最高速度よりも低い場合は、タイヤの許容最高速度を示すステッカーをドライバーの視野に貼り付けてください。
各国の法律を遵守してください。

タイヤに表示している速度記号は、そのタイヤの許容最高速度を示しています。

▷ タイヤ側面（サイドウォール）の速度記号については：
「ラジアル・タイヤの見方」（255ページ）を参照してください。

O72-943

車の荷重とタイヤ空気圧の設定

タイヤ空気圧は車の荷重に応じて調整する必要があります。
以下の2種類の荷重を設定できます：

— PARTIAL LOAD（部分積載荷重）
3名乗車以下、および21kgの積載荷重まで

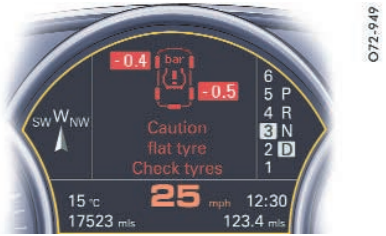
— FULL LOAD（全積載荷重）
4名乗車以上、および22kgの積載荷重を超えるとき

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
>TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）
>SETTINGS（設定）
選択、決定します。

2. LOAD（荷重）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
LOAD（荷重）メニューが表示されます。荷重に応じて適切なメニュー（FULL LOAD（全積載荷重）など）を選択します。
4. 選択項目を決定します。
決定した内容が表示されます。

選択した荷重に適切なタイヤ空気圧と実際の空気圧の差は、MAIN MENU（メイン・メニュー）>TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）>SETTINGS（設定）のサブ・メニューで確認できます。

▷ 表示された情報をもとに空気圧を調整します。

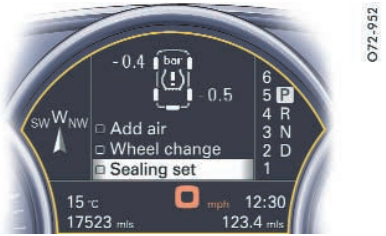


O72-949

警告「FLAT TYRE（タイヤのパンク）」

この警告メッセージを表示するための許容限界値は、速度に応じて変化します。
速度が160km/h以下のときは、0.5bar以上の空気圧の低下で警告メッセージを表示します。
速度が160km/hを超えると、0.4bar以上の空気圧の低下で警告メッセージを表示します。
この警告メッセージでは、どの位置に装着しているタイヤの空気圧が低下しているかを特定でき、さらに適正な空気圧との差を知ることができます。
また、警告メッセージに加えてスピードメータ内のタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

▷ 警告メッセージは走行中に表示することができます。
ワイパー・レバーのENTERボタンを押してください。スピードメータ内のタイヤ空気圧警告灯が点灯した状態を維持します。
イグニッションを1度OFFにして再度ONにしたときだけ、測定表示SELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）が現れます。



O72-952

ディスプレイの表示：SELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）

1. 適切な場所に停車します。
2. 表示されているタイヤの損傷を点検します。
3. 必要に応じてタイヤ空気圧を調整するか、またはタイヤを交換します。
－ ADD AIR（空気を補充）
（**例：** ディスプレイに「－0.4bar」と表示されたときは、実際の空気圧が指定空気圧より0.4bar低下しています。この差異を補正するように空気圧を調整してください。）
空気の補充については：
「タイヤ空気の充填」（269ページ）を参照してください。
または、
－ WHEEL CHANGE（スペア・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤに交換）
車のジャッキ・アップについては：
「ジャッキ・アップ」（262ページ）を参照してください。
タイヤ交換については：
「タイヤ交換」（265ページ）を参照してください。
または、
－ SEALING SET（パンク修理剤でシーリング）
パンク修理剤の取り扱いと使用方法については：
「パンク修理剤」（260ページ）を参照してください。
4. 再度イグニッションをONにします。
マルチ・ファンクション・ディスプレイには、「FLAT TYRE（タイヤのパンク）」の警告メッセージがはじめに表示されます。それから数秒後に「SELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）」のメッセージに切り替わります。
5. ロッカー・スイッチを操作して実行した作業を選択します。
－ ADD AIR（空気を補充）、または
－ WHEEL CHANGE（スペア・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤに交換）＞SPARE WHEEL（スペア・タイヤ）＞スペア・タイヤのタイプ、または
－ SEALING SET（パンク修理剤でシーリング）
6. ENTERボタンを押します。

知識

スペア・タイヤおよびコラプシブル・スペア・タイヤにはホイール・トランスミッターを装備していません。このためタイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの空気圧を監視できません。

コラプシブル・スペア・タイヤまたはパンク修理剤を使用したときは、速度が80km/hを超えるとマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

知識

選択項目を決定しなかったとき、または作業を実行しないで項目を選択して決定したときは、警告やメッセージの表示が正しく実行されなくなることがあります。

選択した項目に応じて、イグニッションをONにしたとき、発進したとき、または走行中に該当するメッセージが表示されます。

マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージについては：

「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

O72-946

警告「TYRE PRESSURE TOO LOW（タイヤ空気圧の異常低下）」

タイヤ空気圧が0.3bar以上低下すると、この警告メッセージが表示されます。

この警告メッセージでは、どの位置に装着しているタイヤの空気圧が低下しているかを特定でき、さらに適正な空気圧との差を知ることができます。

このメッセージは停車中のみ表示されます。またイグニッションをOFFにしたときにはじめて表示され、以後はタイヤ空気圧を適正値に調整するまでイグニッションをONにする度に表示されます。

メッセージはマルチ・ファンクション・ディスプレイに10秒間表示されます。ただしENTERボタンを押すとただちに消すことができます。

▷ すみやかにタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

例： ディスプレイに「−0.3bar」と表示されたときは、実際の空気圧が指定空気圧より0.3bar低下しています。この差異を補正するように空気圧を調整してください。

スペア・タイヤおよびコラプシブル・スペア・タイヤにはホイール・トランスミッターを装備していません。このためタイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの空気圧を監視できません。

タイヤ交換（警告メッセージが表示されていないとき）

ホイールまたはタイヤを交換したときは、マルチ・ファンクション・ディスプレイの設定を必ず更新してください。

「タイヤの種類とサイズの設定」（118ページ）を参照してください。

スペア・タイヤ／パンク修理剤の設定（警告メッセージが表示されていないとき）

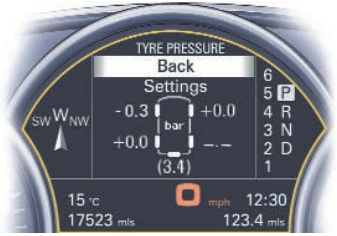
マルチ・ファンクション・ディスプレイに「FLAT TYRE（タイヤのパンク）」が表示されていないときに、スペア・タイヤまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着する、またはパンク修理剤を使用した場合は、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューで設定を必ず更新してください。

スペア・タイヤの設定

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）
   >SETTINGS（設定）
   >TYRES（タイヤ）
   >SPARE WHEEL（スペア・タイヤ）
   選択、決定します。

2. SPARE WHEEL（スペア・タイヤ）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ディスプレイの表示が自動的にTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューに戻り、必要なタイヤ空気圧を確認することができます。
   BACK（戻る）を選択します。

4. 選択項目を決定します。
   基本画面が表示されます。



O72-983

スペア・タイヤにはホイール・トランスミッターを装備していません。このためタイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの空気圧を監視できません。ENTERボタンを押すと、スピードメータ内のタイヤ空気圧警告灯が点灯します。TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューでは、スペア・タイヤを装着している位置に“_._”が表示されます。
またイグニッションをONにする度にSPARE WHEEL/SEALING SET OPERATION?（スペア・タイヤ／パンク修理剤を使用していますか？）のメッセージが表示されます。スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用については：
「スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用上の知識」（123ページ）を参照してください。

知識

▷ スペア・タイヤは緊急時の応急措置として短距離走行だけに使用してください。スペア・タイヤの取り扱いと取り付け／取り外しについては：
「スペア・タイヤ」（270ページ）を参照してください。

コラプシブル・スペア・タイヤの設定

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）
   >SETTINGS（設定）
   >TYRES（タイヤ）
   >SPARE WHEEL（スペア・タイヤ）
   選択、決定します。

2. COLLAP.WHEEL（コラプシブル・スペア・タイヤ）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   コラプシブル・スペア・タイヤの適正空気圧と制限速度が表示されます。

コラプシブル・スペア・タイヤにはホイール・トランスミッターを装備していません。このためタイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの空気圧を監視できません。ENTERボタンを押すと、スピードメータ内のタイヤ空気圧警告灯が点灯します。TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューでは、コラプシブル・スペア・タイヤを装着している位置に“_._”が表示されます。
また速度が80km/hを超えると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。
さらに、イグニッションをONにする度にSPARE WHEEL/SEALING SET OPERATION?（スペア・タイヤ／パンク修理剤を使用していますか？）のメッセージが表示されます。
スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用については：
「スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用上の知識」（123ページ）を参照してください。

知識

コラプシブル・スペア・タイヤは緊急時の応急措置として短距離走行だけに使用してください。

コラプシブル・スペア・タイヤの取り扱いについては：

「コラプシブル・スペア・タイヤ」（268ページ）を参照してください。

パンク修理剤の設定

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞TYRES（タイヤ）
   ＞SPARE WHEEL
   （スペア・タイヤ）
   選択、決定します。

2. SEALING SET（パンク修理剤）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ディスプレイの表示が自動的にTYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューに戻ります。

▷ ディスプレイに表示されている空気圧の差に従って、タイヤ空気圧を調整してください。

速度が80km/hを超えると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

またイグニッションをONにする度にSPARE WHEEL/SEALING SET OPERATION?（スペア・タイヤ／パンク修理剤を使用していますか？）のメッセージが表示されます。

スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用については：

「スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用上の知識」（123ページ）を参照してください。

知識

パンク修理剤は緊急時の応急措置として短距離走行だけに使用してください。

パンク修理剤の取り扱いと使用については：

「パンク修理剤」（260ページ）を参照してください。

スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用上の知識

スペア・タイヤの種類（スペア・タイヤ、コラプシブル・スペア・タイヤ、またはパンク修理剤）を設定していると、イグニッションをONにする度にSPARE WHEEL/SEALING SET OPERATION?（スペア・タイヤ／パンク修理剤を使用していますか？）のメッセージが約10秒間表示されます。

1. YES（はい）またはNO（いいえ）を選択します：
   ―スペア・タイヤ、コラプシブル・スペア・タイヤ、またはパンク修理剤を使用しているときはYES（はい）を選びます。
   ―スペア・タイヤ、コラプシブル・スペア・タイヤ、またはパンク修理剤を使用していないときはNO（いいえ）を選びます。
2. 選択項目を決定します。
   これで選択した項目が設定されます。NO（いいえ）を選択した場合は、現在の設定が表示されます。

O72-942

▷ 装着しているタイヤの種類、サイズを設定します。
「タイヤの種類とサイズの設定」（118ページ）を参照してください。

知識

このとき何も選択しないと、SPARE WHEEL/SEALING SET OPERATION?（スペア・タイヤ／パンク修理剤を使用していますか？）のメッセージが約10秒後に自動的に消え、元の選択であるYES（はい）が維持されます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムの故障

タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障したときはタイヤの空気圧を監視できません。なお一時的にモニタリングできる場合と、完全にシステムが停止する場合があります。
一時的にモニタリングできる場合は、メータ・パネルの警告灯が点灯します。マルチ・ファンクション・ディスプレイにはメッセージが何も表示されません。
完全にシステムが停止した場合は、メータ・パネルの警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。
すべての故障が解消すると、警告灯が消灯します。

以下のときは、システムが一時的にモニタリングできる状態になります：

- 最大2個のホイール・トランスミッターから正常な信号を受信できない、または故障したとき（例： ホイール・トランスミッターを装備していないホイール（スペア・タイヤ、コラプシブル・スペア・タイヤ）を装着したとき）

一時的にモニタリングできる場合、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューでは、ホイール・トランスミッターに異常がある位置に“_._”が表示されます。

以下のときは、完全にシステムが停止します：

- タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障したとき
- 3個以上のホイール・トランスミッターから正常な信号を受信できない、または故障したとき
- タイヤを交換した直後
- 異常な数量のホイール・トランスミッターを検出したとき
- 電磁波の強い影響を受けたとき（例：ワイヤレス・ヘッドホンなど）
- タイヤ内の温度が異常に高いとき

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージについては：

「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

タイヤ空気圧の知識

温度の上昇に伴って空気圧が高まります
物理的な原理により、温度変化に応じて空気圧が変化します。温度が10℃変化すると、タイヤ空気圧が約0.1bar変化します。
タイヤには指定空気圧があります
タイヤ空気圧は、あらかじめ指定している空気圧に調整しなければなりません。
冷間時（20℃のとき）のタイヤ空気圧は、以下の場所で確認ができます：

- TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニュー：

  タイヤ空気圧モニタリング・システムに指定空気圧が登録されていない場合、各アクスルの指定空気圧が表示されます。
- 左側フロント・ドア開口部
- 本書のテクニカル・データ：「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システムに指定空気圧が登録されている場合、TYRE PRESSURE（タイヤ空気圧）のサブ・メニューには、各タイヤの温度に応じて個別に指定空気圧と実際の空気圧の差が表示されます。したがってタイヤが温まっているときでも、ディスプレイの表示に基づいてタイヤ空気圧を調整できます。
タイヤ空気圧が不足していると、走行中にタイヤがオーバーヒートする原因になります。たとえ目に見えない小さな損傷でも、それが原因でタイヤが損傷する恐れがあり、空気圧の調整だけでは正常な状態に戻せなくなります。

▷ このような理由から、タイヤ空気圧を常に適正に維持してください。

▷ タイヤおよびホイールのメンテナンスとお手入れについては：

「タイヤとホイール」（251ページ）を参照してください。

室内モニタ・システムおよび傾斜センサ＊の停止

ALARM（アラーム）のサブ・メニューでは、室内モニタ・システムおよび傾斜センサ（けん引による盗難の防止機能）を一時的に停止できます。
ドアをロックし直すと、室内モニタ・システムと傾斜センサが再作動します。
▷ この機能については：
「室内モニタ・システムおよび傾斜センサの手動解除」（223ページ）を参照してください。

知識

▷ コンフォート設定は停車中のみ実行できます。
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

室内モニタ・システムのON/OFF

ドアを閉めた状態で車内の動きを検出すると、警報が鳴ります。これは、例えばウィンドウを割って車内に侵入したときの盗難防止機能です。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
 ＞SETTINGS（設定）
 ＞COMFORT（コンフォート）
 ＞ALARM（アラーム）
 選択、決定します。

2. INTERIOR（インテリア）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
☑ 室内モニタ・システムが作動
☐ 室内モニタ・システムが停止

傾斜センサのON/OFF＊

ドアをロックした状態で車の異常な傾きを検出すると、警報が鳴ります。これは、例えばけん引による車の盗難を防止する機能です。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
 ＞SETTINGS（設定）
 ＞COMFORT（コンフォート）
 ＞ALARM（アラーム）
 選択、決定します。

2. ANGLE（角度）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
☑ 傾斜センサが作動
☐ 傾斜センサが停止

＊日本仕様に設定はありません。

O72-970

ドア・ミラーの同期調節

知識

コンフォート設定は停車中のみ実行できます。
この機能を作動させると、左右ドア・ミラーの動きが同期して同じ方向に動きます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
 ＞SETTINGS（設定）
 ＞COMFORT（コンフォート）
 ＞MIRRORS（ミラー）
 選択、決定します。

2. SYNCH（同期）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
☑ 同期調節機能が作動
☐ 同期調節機能が停止

車の開閉およびロックの設定変更

知識

コンフォート設定は停車中のみ実行できます。

この機能では、ドアおよびリア・リッドのさまざまなロック／ロック解除パターン、そしてロック／ロック解除時のアンサー・バック表示を設定できます。また設定は、そのとき使用しているリモート・コントロールの設定として記憶できます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >SETTINGS（設定）
   >COMFORT（コンフォート）
   >DOOR OPENING（ドア開）
   選択、決定します。

2. お好みの機能を設定します。
3. イグニッションをOFFにします。
4. 運転席ドアを閉めます。
5. キーの🔒ボタンを押します。
   これで設定が完了し、キーの設定として記憶されました。

知識

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

ドア・ロック解除の設定

ドア・ロックの解除が各ドアで個別に設定できます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >SETTINGS（設定）
   >COMFORT（コンフォート）
   >DOOR OPENING（ドア開）
   >DOORS（ドア）
   選択、決定します。

2. 以下の3種類から1つを選択します：
   – **SINGLE DOOR（運転席ドア）**
   運転席ドア・ロックだけが解除されます。
   ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車では、車に近づいた側のフロント・ドア・ロックだけが解除されます。
   – **VEH. SIDE（運転席側のフロント／リア・ドア）**
   運転席側のフロントおよびリア・ドア・ロックが解除されます。
   ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車では、車に近づいた側のフロントおよびリア・ドア・ロックが解除されます。
   – **ALL（すべてのドア）**
   すべてのドア・ロックが解除されます。
3. 選択項目を決定します。

知識

リモート・コントロールのロック解除🔓ボタンを1回押し、それから2秒以内に再度押したときは、上記の設定に関係なくすべてのドア・ロックが解除されます。

O72-969

アンサー・バックの設定

この機能を作動させると、ドアのロック／ロック解除動作に合わせてハザード・ランプが点滅します。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >SETTINGS（設定）
   >COMFORT（コンフォート）
   >DOOR OPENING（ドア開）
   >SIGNAL（アンサー・バック）
   選択、決定します。

2. TURN SIGNALS（方向指示灯）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ☑ アンサー・バックが作動
   ☐ アンサー・バックが停止

リア・リッド・ロックの設定

この機能を作動させると、車の後方からのアクセス（リア・リッド、リア・ウィンドウ、スペア・タイヤ・ブラケット＊）がセントラル・ロッキング・システムに組み込まれます。

この機能は、停車中でロックが解除されているときに使用できます。

いったん速度が6km/hを超えると、次に停車してドアを開けるまでリリース機能がロックされます。

この機能を停止したときは、リモート・コントロールの ボタンを使用したときだけ車の後方からアクセスができます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞COMFORT（コンフォート）
   ＞DOOR OPENING（ドア開）選択、決定します。
2. TAILGATE（リア・リッド）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ☑ リア・リッド機能が作動
   ☐ リア・リッド機能が停止

＊日本仕様に設定はありません。

知識

オートマチック・リア・リッド装備車：
イグニッションONで停車中は、マルチ・ファンクション・ディスプレイの設定に関係なく、運転席ドアのボタンを引くとリア・リッドを開けることができます。
「オートマチック・リア・リッド」（14ページ）を参照してください。

AUTO LOCK（オート・ロック）およびAUTO UNLOCK（オート・ロック解除）の設定

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞COMFORT（コンフォート）
   ＞DOOR OPENING（ドア開）選択、決定します。
2. AUTO LOCK（オート・ロック）またはAUTO UNLOCK（オート・ロック解除）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ☑ 選択項目の機能が作動
   ☐ 選択項目の機能が停止

オート・ロックおよびオート・ロック解除の種類

オート・ロック機能（AUTO LOCK）およびオート・ロック解除機能（AUTO UNLOCK）には4種類があります。

オート・ロック機能でドアをロックした場合、ドア・ロック解除機能の設定に関係なく、インナー・ドア・ハンドルを2回引くといつでもドアが開きます。

オプション1：
オート・ロックOFF、オート・ロック解除OFF
ドアが自動的にロック／ロック解除されません。
オプション2：
オート・ロックON、オート・ロック解除OFF
速度が約6km/hを超えると、ドアが自動的にロックされます。

オプション3：
オート・ロックON、オート・ロック解除ON
速度が約6km/hを超えると、ドアが自動的にロックされます。
ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車は、イグニッション・キーを抜き取るとドアが自動的にロック解除されます。
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、イグニッションを2回OFFにするとドアがロック解除されます。

オプション4：
オート・ロックOFF、オート・ロック解除ON
ドアが自動的にロックされません。

セントラル・ロッキング・ボタンでドアをロックしたときは：

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車は、イグニッション・キーを抜き取るとドアが自動的にロック解除されます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、イグニッションを2回OFFにするとドアがロック解除されます。

O92-987

デイタイム・ドライビング・ランプの点灯／消灯

知識
LIGHTS（ランプ）メニューの機能は、停車中のみ設定することができます。

DAYTIME DRIVING LIGHTS（デイタイム・ドライビング・ランプ）機能を作動させると、イグニッションがONのときにフロントおよびリアの車幅灯とヘッドランプ・ロー・ビームが点灯します。
このとき室内のメータ・パネル・ランプやインストルメント照明は点灯しません。

イグニッションをOFFにするとデイタイム・ドライビング・ランプが消灯します。ランプ・スイッチが消灯の位置にあるときは、警告メッセージがマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されます。路上に停車してイグニッションをOFFにするときなど、必要に応じてランプ・スイッチを操作し、車外のランプを点灯してください。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されるメッセージについては：
「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞LIGHTS（ランプ）
   選択、決定します。
2. DAYTIME DRIVING LIGHTS（デイタイム・ドライビング・ランプ）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ☑ デイタイム・ドライビング・ランプが作動
   ☐ デイタイム・ドライビング・ランプが停止

O92-986

消灯遅延機能の設定

知識

LIGHTS（ランプ）メニューの機能は、停車中のみ設定することができます。

車をロックしてからランプが消灯するまでの時間をセットすることができます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >SETTINGS（設定）
   >LIGHTS（ランプ）
   選択、決定します。
2. OFF DELAY（消灯遅延）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
   ☑ 消灯遅延時間を設定するモードになります。
4. 時間入力フィールドを選択します。
5. 選択項目を決定します。
6. 消灯遅延時間（ウェルカム・ホーム機能）を設定します：
   ロッカー・スイッチを押して時間を切り替えます。
   消灯遅延時間は、15秒、30秒、60秒の中から選択できます。
7. 選択項目を決定します。

時計の設定

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   >SETTINGS（設定）
   >CLOCK（時計）
   選択、決定します。
2. xx:xx SET（時刻設定）を選択します。
3. 選択項目を決定します。
4. 「時」または「分」のフィールドを選択します。
5. 選択項目を決定します。
   これで任意の時刻を設定できます。
6. 時刻を設定します：
   ロッカー・スイッチを押すと、選択しているフィールド（「時」または「分」）の数字が切り替わります。
7. 選択項目を決定します。

12時間表示モードの選択

8. 12 h-mode（12時間表示モード）を選択します。
9. 選択項目を決定します。
   ☑ 12時間表示モードが作動
   ☐ 12時間表示モードが停止

知識

メータ・パネルのボタン操作でもCLOCK（時計）メニューを呼び出せます：
「I-時計」（104ページ）を参照してください。

O72-974

ディスプレイ表示言語の変更

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞LANGUAGE（言語）
   選択、決定します。

2. お好みの言語を選択します。

3. 選択項目を決定します。

知識

言語の設定を変更すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイのすべての機能で言語が切り替わります。

知識

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの基本的な操作については、「基本操作」（108ページ）を参照してください。

ディスプレイ表示単位の変更

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞UNITS（単位）
   選択、決定します。

2. お好みのカテゴリーを選択します。（スピードメータなど）
3. 選択項目を決定します。

4. お好みの単位を選択します。（MPHなど）
5. 選択項目を決定します。

利用可能なカテゴリー／単位

- スピードメータ：
  km/h-km、mph-mls
- 燃費：
  l/100km、km/l、MPG（UK）、MPG（US）
- 温度：
  ℃（摂氏）、°F（華氏）
- タイヤ空気圧：
  bar、psi

O72-976

初期設定への表示のリセット

すべての設定（時計、コンフォート機能、ランプ機能、単位、言語）をリセットし、初期設定に戻すことができます。

知識

初期設定にリセットすると、これまでに選択したすべてのパーソナル設定が消去されます。

1. MAIN MENU（メイン・メニュー）
   ＞SETTINGS（設定）
   ＞FACTORY SET（初期設定）
   選択、決定します。

2. RESET（リセット）を選択します。
3. 選択項目を決定します。

警告灯および警告メッセージ

警告メッセージが表示されたときは、本書の該当する箇所の説明をよく読んでください。
警告メッセージは、あらかじめ決められたすべての条件が満たされた場合に表示されます。
このため、すべてのフルード・レベルを定期的に点検してください。特に、エンジン・オイル・レベルは給油毎に点検してください。

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ	意味／対処方法
	Steering faulty	ステアリング・ロックが締結しています。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
	Ignition lock faulty	運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
	System fault	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
	Key not recognized in vehicle	リモート・コントロールを携帯しているか確認してください。
	Turn ignition key to the left for 2 seconds	ステアリングをロックするには、イグニッション・キーを左に回して2秒間保持してください。
	Key: replace battery	リモート・コントロールの電池を交換してください。
	Move steering wheel	ステアリングを回してステアリング・ロックを締結／解除してください。
	Key not found	リモート・コントロールを携帯しているか確認してください。
	Move selector lever to position P	車が動き出すことがあります。 セレクタ・レバーが**P**の位置にあるときだけ、イグニッション・キーを抜き取ることができます。
	Press the brake	エンジン始動時はブレーキ・ペダルを踏んでください。
	Move selector lever to position P or N	セレクタ・レバーが**P**または**N**の位置にあるときだけ、エンジンを始動できます。
	Immobilizer active	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ		意味／対処方法
		Check hitch	ボール・ヒッチがロック位置にありません。 ロック位置になるまでロッカー・スイッチを押してください。
		Warning Hitch	適切な場所に停車してください。運転を続けないでください。 ボール・ヒッチがロック位置にありません。 ロック位置になるまでロッカー・スイッチを押してください。
		Check left static cornering light	ランプ・バルブを点検してください。
		Check right static cornering light	ランプ・バルブを点検してください。
		Check dynamic cornering light	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。* 警告メッセージが表示されたときは、追加で スピードメータ内のハイ・ビーム表示灯が点滅します。
		Check dipped beam	ランプ・バルブを点検してください。
		Check trailer lights	ランプ・バルブを点検してください。
		Check direction indicators	ランプ・バルブを点検してください。
		Check high beam	ランプ・バルブを点検してください。
		Check license plate light	ランプ・バルブを点検してください。
		Check fog lights	ランプ・バルブを点検してください。
		Check reversing lights	ランプ・バルブを点検してください。
		Check front side lights	ランプ・バルブを点検してください。
		Check headlight beam adjustment	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ		意味／対処方法
		Daytime driving lights off	イグニッションをOFFにするとデイタイム・ドライビング・ランプが消灯します。 必要に応じてランプ・スイッチの手動操作でランプを点灯してください。
		System fault headlamp	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
			エアバッグが故障しています。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Seat belt	シートベルトを着用してください。
		Caution flat tyre Check tyres	タイヤ空気圧モニタリング・システムが0.4bar以上の空気圧の低下を検出しました。 適切な場所に停車してタイヤを点検してください。 必要に応じてタイヤを交換してください。
		Check spare wheel Req. pressure: 3.4bar/50psi	約6ヶ月毎に表示します。 スペア・タイヤを装着している場合は空気圧を直接点検してください。 タイヤ空気圧モニタリング・システムでは監視できません。
		Tyre pressure too low Add air	タイヤ空気圧モニタリング・システムが0.3bar以上の空気圧の低下を検出しました。 すみやかに空気圧を調整してください。
		Collap. wheel/Sealing set Max. 80km/h (50mph)	許容最高速度を遵守してください。
		Collap. wheel Req. pressure: 3.5bar/51psi Max. 80km/h (50mph)	コラプシブル・スペア・タイヤでの走行に関する情報です。 スペア・タイヤのメニューで選択後に表示されます。 許容最高速度の80km/hを遵守してください。 指定空気圧の3.5barを維持してください。
		System not active	タイヤ空気圧モニタリング・システムが故障しています。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。* タイヤを交換した後、タイヤ空気圧のメニューで新しいタイヤを選択してください。
		System not active Brief disturbance	電磁波（ワイヤレス・ヘッドホンなど）による影響、またはホイール・トランスミッターが異常に過熱（120℃以上）しています。 タイヤ空気圧モニタリング・システムは自動的に復帰します。
		System not active Too many wheel transmitters	タイヤ空気圧モニタリング・システムが5個以上のホイール・トランスミッターを検出しました。（ラゲッジ・コンパートメントにウインター・タイヤを積載しているなど） トランスミッターの数が適正になると、タイヤ空気圧モニタリング・システムが自動的に復帰します。

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ		意味／対処方法
		No monitoring System learning	タイヤ空気圧のメニューでタイヤの種類とサイズを選択すると、タイヤ空気圧モニタリング・システムがタイヤの学習を行います。
		Wheel change? Make new selection	交換したタイヤの種類とサイズがタイヤ空気圧モニタリング・システムで更新されていません。 停車中はディスプレイの表示が切り替わります：該当するタイヤの種類とサイズを選択してください。
		When vehicle stops: hit selection	「Flat tyre（タイヤのパンク）」の警告が解消された後、SELECTION AFTER WARNING（警告後の選択）の選択が正しく行われていないと、発進後にメッセージが表示されます。 停車中にマルチ・ファンクション・ディスプレイで選択してください。
		Engine temperature too high	エンジン水温または油温が異常に高まっています。 エンジンを停止して冷却してください。 クーラントまたはエンジン・オイル・レベルを点検してください。 必要に応じてクーラントまたはエンジン・オイルを補充してください。
		Check coolant level	エンジンを停止して冷却してください。 クーラント・レベルを点検し、必要に応じて補充してください。
		Warning battery/generator	適切な場所に停車してエンジンを停止してください。 運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Start engine	エンジン停止中に電装品が作動しているとバッテリを消耗します。 エンジンを始動するか、または電装品をOFFにしてください。
		Electric load switch-off	車両エレクトリカル・システムが過負荷になっています。 消費電力が大きな電装品（リア・ウィンドウ・ヒータ、シート・ヒータなど）をOFFにしてください。
		Please refuel	
		Add washer fluid	
		Oil level monitoring failure	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Check oil level	できるだけ早く、オイル・レベル・ゲージでエンジン・オイル・レベルを点検してください。 必要に応じてエンジン・オイルを補充してください。

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ		意味／対処方法
		Oil pressure too low	ただちに適切な場所に停車してエンジンを停止してください。 運転を続けないでください。 エンジン・オイル・レベルを点検し、必要に応じて補充してください。 オイル・レベルが適正でも警告灯が点灯するときは、運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Oil pressure monitoring failure	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Service in 3,000km/mls	サービス・インジケータです。 表示されている距離を走行する前にメンテナンスを受けてください。 詳しくは「整備手帳」を参照してください。
		Service now	サービス・インジケータです。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Brake pads	ただちにブレーキ・パッドを交換してください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Warning Brake proportioning	ただちに適切な場所に停車してください。 運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		ABS failure	注意して運転してください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		PSM failure	注意して運転してください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Warning Brake fluid level	ただちに適切な場所に停車してください。 運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Parking brake	パーキング・ブレーキが解除されていません。
		PSM on	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがONになっています。
		PSM off	ポルシェ・スタビリティ・マネージメントがOFFになっています。
		PHC unavailable	ポルシェ・エンジン・ブレーキ・サポート（下り坂走行アシスト）が使用できません。

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ		意味／対処方法
		Brake booster faulty	ブレーキ・ペダルを踏むときに強い力が必要です。 最寄りのポルシェ正規販売店まで注意して運転してください。*
		Chassis Sport	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定です。
		Chassis Normal	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定です。
		Chassis Comfort	ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメントの現在の設定です。
		Chassis system faulty	ハンドリング性能に悪影響が生じます。 状況に応じた速度で運転してください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Warning chassis system	コーナリング中の横方向の傾きが異常に大きくなります。 無理のない速度で、最寄りのポルシェ正規販売店まで 注意して運転してください。*
		Warning chassis system	適切な場所に停車してください。 運転を続けないでください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Chassis system faulty	最寄りのポルシェ正規販売店まで注意して運転してください。*
		Spare wheel filling	コラプシブル・スペア・タイヤがレベリング・システム用コンプレッサで 充填されています。発進しないでください！
		Regulation switched off	レベリング・システムがOFFになっています。 （ジャッキ・アップをするとき）
		Not permissible	設定車高に切り替えるための作動条件が満たされていません。
		Pressure accumulator charging	レベリング・システムが一時的に使用できません。
		Four-wheel dr. system faulty	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Shift not possible: speed too high	ロー・レンジとハイ・レンジを切り替えるとき、 オフロード・プログラムの制限速度を超えないでください。
		Shift possible only in Neutral	ロー・レンジとハイ・レンジを切り替えるときは セレクタ・レバーを**N**の位置にしてください。

メータ・パネルの警告灯	マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージ		意味／対処方法
		Warning Parking lock! Apply parking brake!	運転を続けないでください。パーキング・ブレーキをかけてください。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Failure Sport mode	ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*
		Sport mode only usable without reduction	オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）ではスポーツ・モードを選択できません。
		Limit exceeded	設定した制限速度を超過しています。
			スペア・タイヤがロックされていません。怪我または車が損傷する恐れがあります。 発進する前にスペア・タイヤを必ずロックしてください。
			左フロント・ドアが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
			右フロント・ドアが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
			左リア・ドアが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
			右リア・ドアが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
			エンジン・フードが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
			リア・リッドが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
			リア・ウィンドウが開いています。速度が3km/hを超えると、ロックが解除されているすべてのドア、およびリッドが表示されます。
		System fault	いくつかのシステムが故障しています。 ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。*

* ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

安全運転について

お出かけの前に 139
慣らし運転 139
車の技術的な仕様変更 140
テール・パイプ 140
ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ（PCCB） 140
イグニッション・ロック／ステアリング・ロック 141
エンジンの始動と停止 143
自動車電話、無線機 144
ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM） 144
ラジオ 144
パーキング・ブレーキ 146
フット・ブレーキ 146
クルーズ・コントロール 148
ティプトロニックS 150
セレクタ・レバーの位置 151
オンロードおよびオフロード走行プログラム 157
トランスミッションおよびシャシー・コントロール・システム 161
レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション 170
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM） 173
ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC） 174
オフロード走行 175
オフロード走行用のドライビング・システム 176
上り坂走行 177
下り坂走行 178
水たまりや浅瀬の走行 179
障害物 180

お出かけの前に

▷ タイヤの空気圧と状態に異常がありませんか？

▷ ヘッドランプ、テール・ランプ、方向指示灯のレンズ、ウィンドウが汚れていませんか？

▷ ヘッドランプ、ブレーキ・ランプ、方向指示灯は、イグニッションONで正常に作動しますか？

▷ エンジン停止状態でイグニッションをONにしたとき、各種警告灯が正常に作動しますか？

▷ 燃料が不足していませんか？

▷ ルーム・ミラーおよびドア・ミラーは、後方がきちんと確認できる位置にありますか？

▷ 運転者および同乗者がシートベルトを締めていますか？

▷ 各種オイル・レベルは、指定された点検時期以外でも定期的に点検してください。

慣らし運転

ポルシェのエンジン性能を最高の状態まで高めるために、新車時は慣らし運転をお薦め致します。最新鋭の精密な製造技術を採り入れても、可動部分が馴染む過程で摩耗することを完全には防げません。この摩耗は、主に新車時から3,000kmまでの期間に生じます。

走行距離が3,000kmに達するまでは、次の事項を遵守してください。

▷ なるべく長距離運転を行ってください。

▷ 冷間始動と近距離運転の繰り返しをできる限り避けてください。

▷ 自動車レース、スポーツ・ドライビング・スクール等に参加しないでください。

▷ エンジンを高回転域まで回さないでください。特に、エンジンの暖機が完了するまでは注意してください。

オイル消費量／燃費

慣らし運転中は、オイルと燃料の消費量が通常よりも若干多くなることがあります。

▷ オイルと燃費の消費量についてはテクニカル・データを参照してください。
「エンジン」（306ページ）を参照してください。
「燃費」（306ページ）を参照してください。

新しいブレーキ・パッドの慣らし運転

新品のブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクも、エンジンと同様に慣らし運転をお薦め致します。新しい部品を装着してから最初の数百kmは、ブレーキ性能が完全に発揮されません。通常よりもブレーキが少し効きにくいので、いつもより強めにペダルを踏む必要があります。ブレーキ・ディスクを新品と交換した場合も、同様に慣らし運転が必要です。

新しいタイヤの慣らし運転

▷ 新品のタイヤを装着してから最初の100～200kmは、タイヤのグリップ性能が十分に発揮されません。ゆっくりとした速度で慣らし運転を行ってください。

車の技術的な仕様変更

▷ 車の技術的な仕様変更はポルシェ正規販売店で実施してください。

これにより、お客様のポルシェの信頼性と走行安全性を維持することができ、改造に起因する不具合を回避できます。ポルシェ正規販売店は、お客様のご要望に応じた適切なアドバイスを行います。

⚠ セーフティ・ノート

▷ ポルシェ純正部品、またはポルシェ社が要求する性能、品質基準に適合する同等部品だけを使用してください。ポルシェ純正部品は、ポルシェ正規販売店で入手することができます。安全性に関係するアクセサリを取り付けるときは、ポルシェ・テクイップメント製品またはポルシェ社がテストを実施し、承認した部品だけをお選びください。アクセサリについて不明な点は、ポルシェ正規販売店にお気軽にご相談ください。ただし、ポルシェ純正部品およびポルシェ社が承認した部品以外の部品等を使用すると、車の安全性を損なう可能性があります。ポルシェ社が承認していない部品の使用に起因する不具合や損害について、ポルシェ社は責任を負いかねます。ポルシェ純正部品や承認部品、アクセサリを供給しているメーカーの製品でも、特定の部品を使用することで車の安全性に悪影響を与える可能性があります。マーケットには膨大な数の部品、アクセサリが流通しているため、ポルシェ社はそれらのすべてについて評価と承認を行うことができません。

▷ また、ポルシェ純正部品または承認部品以外の部品を使用した場合、保証期間内であってもメーカー保証を適用できなくなる可能性がありますのでご注意ください。

▷ 不具合の兆候などがないか、日頃から定期的な点検を実施してください。スポイラーやアンダー・パネルなど、空力に影響する部品が損傷または欠損すると、走行特性に悪影響を及ぼす危険性があります。これらの不具合が発生したときは、直ちに修理してください。

テール・パイプ

⚠ 警 告

エキゾースト・パイプに近づいたり、エキゾースト・テール・パイプに触れると、火傷をする恐れがあります。

エンジンがかかっているときや、エンジンを停止してからしばらくの間はテール・パイプが熱くなっています。

▷ 車両後方に近づくときは、テール・パイプの近くで立ち止まったり、テール・パイプに触れないでください。

▷ お子様がテール・パイプの熱で火傷をしないように注意してください。

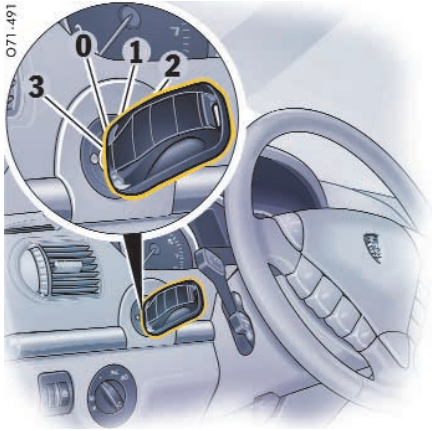
ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ（PCCB）

この高性能ブレーキ・システムは、すべての速度域および温度下で、最適の制動効果が得られるように設計されています。
特定のスピード、ブレーキ力や車両を取り巻く環境（気温、湿度等）によりブレーキ鳴きが発生する恐れがあります。

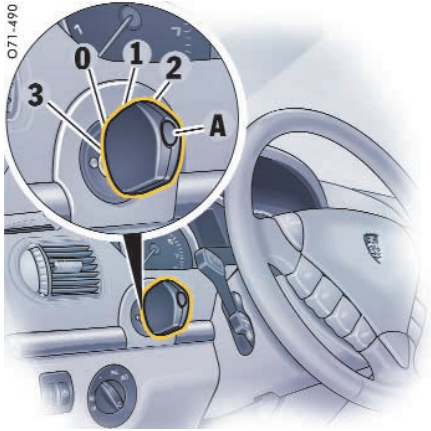
ブレーキ・パッドやブレーキ・ディスクなどのブレーキ・システムおよび関連部品の摩耗は、個人の運転スタイルや使用状態に大きく左右されます。したがって、摩耗の程度を実際の走行距離数で表すことはできません。

ポルシェが使用している数値は、交通状況に合わせた通常の操作に基づいています。サーキット走行や過激な運転スタイルは、摩耗を相当程度に促進させます。

▷ 車両をサーキット走行などに使用される場合は、ポルシェ正規販売店に現在のガイドラインについてお問い合わせください。



キーの位置
0-*初期位置*
1-*イグニッションON*
2-*エンジン始動*
3-*イグニッションOFF*



ポルシェ・エントリー&ドライブのキーの位置
0-*初期位置*
1-*イグニッションON*
2-*エンジン始動*
3-*イグニッションOFF*

イグニッション・ロック／ステアリング・ロック

⚠ 注 意

複数の鍵やキー・ホルダーなど、重い物を吊り下げたままキーをイグニッション・ロックに差し込むと、イグニッション・ロックを損傷する恐れがあります。

▷ イグニッション・ロックにキーを差し込むときは、重い物をキーに吊り下げないでください。

イグニッション・ロックには4つのロック位置があります。

知識

キーは、各イグニッション・ロック位置から初期位置に戻ります。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車は、キーを身に着けるだけでよく、イグニッション・ロックに差し込む必要がありません。

イグニッション・キーは、イグニッション・ロックのコントロール・ユニットに変更されました。このコントロール・ユニットは、けん引のときを除いて**常時**イグニッション・ロックに差し込まれています。

コントロール・ユニットのイグニッション・ロックからの抜き取り

▷ ボタン**A**を押し、コントロール・ユニットを抜き取ります。

イグニッション・ロック位置0ー初期位置

イグニッションをONにするか、エンジンを始動すると、イグニッション・キーが抜き取れなくなります。
イグニッション・キーを抜き取るには：

▷ 停車します。

▷ セレクタ・レバーを**P**の位置にします。

▷ イグニッションをOFFにします。

▷ イグニッション・キーを抜き取ります。

知識

イグニッション・キーを差し込んだまま放置するとバッテリが消耗します。

▷ バッテリがあがったときは、イグニッション・キー抜き取りの緊急操作を行ったときだけ、イグニッション・ロックからキーを抜き取ることができます。「緊急操作-イグニッション・キーの抜き取り」（142ページ）を参照してください。

イグニッション・ロック位置1ーイグニッションON

▷ イグニッション・キーをロック位置**1**に回します。

知識

すべての電装品が作動可能になります。警告灯が点灯し、メータ・パネルのランプの作動を点検します。

▷ 警告灯の配置については：「メータ・パネル」（103ページ）を参照してください。

イグニッションをONにした後、10分以上電装品をONにしないと、再度イグニッションをONにする必要があります。はじめにイグニッション・キーをロック位置**3**（イグニッションOFF）に回します。

イグニッション・ロック位置2ーエンジン始動

▷ イグニッション・キーをロック位置**2**に回します。

イグニッション・ロック位置3ーイグニッションOFF

▷ イグニッション・キーをロック位置**3**に回します。

▷ エンジンの始動と停止については：「エンジンの始動と停止」（143ページ）を参照してください。

ステアリング・ロック

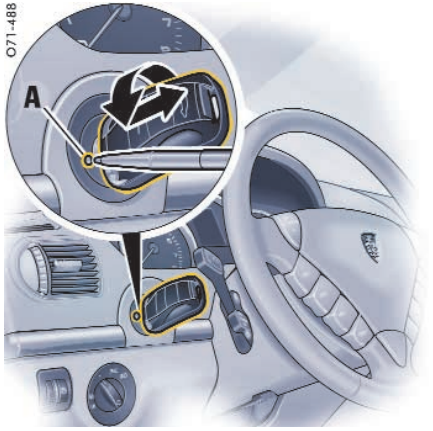
ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車
イグニッション・キーをイグニッション・ロックから抜き取ると、ステアリングが**自動的にロック**されます。
イグニッション・キーをイグニッション・ロックに差し込むと、ステアリングが**自動的にロック解除**されます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車
イグニッション・キーをOFFにして車両をロックすると、ステアリングが**自動的にロック**されます。

ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のマニュアル・ステアリング・ロック

▷ イグニッションをOFFにし、コントロール・ユニットを再度ロック位置**3**に回して**2秒以上**保持します。ステアリングがロックされます。

イグニッション・キーをロック位置**0**から回すと、ステアリングが自動的にロック解除されます。



緊急操作-イグニッション・キーの抜き取り

バッテリがあがった場合は、この緊急操作によりイグニッション・ロックからキーを抜き取ることができます。

1. イグニッション・キーを反時計方向に回します。
2. ボールペンなど先が尖ったものを使用して、イグニッション・ロック横の穴**A**を押します。
3. イグニッション・キーを抜き取ります。

エンジンの始動と停止

あらかじめ設定されているキーを使ったときだけイモビライザーが解除され、エンジンを始動できます。

▷ イモビライザーについては：

「イモビライザー」（225ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

排気ガスは無色無臭の一酸化炭素を含んでいます。一酸化炭素は少量でも人体に有害で、中毒を起こす恐れがあります。

▷ 換気の悪い場所でエンジンを始動したり、長時間のアイドリングをしないでください。

排気システムは高温になり、火災が発生する恐れがあります。

▷ 可燃物（乾燥した草や枯れ葉など）がある場所には、絶対に駐車しないでください。引火する恐れがあります。

▷ エミッション・コントロールについては：

「エミッション・コントロール・システム」（238ページ）を参照してください。

始動

▷ フット・ブレーキを踏み込みます。

▷ ティプトロニック・ギヤ・セレクタ・レバーを“**P**”または“**N**”の位置にします。

▷ アクセル・ペダルを踏まないでください。

エンジン・コントロール・ユニットが、エンジン始動に適切な燃料補正を行います。

▷ イグニッション・キーをロック位置**2**に回します。

▷ スターターを10秒以上続けて回さないでください。

エンジンが始動しないときは、約10秒間待ってから再度始動操作を行ってください。その場合は、はじめにイグニッション・キーをロック位置**3**（イグニッションOFF）に戻してください。

知識

1回でエンジンが始動した場合は、スターターが自動停止します。1回でエンジンがかからず再始動を行った場合は、スターターが自動停止しません。
エンジンが始動すると警告灯が消灯します。

▷ 停車したまま暖機運転を行わないでください。エンジンの暖機が完了するまでアクセル・ペダルを控えめに操作し、エンジン回転数を上げ過ぎないでください。

▷ バッテリがあがった場合は、ブースター・ケーブルを使用してジャンプ・スタートによりエンジンを始動してください。

▷ ブースター・ケーブルによる始動については：

「ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動」（286ページ）を参照してください。

知識

エンジンを停止したままイグニッションをONにしているときや、渋滞などでエンジン回転数が低いまま運転を続けるときは、バッテリあがりを防止してエンジンの始動能力を確保するためにも、不要な電装品をOFFにしてください。

エンジンの停止

▷ イグニッション・キーを抜く前に、**必ず**完全に停車してください。キーを抜くとステアリング・ロックがかかり、ステアリング操作ができなくなります。

▷ イグニッションをOFFにするときは、**必ず**完全に停車してください。イグニッションをOFFにすると、パワー・ステアリングおよびブレーキ・ブースタが効かなくなります。

▷ 車から離れる場合は、必ずイグニッション・キーを抜き取り、パーキング・ブレーキをかけてください。また、ティプトロニックSのパーキング・ロックをかけてください（ティプトロニック・セレクタ・レバーを**“P”**の位置にしてください）。**ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車**では、必ずコントロール・ユニットをイグニッション・ロックに差し込んだままにしてください。

知識

イグニッション・キーを差し込んだままにすると、バッテリが消耗します。

ラジエータ・ファン

▷ ラジエータ・ファンについては「ラジエータ・ファン」（231ページ）を参照してください。

自動車電話＊、無線機＊

▷ 自動車電話を使用する前に、必ず自動車電話の取扱説明書をお読みください。

▷ 運転中の電話の操作や通話については、各国の法律などを遵守してください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 安全上の理由から、自動車電話での通話はハンズフリー・システムだけを使用してください。

▷ 人体の健康への影響を回避するために：

自動車電話や無線機を使用するときは必ず車外に設置した外部アンテナに接続してください。

ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント（PCM）＊

▷ PCMを使用する前に、別冊の取扱説明書をよくお読みください。

ラジオ

▷ ラジオを使用する前に、別冊の取扱説明書をよくお読みください。

＊日本仕様に設定はありません。

memo

パーキング・ブレーキ

パーキング・ブレーキは、駐車中に車が動き出さないように後輪を固定します。

パーキング・ブレーキをかける

▷ フット・ペダルをしっかり踏み込みます。メータ・パネルの警告灯が点灯します。
パーキング・ブレーキをかけたまま発進すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイについては：
「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

パーキング・ブレーキを解除する

▷ フット・ブレーキを踏み、パーキング・ブレーキのハンドル**A**を引きます。警告灯が消灯し、メッセージが消えます。

フット・ブレーキ

⚠ セーフティ・ノート

▷ ブレーキ・ペダルの動きをマットなどで妨げないでください。

ブレーキ・ブースタは、エンジンがかかっているときだけ作動します。エンジン停止中やブレーキ・ブースタの圧力が下がっているときは、ペダルを踏むときにかなり強い力が必要です。

▷ ブレーキに異常があるときは、車をけん引しないでください。
けん引とけん引による始動については：「けん引とけん引によるエンジンの始動」（300ページ）を参照してください。

雨天時や水たまりを通過したとき、または洗車後は、ブレーキの効きが悪くなり、ペダルを強く踏まなければならない場合があります。

▷ 車間距離をいつもより長めにとってください。ブレーキ装置を乾燥させるため、後方の安全を確認した上で定期的にブレーキをかけてください。

凍結防止剤（塩分）が撒かれた道路や砂塵の多い道路を長時間走行すると、ブレーキ・ディスクとパッドが塩や砂で覆われて摩擦力が低下し、ブレーキの効きが非常に悪くなることがあります。

▷ ブレーキ・ディスクは鋳鉄製ですが、長期にわたって駐車したまま放置すると腐食し、ブレーキが固着した状態になります。
腐食の程度や範囲、影響は、駐車していた期間、凍結防止剤（塩分）や砂塵の付着、洗車時に油脂剤を使用したかどうかなどの条件で変わります（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ装備車を除く）。
ブレーキ・ディスクの腐食を発生させないため、駐車する前にブレーキを乾燥させてください（ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ装備車を除く）。
ブレーキをかけたときに不快感がある場合は、ポルシェ正規販売店でブレーキ・システムを点検してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ 下り坂を走行するときは、タイミング良くギヤを落とし、エンジン・ブレーキを利用してください。ブレーキの摩耗が少なくなります。急な下り坂でエンジン・ブレーキの効果が不十分な場合は、間隔をおいてブレーキ・ペダルを踏んでください。ブレーキ・ペダルを連続して踏み続けると、ブレーキが過熱して効きが悪くなります。

▷ ブレーキ液とブレーキ液レベルについては：「ブレーキ液レベルの点検と交換」（232ページ）を参照してください。

ブレーキ・パッドおよびブレーキ・ディスク

ブレーキ・ディスクとパッドの摩耗度合いは、走行状態と使用環境によって異なるため、必ずしも走行距離には依存しません。ブレーキ・システムは、あらゆる速度や温度で最適な制動力が得られる高性能の設計になっています。このため速度やブレーキ・ペダルを踏む力、環境条件（温度や湿度）によって、ブレーキから音が出ることがあります。

警告メッセージ

ブレーキ・パッドが摩耗限度に達すると、マルチ・ファンクション・ディスプレイが警告を表示します。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

▷ 直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ・パッドを交換してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

A—セット
1—*リセット（スイッチON／クルーズ・コントロール・リセット）*
2—*OFF（中断）*
3—*加速*
4—*減速*

クルーズ・コントロール（自動速度制御装置）

クルーズ・コントロールは、アクセル・ペダルを踏まなくても30～240km/hの範囲で希望する速度を維持したまま走行する装置です。クルーズ・コントロールは、ステアリング部分にあるレバーで操作します。

⚠ 警 告

激しい渋滞、カーブの多い道、路面状態が悪い場合（冬場の滑りやすい路面、濡れた路面、起伏の多い路面など）で使用すると、事故を起こす恐れがあります。

▷ 安全性を確保するため、このような状況ではクルーズ・コントロールを使用しないでください。

クルーズ・コントロールON

▷ クルーズ・コントロール・レバーを、カチッと音がするまで後方に引いて**1**の位置にしてください。

クルーズ・コントロール作動中

クルーズ・コントロールがONになると、この緑色の表示灯がメータ内で点灯します。

速度の設定

▷ アクセル・ペダルを操作して、希望の速度まで加減速します。
▷ スイッチ**A**を押します。そのときの速度が設定されます。

加速（追い越しなど）

オプション1

▷ 通常走行と同じようにアクセル・ペダルを踏むと加速します。
アクセル・ペダルから足を放すと、設定速度に戻ります。

オプション2

▷ 希望の速度になるまで、操作レバーを**3**の位置に保ちます。
操作レバーで加速した場合、レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション3

▷ 操作レバーを**3**の位置にして、すぐに手を放します。
1回押すたびに、約2km/h速度が上がります（最大10回）。

知識

設定速度を約25km/h以上超過する速度が20秒間維持されると、クルーズ・コントロールが自動的に解除されます。

減速

オプション1

▷ 希望の速度になるまで、操作レバーを**4**の位置に保ちます。
操作レバーで減速した場合、レバーを放したときの速度が設定速度になります。

オプション2

▷ 操作レバーを**4**の位置にして、すぐに手を放します。
1回押すたびに、約2km/h速度が下がります（最大10回）。

クルーズ・コントロールの中断

クルーズ・コントロールを中断（解除）したときは、設定速度が記憶されています。クルーズ・コントロール・レバーを操作して、設定速度を呼び出すことができます。「クルーズ・コントロールの再開」（149ページ）を参照してください。

▷ レバーを**2**の位置（前方）に押します。
または、
▷ ブレーキ・ペダルを踏むか、セレクタ・レバーを**“N”**の位置にします。
▷ ティプトロニックSについては：
「ティプトロニックS」（150ページ）を参照してください。

クルーズ・コントロールの自動中断：

— 設定速度を約25km/h以上超過する速度を20秒間維持したとき
— 上り坂などで、設定速度を約10km/h下回る速度を5秒間維持したとき
— ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）が0.2秒以上作動したとき
— ロー・レンジ・スイッチがONになったとき

クルーズ・コントロールの再開

▷ 操作レバーを**1**の位置まで後方に引きます。

知識

周囲の交通状況や路面状態がクルーズ・コントロール走行に適した場合のみ、クルーズ・コントロールを再開してください。

クルーズ・コントロールOFF

▷ 操作レバーを**2**の位置にカチッと音がするまで前方に押します。メータ内の緑色の表示灯が消灯します。

駐車してイグニッションをOFFにすると、設定速度の記憶が消去されます。

坂道での走行

上り坂や下り坂では、設定速度を維持できない場合があります。

▷ 上り坂ではエンジン回転数が適切な範囲に維持されるように、また下り坂ではエンジン・ブレーキがしっかりと作用するように、適切なギヤにシフトダウンしてください。

ティプトロニックS

ポルシェ社のティプトロニックは、「オートマチック・モード」と「マニュアル・モード」の2つのギヤ・シフト・ポジションがある6速トランスミッションです。
セレクタ・レバーを“**D**”の位置にすると**オートマチック・モード**になり、トランスミッションが自動的に変速します。このときステアリング・ホイールにあるロッカー・スイッチを操作すると、一時的にマニュアル・モードになります。
セレクタ・レバーを“**M**”の位置にすると**マニュアル・モード**になり、ステアリング・ホイールにあるロッカー・スイッチの操作、またはセレクタ・レバーを前後に動かすことで手動変速ができます。
セレクタ・レバーが“**D**”または“**M**”の位置での機能は、オンロード走行プログラム（ハイ・レンジ）とオフロード走行プログラム（ロー・レンジ）で異なります。
オートマチック・モードとマニュアル・モードは、走行中でも自由に切り替えることができます。
セレクタ・レバーを“**D**”から“**M**”の位置にしても、現在のギヤがそのまま保持されます。
セレクタ・レバーを“**M**”から“**D**”の位置にすると、そのときの走行状態に最適な変速プログラムになり、適切なギヤが自動的に選択されます。

知識

走行中、ロッカー・スイッチを誤って操作しないでください。トランスミッションが急に変速します。

セレクタ・レバー位置の変更

イグニッションがOFFのときは、セレクタ・レバーが固定されます。
以下の一連の操作をしたときだけ、セレクタ・レバーを“**P**”および“**N**”から動かすことができます。
— イグニッションをONにする。
— ブレーキ・ペダルを踏む。
— リリース・ボタン（矢印）を押す。

リリース・ボタン

セレクタ・レバーの前側にあるリリース・ボタン（矢印）は、誤ってレバーを動かすことを防止するものです。

セレクタ・レバーを“**R**”または“**P**”の位置に動かすときは、リリース・ボタンを押してください。
電気系統に不具合が発生すると、セレクタ・レバーを動かすことができなくなります。
▷ セレクタ・レバーが動かなくなったときは、緊急解除を行ってください。「セレクタ・レバーの緊急解除」（155ページ）を参照してください。

エンジンの始動

急発進防止のため、セレクタ・レバーが“**P**”または“**N**”の位置でブレーキ・ペダルを踏んだときだけ、エンジンが始動します。

発進

▷ エンジンがアイドリング状態のときにブレーキ・ペダルを踏み、セレクタ・レバーを“**P**”の位置から走行レンジ（“**D**”、“**M**”または“**R**”の位置）に動かします。
▷ 走行レンジにすると車がゆっくりと動き出します（クリープ現象）。発進の準備が整うまでブレーキ・ペダルから足を放さないでください。
▷ 走行レンジにした後、ギヤが完全に締結されるまでアクセル・ペダルを踏まないでください。

セレクタ・レバー・ポジション

セレクタ・レバー・ポジション・インジケータ、ギヤ・ポジション・インジケータ

エンジンがかかっているときは、セレクタ・レバーとギヤの現在の位置がメータ・パネルに表示されます。

セレクタ・レバーの位置

P－パーキング・ロック

セレクタ・レバーを**“P”**の位置にすると、駆動輪が機械的にロックされます。

- ▷ 完全に停車してから、**“P”**の位置にしてください（パーキング・ロックを行ってください）。
- ▷ 駐車するときは、パーキング・ブレーキをかけた後に**“P”**の位置にしてください。発進するときは、**“P”**の位置から走行レンジに動かした後、パーキング・ブレーキを解除してください。
- ▷ 車を離れるときは、パーキング・ブレーキを必ずかけてください。

セレクタ・レバーが**“P”**の位置にあるときだけ、イグニッション・キーを回して抜き取ることができます。

R－リバース

- ▷ 完全に停車し、ブレーキ・ペダルを踏んでいるときだけこの位置に動かしてください。

N－ニュートラル

例えば、車をけん引するときや洗車するときは、必ずこの位置にしてください。

- ▷ エンジンがアイドリング状態でブレーキ・ペダルを踏んだときだけ、**“N”**の位置から走行レンジ（**“D”**、**“M”**または**“R”**の位置）に動かしてください。

D－オートマチック・モード（オンロード走行プログラム）

- ▷ 通常走行では**“D”**の位置を使用します。アクセル・ペダルの位置と速度に応じてギヤが自動変速します。

変速を実行するエンジン回転数は、ドライバーの運転スタイルやエンジン負荷（上り坂など）により変化します。また、アクセル・ペダルの操作、走行速度、前後および横方向の加速度、路面状況などは、すべて変速動作に影響を与えます。

PSMを解除すると、変速タイミングがエンジン高回転域に移ります。

カーブの手前などでアクセル・ペダルを素早く放すと、不必要なシフトアップを回避できます。

コーナリング中は、横方向の加速度の大きさに応じて、エンジン回転数が規定値に達するまでシフトアップされません。またブレーキ・ペダルを踏み込むと、減速の度合いに応じてティプトロニックが通常よりも早めにシフトダウンされ、適切なギヤでコーナリングすることができます。これらの機能により、カーブを曲がるときや加速するときにシフトダウン操作する必要がありません。

ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト
ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチで、一時的に**“D”**（オートマチック・モード）から**“M”**（マニュアル・モード）に切り替えることができます。

利点：
― カーブの手前や交通量が多い場所を走行するとき、下り坂でエンジン・ブレーキを積極的に利用したいとき、急加速したいときは、手動操作でシフトダウンできます。
― 発進時、1速または2速を選ぶことができます。

以下の場合は、マニュアル・モードが保持されます：
― コーナリング中（横方向の加速度に応じて）、またはオーバーランしたとき
― 交差点などで停車したとき

以下の場合は、自動的にオートマチック・モードになります：
― マニュアル・モードに切り替えてから約8秒後（コーナリング中やオーバーラン時は除く）
― アクセル・ペダルを大きく踏み込んでキックダウンしたとき

一時的なシフトダウン
前提条件：
― 約54km/h以上で走行しているとき
▷ アクセル・ペダルを素早く踏み込むと、トランスミッションが最もスポーティな変速プログラムを選び、直ちにシフトダウンを実行します。このプログラムでは、エンジンが高回転を維持するように変速します。したがって、一気に2～3段のギヤをスキップする変速も実行します。

作動停止
▷ この機能は、アクセル・ペダルの踏み込み率が約25%以下になると停止します。

キックダウン
キックダウン機能は、セレクタ・レバーが**“D”**の位置で作動します。
▷ 前車を追い越すときなど、最大の加速が必要な場面ではアクセル・ペダルをいっぱいに（キックダウンの位置まで）踏み込んでください。

速度とエンジン回転数に応じて、トランスミッションが最も低い適切なギヤに変速します。
そのギヤでエンジン回転数が上限に達するまで、上段のギヤにはシフトアップしません。なおアクセル・ペダルを全開時の約80%以下に戻すまでキックダウン機能を維持します。

D― オートマチック・モード（オフロード走行プログラム）
▷ 通常走行では**“D”**の位置を使用します。アクセル・ペダルの位置と速度に応じてギヤが自動変速します。

変速タイミングは、さまざまな地形に応じて車を適切にコントロールできるように選択します。変速を行うエンジン回転数は地形によって変化します。急な下り坂では、エンジン回転数が中速域（2,500rpm以上）に達するまでシフトアップを行いません。また、エンジン回転数が上限に達した場合、シフトアップを実行しません。

ステアリング・ホイールでのギヤ・シフト
ステアリング・ホイールのロッカー・スイッチで、一時的に**“D”**（オートマチック・モード）から**“M”**（マニュアル・モード）に切り替えることができます。

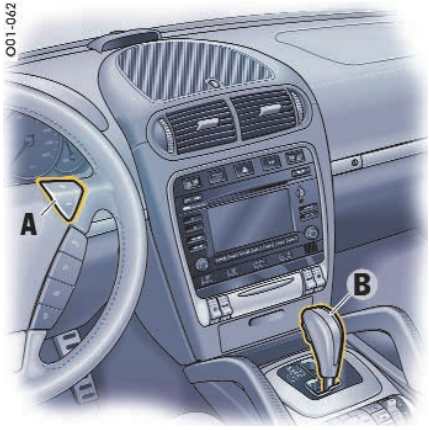
利点：
― 下り坂でエンジン・ブレーキを積極的に利用したいときや、急加速したいときは、手動操作でシフトダウンできます。
― 発進時、1速、2速または3速を選ぶことができます。

以下の場合は、マニュアル・モードが保持されます：
— オーバーランしたとき
— コーナリング中（横方向の加速度に応じて）
— 交差点などで停車したとき

以下の場合は、自動的にオートマチック・モードに復帰します：
— マニュアル・モードに切り替えてから約8秒後（コーナリング中やオーバーラン時は除く）
— アクセル・ペダルを大きく踏み込んでキックダウンしたとき

キックダウン
キックダウン機能は、セレクタ・レバーが**“D”**の位置で作動します。
▷ 前車を追い越すときなど、最大の加速が必要な場面ではアクセル・ペダルをいっぱいに（キックダウンの位置まで）踏み込んでください。
速度とエンジン回転数に応じて、トランスミッションが最も低い適切なギヤに変速します。
そのギヤでエンジン回転数が上限に達するまで、上段のギヤにはシフトアップしません。なおアクセル・ペダルを全開時の約80%以下に戻すまでキックダウン機能を維持します。

知識
オンロード走行プログラムとは異なり、**“M”**の位置（マニュアル・モード）ではエンジン回転数が上限に達してもシフトアップを実行しません。



M—マニュアル・モード（オンロード走行プログラム）

知識
セレクタ・レバーが**“M”**（マニュアル・モード）の位置ではキックダウンが機能しません。
追い越し加速をするときなど、必要に応じてマニュアル操作で変速してください。

シフトアップ
▷ ロッカー・スイッチ**A**の上側（＋）を押します。または、
▷ **“M”**（マニュアル・モード）の位置でセレクタ・レバー**“B”**を前方に押します。

シフトダウン
▷ ロッカー・スイッチ**A**の下側（—）を押します。または、
▷ **“M”**（マニュアル・モード）の位置でセレクタ・レバー**“B”**を手前に引きます。

速度やエンジン回転数が適切であれば、いつでも次のギヤにシフトアップ／シフトダウンできます。シフトアップ／シフトダウンの操作を行ったとき、次のギヤに切り替えるとエンジン回転数が不適切な場合は、コントロール・ユニットが変速を禁止します。

ロッカー・スイッチ**“A”**またはセレクタ・レバー**“B”**を連続して素早く2回操作すると、ギヤを1つスキップしたシフトダウンを実行します。
PSM作動中にエンジン回転数が上限に達すると、トランスミッションが自動的にシフトアップします。また、エンジン回転数がアイドリングまで下がる直前に、自動的にシフトダウンします。
▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂ではエンジン・ブレーキが十分かかるようにシフトダウンして、適切なギヤを使用してください。

マニュアル・モードに不具合があるときは、オートマチック・モードに切り替わります。このとき、メータ・パネルが“D”を表示します。

▷ このような不具合が発生した場合は、ポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

M－マニュアル・モード（オフロード走行プログラム）

知識

セレクタ・レバーが“M”（マニュアル・モード）の位置ではキックダウンが機能しません。

追い越し加速をするときなど、必要に応じてマニュアル操作で変速してください。

シフトアップ

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上側（十）を押します。または、

▷ “M”（マニュアル・モード）の位置でセレクタ・レバー“B”を前方に押します。

シフトダウン

▷ ロッカー・スイッチ**A**の下側（－）を押します。または、

▷ “M”（マニュアル・モード）の位置でセレクタ・レバー“B”を手前に引きます。

速度やエンジン回転数が適切であれば、いつでも次のギヤにシフトアップ／シフトダウンできます。シフトアップ／シフトダウンの操作を行ったとき、次のギヤに切り替えるとエンジン回転数が不適切な場合は、コントロール・ユニットが変速を禁止します。

ロッカー・スイッチ“A”またはセレクタ・レバー“B”を連続して素早く2回操作すると、ギヤを1つスキップしたシフトダウンを実行します。

エンジン回転数がアイドリングまで下がる直前に、自動的にシフトダウンします。

▷ 上り坂ではエンジンに負荷がかかりすぎないように、また下り坂ではエンジン・ブレーキが十分かかるようにシフトダウンして、適切なギヤを使用してください。

マニュアル・モードに不具合があるときは、オートマチック・モードに切り替わります。このとき、メータ・パネルが“D”を表示します。

▷ このような不具合が発生した場合は、ポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

停止

▷ 交差点の信号待ちなど、短時間の停車ではセレクタ・レバーを“D”の位置にしたままで、フット・ブレーキを踏んでください。

▷ 上り坂で停車するとき、アクセル・ペダルを踏んで車を静止させないでください。フット・ブレーキを踏むか、パーキング・ブレーキをかけてください。

▷ 車から離れるときは、必ずパーキング・ブレーキをかけ、セレクタ・レバーを“P”の位置にしてください。

知識

上り坂でセレクタ・レバーが“D”または“M”の位置のまま（エンジンをかけたまま）停車すると、ヒルホルダー機能が作動して車が後退しません。このとき、ドライバーがブレーキをかける必要がありません。

▷ ヒルホルダー機能については、「ヒルホルダー発進アシスタント」（169ページ）を参照してください。

駐車

▷ アクセル・ペダルは慎重に踏み込んでください。

▷ 狭い場所で移動したり、駐車するときは、フット・ブレーキを使って速度を調節してください。

冬季の走行

積雪路や凍結路など、滑りやすい坂道ではセレクタ・レバーを“**M**”（マニュアル・モード）の位置にしてください。急に変速してホイール・スピンが発生することを防ぎます。

走行制限プログラム

トランスミッションが故障している場合：

— メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに、現在のギヤ位置の代わりに「X」が表示されます。このときは、トランスミッションが変速しません。

▷ 故障が発生した場合は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 警 告

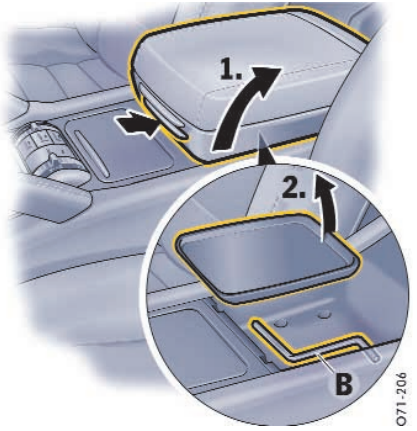
走行制御プログラムが作動すると、リバース・ロック・モニタが機能しません。走行中、事故および損傷の危険性があります。

▷ セレクタ・レバーを“**R**”の位置にしないでください。

知識

セレクタ・レバーが“**D**”の位置では3速または5速ギヤ、“**R**”の位置ではリバース・ギヤが使用できます。この機能を利用して最寄のポルシェ正規販売店まで車を移動してください。

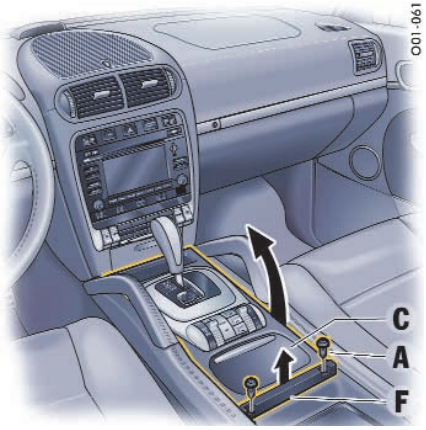
▷ できるだけ早くポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

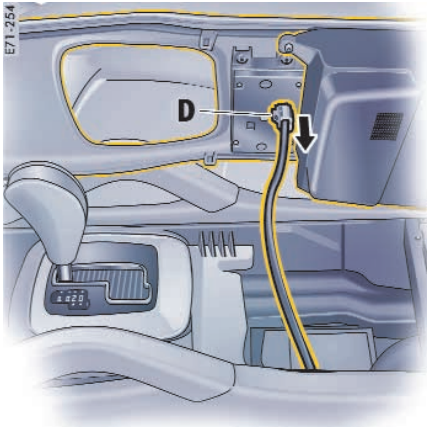


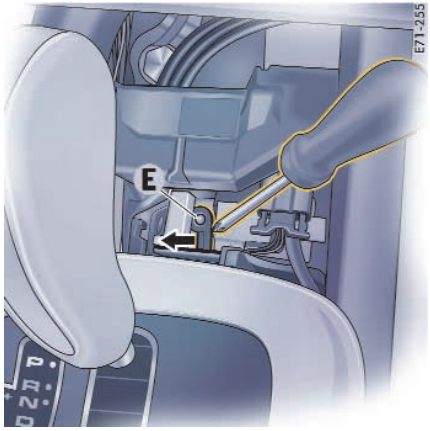
セレクタ・レバーの緊急解除

電気系統に故障が生じると、セレクタ・レバーが“**P**”の位置でロックされます。車をけん引するときなど、必要に応じてこのロックを手動解除できます。

1. アーム・レストを折りたたみます。
2. センター・コンソールの下部（ゴムマットの下）からキー“**B**”を取り出します。







3. キー **“B”** を使用してスクリュー **“A”** を緩めます。
4. トリム・マウント **“F”** を取り外します。
5. トリム **“C”** の後部を持ち上げ、慎重に取り外します。
6. コネクタ **“D”** を切り離します。
7. トリムを横にずらします。
8. 適切な工具を使用してロック・レバー **“E”** を左横に押します。
9. セレクタ・レバーを **“N”** の位置にします。
10. 取り外しと逆の手順で組み付けます。

オンロードおよびオフロード走行プログラム

この車には、トランスミッションおよびシャシーの特別な制御システム（ABS、オフロードABS、PSMなど）を使用した2種類の走行プログラムがあります。この走行プログラムは、最適なドライビング・ダイナミクスを実現しつつ走行安全性を最大限に高めます。

ー オフロード走行プログラム
（ロー・レンジ、リダクション・メカニズムが作動）

ー オンロード走行プログラム
（ハイ・レンジ、リダクション・メカニズムが停止）

走行プログラムを切り替えると、トランスミッションおよびシャシーの制御システムがオフロードまたはオンロード走行に適したモードになります。

走行プログラムの選択

走行プログラムはロッカー・スイッチ**A**で切り替えます。
ロッカー・スイッチ**A**はセンター・コンソールにあります。このスイッチはマルチステップ機能を備えており、両方向に操作できます。

知識

オフロード走行プログラムで使用できるディファレンシャル・ロックの数は、車の装備により異なります。

手動切り替えの前提条件

▷ オフロード走行プログラムに切り替えるときは：
15km/h以下で走行するか、または停車します。

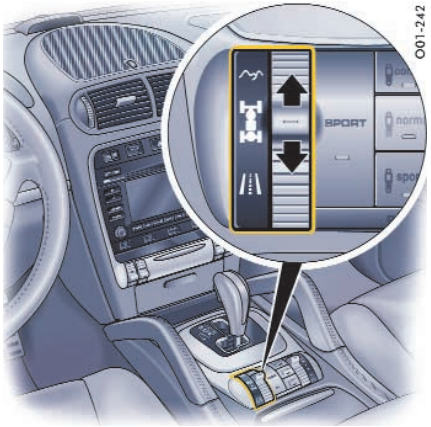
▷ オンロード走行プログラムに切り替えるときは：
30km/h以下で走行するか、または停車します。

▷ セレクタ・レバーを“**N**”の位置にします。

⚠ 危 険

プログラムの切り替え動作中は、セレクタ・レバーが固定されます。上り坂でプログラムを切り替えると、切り替えが完了するまでは速度が下がって停車したり後退する恐れがあります。下り坂では、プログラムが切り替わるとき、不意に加速する恐れがあります。

▷ ブレーキ・ペダルを通常よりも強く踏み込んでください。



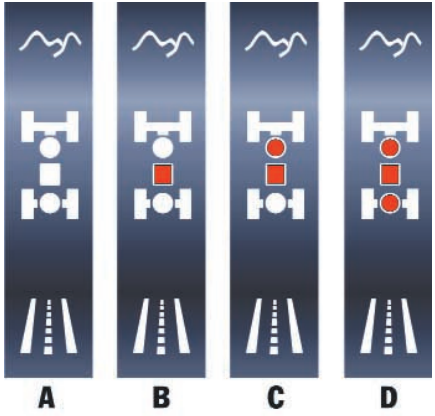
オフロード走行プログラムに切り替える

▷ ロッカー・スイッチを前方 ⬆ に押します。
ロッカー・スイッチを押すたびに、1段階ずつオフロード走行に適したモードになります。

オンロード走行プログラムに切り替える

▷ ロッカー・スイッチを手前 ⬇ に引きます。
ロッカー・スイッチを引くたびに、1段階ずつオンロード走行に適したモードになります。

ロッカー・スイッチから手を放すと、スプリングによりスイッチが元の位置に戻ります。



O81-244

A—*オンロード走行プログラム（ハイ・レンジ、リダクション・メカニズムが停止）*
B—*オフロード走行プログラム（ロー・レンジ、リダクション・メカニズムが作動）*
C—*ロー・レンジでセンター・ディファレンシャル・ロックが完全作動*
D—*ロー・レンジでリア・ディファレンシャル・ロックが完全作動*

選択した走行プログラムの表示

選択した走行プログラムが、ロッカー・スイッチ横のインジケータ・ランプ（**イラスト参照**）で表示されます。
走行プログラムを切り替えているときは、メータ・パネルおよびロッカー・スイッチ横のインジケータ・ランプが**数回点滅**します。

知識

（センター・ディファレンシャル・ロック）

センター・ディファレンシャル・ロック**C**が完全に作動すると、フロント・アクスルとリア・アクスルの回転数の差がなくなります。例えば凍結路やぬかるみでフロントの左右ホイールがトラクションを失っても、リア・アクスルのトラクションで脱出することができます。

知識

（リア・ディファレンシャル・ロック）

リア・ディファレンシャル・ロック**D**が完全に作動すると、左右リア・ホイールの回転数の差がなくなります。例えば凍結路やぬかるみでリアの片方のホイールがトラクションを失っても、反対側のホイールのトラクションで脱出することができます。

知識

▷ リア・ディファレンシャル・ロックはエンジンがかかっているときだけ作動します。

知識

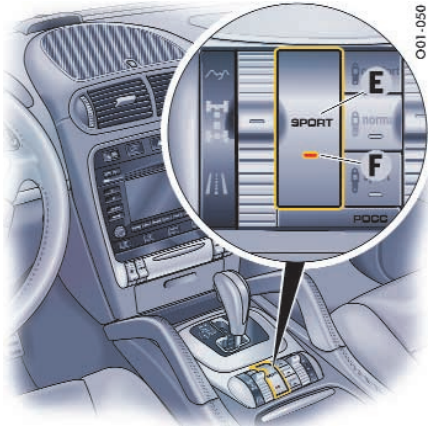
イグニッションをONにしたときロッカー・スイッチ横のロー・レンジ・インジケータ・ランプが速く点滅する場合は、シフト・システムに不具合が発生しています。

▷ ただちにポルシェ正規販売店でブレーキ・システムの点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ロー・レンジ・インジケータ・ランプ

ロッカー・スイッチ**A**を操作するとロー・レンジ・インジケータ・ランプが点滅する場合、以下の変速条件のいずれかが合致していません。

― 規定の速度を超えて走行している。
― セレクタ・レバーが“**N**”の位置にない。



スポーツ・モード

機能

スポーツ・モードを作動させると、スポーティなドライビング・ダイナミクスが得られる設定になります。
ポルシェ・コントロール・システムによる制御が、敏捷性と走行性能を高める設定に切り替わります。

― PASM（ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント）がスポーツ・モードに切り替わり、サスペンションのダンピング特性が硬くなります。
― PDCC（ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム）がスポーツ・モードに切り替わり、車体がロールしにくくなります。
― エア・サスペンションの車高が低くなります。
― ティプトロニックSがスポーツ・モードに切り替わり、エンジンの高回転域で変速動作を実行します。つまりシフトアップのタイミングが遅くなり、シフトダウンのタイミングが早くなります。発進時は1速になります。
― 電子式アクセル・ペダルの反応が敏感になり、エンジンのレスポンスが向上します。
― スポーティなエンジン・チューニングが作動します。

▷ 詳細について：
「ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）」（173ページ）を参照してください。
「ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC）」（174ページ）を参照してください。

スポーツ・モードのオン／オフ切り替え
イグニッションがONで、オンロード走行プログラム（ハイ・レンジ、リダクションが停止）を選択している場合、スポーツ・モードを作動することができます。

▷ センター・コンソールのSPORTボタン**E**を押します。スポーツ・モードがONになると、SPORTボタンのインジケータ・ランプ**F**が点灯します。

スポーツ・モードがONになると、マルチ・ファンクション・ディスプレイに「SPORT」のロゴが表示されます。
イグニッションをOFFにすると、自動的にスポーツ・モードがリセットされてノーマル・モードに切り替わります。

警告メッセージ
システムに不具合が発生すると、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについて：
「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

知識
スポーツ・モードを作動させたいが、乗り心地は快適な設定を維持したいとき：
— PASMおよびPDCCを、それぞれ個別にノーマルまたはコンフォート・モードに切り替えます。または、
— 車高を上げます。

▷ センター・コンソールの該当するPASMボタンを押してください。選択したシャシー設定ボタンのインジケータ・ランプが点灯します。さらに、選択したシャシー設定がインストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに約12秒間表示されます。
「ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）」（173ページ）を参照してください。
「ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC）」（174ページ）を参照してください。

▷ センター・コンソールのロッカー・スイッチを前方に押してください。システムの作動後、ロッカー・スイッチに隣接するインジケータ・ランプが点灯します。また車高の変更が、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されます。
「レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション」（170ページ）を参照してください。

テスト・ベンチでの点検

パワー・テスト
ポルシェ社は、シャシー・ダイナモによるパワー・テストを承認していません。

ブレーキ・テスト
ブレーキ・テストはオンロード走行プログラム（ハイ・レンジ）だけで実施してください。必ず、プレート型またはローラー型テスト・ベンチを使用してください。
ローラー型テスト・ベンチでは、以下の限界値を超えないでください。
— テスト速度7.5km/h
— テスト時間20秒

パーキング・ブレーキ・テスト
ブレーキ・テスタでパーキング・ブレーキを点検するときは、必ずイグニッションをOFFにしてください。セレクタ・レバーを**“N”**の位置にしてください。

オン・ザ・カー・ホイール・バランス
ホイールを車両に装着した状態でホイール・バランスを点検するときは、車両をリフト・アップしてホイールが自由に回転できるようにしてください。

トランスミッションおよびシャシー・コントロール・システム

トランスミッションおよびシャシーに作用するコントロール・システムは、複雑な制御が連携して作動します。この連携作動により、走行安全性を最大限に高めつつ優れたドライビング・ダイナミクスを実現します。コントロール・システムには、以下のシステムが含まれます：

システム／名称	適用
PTM ポルシェ・トラクション・マネージメント	― フルタイム 4 WD ― 電子制御センター・ディファレンシャル・ロック ― オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD） ― アンチ・スリップ・コントロール（ASR） ― リダクション・ギヤ／ロー・レンジ
PTM Plus ポルシェ・トラクション・マネージメント・プラス	PTMの特性に加えて、以下の特性が加わります。 ― 電子制御リア・ディファレンシャル・ロック
PSM ポルシェ・スタビリティ・マネージメント	― ドライビング・スタビリティ・コントロール ― アンチロック・ブレーキ・システム（ABS） ― ブレーキ・システム・プレフィル ― ブレーキ・ブースタ ― アンチ・スリップ・コントロール（ASR） ― オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD） ― エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール（MSR）
エア・サスペンション レベリング・システムおよび自動車高調整機能付き	― ショック・アブソーバ内蔵全荷重式エア・スプリング・ストラット ― プレッシャ・アキュムレータ付きエア・サプライ・システム
PASM ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント	― 無段階補正コントロール付きショック・アブソーバ・システム
PDCC ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム	― 走行中のロールを軽減して姿勢を安定させるアクティブ・シャシー・コントロール・システム

⚠ セーフティ・ノート

PTMや4WDシステムを装備していても、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。
走行安全性は向上しますが、無謀な運転は避けてください。PTMや4WDシステムを装備していても、車両の物理的限界を超えることはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を低減することもできません。

ポルシェ・トラクション・マネージメント（PTM）

ポルシェ・トラクション・マネージメントは、車体前後方向および横方向のドライビング・ダイナミクスを高めるために開発されたフルタイム4WDコントロール・システムです。ポルシェ・スタビリティ・マネージメント・コントロール・システム（PSM）と密接に連携して制御を実行します。
PTMは、フロントおよびリア・アクスルの駆動輪に最適に出力を配分します。トランスファ・ケースおよびリア・ディファレンシャルのロック・コントロール機能を制御し、最適なトラクション性能を確保します。PTMは常時作動しており、PSMとは異なり解除することができません。

PTMの利点

- 車両のトラクション、走行安全性、ステアリング能力が大幅に向上します。
- 性能限界付近で走行しているときのコントロール性が高まります。
- 直進安定性が向上します。
- 上記の特徴により、シャシーのスポーティな設定が可能になります。
- ASRおよびABDにより、4輪すべてのトラクション性能が向上します。

フルタイム4WD

4WDシステムは、駆動力をフロントおよびリア・アクスルに可変配分します。フロントおよびリア・アクスルの駆動力配分とホイール回転数の補正は、トランスファ・ギヤが実行します。この駆動力配分は、フロントおよびリア・アクスルのホイール回転数の差に基づいています。トランスファ・ギヤは、悪路でも駆動力が最適なバランスで配分されるように常時制御しています。フルタイム4WDにより、最適なハンドリング特性と優れた走行安定性が高水準で維持できます。

オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）

ABDシステムは、フロントおよびリア・アクスルを個別に制御します。いずれかのアクスルの一方のホイールが空転しはじめると、そのホイールにブレーキをかけて、反対側のホイールの駆動力を確保します。
ABDは走行状況の違いを検出し、適切な制御方法を選択します。水平な砂利道で発進する場合など、トラクションがほとんどかからない状況では、エンジン低回転域からトラクション・コントロールが作動します。上り坂での発進や急加速時など、大きな推進力が必要な場合、その状況に応じてABDシステムが作動します。ロー・レンジ・モードでは、特別なオフロード走行プログラムが作動します。

アンチ・スリップ・コントロール（ASR）

アンチ・スリップ・コントロールがエンジン出力を制御することで、ホイールの空転を防ぎ、直進安定性やハンドリング性能が維持されます。

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）

PSMは、過酷な走行条件下で車体を安定させるためのアクティブ・コントロール・システムです。PSMは、ポルシェ・トラクション・マネージメント・システム（PTM）と密接に連携して制御を実行します。
PSMは、ABD、ASRの両方を作動させ、さらにアンチロック・ブレーキ・システム（ABS）やエンジン・ドラッグ・トルク・コントロール・システム（MSR）も制御して総合的に走行姿勢をコントロールします。

⚠ セーフティ・ノート

PSMは、刻一刻と変化する路面状況に追従して走行安定性を確保するものであり、決して無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。
PSMを装備していても、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。PSMを装備していても、車両の物理的限界を超えることはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を低減することもできません。

PSMの利点

- さまざまな路面状況、運転状況で最適なトラクション性能と直進安定性を確保します。
- コーナリング中、ドライバーがアクセル・ペダルやブレーキ・ペダルから足を放したときの不意な挙動を補正します。この補正は、横方向の加速度が限界に達するまで持続します。
- PSMは、車線変更時や連続したカーブを曲がるために急なステアリング操作を行ったとき、積極的に走行安定性を維持します。
- コーナリング中や変化に富んだ路面状況下でブレーキをかけたときの走行安定性を確保します。
- 急ブレーキをかけたときの制動力を高め、制動距離を短くします。

作動準備

PSMは、エンジンを始動すると自動的に作動します。

機能

ホイール、ブレーキ、ステアリングおよびエンジンに取り付けられたセンサが、以下の情報を検出します：

- 走行速度
- 進行方向（ステアリングの切れ角）
- 横方向の加速度
- 前後方向の加速度
- ヨー・モーメント

PSMは、各センサの信号からドライバーが意図する進行方向を判定します。
ステアリングの切れ角と実際の進行方向の偏差を検出し、その偏差を補正するため必要に応じて各ホイール独立して、ブレーキをかけます。さらに、エンジン出力やティプトロニックの変速動作を制御して、車両の安定性を高めます。

限界に近い状況ではPSMがドライバーに危険を知らせ、路面状況や走行状態に応じた運転を促します：
- インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・インジケータ・ランプが点滅します。
- PSM解除スイッチのインジケータ・ランプが点滅します。
- 油圧ノイズが聞こえます。
- PSMがブレーキをかけることで、減速度合いやステアリング操作力が変化します。
- エンジン出力が低下します。
- PSMがブレーキをかけたときは、ブレーキ・ペダルが振動して位置が変化します。このとき、ブレーキ・ペダルを踏む力を弱めることなく、さらに強く踏み込んでください。

PSMの作動例
- コーナリング中、フロント・ホイールの空転をセンサが検出すると、エンジン出力を抑えます。さらに、必要に応じてカーブ内側のリア・ホイールにブレーキをかけ、ステアリング・コントロール性を確保します。
- コーナリング中、リア・ホイールの空転をセンサが検出すると、カーブ外側のフロント・ホイールにブレーキをかけてステアリング・コントロール性を確保します。
- ブレーキ・システム・プレフィル：
  ドライバーがアクセル・ペダルから素早く足を放すと、急ブレーキに備えてブレーキ・システムの圧力を少し高めます。このときブレーキ・パッドが弱い力でブレーキ・ディスクに押し付けられ、ドライバーが急ブレーキをかけたときに素早く制動力が立ち上がるようにします。
- ブレーキ・ブースタ：
  急ブレーキ操作時にブレーキ・ペダルを踏む力が弱いと、ブレーキ・ブースタが4輪すべてのブレーキ・システムの圧力を高めます。

PSMおよびPTM/PTM Plusの併用
走行安定性を高めるため、PSMが作動した場合はセンター・ディファレンシャル・ロック（PTM）、さらにリア・ディファレンシャル・ロック（PTM Plus）も作動します。

知識
PSMを解除すると、各ホイールのブレーキおよびアンチ・スリップ・コントロール（ASR）も停止します。オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）は作動を続行します。

オフロードPSM（ロー・レンジ・オフロード走行プログラムのPSM）
オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）が作動すると、特にオフロード走行に適したPSMの制御モードが作動し、ホイールのトラクションを高めます。
悪路での走行性能を高めるため、オフロード走行プログラムで低速走行中はオフロードPSMの作動レスポンスが抑えられます。
ブレーキの負荷が大きいときは、オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）が自動的にOFFになり、ブレーキ・システムを保護します。このときABDは、ブレーキ・システムの温度が下がるまで作動しません。

エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール（MSR）
ホイールの空転が激しい場合、エンジン・ドラッグ・トルク・コントロール・システムがオーバーランによる駆動輪のロックアップを防ぎます。滑りやすい路面でシフトダウンした場合も同様です。

PSMの解除

▷ センター・コンソールのスイッチ**A**を押すとPSMが解除されます。
PSM解除スイッチを押してから実際にPSMが解除されるまでには、若干の遅れがあります。PSM解除スイッチのインジケータ・ランプが点灯します。
PSMが解除されると、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯します。またマルチ・ファンクション・ディスプレイにも警告メッセージが表示されます。

ブレーキをかけると、PSMを解除していても一時的にPSMが作動します。
片方の駆動輪が空転すると、PSMを解除していてもブレーキをかけて空転を抑制します。

通常走行ではPSMを作動させてください。ただし次の場合は、PSMをOFFにすることをお薦めします。
― ぬかるみや深い積雪路を走行するとき
― ぬかるみなどから脱出するとき
― スノー・チェーンを使用するとき

ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）をOFFにすると、ティプトロニックのスリップ探知機能も停止します。

警告灯

― イグニッションをONにすると、ランプ作動点検のために警告灯が点灯します。
― PSMの作動がインジケータ・ランプで表示されます。PSMを解除していても、片方の駆動輪が空転してブレーキをかけたときは点灯します。
― インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイとともに、インジケータ・ランプはPSMがOFFになっていることを表示します。
― PSMに不具合が発生すると警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。この場合、PSMが作動しません。

▷ PSMが故障したときは直ちにポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

コラプシブル・スペア・タイヤ

▷ コラプシブル・スペア・タイヤを装着して走行する場合は、PSMを解除しないでください。

けん引

▷ けん引についての情報は、「けん引とけん引によるエンジンの始動」（300ページ）を参照してください。

知識

PSMを解除した場合、各ホイールのブレーキおよびアンチ・スリップ・コントロール（ASR）も停止します。オートマチック・ブレーキ・ディファレンシャル（ABD）は作動を続行します。

PSMを再度ONにする

▷ ボタン**A**を押します。しばらくするとPSMが作動します。ボタンのインジケータ・ランプとPSM警告灯が消灯します。マルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

トレーラー・スタビリティ・マネージメント

（各国の仕様により異なります）

トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、トレーラー車両をけん引しているときに走行安定性を確保するシステムで、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）の機能の一部です。

トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、トレーラー車両の不安定な挙動を検出し、その挙動が安定するまでブレーキをかけます。

ただし、トレーラー・スタビリティ・マネージメントはあらゆる状況で走行安定性を確保できるものではありません。例えば滑りやすい路面やぬかるんだ路面では、トレーラー車両の安定性が損なわれます。また重心位置が高い車両をけん引すると、転倒の恐れがあります。

▷ この制御が作動したときは慎重にステアリングを操作してください。

▷ トレーラー車両けん引時の運転については：
「トレーラー車両を連結したときの運転」（206ページ）を参照してください。

⚠ 危 険

思わぬ事故を起こす恐れがあります。トレーラー・スタビリティ・マネージメントを装備していても、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。

走行安全性が高められていても、無謀な運転を許容するものではなく、車両の物理的限界を超えることはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を低減することもできません。

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

滑りやすい路面やぬかるみなどで、トレーラー車両のジャックナイフ現象が発生してトレーラー・スタビリティ・マネージメントの制御範囲を超えた場合は、走行安定性を維持することができません。

▷ 路面状況に応じた適切な運転を心がけてください。

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

トレーラー車両の重心位置が高いと、転倒する恐れがあります。

▷ 適切な運転を行ってください。

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

トレーラー車両をけん引しているときに速度を出し過ぎると、走行安定性を失う恐れがあります。

▷ トレーラー車両をけん引しているときは、路面状況や交通状況に応じた速度で、トレーラーの負荷を考慮した運転を心がけてください。
▷ 各国の法規制を遵守してトレーラー車両をけん引してください。
▷ 車のけん引能力や、車両およびトレーラー車両の総重量については「車両重量」(309ページ) を参照してください。

前提条件

— トレーラー車両のコネクタが差し込まれている。
— トレーラー車両の整備状況が良好である。

作動条件

— トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）がONのときに作動します。
▷ 各国の法規制を遵守してトレーラー車両をけん引してください。

知識

— トレーラー・スタビリティ・マネージメントは、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）をOFFにすると停止します。
— ブレーキ・ペダルを踏むと、ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）がOFFのときでもトレーラー・スタビリティ・マネージメントが作動します。
— 電動格納式トレーラー・ヒッチ＊を装備する車両は、ボール・ジョイントを完全に伸ばして作動位置にしてください。

＊日本仕様に設定はありません。

ABS
(アンチロック・ブレーキ・システム)

⚠ セーフティ・ノート

ABSは、急ブレーキをかけたときの走行安定性や危険回避能力を維持するものであり、決して無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。
ABSを装備していても、路面状況、天候条件、交通状況に応じた責任ある運転を心がけてください。ABSを装備していても、車両の物理的限界を超えることはできません。また、速度の出し過ぎによる事故の危険性を低減することもできません。

ABSの特徴：

— **ステアリング・コントロール性の確保**

安定したステアリング・コントロール性能を維持します。

— **優れた走行安定性**

ホイール・ロックによるスリップを回避します。

— **制動距離の短縮**

ほとんどの状況で、ブレーキをかけたときの制動距離が短くなります。

— **ホイール・ロックの回避**

ホイールがロックしたときに生じるタイヤのフラット・スポットを回避できます。

機能

ABSが最も効果を発揮するのは、緊急回避が必要な状況でブレーキをかけたときです。このような状況下でABSは走行安定性を確保し、安定したステアリング・コントロール性を維持します。

ABSは、あらゆる路面状況下で、停車する直前までホイールのロック（車両のスリップ）を回避します。

ブレーキをかけているときにホイールがロックしはじめると、ABSが作動します。

ABSが作動すると、小刻みなポンピング・ブレーキをかけているようにブレーキ・ペダルが振動します。ドライバーは、このペダルの振動やジャダー音からABSが作動していることを感じ取ることができます。同時に、この振動がドライバーへの警告にもなります。

▷ 急ブレーキ操作が必要な場面では、安全な速度になるまでしっかりとブレーキ・ペダルを踏み続けてください。ABSが作動してブレーキ・ペダルが振動しても、ペダルを踏む力を緩めないでください。

警告灯

エンジンがかかっているときにインストルメント・パネルのABS警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示される場合、何らかの不具合によりABSが停止していることを示します。

この場合、ブレーキ・システムは**ロックを回避できない状態**、つまりABSを装備していない車と同じ動作になります。

▷ ABSを装備していない車両と同じように慎重に運転してください。
さらに思わぬ悪影響を及ぼすような不具合の発生を防止するため、直ちにポルシェ正規販売店でABSシステムの点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ABSコントロール・ユニットは、ポルシェ社が認可した正規サイズのタイヤ径に合わせてプログラムされています。不正なタイヤを使用した場合、プログラムと異なったホイール回転速度が検出され、ABSが停止することがあります。

オフロードABS（ロー・レンジ・オフロード走行プログラムのABS）

オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）が作動すると、特にオフロード走行に適したオフロードABSが自動的に作動します。

オフロードを走行中にブレーキをかけると、制動距離を短縮するためにタイヤがスリップする（路面に食い込ませて制動力を高める）ことがあります。

ドライバーがステアリングを操作する必要がある場合は、オフロード走行プログラムが自動的に短時間解除され、ステアリング・コントロール性を維持します。

ヒルホルダー発進アシスタント

セレクタ・レバーが“**D**”または“**M**”の位置にあると、上り坂で停車したときにヒルホルダー機能が作動して、車両の思わぬ後退を防ぎます。このとき、ドライバーはブレーキをかける必要がありません。

ヒルホルダー機能が作動しない場合：
- セレクタ・レバーが“**N**”または“**R**”の位置にある。
- 走行制限プログラムが作動している。
- （悪路などで）いずれかのホイールが浮いている。

⚠ セーフティ・ノート

ヒルホルダー機能を装備していても、周囲の状況に応じた責任ある運転を心がけてください。ヒルホルダー機能は、危険回避能力を高めるための装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐためのものではありません。
ヒルホルダー機能により、車両の物理的限界を超えることはできません。またヒルホルダーの発進アシスト機能は、凍結路や滑りやすい路面では役立たない場合があります。

エンジン・ブレーキ・サポート

（下り坂走行アシスタント）

エンジン・ブレーキ・サポート・システムは、急勾配や冬季の山道などで、20km/h以下の速度でゆっくりと坂道を下るときに使用します。
下り坂を走行中にアクセル・ペダルを踏まないかぎり、エンジン・ブレーキ・サポートが作動してブレーキをかけます。
いずれか1輪以上のホイールのグリップが失われると、グリップ力が確保されているホイールのブレーキを制御します。
ただし通常のブレーキと同様、路面状況（凍結路や滑りやすい路面など）によってエンジン・ブレーキ・サポート・システムの能力が制限されます。

⚠ 警 告

滑りやすい路面ではエンジン・ブレーキの効果が役立たず、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ 常に状況に応じた責任ある運転を心がけてください。

前提条件
- 下り坂を走行中、アクセル・ペダルを踏んでいないこと。
- 速度が約20km/hを超えていないこと。
- セレクタ・レバーが“**D**”、“**M**”または“**R**”の位置にあること。

知識

エンジン・ブレーキ・サポート・システムは、前進および後退に関係なく下り坂で作動します。

レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション

エア・サスペンション装備車は、5種類の車高を選択できます。
走行速度に応じて、あらかじめ決められた車高に自動調整されます。
積載している荷物の重さに関係なく、一定の車高を維持します。

知識

オフロード・レベルおよびスペシャル・オフロード・レベルでは一般道を走行しないでください。

知識

短時間で車高を何度も切り替えると、コンプレッサーがオーバーヒートすることがあります。コンプレッサーが冷えるまで数分待ってから、再度レベリング・システムを操作してください。

ノーマル・レベル

地上高が約215mmに調整されます。

オフロード・レベル

この車高は、不整地（ラフロード）や野原、林道などを走行するときに適しています。
地上高がノーマル・レベルより約26mm高くなります。
オフロード・レベルは、約80km/h以下で走行する場合に手動で変更できます。約80km/hを超えると、自動的にノーマル・レベルに戻ります。
オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）に切り替えると、自動的にオフロード・レベルが選択されます。

スペシャル・オフロード・レベル

この車高は、地上高を最大まで上げる必要があるときだけ使用してください。地上高がノーマル・レベルより約56mm高くなります。
スペシャル・オフロード・レベルを選択すると、メータ・パネルの警告灯 が点灯します。
スペシャル・オフロード・レベルは、約30km/h以下で走行する場合に手動で変更できます。約30km/hを超えると、自動的にオフロード・レベルに戻ります。

ロー・レベル

この車高は高速走行に適しています。
走行速度が約125km/hを超えると自動的に選択され、地上高がノーマル・レベルより約24mm低くなります。
約40km/h以下になると、自動的にノーマル・レベルに戻ります。

知識

センター・コンソールのロッカー・スイッチを操作すると、約40km/h以下でもロー・レベルを選択できます。

⚠ 注 意

シャシー部品や車体のアンダーボディを損傷する恐れがあります。

地上高が低くなるため、縁石などがある場所で車を動かすと車体の下回りが接触する恐れがあります。

▷ 発進する前に、必ずノーマル・レベルに戻してください。

この車高は、ラゲッジ・コンパートメントへの荷物の積み下ろしを容易にするために使用します。ノーマル・レベルより約54mm低くなります。走行速度が約5km/hを超えると、自動的にノーマル・レベルに戻ります。

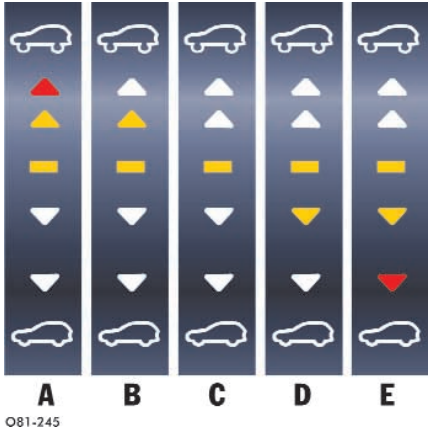
車高の手動設定

前提条件

ー イグニッションをONにします。
ー すべてのドアを閉めます。

知識

イグニッションをOFFにすると、そのときの車高が記憶されます。



Aースペシャル・オフロード・レベル
Bーオフロード・レベル
Cーノーマル・レベル
Dーロー・レベル
Eーローディング・レベル

車高を上げる

▷ ロッカー・スイッチを前方 ⬆ に短く押します。
1回押すと車高が1段階上がります。

車高を下げる

▷ ロッカー・スイッチを手前 ⬇ に短く引きます。
1回引くと車高が1段階下がります。

設定車高の表示

設定した車高は、ロッカー・スイッチ横の各レベルを示すインジケータ・ランプ（**イラスト参照**）で表示されます。
車高を切り替えているときはインジケータ・ランプが点滅します。その後、切り替えが完了すると点灯状態になります。
また車高の切り替え状況は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにも表示されます。

表示の例外

ノーマル・レベルからロー・レベル、またはその逆に自動的に切り替わった場合は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに表示されません。

警告メッセージ

システムに不具合が発生した場合、またはコンプレッサーがオーバーヒートして停止した場合は、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにさまざまなメッセージが表示されます。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。
▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。
▷ システムの故障修理に関してはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
▷ 過負荷防止機能が作動してコンプレッサーが停止した場合は、コンプレッサーが冷えるまで数分待ってください。コンプレッサーが十分に冷えると、システムが再使用できます。

コントロール・システムを解除した場合、またはコラプシブル・スペア・タイヤを装着した場合は、警告メッセージが表示されます。これは故障を示すものではありません。
通常の状況に戻ると警告メッセージが消えます。

ジャッキ・アップ

ジャッキ・アップを行うときは：

▷ 手動でノーマル・レベルを選択し、レベリング・システムを解除してください。

レベリング・システムの解除

1. イグニッションをONにします。
2. ロッカー・スイッチを前方に5～10秒押します。
   メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示され、ジャッキ・アップができるようになります。

レベリング・システムの再作動

1. イグニッションをONにします。
2. ロッカー・スイッチを前方に5～10秒押します。または、
3. 発進すると、レベリング・システムが自動的にONになります。

鉄道、カーフェリー、トランスポータによる車両の輸送

▷ 車両をホイールだけで固定してください。

ポルシェ・アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）

メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに、さまざまなメッセージが表示されます。

▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

ボタンを押して、3種類のシャシー設定を選択できます。

— コンフォート
— ノーマル
— スポーツ

「コンフォート」または「ノーマル」を選択した場合、スポーティな運転を行うと自動的に「スポーツ」設定に切り替わります。

シャシー設定の表示

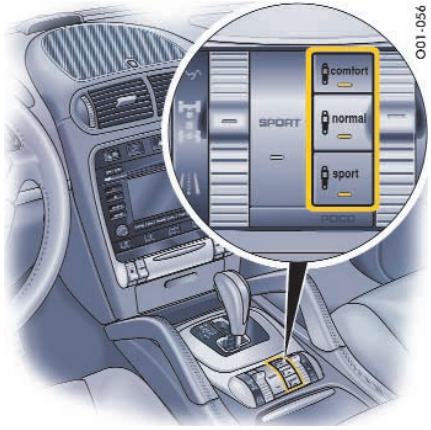
選択したシャシー設定ボタンのランプが点灯します。さらに、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに選択したシャシー設定が約12秒間表示されます。

警告メッセージ

システムに不具合が発生すると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。

▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。

▷ システムの故障修理に関してはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。



シャシー設定の選択

1. イグニッションをONにします。
2. お好みの設定ボタンを押します。

知識

イグニッションをOFFにすると、そのときのシャシー設定が記憶されます。

ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC）

機能

ポルシェ･ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC）は、走行中の車体の傾き（ローリング）を抑制するシステムです。フロントおよびリア・アクスルのアンチ・ロール・バーを積極的にコントロールして、走行安全性と快適性を高めます。

PDCCを個別に切り替えることはできません。
ポルシェ･アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）でシャシー設定を切り替えると、PDCCが自動的に切り替わります：
— コンフォート
— ノーマル
— スポーツ
PDCCは、該当するオンロード走行プログラムを自動的に起動します。
▷ シャシー設定の選択については：「ポルシェ･アクティブ・サスペンション・マネージメント（PASM）」（173ページ）を参照してください。

ロー・レンジがONの場合、PDCCが該当するオフロード走行プログラムを起動します。
▷ ロー・レンジのON/OFFの切り替えについては：「オンロードおよびオフロード走行プログラム」（157ページ）を参照してください。

警告メッセージ

システムに不具合が発生すると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示されます。
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについては：「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。
▷ 状況の変化に合わせて慎重に運転してください。
▷ システムの故障修理に関してはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

油圧フルードの点検

油圧フルードの定期点検と交換は、最寄りのポルシェ正規販売店にご依頼ください。その他の重要な情報は、本書の「車のお手入れ」の章を参照してください。
▷ 「メンテナンス上の諸注意」（227ページ）を参照してください。

オフロード走行

オフロード走行を行う前に、この項の説明を十分理解してください。
この車の優れたオフロード性能をご理解いただけるとともに、目的地までの安全な走行に役立ちます。
はじめてオフロードを走行する場合は、適度な地形の場所で練習することをお勧めします。

スポーツ・デザイン・パッケージ装備車

⚠ 警 告

スポーツ・デザイン・パッケージ装備車は、フロント、リアおよびサイドの車体下回りの部品が塗装されています。オフロードを走行すると、これらの部品が損傷する恐れがあります。

- ▷ オフロード走行時は、部品が損傷しないよう十分注意してください。
- ▷ 車体の下回りと障害物の間に十分な空間があることを確認してください。
- ▷ 水たまりや浅瀬の走行は避けてください。
- ▷ サイド・メンバ・トリムおよびリア・ホイール・スポイラに足を掛けないでください。

メンテナンス・ノート

オフロードを走行すると、通常よりもはるかに激しく部品が消耗します。車を安全に使用するためには、オフロードを走行するたびに専門的な点検とメンテナンスを実施してください。砂塵、埃の粒子などは研磨作用があり、これらの異物がブレーキ・システムに混入すると、ブレーキが過度に摩耗したり、思わぬブレーキ動作を引き起こすことがあります。

オフロード走行のルール

- ▷ 最低地上高に注意してください。
  詳しくはテクニカル・データ「地上高」（310ページ）を参照してください。
- ▷ オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）を作動させてください。
  「オフロード走行プログラムに切り替える」（158ページ）を参照してください。
- ▷ 荷物をしっかりと固定してください。
  荷物と荷物の固定については：
  「荷物の積載」（190ページ）を参照してください
- ▷ 運転席から路面状況がわかりにくい場合は、車から降りて直接確認してください。この動作を怠ると、思わぬ障害物で車体を損傷する恐れがあります。
- ▷ 走行中はエンジンを止めないでください。パワー・ステアリングが作動しなくなります。
- ▷ ゆっくりと一定の速度で走行してください。
- ▷ 常に全ホイールが接地した状態で運転してください。
- ▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水深、底の状態、流れの速さを確認してください。
- ▷ 障害物（岩、穴、丸太、わだちなど）に十分注意してください。
- ▷ 走行中、スライディング／チルティング・ルーフやパノラマ・ルーフ・システム、サイド・ウィンドウを必ず閉じてください。
- ▷ 路肩に目印がある場合は、そこから外れないでください。
- ▷ 自然を大切にし、環境を破壊しないでください。進入禁止の標識には必ず従ってください。

オフロード走行用のドライビング・システム

オフロード走行では、特別なトランスミッションおよびシャシー・コントロール・システムやオフロード走行プログラムが使用できます。

- オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）
- センター・ディファレンシャル・ロック
- リア・ディファレンシャル・ロック
- オフロードPSM
- オフロードABS

▷ シャシー・コントロール・システムについては：
「トランスミッションおよびシャシー・コントロール・システム」（161ページ）を参照してください。

オフロード走行前

タイヤ

▷ トレッドの深さとタイヤ空気圧を点検します。

▷ トレッドの損傷がないか点検し、異物（石など）があるときは取り除きます。

▷ バルブ・キャップを紛失しているときは取り付けます。

ホイール・リム

▷ リムにへこみや損傷があるときは、オフロードを走行する前に取り替えてください。

スポーツ・デザイン・パッケージ装備車

⚠ 警 告

スポーツ・デザイン・パッケージ装備車は、フロント、リアおよびサイドの車体下回りの部品が塗装されています。オフロードを走行すると、これらの部品が損傷する恐れがあります。

▷ オフロード走行時は、部品が損傷しないよう十分注意してください。

▷ 車体の下回りと障害物の間に十分な空間があることを確認してください。

▷ 水たまりや浅瀬の走行は避けてください。

▷ サイド・メンバ・トリムに足を掛けないでください。

オフロード走行後

オフロード走行では、通常のオンロード走行より大きな負荷がかかります。

▷ オフロード走行後は、点検とメンテナンスを行うことをお勧めします。目視できないような損傷でも事故につながる危険があり、走行中の快適性も損なわれます。早めの点検で損傷の拡大を防ぐことができます。

⚠ 注 意

車の損傷は、乗員や通行者を事故に巻き込む恐れがあります。

▷ 故障の疑いがある場合は、ポルシェ正規販売店で点検してください。

▷ タイヤの異常（亀裂、損傷、過剰な空気圧、異物の挟まり）がないか確認してください。必要な場合はタイヤを交換してください。

▷ 損傷がある場合は、ポルシェ正規販売店で早めに修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

推奨手順

▷ オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）を解除します。

▷ ヘッドランプおよびテール・ランプを清掃し、損傷がないか点検します。

▷ フロントおよびリアのナンバー・プレートを清掃します。

▷ 高圧洗車装置でタイヤ・トレッドを洗浄して異物を取り除きます。

▷ 高圧洗車装置でホイール、ホイール・ハウジング、車体下周りを洗浄します。

▷ 車体に木の葉や枝などが挟まっていないか点検します。
これらの異物はフューエル・ライン、ブレーキ・ホース、アクスル・ジョイント・ブーツ、ドライブ・シャフトなどを損傷する原因となり、車両火災の原因にもなります。
▷ オフロード走行後は、車体フロア全体、タイヤ、ボディ、ステアリング、シャシー、エキゾースト・システムの損傷がないか必ず点検してください。
▷ ぬかるみ、砂利道、水たまり、浅瀬などを長時間走行した場合は、ブレーキ・ディスク、ブレーキ・パッド、ホイール、アクスル・ジョイントを清掃および点検してください。
▷ オフロード走行後に振動が激しくなった場合は、ホイールに異物がないか点検してください。
異物があるとホイール・バランスが損なわれ、振動の原因になることがあります。この場合は異物を取り除くと、振動が解消します。

上り坂走行

⚠ 危 険

車が転倒すると、人命にかかわる負傷や、車体を損傷する恐れがあります。

▷ 上り坂では方向転換しないでください。
▷ 急勾配で車が上がらない場合は、必ずリバース・ギヤに入れて坂を下ってください。
▷ 土手や上がれそうにない急勾配の場所には進入しないでください。
▷ 車体が傾きはじめた場合は、直ちに傾いた側にステアリングを切ってください。
▷ 上り坂走行中、アイドリングやニュートラルで重力に任せて後退しないでください。また、この状態でフット・ブレーキを多用するのは非常に危険です。

知識
▷ 急勾配の坂道を上り下りするときは、ロー・レンジに切り替えてください。

知識
▷ 走行中は変速したり、停車しないでください。
▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。

上り坂でのトラクション

知識
▷ 必要に応じてロー・レンジを作動させ、ディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識
▷ 上り坂を走行するときは慎重にアクセル・ペダルを踏み込んで、ホイールのトラクションが失われない（空転しない）ように走行してください。
▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。
▷ 速度を落としてください。

下り坂走行

⚠ 危 険

車が転倒すると、人命にかかわる負傷や、車体を損傷する恐れがあります。

▷ 下れそうにない急勾配の場所には進入しないでください。

▷ 下り坂ではステアリング・ホイールを直進位置にして、速度を落としてください。

▷ 車体が傾きはじめた場合は、直ちに傾いた側にステアリングを切ってください。

▷ 下り坂走行中、アイドリングやニュートラルで重力に任せて進まないでください。

▷ エンジン・ブレーキを使用してください。

エンジン・ブレーキだけでは不十分な場合、フット・ブレーキを使用してください。

知識

▷ オフロード走行プログラム（ロー・レンジ）を作動させてください。オフロードABSが自動的に作動します。

知識

▷ 走行中は変速したり、停車しないでください。

▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。

オフロードABSの特別な制御により、フロント・ホイールが意図的に短時間ロックされ、ぬかるんだ路面に効果的に食い込みます。このときロックされたホイールはスリップし、ステアリング操作ができなくなります。

▷ 未舗装の急勾配を下るときは、ブレーキ操作を慎重に行い、滑らないように注意してください。

ハンプ（突起物）

▷ 地上高が十分にあることを確認してください。テクニカル・データ「地上高」（310ページ）を参照してください。

知識

▷ 必要に応じてロー・レンジを作動させ、ディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識

▷ ハンプ（突起物）を乗り越える前にアクセル・ペダルを緩め、慣性力を利用して乗り越えてください。ハンプを乗り越えるときに車がジャンプすることを防止し、勢いよく着地することを防げます。

▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。

水たまりや浅瀬の走行

▷ 地上高が十分にあることを確認してください。テクニカル・データ「地上高」（310ページ）を参照してください。

⚠ 危 険

車内に水が浸入すると、水没事故につながる恐れがあります。また、水の浸入によりエンジンや部品が損傷する恐れがあります。

▷ 水たまりや浅瀬を走行する場合は、水深**A**、底の状態、流れの速さを確認してください。水深**A**が55.5cm（スペシャル・オフロード・レベル時）を超える場所は走行しないでください。

▷ ドア・シルやラバー・シールがきれいになっているか、走行前に点検してください。

▷ 水深がある場所や流れの速い場所には進入しないでください。山間部の小川など、深く流れの速い場所では意図した軌道から外れてしまうことがあります。

▷ 車体前部が水をかぶらないように適切な速度で走行してください。

▷ 水たまりや浅瀬を走行中は、決してドアを開けないでください。

汚れが付着するとブレーキの効きが悪くなります。

▷ ブレーキが汚れていないか点検し、必要に応じて清掃してください。

水たまりや浅瀬を長時間走行すると、ドライブ・ベルトが滑りやすくなり、パワー・ステアリングが故障する恐れがあります。

▷ パワー・ステアリングが故障すると、ステアリング操作に大きな力が必要です。

電気系統が故障する恐れがあります。

▷ 塩水の中を走行しないでください。

知識

▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。
▷ 走行中は変速したり、停車しないでください。水たまりや浅瀬では、抵抗が大きく地面が滑りやすいため、発進できなくなることがあります。
▷ 水たまりや浅瀬を横切る場合は、浅い場所から歩行速度で進入してください。
▷ 地形を確認した後、最短距離で渡ってください。
▷ 水たまりや浅瀬に高速で進入しないでください。車体前部が水をかぶり、エンジンや部品が損傷する恐れがあります。
▷ 状況の変化に十分対処できるよう、慎重に運転してください。
▷ ゆっくりと一定の速度で走行してください。
▷ 方向転換しないでください。
▷ 途中で渡り切れなくなった場合は、リバース・ギヤに入れて後退で水から出てください。

水たまりや浅瀬を長時間走行すると、パワー・ステアリング・ポンプやオルタネータが故障する恐れがあります。

▷ パワー・ステアリング・ポンプが故障すると、ステアリング操作に大きな力が必要です。

知識

水たまりや浅瀬を走行した後は、特別な点検が必要です。

▷ タイヤ・トレッドから泥を落としてください。
▷ 水たまりや浅瀬を走行した後はブレーキを軽くかけて、ブレーキを乾かしてください。

障害物

⚠ 注 意

不適切な方法で障害物を乗り越えると、車体下回りやシャシー部品を損傷する恐れがあります。

▷ 常に地上高に注意してください。
▷ 木の幹や岩などの障害物を乗り越えるときは、片方のフロント・ホイールが障害物の中央を通過するようにして、ゆっくり走行してください。
▷ リア・ホイールも同様に障害物を乗り越えてください。

知識

▷ 必要に応じてロー・レンジを作動させ、ディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識

▷ 必要に応じて同乗者の指示を受けてください。
▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。
▷ 速度を落としてください。

砂上走行

知識

▷ 必要に応じてロー・レンジを作動させ、ディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識

柔らかい砂道は、オフロード走行の中でも特に運転が難しい路面です。
正しい方法で運転しないと、すぐに立ち往生してしまいます。

▷ すみやかに通過し、決して途中で停車しないでください。立ち往生する恐れがあります。
▷ わだちが浅く、砂で覆われていない場合、また地上高に余裕がある場合は、わだちに沿って走行してください。
地上高に注意してください。テクニカル・データ「地上高」（310ページ）を参照してください。
▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。

柔らかい砂の斜面を走行する場合

▷ ロー・レンジを作動させ、**“M”**の位置（マニュアル・モード）を使用してください。

万一、立ち往生した場合は：
ホイール・スピンを避けてください。木の枝やマットなどを使用してトラクションを確保し、脱出してください。

わだち

オフロードや砂利道の多くでは、他の車が走行した跡のわだちができています。

▷ 地上高に注意してください。テクニカル・データ「地上高」（310ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

わだちが深い場所を走行すると、車体の下周りを損傷する恐れがあります。

▷ 地上高に十分注意してください。
▷ わだちが深すぎるときは、走行しないでください。

知識

▷ 必要に応じてロー・レンジを作動させ、ディファレンシャル・ロックを使用してください。

知識

▷ 片方のホイールが路肩の草の上を通過するように走行すると、比較的容易にわだちを通過することができます。
▷ エンジンを高回転（2,500rpm以上）にしないでください。
▷ 速度を落としてください。

ラゲッジ・コンパートメント、ローディング・スペースおよび収納スペース

リア・シートを倒す、戻す 183
ローディング・スペース 186
カーゴ・マネージメント・システム..... 187
荷物の積載 190
ラゲッジ・コンパートメント・カバー... 191
ラゲッジ・セーフティ・ネット 192
スキー・バッグ..... 194
ルーフ・トランスポート・システム..... 196
収納スペース 197
カップ・ホルダ..... 200
灰皿..... 202
シガー・ライタ..... 203

リア・シートを倒す、戻す

リア・シートは分割式です。それぞれを個別に倒してラゲッジ・スペースを広げることができます。

⚠ 注 意

バックレストだけを倒すと、シート・クッション、バックレストおよびシートベルトを損傷する恐れがあります。

▷ シート・クッションとバックレストは、必ず一緒に倒してください。

リア・シートを倒す

ラゲッジ・セーフティ・ネットが取り付けられている場合、先ず左側のシート・クッションをまっすぐ起こし、次に左側のシート・バックレストを前方に倒します。

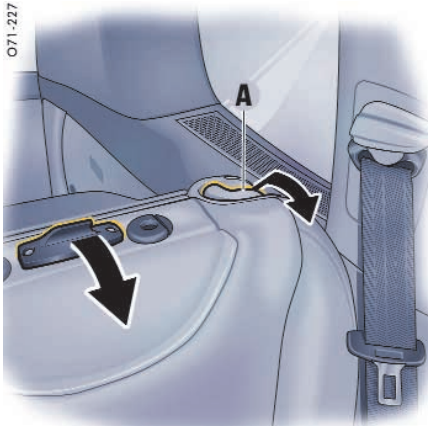
4ゾーン・オート・エアコン装備車：

セーフティ・ボタン

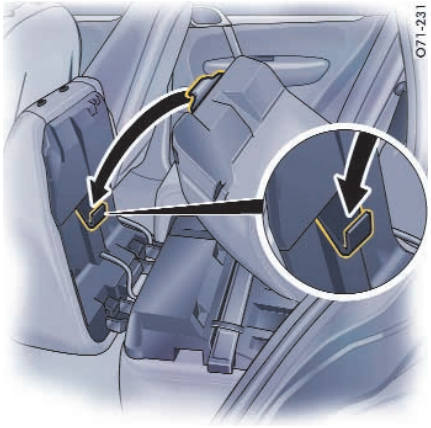
▷ リア・シートを倒す前に、運転席ドアのアームレストにあるセーフティ・ボタンを押します。
エアコンのリア・コントロール・パネルの機能が停止し、エアコンが不意に作動することを防止できます。スイッチのインジケータが点灯します。

1. フロント・シートを前に動かします。
2. バックレストを倒すために、ヘッドレストをバックレストから取り外します。「ヘッドレスト」（31ページ）を参照してください。
3. シート・クッションのループ**A**部を引き上げます。

4. シート・クッションをまっすぐ起こします。

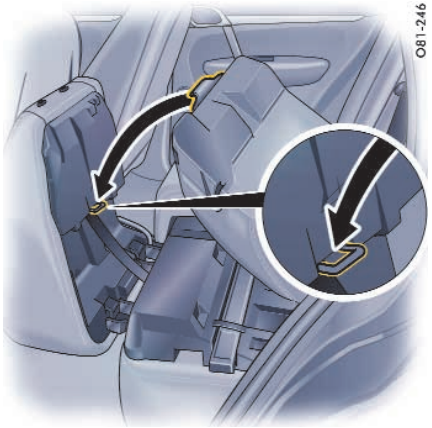


5. リリース・レバー**A**を引き、バックレストを倒します。



リア・シート（コンフォート・シート装備車）

6. コンフォート・シート装備車：
バックレストのサポート・ブラケットをシート・クッションのサポート・フックに差し込みます（矢印）。



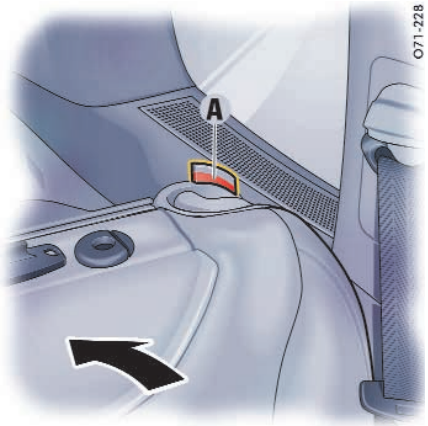
リア・シート（スポーツ・シート装備車）

6. スポーツ・シート装備車：
バックレストのサポート・ブラケットをシート・クッションのフックに差し込みます（矢印）。

⚠ 注 意

バックレストのサポート・ブラケットがシート・クッションのフックに確実に差し込まれていないと、シート・カバーを損傷する恐れがあります。

▷ サポート・ブラケットをフックにしっかりと差し込んでください。



7. ヘッドレストをシート・クッションのガイド穴に差し込みます。

リア・シートを元に戻す

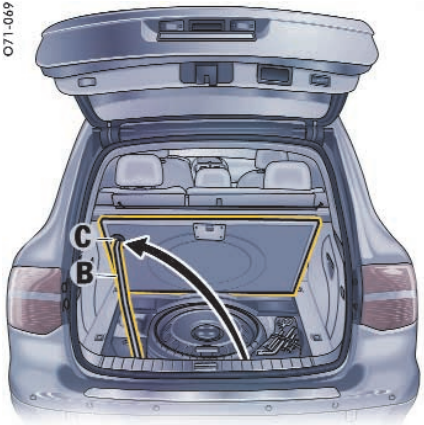
1. ヘッドレストをシート・クッションから取り外します。
2. シートベルトを引っ掛けないよう気をつけてください。バックレストを起こし、ロック音を確認します。赤い「確認フラグ」**A**が完全に下がっているか確認してください。

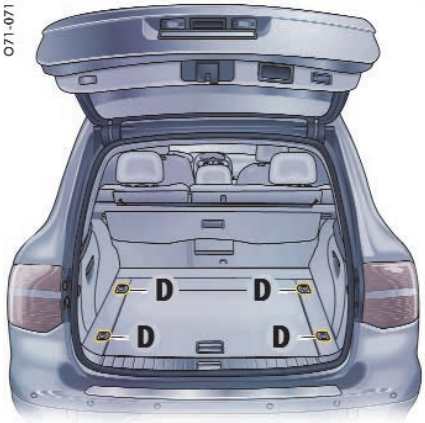
⚠ 警 告

急ブレーキや事故の際に、乗員が怪我をしたり車が損傷する恐れがあります。

▷ シート・クッションと成型材の間に物を置かないでください。

3. シート・クッションをバックレストの下に押し込みます。シートベルトのバックルに手が届くことを必ず確認してください。
4. ヘッドレストをバックレストに差し込みます。
「ヘッドレスト」（31ページ）を参照してください。





ローディング・スペース

ラゲッジ・コンパートメント・フロアの許容積載重量は400kgです。重い荷物は、床面全体に均一に荷重がかかるように積んでください。

▷ 荷物の積載とラゲッジについては：「荷物の積載」（190ページ）を参照してください。

ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開く

1. ハンドル**A**を引いてラゲッジ・コンパートメント・フロアを持ち上げます。
2. サポート・アーム**B**をホルダーから外し、ラゲッジ・コンパートメント・フロアの穴**C**に差し込みます。

知識

コラプシブル・スペア・タイヤ装備車では、サポート・アーム**B**を使用しません。

ラゲッジ・コンパートメント・フロアを閉める

1. ラゲッジ・コンパートメント・フロアをわずかに持ち上げ、サポート・アーム**B**をフロアのホルダーに戻します。
2. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを閉めます。

タイダウン・リング

ラゲッジ・コンパートメントの荷物が動かないように固定できます。タイダウン・ベルトまたはラゲッジ・ネットをタイダウン・リング**D**に固定します。

▷ 荷物を固定するときは、各リングに均等に荷重をかけてください。

知識

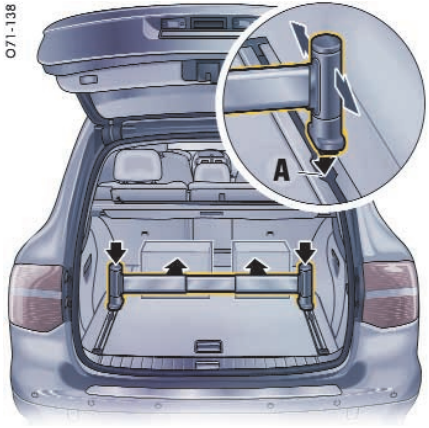
タイダウン・リングは、衝突事故の際に荷物を支えることができません。

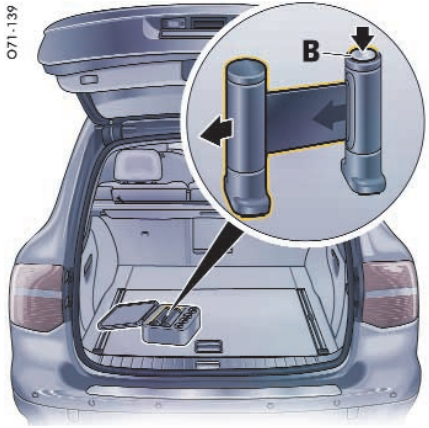
カーゴ・マネージメント・システム

カーゴ・マネージメント・システムは、ラゲッジ・コンパートメントの荷物を固定するための調整式システムです。

このシステムは、2本のテレスコピック・レール、テレスコピック・バー、4個のタイダウン・リング、ストラップ・リールおよびリバーシブル・マットで構成されます。リバーシブル・マットを裏返すと、荷物のすべり止めになります。

▷ 重量物と荷物の積み込みについては：「荷物の積載」（190ページ）を参照してください。





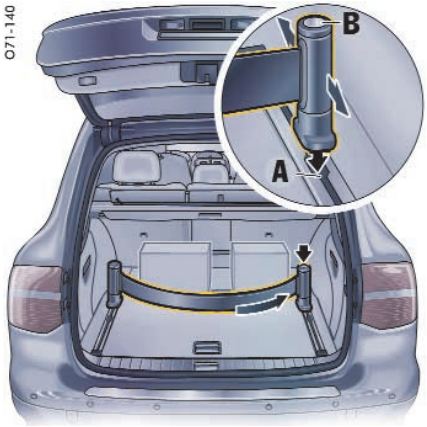
テレスコピック・バーの取り付けと調整

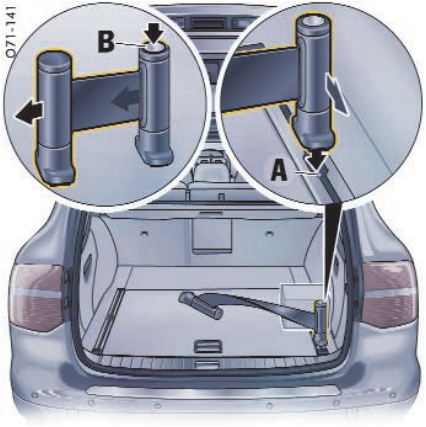
1. テレスコピック・バー左右の2つの部品を、取り付けレールの開口部**A**に取り付けます。
2. 取り付けバー（エンド・エレメント）を下に押し、荷物を押さえ付けてください。バーを適切な位置に固定すると、荷物が動かなくなります。
3. 取り付けバー（エンド・エレメント）を解除します。
4. 取り付け部品（エレメント）が、荷物を押さえる位置で固定されているか確認します。

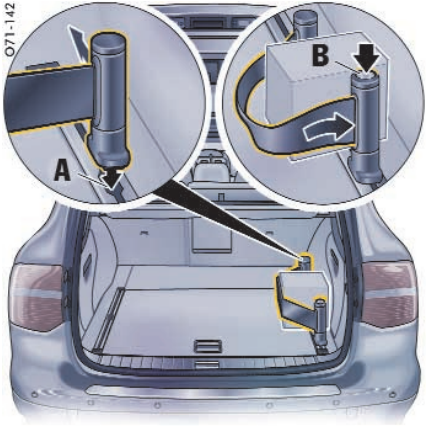
ストラップ・リールの取り付けと調整

ストラップ・リールは、車載バッグの中にタイダウン・リングとともにラゲッジ・コンパートメントかスペア・ホイール・ウェルに格納されています。

1. バッグからストラップ・リールを取り出します。
2. ストラップ・リールの取り付けバー（エンド・エレメント）のボタン**B**を押し、両方の部品を2本の取り付けレールの幅に合わせて引き伸ばします。







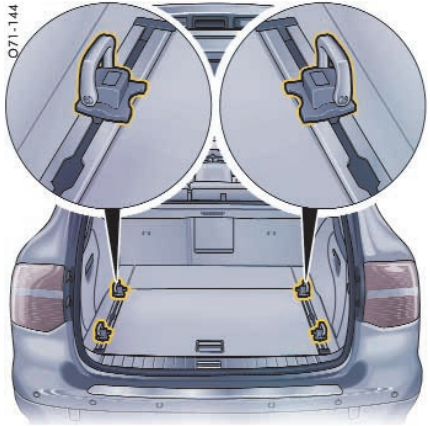
3. ストラップ・リール左右の取り付けバーを、取り付けレールの開口部**A**に取り付けます。
4. 左右の取り付けバーを下に押し、荷物に押し付けます。
5. 取り付けバー（エンド・エレメント）を解除します。
6. 取り付け部品（エレメント）が荷物を押さえる位置で固定されているか確認します。
7. ボタン**B**を押し、荷物が動かないようにストラップを張ります。
8. ボタン**B**を解除します。

ストラップ・リールの片側使用

1. 取り付けバー（エンド・エレメント）のボタン**B**を押し、左右の取り付け部品（エレメント）を少し離します。
2. 片方の取り付け部品（エレメント）をレールの開口部**A**に押し込み、適切な位置までスライドさせます。
3. もう片方の取り付け部品（エレメント）を同じ開口部**A**に押し込み、反対側へスライドさせます。
4. 取り付け部品（エレメント）が荷物を押さえる位置で固定されているか確認します。
5. ボタン**B**を押してストラップを荷物の周りに引き回し、ストラップを張って荷物が動かないようにします。
6. ボタン**B**を解除します。

タイダウン・リングの取り付けと調整

タイダウン・ストラップまたはラゲッジ・ネットは、必ずタイダウン・リングに固定してください。
荷物を固定するときは、各リングに均等に荷重をかけてください。
タイダウン・リングは、衝突事故の際に重い荷物を支えることができません。



1. タイダウン・リングを取り付けレールの開口部**A**に取り付けます。
2. ボタン**C**を下に押し、タイダウン・リングを必要な方向へスライドさせます。
3. ボタン**C**を解除します。
4. タイダウン・リングが押した位置で固定されているか確認します。
5. 同じ方法で、残りのタイダウン・リングを取り付けます。

知識

左右のタイダウン・リングは、必ず互いに向き合うように取り付けてください。

荷物の積載

⚠ セーフティ・ノート

荷物を固定しなかったり不適切な位置に載せると、ブレーキをかけたときや車の向きを変えたとき、事故を起こしたときに乗員に危険を及ぼす恐れがあります。荷物は必ず固定してください。

▷ 荷物は、必ずラゲッジ・コンパートメントなど所定の位置に入れてください。室内（シート前方やシートの上）には置かないでください。

▷ 可能な限り、シート・バックレストで荷物を支えてください。このとき、バックレストを必ずロックしてください。

▷ 可能な限り、荷物は乗員のいないシートの後ろに置いてください。

▷ 重量物はできるだけフロアの前方に寄せ、軽い荷物はその後ろに載せてください。

▷ 荷物はシート・バックレストの上端を越えない高さにしてください。

▷ ラゲッジ・セーフティ・ネットやラゲッジ・コンパートメント・カバーを使用して、荷物が室内に飛び込まないようにしてください。ラゲッジ・コンパートメント・カバーの上に物を載せたまま運転しないでください。

▷ 後部座席に乗員がいない場合、リア・シートベルトを使用してバックレストを支えることもできます。外側座席のシートベルトを斜めに渡し、それぞれ反対側の外側座席のバックルにはめてください。

▷ リア・ウィンドウ・ヒータ熱線およびサイド・ウィンドウのTVアンテナを傷付けないでください。

ラゲッジ・ネット

▷ 荷物は、ラゲッジ・ネットで完全に覆ってください。ラゲッジ・ネットは、軽い荷物を固定するためだけに使用してください。

タイダウン・ベルト

▷ ゴム・ベルトやゴムひもなどで荷物を固定しないでください。

▷ ベルトやひもを、鋭利な物の上にかけないでください。

▷ 固定具の使用上の注意を遵守してください。

▷ せん断強度が700kg以上、幅が25mm以内のベルトだけを使用してください。

▷ 荷物の上でベルトを交差してください。

運転

▷ 車のハンドリング性能は荷物の重さに応じて変化します。車の挙動を確認して慎重に運転してください。

▷ 最大総重量および最大軸荷重を超過しないでください。

テクニカル・データ「車両重量」（309ページ）を参照してください。

▷ リア・ウィンドウまたはリア・リッドを開いたまま運転しないでください。排出ガスが室内に入る恐れがあります。

▷ タイヤ空気圧を積載量に合わせて調節してください。

タイヤ空気圧を変更したときは、タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定も更新しなければなりません。

マルチ・ファンクション・ディスプレイのタイヤ空気圧モニタリング・システムについては：

「車の荷重とタイヤ空気圧の設定」（119ページ）を参照してください。

▷ 部分積載と最大積載量については：

テクニカル・データ「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。

ラゲッジ・コンパートメント・カバー

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを使用すれば、車外から荷物を隠すことができます。

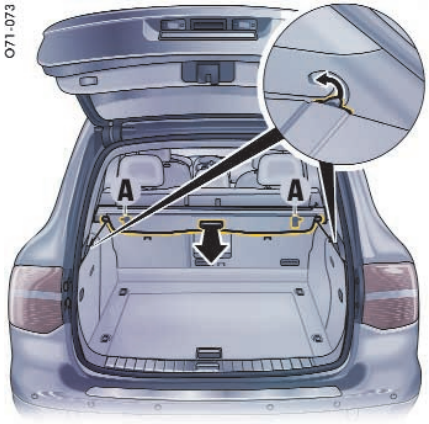
▷ ラゲッジ・コンパートメントに荷物を積んでいるときは、必ずラゲッジ・コンパートメント・カバーを使用してください。ラゲッジ・コンパートメント・カバーの上には物を載せないでください。

▷ サポート・ブラケット**A**にバッグや荷物を掛けないでください。サポート・ブラケットが壊れることがあります。

⚠ 警 告

急ブレーキ、急ハンドル、または事故により荷物が室内に飛び込み、乗員が怪我をする恐れがあります。

▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーの上に荷物を載せないでください。

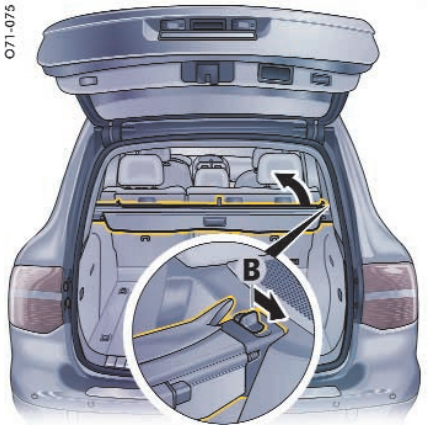


ラゲッジ・コンパートメント・カバーを引き出す

▷ ハンドルを持ってラゲッジ・コンパートメント・カバーを引き出し、左右のガイドに差し込みます。

ラゲッジ・コンパートメント・カバーを格納する

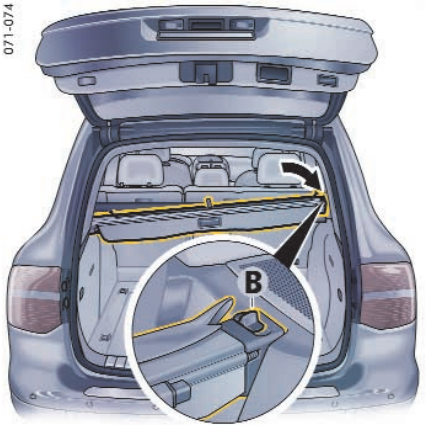
▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーを左右のガイドから外し、ゆっくりとリトラクタ・ローラーに巻き取ります。



ラゲッジ・コンパートメント・カバーを取り外す

▷ リリース**B**を後方に引きます。

▷ カバーの右側を持ち上げ、カバー全体を取り外します。



ラゲッジ・コンパートメント・カバーを取り付ける

▷ カバーを左側のガイドに差し込みます。
▷ カチッと音がして固定されるまで、カバーを押さえつつ右側のガイドに入れます。
リリース**B**を前方に押します。

ラゲッジ・セーフティ・ネット

急ブレーキ、急ハンドルまたは事故の際、ラゲッジ・セーフティ・ネットを使用しても重い荷物を支えることができません。

▷ 荷物の積載とラゲッジについては：「荷物の積載」（190ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

荷物を固定していないと、急ブレーキ、急ハンドルまたは事故の際に荷物が飛び出して乗員が怪我をする恐れがあります。

▷ 必ずセーフティ・ネットで荷物の室内への飛び込みを防いでください。
▷ 荷物は必ずタイダウン・リングで固定してください。
▷ シート・バックレストの上端より高い位置に決して荷物を載せないでください。

ラゲッジ・セーフティ・ネットの使用例
A－取り付け位置1

知識

▷ 急ブレーキまたは事故などの際、セーフティ・ネットに大きな力がかかったり損傷した場合は、セーフティ・ネットおよびブラケットをポルシェ正規販売店で点検してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

B－取り付け位置2
取り付け位置2の場合、リア・シートを前方に倒してからラゲッジ・セーフティ・ネットのカバーを開けてください。
リア・シートの倒し方については：
「リア・シートを倒す、戻す」（183ページ）を参照してください。

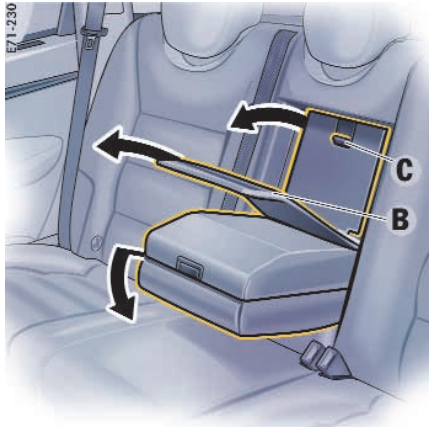
ラゲッジ・セーフティ・ネットによる室内保護

ラゲッジ・セーフティ・ネットを引き出す

▷ ラゲッジ・セーフティ・ネットを引き出し、左右の固定フックを天井のリングに差し込みます。固定フックは両横から引き出します。
▷ ラゲッジ・セーフティ・ネット固定フックが、リングに確実にはまったことを確認します。

ラゲッジ・セーフティ・ネット・アッセンブリをリア・シート・バックレストから取り外す

1. 左右のリア・ドアを開きます。
2. 左側のシート・バックレストを先に倒します。次に右側を倒します。このとき、シート・クッションを取り外す必要はありません。
▷ リア・シートの倒し方については：「リア・シートを倒す、戻す」（183ページ）を参照してください。
3. ラゲッジ・セーフティ・ネット・アッセンブリを**矢印1の方向**に押します。
4. ラゲッジ・セーフティ・ネット・アッセンブリを**矢印2の方向**に持ち上げて取り外します。

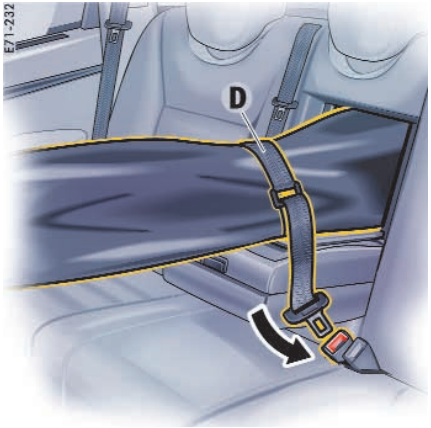


スキー・バッグ

スキー板などの長尺物をスキー・バッグに入れると、室内を汚したり損傷することなく安全に運べます。

スキー・バッグを使う

1. リッドのリリース・ボタン**A**を押し、カバーを下に開きます。
2. リア・シート・バックレストのアームレストを倒します。
3. 保護カバー**B**の上のマジック・テープを外します。
4. リッドのリリース・ボタン**C**を押し、カバーを倒します。
5. スキー・バッグを引き出します。
6. ラゲッジ・コンパートメント側からスキー・バッグに荷物を入れます。



荷物の固定

▷ 積み込んだ荷物を固定ベルト**D**で締め付けます。

▷ ベルトの先端をバックルに差し込みます。

スキー・バッグを収納する

1. スキー・バッグの荷物を出します。
2. スキー・バッグを室内側に引き出します。
3. ラゲッジ・コンパートメント側のカバーを閉じます。
4. スキー・バッグを折りたたみ、カバーを閉じます。
5. プロテクト・カバーを取り付け、マジック・テープで固定します。

知識

▷ スキー・バッグは乾かしてから折りたたんでください。

ルーフ・トランスポート・システム

▷ ルーフ・トランスポート・システムの取付説明書を参照してください。
▷ ポルシェ・テクイップメントまたは、ポルシェ社がテストを実施し、承認したルーフ・トランスポート・システムだけをご使用ください。市販のルーフ・ラックは装着できません。

ポルシェ・ルーフ・トランスポート・システムは、さまざまなスポーツ用品やホビー用品を積載できます。「ルーフ・トランスポート・システム」の詳細は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

⚠ セーフティ・ノート

▷ 自動洗車機を使用するときは、ルーフ・トランスポート・システムを車から取り外してください。車が損傷する恐れがあります。
▷ 最大総重量と軸重量を超えないでください。

詳細はテクニカル・データ「車両重量」（309ページ）を参照してください。

▷ 車幅より大きな荷物を積まないでください。また、できるだけ重い物を下にして、高さを均一にしてください。
▷ ルーフ・トランスポート・システムに積んだ荷物は、ロープまたはワイヤーで固定してください（ゴムひもは使用しないでください）。
▷ 走行前、および長距離走行中は、定期的にルーフ・トランスポート・システムと荷物の固定状態を点検してください。必要に応じて、積み方を直したり固定用品を追加してください。

ルーフ・トランスポート・システムに荷物を積載して走行する場合の最高速度は、積載物の性質、大きさ、重量にもよります。

▷ 140km/hを超えないようにしてください。
▷ ルーフ・トランスポート・システムに何も積んでいないときは、180km/hを超えないようにしてください。
▷ 制限速度を遵守してください。重心位置が高くなり、空気抵抗も大きくなるので、運転特性、ブレーキ特性、ステアリング特性が変化します。安全運転を心がけてください。
▷ 燃費を向上し、騒音を減らすために、不要なときはルーフ・トランスポート・システムを取り外してください。

収納スペース

⚠ 警 告

急ブレーキ、急ハンドル、または事故により荷物が室内に飛び込み、乗員が怪我をする恐れがあります。

▷ 室内に荷物などを置く場合は必ず固定してください。

▷ 小物入れに重いものを入れて、カバーを開けたまま運転しないでください。

▷ 運転中は必ず小物入れカバーを閉めてください。

▷ ラゲッジ・コンパートメントは、セーフティ・ネットおよびラゲッジ・コンパートメント・カバーで保護してください。

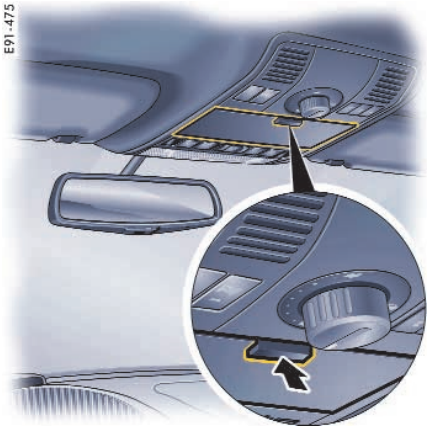
知識

荷物を固定しなかったり不適切な位置に載せると、ブレーキをかけたりステアリングを操作したとき、事故の際に乗員が怪我をする恐れがあります。

▷ 荷物の積載とラゲッジについては：「荷物の積載」（190ページ）を参照してください。

収納オプション

— ルーフ・コンソールのサングラス・ケース
— グローブ・ボックス、ペン・ホルダ
— フロントおよびリア・アームレスト
— 助手席下の引き出し
— ラゲッジ・コンパートメント左右の収納スペース
— ドア・パネル
— フロントおよびリアのセンター・コンソール
— フロント・シートのバックレスト
— リア・グラブ・ハンドルのコート用フック
— ラゲッジ・コンパートメント・フロアの下
— フロントおよびリア・カップ・ホルダ



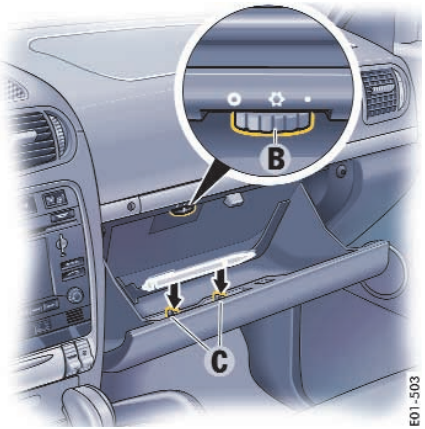
ルーフ・コンソールのサングラス・ケース
このスペースにはサングラスなどが収納できます。

開く

▷ ボタン（矢印）を押します。

閉める

▷ カチッと音がするまで閉めます。



B—*グローブ・ボックス内の冷却風量調節ダイヤル*
C—*ペン・ホルダ*

グローブ・ボックス

グローブ・ボックス内の引き出しは、車検証などの書類を入れておくことができます。

開く

▷ ボタン**A**を押して、カバーを開きます。

閉める

▷ ボタン**A**をキーで施錠することができます。盗難防止に役立ちます。

O　グローブ・ボックス内の冷却

▷ ダイヤル**B**を反時計方向に回します。

●　グローブボックスの冷却停止

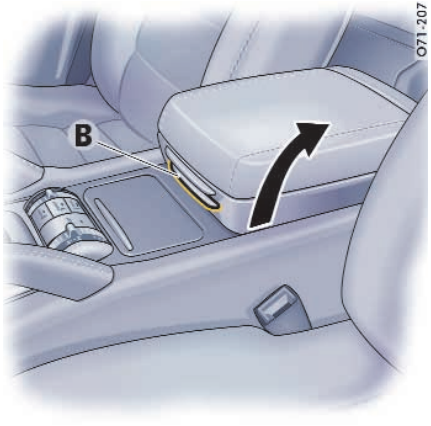
▷ ダイヤル**B**を時計方向に回します。

フロント・アームレストの小物入れ

アームレストには2個の小物入れが付いています。

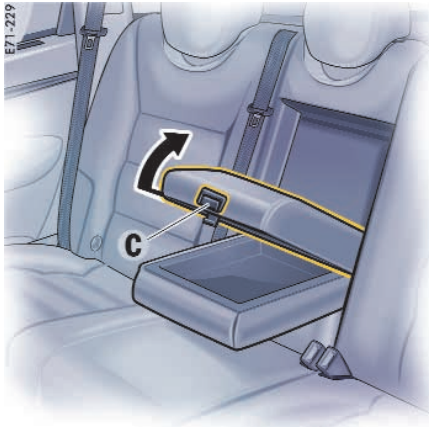
上部トレイを開く

▷ ボタン**A**を押して、カバーを持ち上げます。



下側トレイを開く

▷ ボタン**B**を押してカバーを閉じたまま、上部トレイを持ち上げます。



リア・アームレストの小物入れ

アームレストには小物入れが付いています。

小物入れを開く

1. アームレストを完全に倒します。
2. ボタン**C**を押して、カバーを持ち上げます。

ラゲッジ・コンパートメント左右の収納スペース

車の装備により、左側に収納スペースがあります。
スペースを大きく使うために、中間の仕切りを取り外すことができます。

開く

▷ ハンドルを引いてカバーを開きます。

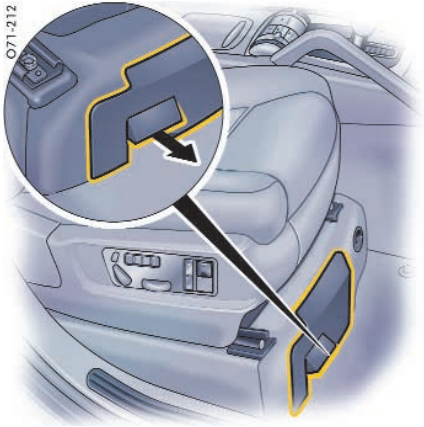
閉める

▷ カバーの下側を差し込んでから、カチッと音がするまで閉じます。

⚠ 注 意

損傷する恐れがあります。

▷ レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション装備車の右側収納スペースは熱がこもります。熱に弱い物を収納しないでください。



右側フロント・シート下の引き出し

右側フロント・シート下の引き出しには小物入れがあります。

開く

▷ ロック解除ハンドルを持ち上げ、引き出しを開けます。

閉める

▷ カチッと音がするまで閉めます。

カップ・ホルダ

カップ・ホルダには、ドリンク缶やカップを置くことができます。

▷ 走行中はカップ・ホルダのシャッターを閉めてください。

⚠ 警 告

カップ・ホルダのドリンク類がこぼれると、火傷または物が損傷する恐れがあります。

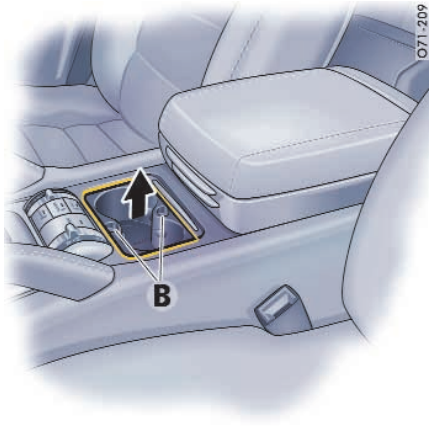
▷ カップ・ホルダに適切に収まる容器だけを使用してください。

▷ 中身が一杯に満たされた容器を置かないでください。

▷ 熱い飲み物は置かないでください。

カップ・ホルダ（フロント）を使う

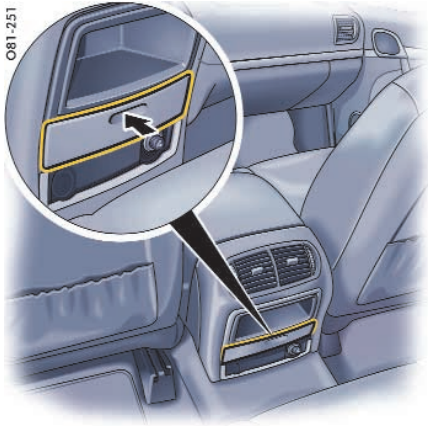
▷ シャッター**A**を矢印の方向に開きます。



カップ・ホルダ・トレイを取り外す

カップ・ホルダ・トレイは取り外して掃除ができます。
トレイを取り外すと、小物入れとして使用できます。

▷ シャッター**A**を開きます。
▷ カップ・ホルダ・トレイの2個の取り付け用穴**B**に指を差し込みます。
▷ カップ・ホルダ・トレイを引き上げて外します。



カップ・ホルダ（リア）を使う

▷ カップ・ホルダ・カバーを矢印の方向に押します。

カップ・ホルダ（リア）を収納する

▷ ロックするまで押し込みます。

灰皿（フロント）

開く

▷ 蓋を軽く押して開きます。

掃除する

▷ ロック解除ボタン**A**を右に動かし、灰皿を持ち上げ引き抜きます。

▷ 灰皿を掃除した後、カチッと音がするまで灰皿を押し下げて取り付けます。

灰皿（リア）

車の装備により、リア・ドア・パネルに灰皿があります。

開く

▷ 蓋を軽く押して開きます。

掃除する

▷ 蓋を開き、ドア・パネルにゆっくりと押し付けます。灰皿がわずかに持ち上がります。

▷ 灰皿を取り外して掃除します。

シガー・ライタ

⚠ 警 告

火災や火傷をする恐れがあります。

▷ 絶対にお子様だけを車内に残さないでください。

▷ 加熱したシガー・ライタを持つときは、ノブを持ってください。

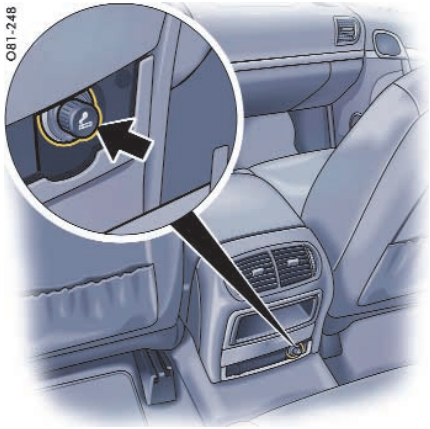
シガー・ライタはイグニッションの位置に関係なく使用できます。

フロント・シガー・ライタの使い方

▷ 灰皿の蓋を軽く押して灰皿を開きます。

▷ ライターを押し込みます。

フィラメントが熱くなると、元の位置に飛び出します。



リア・シガー・ライタの使い方

▷ ライターを押し込みます（矢印）。

フィラメントが熱くなると、元の位置に飛び出します。

トレーラー車両の連結

トレーラー・ヒッチ 205
着脱式ボール・ジョイント付き
トレーラー・ヒッチ 207
電動格納式トレーラー・ヒッチ 212

トレーラー・ヒッチ＊

▷ トレーラー車両の取扱説明書をよくお読みください。
▷ トレーラー・ヒッチを改造および修理しないでください。

後付け

トレーラー・ヒッチの後付けはポルシェ正規販売店だけで実施してください。ポルシェ正規販売店は、メーカーの仕様や取り付けに必要な車の改造方法を熟知しています。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

電気系統の接続

この車には、トレーラー車両の電気系統を接続するために13ピンのコネクタが用意されています。
トレーラー車両側のコネクタが7ピンの場合、適切なアダプタを使用してください。

＊日本仕様に設定はありません。

定義

車のけん引能力（トレーラー車両の総重量）とは、トレーラー車両の空車重量と積載重量を合算したものです。

垂直連結荷重とは、トレーラー・ドローバーの重量（この車のトレーラー・ヒッチが支える重量）です。

リア軸荷重とは、リア・アクスルの車両重量、この車の積載重量、およびトレーラー車両の垂直連結荷重を合算したものです。

車両およびトレーラー車両の総重量とは、この車（けん引する車両）の重量とトレーラー車両の重量を合算したものです。

▷ それぞれの最大許容値を超えないようにしてください。

⚠ セーフティ・ノート

トレーラー車両を連結しての運転

▷ この車のけん引能力、垂直連結荷重、リア軸荷重を必ず遵守してください。
重量や荷重についての詳細はテクニカル・データ「車両重量」（309ページ）を参照してください。
▷ この車にトレーラー車両を連結した状態で、トレーラー車両が水平になるよう調整してください。必要であれば、調整可能なドローバーを使用してください。
▷ 山岳地帯を走行する場合、高度（標高）が上がるにつれてエンジン出力が低下します。テクニカル・データの許容重量は海抜0mでの数値です。この車がけん引できる「車両およびトレーラー車両の総重量」は、高度が1,000m上昇するにつれて10%ずつ低下します。このことを念頭において走行ルートを計画してください。

荷物の配置

▷ トレーラー車両は、積載する荷物をできるだけアクスルの近くに配置してください。荷物は必ず固定してください。
▷ トレーラー・ヒッチの許容垂直連結荷重を最大限に生かしてください。ただし、決して超過しないでください。

タイヤ空気圧

▷ トレーラー車両をけん引するときは、タイヤ空気圧をフル積載重量に調整してください。

▷ タイヤ空気圧については：

テクニカル・データ「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。

▷ トレーラー・メーカーの取扱説明書に従って、トレーラー車両のタイヤ空気圧を調整してください。

ドア・ミラー

▷ トレーラー車両の幅が広く、後方視界が妨げられる場合は、補助ドア・ミラーを装備してください。

ヘッドランプ、ランプ類

▷ トレーラー車両側コネクタとこの車のコネクタが正しく接続されているか、すべてのランプが正常に作動するか点検してください。

トレーラー車両を連結したときの運転

トレーラー車両をけん引するときは、道路条件、交通状況、路面状態に合わせて適切な運転を心がけてください。速度を出しすぎるとトレーラー車両との連結が不安定になり、コントロールを失う恐れがあります。各国の法規制を遵守してトレーラー車両をけん引してください。

▷ トレーラー車両を連結した場合のハンドリング特性やブレーキ特性に慣れるまでは、特に慎重に運転してください。

▷ トレーラー車両だけに荷物を積まないでください。重量バランスを考慮し、けん引する車にも荷物を積んでください。やむを得ず、トレーラー車両だけに荷物を積載する場合は、低速で走行してください。

▷ ブレーキング、コーナリング、追い越し、駐車をするときなどは、車のハンドリング特性や車体寸法がいつもと異なることを常に念頭においてください。

▷ トレーラー車両を連結した場合の走行安定性は、速度が上がるにつれて悪化します。したがって下り坂や悪路、悪天候（強風）のときは特に速度を落として運転してください。

▷ 長い下り坂では適切な低速ギヤに入れ、エンジン・ブレーキを使用してください。

▷ トレーラー車両が軌道から外れたときは、直ちに減速してください。反対側にステアリングを切ってはいけません。必要に応じてブレーキをかけてください。この車とトレーラー車両の姿勢をまっすぐに立て直すために加速しないでください。

▷ 急坂路で発進する場合は、ロー・レンジにしてください。

▷ いかなる場合も、この車とトレーラー車両の間に人や動物がいるとき、荷物があるときに車を動かさないでください。

▷ 後退するときは、パーキング・アシスタントが作動しないので注意してください。

▷ 車のけん引能力や、車両およびトレーラー車両の総重量については「車両重量」（309ページ）を参照してください。

知識

▷ トレーラー車両を連結すると、車のあらゆる部分に大きな負荷がかかります。車の機能を正常かつ安全に作動させるには、トレーラー車両をけん引するたびに、専門家による点検およびメンテナンスが必要です。

トレーラーの連結

▷ トレーラー車両を連結する際は、必ず警報システムを解除してください。傾斜センサ＊が作動して、不意に警報が鳴ることがあります。

トレーラーの切り離し

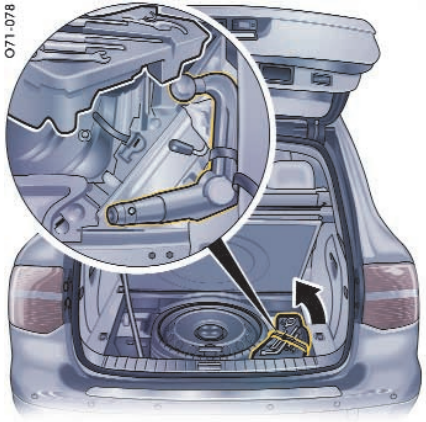
▷ トレーラー車両を切り離す際は、必ず警報システムを解除してください。コネクタを外すとき誤って警報が鳴ることがあります。

▷ トレーラー車両にオーバーラン・ブレーキが装備されている場合は、トレーラー車両のブレーキをかけたまま切り離さないでください。

知識

トレーラー車両のランプがすべてLEDの場合、トレーラー車両のコネクタを切り離しても警報が鳴りません。

＊日本仕様に設定はありません。



着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチ＊

着脱式ボール・ジョイントは、ラゲッジ・コンパートメント・フロア・カバー下のツール・ボックスに収納されています。

1. ラゲッジ・コンパートメント・フロアを開き、フロア・ステーで支えます。「ローディング・スペース」(186ページ)を参照してください。
2. ツール・ボックスのマジック・テープを外します。
3. ツール・ボックスの上部パーツを取り外します。
4. 下部ツール・ボックスからボール・ジョイントを取り出します。

⚠ 警 告

ボール・ジョイントを固定していないと、急ブレーキ、急ハンドルまたは事故の際に、乗員が怪我をしたり車が損傷する恐れがあります。

▷ ボール・ジョイントを積み込むときは、必ず固定してください。

▷ ボール・ジョイントは必ずツール・ボックスに収納してください。

ボール・ジョイントのロック機構が損傷し、安全性を損なう恐れがあります。

▷ ボール・ジョイントの脱着に補助器具やツールを使用しないでください。ボール・ジョイントは、手の力で脱着できます。

ボール・ジョイントを正しくロックしないと思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ボール・ジョイントをロックし、キーを抜いている場合のみ、トレーラー・ヒッチを使用してください。

知識

- ▷ ボール・ジョイントやマウント・チューブを改造、修理しないでください。
- ▷ ハンドル操作に異常を感じたときや故障したときは、ポルシェ正規販売店に連絡してください。
- ▷ 運転する前に、ボール・ジョイントが所定の位置に正しくロックされているか確認してください。
- ▷ トレーラー車両を連結するときは、必ずロックを締結し、キーを抜いてください。
- ▷ トレーラー車両を連結した状態で、ボール・ジョイントのロックを解除しないでください。
- ▷ トレーラー車両を連結していないときは、必ずボール・ジョイントを取り外し、ツール・ボックスに収納してください。
- ▷ ボール・ジョイントを取り外した後は、必ずマウント・チューブをプラグで塞いでください。
- ▷ 重要： はじめてボール・ジョイントを使用するときは、キーに刻印されている番号をメモしてください。

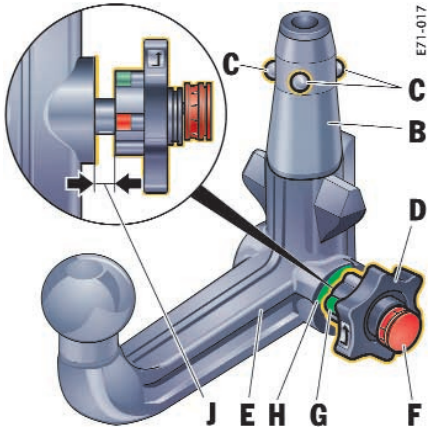
キー番号： .....

ボール・ジョイントの取り付け

ボール・ジョイント・マウントとソケットはバンパーの下にあります。
マウント・チューブのプラグは、汚れが侵入しないように保護するものです。

プラグの取り外し

- ▷ プラグ**A**をマウント・チューブから取り外します。プラグはツール・ボックスに収納しておきます。
- ▷ ボール・ジョイントを取り付ける前に、マウント・チューブが汚れていないか点検します。ボール・ジョイントを確実にロックするためには、マウント・チューブが汚れていないことが重要です。



ボール・ジョイントの準備

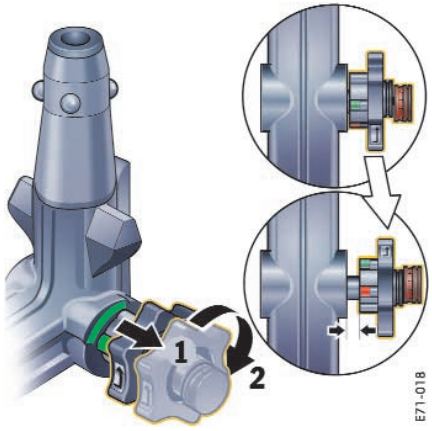
軸**B**、ロック・ボール**C**、ハンドル**D**に、汚れや損傷がないか点検します。
ボール・ジョイント**E**を差し込む前に必ずプリテンションをかけます。

ボール・ジョイントのプリテンション点検

— キー**F**をロックに差し込み、キーの矢印を「ロック開」マークに合わせます。この状態で、キーが抜けなくなります。
— ハンドルの赤いマーク**G**を、ボール・ジョイントの緑のエリア**H**に合わせます。
— ハンドルとボール・ジョイントのギャップ（すき間）が、はっきり確認できるようにします。ハンドルとトレーラー・ヒッチ間の距離**J**を約5mmにします。
— ロック・ボール**C**を軸の中に完全に押し込みます。

ボール・ジョイントにプリテンションがかかっていない場合、以下のようにプリテンションをかけます

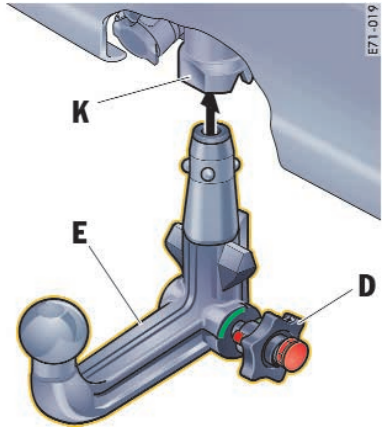
▷ ボール・ジョイントのロックを解除します。キーの矢印をハンドルの「ロック開」マークに合わせます。

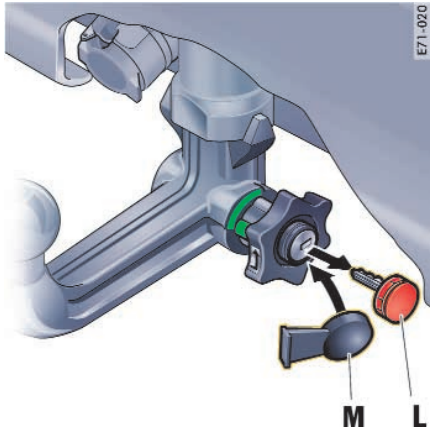


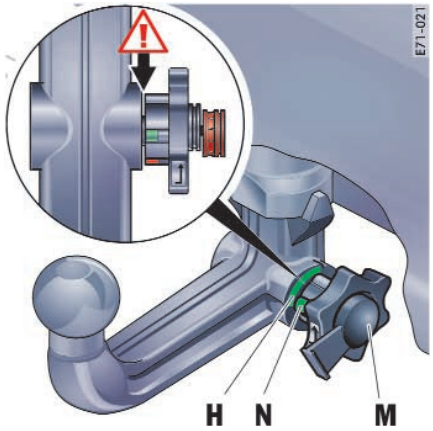
▷ 片手でボール・ジョイントを持ちます。反対側の手でハンドルを**矢印1の方向**に引き出し、引いたまま**矢印2の方向**に回して締結させます。
これで、ボール・ジョイントにプリテンションがかかります。

ボール・ジョイントにプリテンションがかからない場合、そのボール・ジョイントは使用しないでください。

▷ ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。







ボール・ジョイントの車両への取り付け

ボール・ジョイント**E**を差し込む際、ハンドル**D**に手を触れないでください。ボール・ジョイントを所定の位置にロックすると、ハンドルが反時計方向に回転して戻り、トレーラー・ヒッチに当たります。

1. テンションをかけたボール・ジョイント**E**を、**矢印の方向**にマウント・チューブ**K**に差し込み、押し上げてボール・ジョイントが所定の位置にカチッとはまったことを確認します。
2. キー**L**を反時計方向に回してボール・ジョイントをロックし、キーを引き抜きます。キーを引き抜くと、ハンドルを引き出すことができません。
3. キャップ**M**でロック部を覆います。
4. キーをツール・ボックスに収納します。

安全確認

ボール・ジョイントが正しく取り付けられているか、次の4つのポイントを確認してください。

⚠ 警 告

思わぬ事故を起こす恐れがあります。

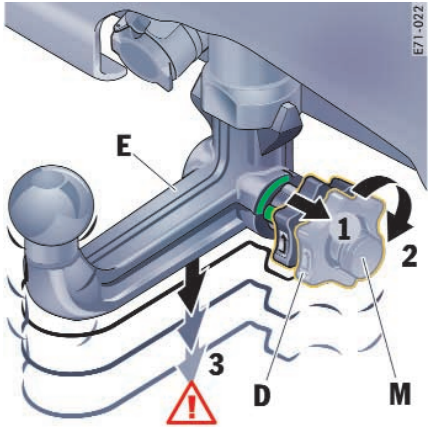
▷ 4つの確認事項のいずれか一つでも該当しない場合、そのトレーラー・ヒッチは使用せず、ポルシェ正規販売店にご相談ください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

1. ハンドルの緑のマーク**N**が、ボール・ジョイントの緑のエリア**H**に合っている。
2. ハンドルがボール・ジョイントに接触している。
3. 手で強くゆすっても、ボール・ジョイントがマウント・チューブに確実にはまっている。
4. キーが抜き取られ、キャップ**M**が所定の位置に取り付けられている。

トレーラー・ソケット

ソケットは、差し込んだボール・ジョイントの左側にあります。



ボール・ジョイントの取り外し

1. ロック部のキャップを外します。
   キーを差し込み、時計方向に回してロックを解除します。キーの矢印をハンドルの「ロック開」マークに合わせます。

⚠ 警 告

ボール・ジョイントに挟まれて怪我をする恐れがあります。

▷ ボール・ジョイントは重いので、取り外すときは地面とボール・ジョイントの間に手を挟まれないように十分注意してください。

2. 片手でボール・ジョイント**E**を持ちます。
   ハンドル**D**を**矢印1の方向**に引き出し、引いたまま**矢印2の方向**いっぱいに回します。この位置でハンドルを保持します。
3. ボール・ジョイントをマウント・チューブから**矢印3の方向**に取り外します。
   ハンドルを放すとボール・ジョイントのテンションが抜け、この状態でツール・ボックスに収納できます。
4. 必ずプラグをマウント・チューブに差し込み、汚れが侵入しないようにします。

知識

トレーラー車両を連結していないときは、必ずボール・ジョイントを取り外してください。

お手入れ

ボール・ジョイントとマウント・チューブを正しく機能させるためには、必ずきれいな状態に保ってください。

ボール・ジョイントの取り外しやソケットの取り付けは、高圧洗浄、スチーム洗浄などをする前に行ってください。

ボール・ジョイントを高圧洗浄、スチーム洗浄などで清掃しないでください。トレーラー・ヒッチ内部の潤滑用グリースが洗い流されます。

電動格納式トレーラー・ヒッチ＊

⚠ 警 告

ボール・ジョイントの電動格納機能を使用するときは、下記の注意事項を遵守してください。負傷または損傷の恐れがあります。

▷ ボール・ジョイントの可動範囲に人や動物がいないか、物がないか確認してください。

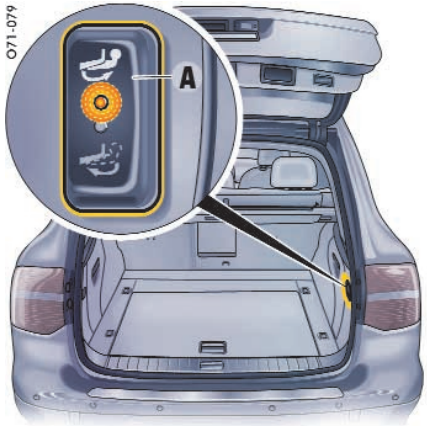
▷ ボール・ジョイントの作動を緊急停止するには、ロッカー・スイッチ**A**を押します。

▷ トレーラー車両をけん引しているときや、自転車キャリアなどがボール・ジョイントに取り付けられている場合、ボール・ジョイントを回転させないでください。

▷ トレーラー・ヒッチはボール・ジョイントを完全に取り出した状態で使用してください。

▷ 補助具やツールなどを使用してボール・ジョイントの動作を妨げないでください。ロック機構が損傷します。この場合、トレーラー・ヒッチの安全性は保証できません。

▷ 運転する前に、ボール・ジョイントが所定の位置に正しくロックされているか確認してください。



トレーラー・ヒッチの取り出し

準備

— 停車します。
— リア・リッドまたはリア・ウィンドウを開きます。

取り出し

▷ ロッカー・スイッチ**A**の上半分を押します。ボール・ジョイントが自動的に拡張して作動位置になります。ジョイントが作動位置に動いている間、ロッカー・スイッチの赤いランプが点滅します。

トレーラー・ヒッチの格納

準備

— 停車します。
— リア・リッドまたはリア・ウィンドウを開きます。
— トレーラー車両の連結を外します。
— プラグ（およびアダプタ）をソケットから取り外します。
— ボール保護キャップ、自転車キャリアなど、ボール・ジョイントに取り付けられているものがあれば取り外します。

＊日本仕様に設定はありません。

格納

▷ ロッカー・スイッチ**A**の下半分を押します。ボール・ジョイントが自動的に格納位置に戻ります。ジョイントが格納位置に動いている間はロッカー・スイッチの赤いランプが点滅します。

知識

— ボール・ジョイントを使用しないときは格納してください。
— トレーラー・ヒッチ使用時には、トレーラー・コネクタや自転車キャリアなどを必ず接続してください。
— ボール・ジョイントを緊急停止するには、ロッカー・スイッチ**A**を押します。このとき、ロッカー・スイッチの2個の赤いランプがすばやく点滅して動作が中断されたことを知らせます。
格納動作途中の位置でトレーラー・ヒッチを使用しないでください。

▷ 故障したときは、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。
マルチ・ファンクション・ディスプレイについては：
「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

トレーラー・ソケット

トレーラー・ソケットは取り出したボール・ジョイントの右側にあります。
ソケットはボール・ジョイントとともに引き出されます。

オーバーロード・プロテクション

ロッカー・スイッチをワンタッチ・モードで使用した場合、動きを妨げる抵抗を検知するとボール・ジョイントの作動が中断されます。このとき、ロッカー・スイッチの赤いランプがすばやく点滅して、作動が中断されたことを知らせます。

オーバーロード・プロテクション停止

▷ ロッカー・スイッチを押し続け（約2秒間）、ボール・ジョイントを作動位置または格納位置にします。

お手入れ

高圧洗浄、スチーム洗浄などで洗車する場合は、ボール・ジョイントのシールに直接噴射しないでください。水が浸入する恐れがあります。

故障

▷ ハンドル操作の異常を感じたときや、故障した場合は、ポルシェ正規販売店に連絡してください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

トレーラー・ヒッチの固定位置の記憶

故障が発生すると（例： バッテリの切り離し／再接続時）、トレーラー・ヒッチの固定位置が消去される恐れがあります。
固定位置の記憶方法：

— ボール・ヘッドが作動位置に固定されるまで、ロッカー・スイッチ**A**の上半分を押し続けます。
— ボール・ヘッドが完全に格納されるまで、ロッカー・スイッチ**A**の下半分を押し続けます。

駐車

パーキング・アシスタント 215
駐車時の助手席ドア・ミラーの下向き
自動調節 219
ガレージ・ドア・オープナー 219

パーキング・アシスタント

超音波を利用して障害物との距離を警告音で知らせるパーキング・アシスタントを装備しています。

イグニッションをONにするとパーキング・アシスタントが自動的に作動し、約14km/h以下で機能します。

速度が上がるとパーキング・アシスタントが自動停止し、約14km/h以下になると自動的に再作動します。

ティプトロニック・セレクタ・レバーの位置により、パーキング・アシスタントが障害物を検出する範囲が切り替わります。

— イグニッションがONのとき、リバースに入れるとパーキング・アシスタントが自動的に作動します。

ティプトロニック・セレクタ・レバーの位置：

— **P**： パーキング・アシスタントが作動しません。
— **R**、**N**： フロントおよびリアのパーキング・アシスタントが作動します。
— **D**、**M**： フロントのパーキング・アシスタントが作動します。

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあります。

パーキング・アシスタントはドライバーの運転操作を支援する補助的なシステムです。パーキング・アシスタントが作動していても、周囲の安全に細心の注意を払ってください。

▷ パーキング・アシスタントを使って車を動かすときも、人、動物、障害物がないか、必ず確認してください。

パーキング・アシスタントの作動／停止

▷ ルーフ・コンソールのボタン**A**でパーキング・アシスタントを作動／停止させます。
パーキング・アシスタントが停止すると、ボタンのランプが点灯します。

知識

不整地やオフロードではパーキング・アシスタントを停止することをお勧めします。

フロント超音波センサ

リア超音波センサ

センサ
フロントおよびリア・バンパーには、それぞれ6個の超音波センサが組み込まれており、最も車の近くにある障害物を検出します。

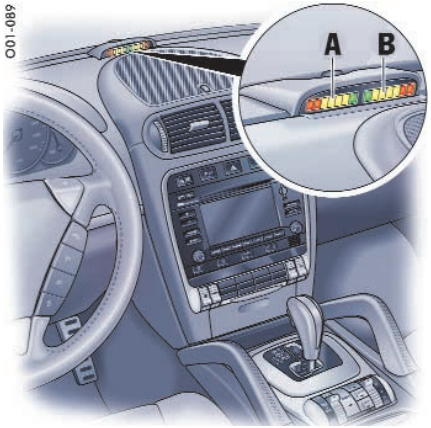
センサの検出範囲：
- 外側のセンサ（フロントおよびリア）：約60cm以内
- フロント中央のセンサ（矢印）：約120cm以内
- リア中央のセンサ（矢印）（スペア・タイヤ・ブラケット非装備車）：約150cm以内
- リア中央のセンサ（スペア・タイヤ・ブラケット装備車＊）：約120cm以内

背が低く地面に近い障害物およびセンサの上方にある障害物などは、センサの死角になって検出できません。

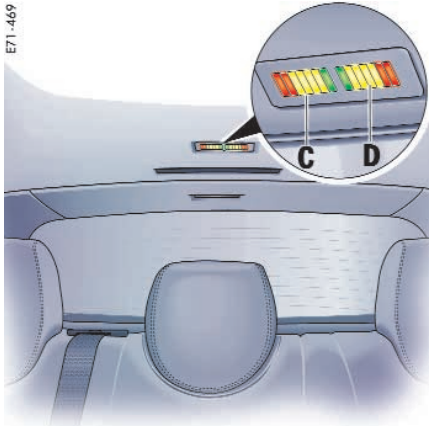
＊日本仕様に設定はありません。

知識
▷ センサが汚れると感度が低下するため、雪、氷、泥などの汚れを取り除いてください。
▷ センサを擦ると、故障の原因となります。
▷ センサが故障する原因になるため、スチーム洗浄や高圧洗浄などを行うときは洗車ノズルとセンサの距離をあけてください。

知識
ポルシェ社が承認していないタイヤをスペア・タイヤ・ブラケットに取り付けた場合、超音波センサが正しく機能しないことがあります。
スペア・タイヤ・ブラケットを開くと、リア・センサが正しく機能しないことがあります。
レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション装備車で、オフロード・レベルおよびスペシャル・オフロード・レベルを選択している場合、地面に近い障害物を検出できないことがあります。



Aーフロント・ディスプレイー左側の警告灯
Bーフロント・ディスプレイー右側の警告灯



Cーリア・ディスプレイー右側の警告灯
Dーリア・ディスプレイー左側の警告灯

警告灯、警告音、障害物との距離

フロント・センサの警告灯はダッシュボード上にあり、右側と左側の警告灯が並んでいます。

リア・センサの警告灯はリア・ルーフ・ライナーにあり、右側と左側の警告灯が並んでいます。

それぞれの警告灯は、緑色1個、黄色4個、赤色2個のセグメントに分けられています。

パーキング・アシスタントが作動すると、作動しているセンサに対応する**警告灯の緑色のセグメント**が点灯します。
センサが障害物を検出すると、その障害物との距離に応じて黄色または赤色のセグメントが点灯します。

1個目の黄色のセグメントが点灯したとき、障害物との距離は120cm（フロント）、または120～150cm（リア）です。後退しているときは、短い警告音が鳴ります。
障害物が約60cm以内に近づくと、**警告音が断続的**に鳴り、**4個目の黄色のセグメント**が点灯します。
障害物が約25cm以内（トレーラー・ヒッチ装備車＊の場合は約35cm以内）に近づくと、**警告音が連続**して鳴り、**2個目の赤色のセグメント**が点灯します。

▷ 警告音が聞き取れるようにオーディオの音量を調節してください。

警告音量は、ポルシェ正規販売店で変更できます。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識

警告音が連続して鳴り、2個目の赤色のセグメントが点灯したとき、そこからさらに障害物に近づくと、パーキング・アシスタントが障害物を検出できなくなる恐れがあります。

＊日本仕様に設定はありません。

超音波センサの限界

下記の条件のときは、パーキング・アシスタントが正常に作動しないことがあります。

- 粉雪など、超音波を遮断する物があるとき
- ウィンドウや塗装面など超音波を反射する物があるとき
- 細い物があるとき

大型車が間近で排気ブレーキを使用したときや工事現場など、超音波が乱れて警告音が鳴ることがあります。

警告音を伴わない故障表示

外部の超音波の影響などでパーキング・アシスタントに**一時的な故障**が発生した場合、作動している警告灯の赤色のセグメントが点灯します。

知識

一時的な故障（センサの凍結やひどい汚れ）が発生した場合、パーキング・アシスタントが正常に作動しないことがあります。
このとき、システムは一時的な故障と判定し、速度が14km/h以下のときはすべてのセグメントが点灯します。一時的な故障の原因が取り除かれると、正常な作動に復帰します。

警告音を伴う故障表示

パーキング・アシスタントに**連続的な故障**が発生した場合、作動しているセンサに対応する警告灯の赤色のセグメントが点灯します。さらに、シフト・チェンジを行ってから3秒間警告音が連続して鳴ります。

故障が発生したとき

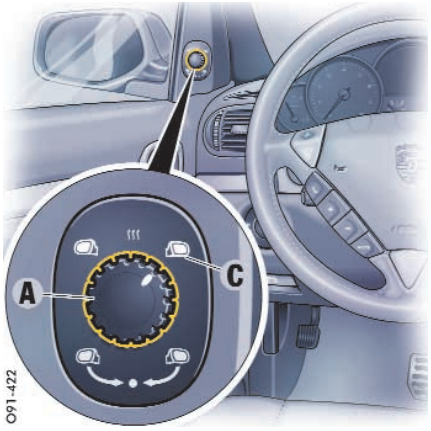
- 作動の不具合、またはシステムの故障の場合：

▷ パーキング・アシスタントをOFFにします。
パーキング・アシスタントを停止すると、ボタンのランプが点灯します。「パーキング・アシスタントの作動／停止」（215ページ）を参照してください。

▷ ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

トレーラー車両をけん引するとき

リア・パーキング・アシスタントは、トレーラー車両の電源コネクタが接続されるとOFFになります。



A—*ドア・ミラー調節スイッチ*
C—*助手席ドア・ミラー調節スイッチ*

駐車時の助手席ドア・ミラーの下向き自動調節

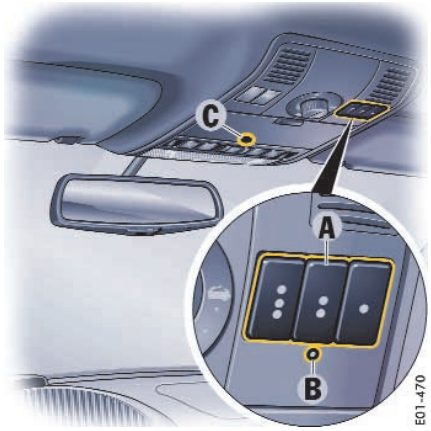
リバース・ギヤを選択すると、助手席ドア・ミラーが自動的に下向きになります。助手席側の車体後方下部の状況が確認しやすくなります。

作動条件

— 車にシート・メモリーを装備している。
— ドア・ミラー調節スイッチ**A**が助手席側**C**になっている。
— リバース・ギヤを選択している。

ドア・ミラーを通常の位置に戻すとき

— ギヤをリバース以外にします。または、
— ドア・ミラー調節スイッチの位置を変更します。



A—*プログラム・ボタン*
B—*ステータス・インジケータ・ランプ*
C—*ホームリンク・トランスミッター*

ガレージ・ドア・オープナー＊

この車のガレージ・ドア・オープナーは、さまざまな装置を操作するためのリモート・コントロールを、最大3個まで登録することができます。
装置のリモート・コントロールが、この車のホームリンク・システムとの互換性を持っていれば、そのリモート・コントロールの機能を、3つのプログラム・ボタン**A**にそれぞれ登録することができます。
詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。
＊日本仕様に設定はありません。

⚠ 警 告

ガレージ・ドア・オープナーで操作する装置の可動範囲に人や動物がいたり、物があると、事故につながる恐れがあります。

▷ ガレージ・ドア・オープナーを操作するときは、装置の可動範囲に人や動物、物がないか確認してください。

▷ 装置のリモート・コントロール取扱説明書の注意事項を遵守してください。

知識

▷ プログラム・ボタンを押すと、ホームリンク・トランスミッターが車両の正面前方に向けて信号を送ります。
装置の受信機の方向に車両を向けないと、信号の送信エリアから外れることがあります。

▷ 装置のリモート・コントロール取扱説明書を読み、そのリモート・コントロールが固定コード式か、または可変コード式かを特定してください。

▷ ガレージ・ドア・オープナーを操作および登録するときは、イグニッションをONにしてください。また、信号の送信エリアに装置の受信機が存在しなければなりません。

ガレージ・ドア・オープナー信号のボタンへの登録

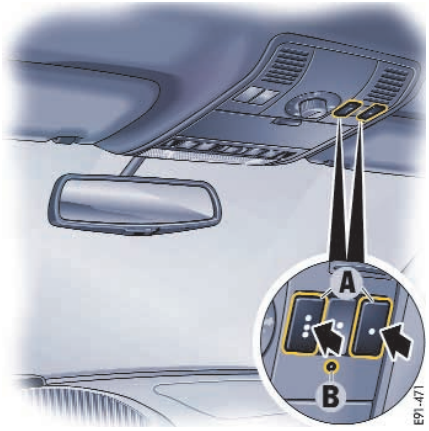
固定コード式または可変コード式システムに信号を登録するときの知識

— 車両のホームリンク・トランスミッターと、装置のリモート・コントロールの距離を変えて、数回実行しなければならない場合があります。

— 登録作業中は、装置のリモート・コントロールが連続的に信号を送信しなければなりません。スタンバイ機能付きのリモート・コントロールの場合は、リモート・コントロールのボタンを数回押さなければなりません。

— 登録作業で信号を読み取るために、最大60秒かかります。

▷ 装置のリモート・コントロール取扱説明書を参照してください。



登録したすべての信号の消去

▷ ステータス・インジケータ・ランプ**B**が素早く点滅するまで、左右両端のプログラム・ボタン**A**を約20秒間押し続けます。
プログラム・ボタンに登録されているすべての信号が消去されます。

知識

▷ 車を売却するときは、ホームリンクのすべての信号を消去してください。

プログラム・ボタンへの登録

1. ステータス・インジケータ・ランプ**B**がゆっくりと点滅しはじめるまで、お好みのプログラム・ボタンを押し続けます（最大20秒かかります）。
   手順3が完了するまで、プログラム・ボタンを押し続けてください。
2. ホームリンク・トランスミッター**C**から約5～30cmの位置で、装置のリモート・コントロールを保持します。
   このとき、装置のリモート・コントロールに新しい電池が入っていることを確認してください。
3. ステータス・インジケータ・ランプ**B**が素早く点滅するまで、装置のリモート・コントロールのボタンを押し続けます。
   リモート・コントロールの機能が正しく登録されると、ステータス・インジケータ・ランプ**B**が素早く点滅します。
   ステータス・インジケータ・ランプ**B**が素早く点滅したことを確認してから、プログラム・ボタンとリモート・コントロールのボタンを放します。
4. 上記手順を完了した後、プログラム・ボタン**A**を再度押します。ステータス・インジケータ・ランプ**B**が連続して点灯する場合は、その装置が固定コード式システムであることを意味します。この場合は、ここまでの手順で登録が完了です。
   ステータス・インジケータ・ランプ**B**が短時間素早く点滅した後、約2秒間連続して点灯する場合は、その装置が可変コード式システムであることを意味します。この場合は、ガレージ・ドア・オープナーの受信機とホームリンクを同期させなければなりません。
5. 上記の手順1～4を繰り返して、その他のプログラム・ボタンにも別の装置を登録します。

可変コード式システムの同期

1. システムを同期させるために：
   ガレージ・ドア・オープナーの受信機のプログラム・ボタンを押します。
   次の手順2に進むまでに、通常約30秒かかります。
2. 装置を登録したプログラム・ボタンを3回押します（約1秒間）。
   これで可変コードの同期が完了します。
3. この手順1～2を繰り返して、その他のプログラム・ボタンも同期させます。

知識

▷ 本書の手順、および各装置のリモート・コントロール取扱説明書の記述に従って登録作業を行っても、リモート・コントロールのコード信号を登録できない場合は、ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。ポルシェ正規販売店にはガレージ・ドア・オープナーに関する情報が取り揃えてあります。

ガレージ・ドア・オープナーの操作

▷ お好みのプログラム・ボタン**A**を押します。
固定コード式システムの場合は、信号を送っている間、ステータス・インジケータ・ランプ**B**が連続して点灯します。
可変コード式システムの場合は、ステータス・インジケータ・ランプ**B**が短時間素早く点滅した後、約2秒間連続して点灯します。

警報システムと盗難防止

警報システム 223
イモビライザー..... 225
ステアリング・ロック 225
盗難を防止するために 225

警報システム

警報システムは、以下のコンポーネントを監視します。
- ドア、リア・リッド、リア・ウィンドウ、およびエンジン・フード
- 室内モニタ・システム：車をロックした後の車内への侵入（例えば、ウィンドウを壊して車内に侵入したとき）
- 傾斜センサ＊：車体の傾き（例えば、車をけん引して盗難しようとしたとき）

監視しているコンポーネントのいずれか一つでも不正な動きを検出すると、警告音が約30秒間鳴って、ハザード・ランプが点滅します。それから5秒間警告が中断され、再度同じ動作を行います。この動作を10回繰り返します。
メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、室内モニタ・システムと傾斜センサをそれぞれ手動で解除することができます。
▷ 「室内モニタ・システムおよび傾斜センサの停止」（125ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

作動

▷ 車をロックすると、警報システムが起動します。

作動解除

▷ 車のロックを解除すると、警報システムも解除されます。

知識

▷ ドア・ロックにキーを差し込んでドアを開けた場合は、警報システムの作動を停止するために、ドアを開けてから15秒以内にイグニッションをON（イグニッション・キーが1の位置）にしてください。

警報が作動したときの解除

▷ リモート・コントロールでドアのロックを解除します。または、

▷ イグニッションをONにします。

室内モニタ・システムおよび傾斜センサ＊の手動解除

車内に人や動物を残して車をロックするときや、鉄道または船舶などで車を輸送する場合は、室内モニタ・システムと傾斜センサを解除する必要があります。
ドアを開けると警報が作動するので、車内に残る人に注意を促してください。

知識

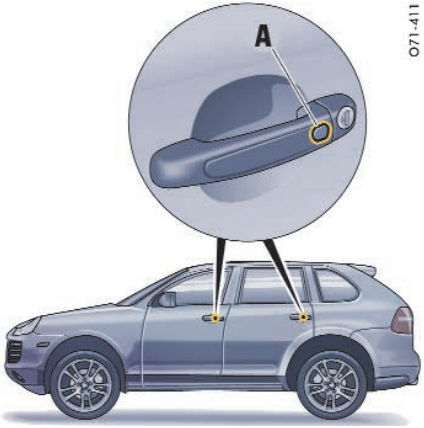
車を再度ロックすると、室内モニタ・システムと傾斜センサが再作動します。

以下のときは、室内モニタ・システムと傾斜センサが解除されます：
- 最後に車をロックしたとき、室内モニタ・システムおよび傾斜センサをOFFにした場合。および、
- ロックを解除してからドアを開けずに30秒が経過した場合（自動的に再ロックされます）。

ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車

▷ リモート・コントロールの 🔒 ボタンを素早く2回押します。

ハザード・ランプが4回点滅してドアがロックされます。このとき、インナー・ドア・ハンドルを引くと、ロックを解除できます。



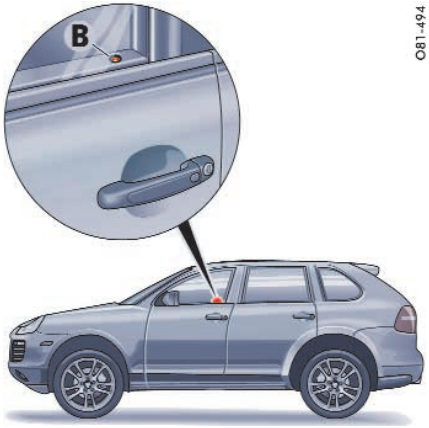
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車

▷ ドア・ハンドルのボタン**A**を短く**2回**押します。

ハザード・ランプが4回点滅してドアがロックされます。このとき、インナー・ドア・ハンドルを引くと、ロックを解除できます。

車内からドアを開ける

1. インナー・ドア・ハンドルを1回引いて、ロックを解除します。
2. もう一度インナー・ドア・ハンドルを引くと、ドアが開きます。



Bー*警報システムのLED（例： 運転席ドア）*

機能表示

車をロックすると、フロント・ドアの警報システムのLED **B**が点滅してシステムの起動を知らせます。
車のロックを解除すると、LEDが消灯します。

室内モニタ・システムと傾斜センサがONのとき

ー LEDが2秒間素早く点滅し、その後はゆっくり点滅します。

室内モニタ・システムと傾斜センサがOFFのとき

ー LEDが2秒間素早く点滅した後、28秒間消灯します。その後はゆっくり点滅します。

セントラル・ロッキング・システムと警報システムの故障

LEDが2秒間素早く点滅した後、28秒間常時点灯します。その後はゆっくり点滅します。

誤作動を防止するために

▷ 車内に人や動物を残して車をロックするときや、鉄道または船舶などで車を輸送する場合は、室内モニタ・システムと傾斜センサを解除してください。

▷ スライディング／チルティング・ルーフ、パノラマ・ルーフ・システムおよびすべてのドア・ウィンドウは必ず閉めてください。

▷ 携帯電話機の電源を入れたままで、ルーフ・コンソールのサングラス・ケースに放置しないでください。

▷ トレーラー車両を連結または切り離すときは、事前に警報システムを解除してください。傾斜センサが車の傾きを検出して警報が作動することがあります。

イモビライザー（キー内蔵型盗難防止装置）

キーのグリップ部には、コード信号を記憶した発信器（トランスポンダー）を内蔵しています。イグニッションをONにすると、イグニッション・ロックがキーのコード信号を照合します。このコード信号が、あらかじめ登録されている信号と合致すると、イモビライザーを解除してエンジンを始動できます。

キー：

イモビライザーの解除

▷ イグニッション・ロックにキーを差し込むと自動的に解除されます。

イモビライザーの作動

▷ イグニッション・ロックからキーを抜くと自動的に作動します。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ：

イモビライザーの解除

▷ イグニッションをONにします。

イモビライザーの作動

▷ イグニッションをOFFにします。

ステアリング・ロック

ポルシェ・エントリー＆ドライブ非装備車

イグニッション・ロックからキーを抜くと、ステアリングが自動的にロックします。イグニッション・ロックにキーを差し込むと、ステアリング・ロックが自動的に解除されます。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車

イグニッションをOFFにして車をロックすると、ステアリングが自動的にロックします。

ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車のマニュアル・ステアリング・ロック

▷ イグニッションをいったんOFFにし、次にコントロール・ユニットを**3**の位置まで回して**2秒**間保持します。ステアリングが自動的にロックします。

イグニッション・コントロール・ユニットを**0**の位置から回すと、ステアリング・ロックが自動的に解除されます。

盗難を防止するために

車から離れるときは、必ず次のことを守ってください：

▷ 全てのドア・ウィンドウを閉めます。

▷ スライディング／チルティング・ルーフ、パノラマ・ルーフ・システムを閉めます。

▷ イグニッション・キーを抜きます。（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車はイグニッションをOFFにします。）

▷ グローブ・ボックスをロックします。

▷ 小物入れの蓋を閉めます。

▷ 貴重品、車の登録書類、携帯電話機、自宅の鍵などを車内に残さないでください。

▷ ラゲッジ・コンパートメント・カバーを閉めます。

▷ リア・リッドおよびリア・ウィンドウを閉めます。

▷ ドアをロックします。

車のお手入れ

メンテナンス上の諸注意 227
オイル・レベルの点検 228
エンジン・オイルの補充 229
クーラント・レベルの点検と補充 230
ブレーキ液レベルの点検と交換 232
ウォッシャ液の補充 233
エア・クリーナの交換 234
室内防塵用フィルタの交換 234
パワー・ステアリング 234
ワイパー・ブレード 235
エミッション・コントロール・
システム 238
予備燃料タンク 238
燃料の給油 239
車のお手入れ 241

メンテナンス上の諸注意

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

お客様ご自身でメンテナンスされる場合も、細心の注意を払って作業を実施してください。これらの注意事項を守ったときだけ、信頼できる走行性能が保証されます。

不適切なメンテナンスを行うと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

パワー・テスト

ポルシェ社は、シャシー・ダイナモ・メータによるパワー・テストを承認していません。

⚠ 危 険

メンテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

- ▷ バッテリや燃料系統の近くで喫煙したり、火気を近付けないでください。
- ▷ メンテナンス作業は、屋外か、または屋内の換気が良い場所で実施してください。
- ▷ 火傷の危険性がありますので、加熱したエンジン部品や排気システム部品の近くで作業をする場合は十分注意してください。
- ▷ エンジン・ルーム内を整備する前に、エンジンを停止し、十分冷やしてください。
- ▷ やむを得ずエンジンをかけたまま作業する場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、ティプトロニック・セレクタ・レバーを**“P”**の位置にします。
- ▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部品に巻き込まれることがないように、特に注意してください。
- ▷ ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、怪我をする危険性がありますので十分注意してください。ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。
  ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していてもクーラントが一定の温度に達すると作動することがあります。
- ▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されているすべてのケーブルとリード線に高電圧がかかっています。特に注意が必要です。
- ▷ やむを得ず車体の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキだけで支えた車体の下に入ることは危険ですので、絶対におやめください。
  ジャッキ・アップについては：
  「ジャッキ・アップ」（172ページ）を参照してください。
- ▷ エンジン・オイル、ウォッシャ液、ブレーキ液、クーラントなどの液体は人体に有害です。これらの液体は、お子様の手の届かない所に保管してください。廃棄する場合は、法規に従ってください。

オイル・レベルの点検

▷ オイル・レベルは定期的に点検してください。給油時、および長距離走行前の点検は特に重要です。
▷ 「メンテナンス上の諸注意」（227ページ）を参照してください。

オイル・レベル警告

オイル・レベルが低くなると、オイル・レベル警告灯が点灯して知らせます。
▷ 直ちにエンジン・オイル・レベル・ゲージでオイル・レベルを点検し、必要に応じてオイルを補充してください。
▷ マルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージについては：

「警告灯および警告メッセージ」（131ページ）を参照してください。

知識

エンジン・フードを開けたとき、エンジン・オイルを補充しないと、約100km走行後に再度オイル・レベル警告が点灯します。

⚠ 警 告

ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していてもクーラントが一定の温度に達すると作動することがあります。

また、エンジン・ルームの加熱した部品で火傷する恐れがあります。

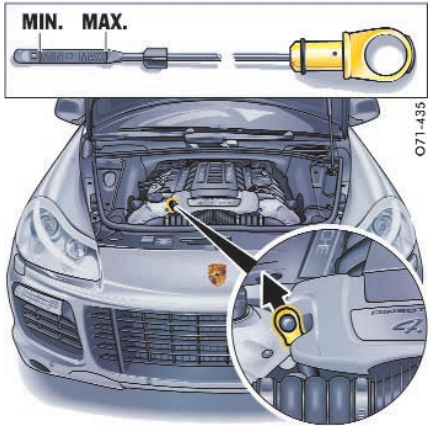
▷ エンジン・ルーム内の作業を行う場合は十分に注意してください。

オイル・レベルを正しく測定するには：

— 水平な場所に停車します。
— エンジンを完全に暖機してから、エンジンを停止します。
— エンジン・オイルがオイル・パンに戻るまで、約3分待ちます。

オイル・レベルの点検

1. エンジン・オイル・レベル・ゲージを抜き取り、毛羽立たないきれいな布でレベル・ゲージの先端を拭き取ります。
2. エンジン・オイル・レベル・ゲージをチューブの中に完全に差し込み、もう一度抜き取ってオイル・レベルを読み取ります。
   エンジン・オイル・レベルが“MIN”より少ない、または“MAX”を超えないように注意してください。
   レベル・ゲージの“MIN”と“MAX”の差は、約1.5リットルです。
3. エンジン・オイル・レベル・ゲージを完全に差し込みます。



“MAX”マークまで入っているとき

▷ これ以上、エンジン・オイルを補充しないでください。

“MIN”マーク以下になっているとき

▷ 直ちにエンジン・オイルを補充してください。

エンジン・オイルの補充

Porsche recommends Mobil 1

オイルの種類

モデル	規格[1]	粘度クラス[2]
カイエン・ ターボ カイエン・ ターボS：	Porsche A40	SAE 0W-40[3] SAE 5W-40[4] SAE 5W-50[4]

1) 一般に、メーカーが推奨するエンジン・オイルの仕様や規格は、オイル缶に記載されています。または販売店に表示されています。

最新の承認オイルについてはポルシェ正規販売店にお尋ねください。

2) SAEとはオイルの粘度を示す指数で、例えばSAE 0W-40の「0W」は低温時（冬季など）の粘度を意味します。また「40」は高温時の粘度を意味します。

3) すべての外気温度で使用できます。

4) 外気温度が−25℃以上のときに使用できます。

常に以下の点に注意してください。

— ポルシェ社が承認したエンジン・オイルだけを使用してください。このことは、車両の信頼性を高め、故障を回避するための前提事項です。

— エンジン・オイルは定期的に交換してください。
メーカーが規定したサービス・インターバル（特にオイル交換インターバル）を遵守することが重要です。詳しくは「整備手帳」に掲載されています。

— ポルシェ社が承認したエンジン・オイルであれば、異なる種類のオイルを混ぜることができます。

— ポルシェ車のエンジンは、添加剤を混合しないことを前提に設計されています。

— エンジン・ルームには、この車両に最も適するオイル情報を記したステッカーが貼り付けてあります。

不明な点はポルシェ正規販売店にお尋ねください。

⚠ 注 意

加熱したエンジン部品にオイルが接触すると火災の原因になります。また、オイルがドライブ・ベルトに付着すると損傷する恐れがあります。

▷ エンジン・オイルを補充するときは、十分に注意してください。

1. オイル・フィラー・キャップを取り外します。
2. エンジン・オイルを1回に最大0.5リットルずつゆっくりと慎重に注入します。各回、オイルを注入してから数分待った後、エンジン・オイル・レベル・ゲージでオイル・レベルを点検します。**決してレベル・ゲージの“MAX”を超えないようにしてください。**
3. オイルの補充が完了したら、エンジン・オイル・レベル・ゲージを完全に差し込みます。
4. オイル注入口にフィラー・キャップを取り付けます。

クーラント・レベルの点検と補充

クーリング・システムに使用するロングライフ・クーラントは、年間を通じた腐食防止と、−35℃までの凍結防止の働きがあります。
常に以下の点に注意してください。

▷ ポルシェ社指定の不凍液だけを使用してください。

▷ 定期的にクーラント・レベルを点検してください。

水平な場所に停車してエンジンが冷えているとき、クーラント・レベルを“MIN”と“MAX”マークの間に維持してください。

▷ メンテナンスに関する重要な情報は：「メンテナンス上の諸注意」（227ページ）を参照してください。

注入口の付いたリザーバ・タンクが、エンジン・ルームのカバー下にあります。

レベルの点検（エンジン冷間時）

1. カバーを取り外します。

2. リザーバ・タンクのキャップを慎重に開き、クーリング・システムの圧力を逃がしてください。
   圧力が下がった後、キャップを完全に取り外します。
3. クーラント・レベルを読み取ります。
4. 必要に応じてクーラントを補充します。
   不凍液と水を同量混ぜ合わせ、“MAX”マークを超えないように注入します。
   クーラントの不凍液の割合：
   50%（−35℃までの凍結防止）
5. キャップをしっかりと締め付け、カバーを取り付けます。

クーラント・レベルの点検（メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示された場合）

⚠ 警 告

高温のクーラントで火傷する恐れがあります。

▷ エンジンが熱いときにリザーバ・タンクのキャップを開く場合は十分に注意してください。

1. カバーを取り外します。
2. エンジンが熱いときは、リザーバ・タンクのキャップを布で覆います。リザーバ・タンクのキャップを慎重に開き、クーリング・システムの圧力を逃がしてください。圧力が下がった後、キャップを完全に取り外します。
3. クーラント・レベルを読み取ります。必要に応じてクーラントを補充します。不凍液と水を同量混ぜ合わせ、“MAX”マークを超えないように注入します。
   クーラントの不凍液の割合：
   50%（−35℃までの凍結防止）

知識

▷ エンジンが熱いときにクーラント・レベルが“MAX”マークを超えた場合は、エンジンが冷えるのを待ってから、再度点検してください。

4. キャップをしっかりと締め付け、カバーを取り付けます。
5. ポルシェ正規販売店でクーリング・システムの点検を行ってください。
   ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識

やむを得ず水だけを補充した場合は、ポルシェ正規販売店で不凍液の割合を修正してください。
クーラントの減りが著しい場合は、クーリング・システムに漏れが発生しています。

▷ このような場合は、直ちにポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ラジエータ・ファン

ラジエータとラジエータ・ファンは車両の前側にあります。

⚠ 警 告

怪我をする恐れがあります。

エンジン停止後も、クーラント温度によってはラジエータ・ファンが突然回りはじめることがあります。

▷ ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は必ずエンジンを停止し、ファンに十分注意してください。

ブレーキ液レベルの点検と交換

▷ ポルシェ純正ブレーキ液、またはポルシェ社が要求する性能および品質基準を満たし、承認されたブレーキ液だけを使用してください。

▷ メンテナンスに関する重要な情報は：

「メンテナンス上の諸注意」（227ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

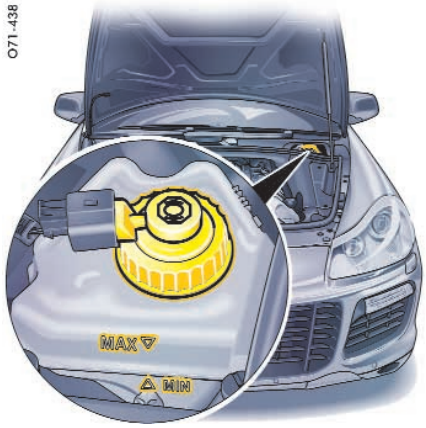
ブレーキ液は人体に有害です、また車の塗装やその他の部品の表面に損傷を与えます。

▷ ブレーキ液は、お子様の手の届かない場所に保管してください。

▷ ブレーキ液がこぼれた場合は、直ちに清水で洗い流してください。

▷ ブレーキ液が目に入った場合は、直ちに清水で数分間洗い流し、医師の診察を受けてください。

▷ ブレーキ液の容器に記載されている注意事項を遵守してください。



ブレーキ液レベルの点検

油圧ブレーキ・システム用のフルード・リザーバ・タンクは、エンジン・ルームにあります。

1. ドライバーでロック（矢印）を反時計回りに90°回し、カバーを取り外します。
2. リザーバ・タンクの外側からブレーキ液面を定期的に点検してください。
液面が“MIN”と“MAX”の間を維持するようにしてください。

ブレーキ・パッドが摩耗すると液面が少し低下しますが、これは正常な現象です。
液面の低下が著しいときや、“MIN”マークより下がった場合は、ブレーキ・システムに漏れが発生しています。

▷ 直ちにポルシェ正規販売店でブレーキ系統の点検を受けてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ブレーキ液の交換

ブレーキ液は吸湿性があり、水分を含むと沸点が下がってブレーキ性能に悪影響を与えます。

▷ 整備手帳に規定された使用期間に従って、必ず定期的に交換してください。

警告灯と警告メッセージ

以下の場合はブレーキ液警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。

— ブレーキ液量が許容範囲を下回った場合

— ブレーキ回路に不具合が発生して、ブレーキ・ペダルの踏み代が大きくなった場合

知識

走行中に警告灯が点灯したときは：

▷ 直ちに安全な場所に停車してください。

▷ それ以上の走行を避け、最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ウォッシャ液の補充

ウォッシャ液が少なくなると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。この警告メッセージは、ウォッシャ液の残量が約0.8リットルになると表示されます。

▷ 早めにウォッシャ液を補充してください。

ウォッシャ液タンクの容量は約7.5リットルです。

以下の点に注意してください：

▷ 季節に合わせて、水と適切な添加剤（ウィンドウ・クリーナ、凍結防止剤）を正しい比率で混ぜ合わせてください。

夏季は、水とウィンドウ・クリーナを混ぜてください。ウィンドウ・クリーナの容器に記載されている混合比率に従ってください。

冬季は、水とウィンドウ・クリーナの混合液に凍結防止剤を加えます。容器に記載されている混合比率に従ってください。

ウィンドウ・クリーナや凍結防止剤の容器に記載されている注意事項を遵守してください。

▷ 以下の条件を満たしているウィンドウ・クリーナだけを使用してください。

— 濃度1:100

— 無リン

— プラスチック・ヘッドランプ・レンズ用

ポルシェ社が推奨するウィンドウ・クリーナを使用してください。不明な点はポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

フロント／リア・ウィンドウ・ウォッシャ、ヘッドランプ・クリーニング・システム兼用のウォッシャ液タンクはエンジン・ルームにあります。

1. ウォッシャ液タンクのキャップを取り外します。
2. ウォッシャ液を補充します。
3. キャップを慎重に閉めます。

エア・クリーナの交換

定期的なエア・クリーナ・エレメントの交換は、メンテナンスの一環です。

▷ エア・クリーナ・エレメントは定期的に交換してください。ほこりの多い場所を走行する車は、より頻繁に点検し、必要に応じて交換してください。

メンテナンスに関する重要な情報は：「メンテナンス上の諸注意」（227ページ）を参照してください。

室内防塵用フィルタの交換

定期的な室内防塵用フィルタの交換は、メンテナンスの一環です。

フィルタが汚れていると、送風量が少なくなります。

▷ フィルタの交換は、最寄りのポルシェ正規販売店にお申し付けください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

知識

室内防塵用フィルタは、車外から室内に取り込む空気からほこりや花粉などを取り除きます。

▷ 車外の空気が排気ガスなどで汚れている場所では、内気循環に切り替えてください。

パワー・ステアリング

⚠ 警 告

エンジンがかかっていないとき（けん引時など）や、油圧機構に異常がある場合は、ステアリング操作力がアシストされません。この場合、ステアリング操作に強い力が必要となります。

▷ けん引するときは十分注意してください。

▷ 直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理してください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ステアリングをいっぱいに切ったときに聞こえるノイズは、パワー・ステアリング・システムの構造上の特性であり、システムの故障ではありません。

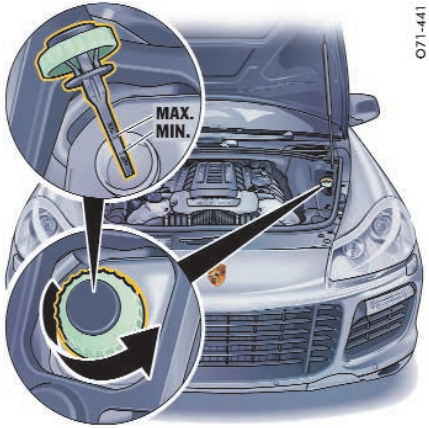
パワー・ステアリング・オイルの点検と補充

以下の点に注意してください：

▷ ポルシェ純正パワー・ステアリング・オイル、またはポルシェ社が要求する性能、品質規準を満たし、承認したパワー・ステアリング・オイルだけを使用してください。

▷ エンジンが冷えているとき（約20℃）に、エンジンを停止してオイル・レベルを点検してください。

1. カバー**A**を取り外します。



2. リザーバ・キャップを取り外します。
3. オイル・レベルを“MIN”と“MAX”マークの間に維持してください。
4. 必要に応じてパワー・ステアリング・オイルを補充してください。
5. リザーバ・キャップを慎重に閉めます。
6. カバー**A**を取り付けます。
7. エンジン・フードを閉めます。

知識

▷ オイルの減り方が著しい場合は、ただちにポルシェ正規販売店で修理してください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ワイパー・ブレード

知識

ワイパー・ブレードをきれいな状態に保つことで、良好な視界を確保できます。

▷ 1年に2回（冬季の前後に）、ワイパー・ブレードを交換してください。またはワイパーの払拭性能が低下したときや、ワイパー・ブレードが損傷したときも交換してください。

▷ メンテナンスに関する重要な情報は：

「車のお手入れ」（241ページ）を参照してください。

⚠ 注 意

ワイパー・アームが突然倒れてフロント・ウィンドウが損傷しないように注意してください。

▷ ワイパー・ブレードを交換するときは、ワイパー・アームをしっかり保持してください。

ワイパー・ブレードが凍結した場合、損傷する恐れがあります。

▷ ワイパーを解凍してから使用してください。

ワイパー・ブレードがきちんと取り付けられていないと、走行中に緩んで損傷する恐れがあります。

▷ 確実に取り付けられているか点検してください。

ワイパー・ブレードは、ワイパー・アームのストッパーにしっかりと押し付けてください。

▷ ウィンドウ・クリーナで定期的にワイパーを清掃してください。特に洗車機を使用したときはワイパーを清掃してください。

ポルシェ社では、ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨します。昆虫の死骸などの汚れは、スポンジや布で取り除くことができます。

ワイパー・ブレードが擦れたり、きしみ音が発生するときは、以下の原因が考えられます：

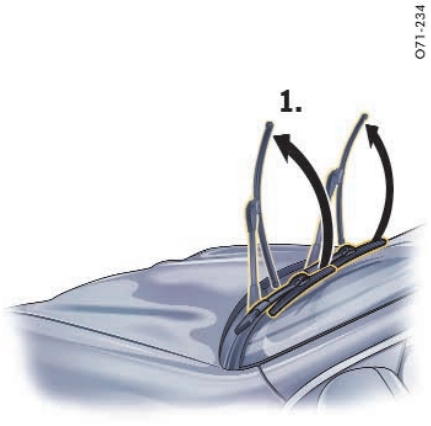
— 自動洗車機を使用すると、フロント・ウィンドウに洗剤などの残留物が付着する場合があります。このような残留物は、ウィンドウ・クリーナの濃縮液を使用しなければ落ちません。

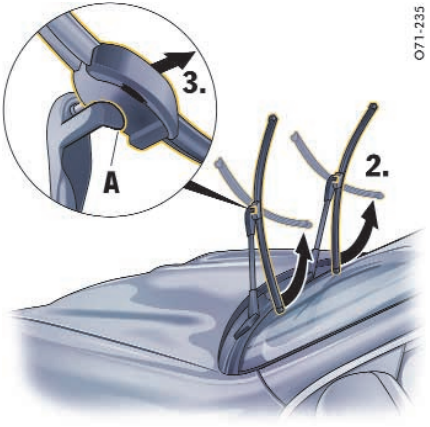
▷ 「ウォッシャ液の補充」（233ページ）を参照してください。

不明な点はポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

— ワイパー・ブレードが損傷または摩耗している場合があります。

▷ すみやかに損傷したワイパー・ブレードを交換してください。





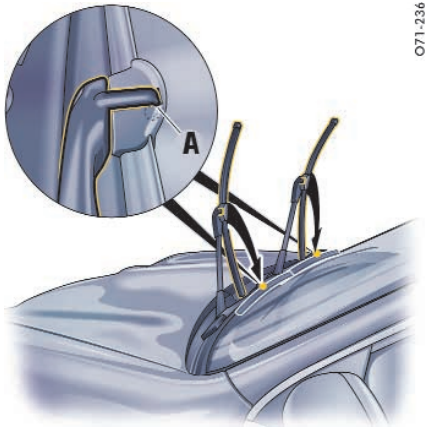
フロント・ウィンドウ・ワイパー・ブレードの交換

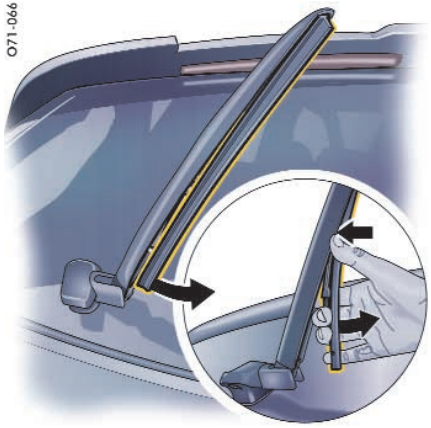
▷ パーキング・ブレーキをかけます。

▷ ワイパー・スイッチをOFF（**0**の位置）にします。

▷ イグニッションをOFFにします。

1. ワイパー・アームをフロント・ウィンドウから持ち上げます（**矢印1**）。
2. ワイパー・ブレードの固定溝がリテーニング・クリップ**A**によって解除されるまで、ワイパー・ブレードを回します（**矢印2**）。
3. ワイパー・ブレードをフロント・ウィンドウの方向に引き抜きます（**矢印3**）。
4. 新しいワイパー・ブレードを押し込みます。ワイパー・ブレードがワイパー・アームにしっかりとはまっていることを確認します。





5. ワイパー・ブレードを元の位置に戻します。リテーニング・クリップ**A**がワイパー・ブレードの固定溝に完全にはまっていることを確認します。
6. ワイパー・アームを慎重にフロント・ウィンドウの上に戻します（**矢印**）。

リア・ワイパー・ブレードの交換

1. パーキング・ブレーキをかけます。
2. イグニッションをOFFにします。
3. リア・ワイパー・アームをストップ位置（約60°）まで起こし、しっかりと保持します。
4. ワイパー・アームを片手で支え、ワイパー・ブレードを引き抜きます（**矢印**）。
5. 新しいワイパー・ブレードをワイパー・アーム中央に取り付け、奥に押し込みます。
6. ワイパー・アームを慎重にリア・ウィンドウの上に戻します。

エミッション・コントロール・システム

エミッション・コントロール・システム（3元触媒コンバータ、酸素センサ、エレクトロニック・コントロール・ユニット）の効率を維持するためには、

— 規定の点検時期（サービス・インターバル）を遵守してください。
— 燃料には**無鉛ガソリンだけ**を使用してください。

運転上の知識

エンジンの空燃比制御システムに不具合が発生すると、触媒コンバータが過熱して損傷する恐れがあります。

⚠ 警 告

エミッション・コントロール・システムを損傷する恐れがあります。

▷ 通常の操作でエンジンが始動しない場合、スターター・モーターを何度も繰り返し作動させたり、長時間作動させ続けないでください。

▷ 走行中にミスファイヤーが発生したとき（エンジンの回転がスムーズでないときや、出力が低下したとき）は、直ちに最寄りのポルシェ正規販売店で修理をしてください。

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ 燃料残量警告灯が点灯したら、カーブを高速で走行しないでください。

▷ 燃料タンクが完全に空になるまで走行を続けないでください。

▷ この車はけん引によるエンジンの始動または押しがけができません。

けん引や押しがけでエンジンを始動しようとすると、ティプトロニック・トランスミッションが損傷する原因になります。

高温の排気系が発火する恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒート・シールド、およびその周囲には、アンダー・コーティング剤や防錆剤を塗布しないでください。排気系の熱で発火することがあります。

▷ 乾燥した草や落葉など、引火性が高い物がある場所に駐車したり、走行しないでください。

予備燃料タンク

⚠ 危 険

予備燃料タンクの損傷や燃料漏れによる火災や爆発の恐れがあります。また、揮発燃料は人体に有害です。

▷ 走行中は、予備燃料タンクを車に積まないでください。

▷ 法規制に従ってください。

燃料の給油

イグニッションをONにすると、燃料レベルがインストルメント・パネルに表示されます。

▷ 詳細については：

「J一燃料計」（104ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

燃料は引火性が高く、人体に有害です。

▷ 燃料を取り扱うときは、近くで喫煙したり、火気を近付けないでください。

▷ 燃料が皮膚や衣類に付着しないよう十分注意してください。

▷ 揮発燃料（蒸気したガス）を吸い込まないでください。

燃料には**無鉛ガソリンだけ**を使用してください。不適切な燃料を使用すると、触媒コンバータと酸素センサが損傷します。

この車のエンジンは、**オクタン価が98RON/88MON以上の無鉛プレミアム・ガソリン**を使用したときに最大の出力と最高の燃費を引き出すように設計しています。

オクタン価が95RON/85MON以上の無鉛プレミアム・ガソリンも使用できますが、この場合はエンジンのノック制御システムが自動的に点火時期を補正します。

▷ 燃料タンクが完全に空になるまで走行を続けないでください。

知識

通常、燃料の品質（オクタン価など）に関する情報は、ガソリン・スタンドの給油機に掲載されています。

詳しくはガソリン・スタンドのスタッフにお尋ねください。

推奨燃料を給油できない状況では、緊急措置として無鉛ガソリン（91RON/82.5MON）を使うこともできます。

ただし、この燃料を使用するとエンジン出力が低下し、燃費も悪化します。

▷ この燃料を使用したときはアクセル・ペダルを全開にしないでください。

地域によっては、市販の燃料がポルシェ社の基準を満たさないことがあります。この場合は、インテーク・バルブに煤が堆積することになります。

ポルシェ社の基準を満たす燃料を入手できない場合は、推奨する添加剤を混ぜ合わせてください。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。＊

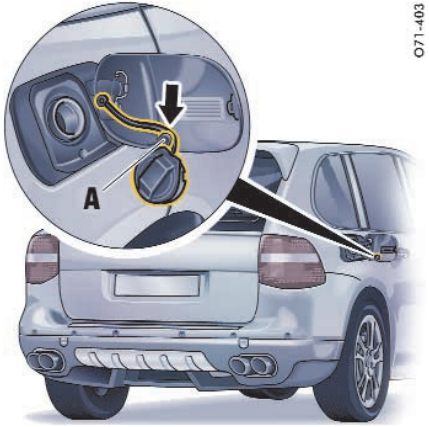
ポルシェ部品番号： 000 043 206 89

▷ 混合比率は、添加剤に付属の取扱説明書に従ってください。

メーカーが推奨するサービス・インターバルを守り、特にエンジン・オイルの交換時期は必ず遵守してください。詳しくは整備手帳をご覧ください。

1. エンジンを停止し、イグニッションをOFFにします。
2. フィラー・フラップの後部（矢印）を押すと、フラップが開きます。このとき、車のロックを解除しておいてください。

＊日本仕様に設定はありません。



O71-403

3. 給油キャップをゆっくりと取り外し、フィラー・フラップ裏側のフック**A**にかけます。
4. 必要に応じて、ポルシェ社が推奨する燃料添加剤を入れます。＊
5. 給油口の奥まで給油ノズルを差し込みます。このとき、給油ノズルのハンドルが下向きでなければなりません。
   燃料タンクには約100リットルの燃料が入ります。これには予備用の約12リットルを含みます。
6. ノズルを操作して燃料を給油します。

＊日本仕様に設定はありません。

知識

給油ノズルが自動停止したら、その時点で燃料タンクが「満タン」になっています。それ以上無理に給油すると、燃料が温まったときに吹き出したり溢れ出ることがあります。

7. 給油後、キャップを確実に取り付け、しっかりと固定されるまで閉めます。
8. フィラー・フラップが完全に閉まるまで、ゆっくりとフラップを押します。

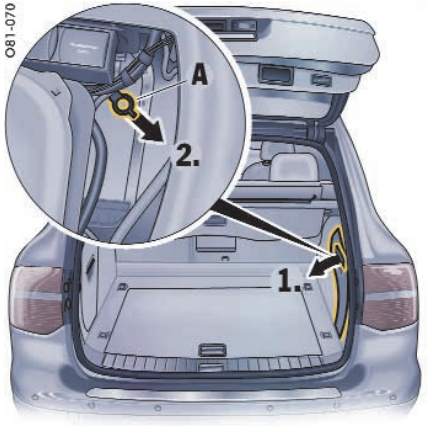
知識

給油キャップを紛失した場合は、必ずポルシェ純正部品と交換してください。

⚠ 注 意

デコラティブ・フィルムに燃料が付着すると変色する原因になります。

▷ 燃料がこぼれたときは直ちに拭き取ってください。



O81-070

フィラー・フラップの手動ロック解除

フィラー・フラップの電動ロック解除機構が故障したときは、以下の手順で強制的に開けることができます：

1. ラゲッジ・コンパートメント右側のカバーを取り外します。
2. エマージェンシー・リリース**A**を**矢印の方向**に引くと、フィラー・フラップが開きます。

車のお手入れ

適切な方法で定期的に車のお手入れを行うことは、車の価値を長持ちさせるだけでなく、保証の適用に際しても有利な条件となります。
ポルシェ正規販売店は、この車に相応しいカー・ケア用品を各種取り揃えており、用途に応じて単品またはセットで販売しています。

▷ カー・ケア用品の使用に際しては、パッケージ等に記載された注意事項を必ず守ってください。

▷ これらの製品は、お子様の手の届かない安全な場所に保管してください。

▷ 不要になった製品は、適切な方法で廃棄してください。

ポルシェ正規販売店で定期的な整備点検が実施されているか、その結果、10年間の長期保証条件が満たされているかを記録するため、ポルシェ正規販売店では車のお手入れの状態や整備状況を点検し、車に付属の「整備手帳」にその内容を記載しています。

高圧洗車装置、スチーム洗浄装置

⚠ 警 告

高圧洗車装置やスチーム洗浄装置などを使用すると、以下のコンポーネントを損傷する恐れがあります。

- タイヤ
- ロゴ、エンブレム
- 塗装面
- オーバー・フェンダ
- 着脱式ボール・ジョイントのロックおよびロッキング・メカニズム
- 電動格納式ボール・ジョイントのシール
- オルタネータ、バルブ・カバー
- パーキング・アシスタントのセンサ
- サイドビュー・モニター用カメラ

▷ 高圧洗車装置を使用するときは、装置メーカーが発行する取扱説明書の指示に従ってください。

▷ ブレーキ液タンクのキャップをカバーしてください。高圧のジェット水流を直接かけないでください。

▷ フラット・ジェット・ノズルやダート・ブラスターなどは、50cm以上離れた距離で使用してください。

▷ 丸型ジェット・ノズルが付いている高圧洗車装置やスチーム洗浄装置などは決して使用しないでください。丸型ジェット・ノズルが付いている高圧洗車装置は車を傷めます。特にタイヤは損傷を受けやすいため使用しないでください。

▷ 前述のコンポーネントを高圧洗車機で清掃する場合は、ジェット・ノズルを直接向けないでください。

デコラティブ・フィルム

⚠ 注 意

高圧洗車装置やスチーム洗浄装置などを使用するとデコラティブ・フィルムが剥がれて、車を損傷する恐れがあります。

▷ デコラティブ・フィルムを清掃するために、高圧洗車装置やスチーム洗浄装置などを使用しないでください。

ドア・ロックの保護

▷ 冬季など外気温度が低いときに洗車する場合は、ドア・ロックの凍結を防止するために、ロック・シリンダにカバーをしてください。

万一、ドア・ロックが凍結した場合は、市販の解凍剤を使用できます。またはキーを温めて差し込むと効果的です。ロック・シリンダに無理な力をかけないでください。

洗車

車の外観を美しく保つには、日頃のお手入れが大切です。こまめに洗車し、ワックスで保護してください。
解氷剤（塩分）、砂塵、ばい煙、昆虫の死骸、鳥の糞、樹液や花粉などは、車体に付着してからの時間が長くなるほど塗装に悪影響を与えます。
車体の塗装面にダメージを与えることなく洗車するために、以下の点に注意してください：

▷ 車体下部は汚れが激しいので、少なくとも季節の変わり目には洗車で洗い流してください。

▷ 洗車場など、適切な場所だけで車を清掃してください。ばい煙、グリース、オイル、金属粉などの廃棄物は環境を破壊します。

▷ 濃色車は塗料の組成上、わずかに傷が付きやすい性質があります。淡色車に比べてこまめに手入れしてください。

また濃色車の塗装は、小さなひっかき傷でも淡色車に比べて傷が目立ちやすい特性があります。

▷ 日差しの強いときや、車体表面の温度が高いときは洗車しないでください。

▷ 手洗いを行うときは、柔らかいスポンジ、洗車用ブラシ、カー・シャンプーを使用して多量の水で洗ってください。ポルシェ・カー・シャンプーを推奨します。

▷ 車体にたっぷりと水をかけ、表面の主な汚れを洗い流します。

▷ 洗剤を使った後は、水で十分にすすぎ、セーム革でボディの水分を拭き取ります。

ボディを拭き取った布でウィンドウを拭かないでください。

⚠ 警 告

ブレーキが濡れていると、ブレーキの効きが弱まり、事故を起こす恐れがあります。

▷ 洗車後はブレーキとステアリングの作動を確かめ、走行中にブレーキ・ペダルを軽く踏んでブレーキ・ディスクを乾燥させてください。

このとき、後方からの追突に注意してください。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると、ボディの付加物やボディから飛び出ているものが損傷する恐れがあります。
以下のパーツは、特に損傷の危険性があります：

— フロントおよびリア・ワイパー（間欠作動やオート作動を防止するため、ワイパー・スイッチをOFFにしてください。）
— ドア・ミラー（必ず格納してください。）
— ルーフ・トランスポート・システム（全て取り外してください。）
— スポイラ
— ホイール（幅広リムや超扁平タイヤを装着していると損傷する可能性が高まります。）

▷ 自動洗車機を使用する前に、洗車場のスタッフにお尋ねください。

▷ ドア、トランク・リッドおよびエンジン・フードのすき間、ドアの下枠など洗車機で洗えない部分は手で洗い、水分を拭き取ってください。

塗装の保護

機械的、化学的ダメージから最良の状態で車体の塗装を保護するために、以下の点に注意してください。

— 定期的に手入れをしてください。
— 必要に応じて磨いてください。
— 染みと汚れを落してください。
— 損傷箇所を修理してください。

一般知識

▷ 乾いた布で車体のほこりを払うと、ほこりの微粒子が塗装面を傷つけ、艶がなくなったり傷が目立つようになります。

▷ 艶消し仕上げの部品にワックスや光沢剤を塗布すると、艶消し効果がなくなります。

ワックス

塗装面は風化によって徐々に艶が失われるので、頻繁にワックスをかけて保護してください。

▷ 定期的にワックスを掛けてください。
▷ 洗車後は塗装保護剤を塗布し、塗装面を保護するために丁寧に磨いてください。

これらの作業で、塗装の光沢と強度を保つことができます。また、塗装面に新しい汚れが付着したり、ばい煙が浸透しにくくなります。

艶出し（ポリッシュ）

通常のワックスがけだけでは塗装の艶が戻らないときだけ、光沢剤を使用します。ポルシェ・ペイント・ポリッシュを推奨します。

汚れ、染み

▷ タール、グリース、昆虫の死骸などは洗車だけでは落ちません。また、これらの異物が塗装面に残っていると、色褪せの原因になります。ポルシェ社が推奨するタール除去剤か、昆虫除去剤で取り除いてください。
▷ 除去処理を行った後は、直ちに水で洗い流してください。

小さな塗装の傷

▷ 亀裂、引っかき傷、飛石による塗装面の小さな傷は、ボディの腐食が進行する前に修理してください。
詳しくはポルシェ正規販売店にご相談ください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ボディが腐食したときは、はじめに錆を完全に除去します。錆を取り除いたら、その箇所にプライマ（防錆剤）を塗布してから上塗り塗装を施します。車のデータ・キャリアには、ペイント・データが記されています。

▷ ビークル・データ・キャリアの位置については：
テクニカル・データ「ビークル・データ・キャリア」（305ページ）を参照してください。

エンジン・ルームの清掃

⚠ 注 意

オルタネータ、塗装面、バルブ・カバーなどを損傷する恐れがあります。

▷ 丸型のジェット・ノズルが付いた高圧洗車装置を使用しないでください。
▷ 洗車ノズルとの距離は、50cm以上離してください。
▷ 高圧洗車装置を使用する前に、ブレーキ液タンクのキャップをカバーしてください。キャップにジェット水流を直接かけないでください。
▷ 上記のコンポーネントを洗浄する場合は、ジェット・ノズルを直接向けないでください。

知識

オフロードや凍結防止剤が巻かれた道路を走行するときは：

▷ 定期的にエンジン・ルームを洗浄してください。

ウィンドウの清掃

▷ すべてのウィンドウの外側と内側をウィンドウ・クリーナで定期的に清掃してください。ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨します。
▷ サイド・ウィンドウを清掃する場合、TVアンテナを破損しないように注意してください。
▷ ボディを拭き取った布でウィンドウを拭かないでください。ワックスや光沢剤がウィンドウに付着し、視界が悪くなる恐れがあります。
▷ 昆虫の死骸は、ポルシェ社が推奨する昆虫除去剤で取り除いてください。

知識

フロントおよびサイド・ウィンドウには、ガラスの汚れを抑制する（疎水性の）撥水剤がコーティングされています。
このコーティングは経年変化で徐々に剥がれます。また新たにコーティングすることもできます。
▷ 詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

ワイパー・ブレードの清掃

ワイパー・ブレードをきれいな状態に保つことで、良好な視界を確保できます。
▷ 1年に2回（冬季の前後に）、ワイパー・ブレードを交換してください。またはワイパーの払拭性能が低下したときや、ワイパー・ブレードが損傷したときも交換してください。
▷ ワイパー・ブレードの交換については：「ワイパー・ブレード」（235ページ）を参照してください。
▷ ワイパー・ブレードはウィンドウ・クリーナで定期的に清掃してください。特に自動洗車機で洗車後は、ウィンドウ・クリーナで清掃してください。ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨します。昆虫の死骸などで汚れがひどい場合は、スポンジまたは布で清掃してください。

ワイパー・ブレードが擦れたり、きしみ音が発生するときは、以下の原因が考えられます：

— 自動洗車機を使用すると、フロント・ウィンドウに洗剤などの残留物が付着する場合があります。このような残留物は、ウィンドウ・クリーナの濃縮液を使用しなければ落ちません。
▷ 「ウォッシャ液の補充」（233ページ）を参照してください。

不明な点はポルシェ正規販売店にお問い合わせください。
— ワイパー・ブレードが損傷または摩耗している場合があります。
▷ すみやかに損傷したワイパー・ブレードを交換してください。

アンダー・コーティングの修復

車体下部は、化学的および機械的なダメージに耐えるよう保護されていますが、日常的な車の使用で保護効果が弱まります。
▷ ポルシェ正規販売店で定期的に点検、修理を受けてください。

⚠ 警 告

高温の排気系が発火する恐れがあります。

▷ エキゾースト・マニホールド、エキゾースト・パイプ、触媒コンバータ、ヒート・シールド、およびその周囲には、アンダー・コーティング剤や防錆剤を塗布しないでください。排気系の熱で発火することがあります。

ヘッドランプ、ランプ類、内外装のプラスチック部品、接着フィルムの清掃

以下の点に注意してください：

▷ ヘッドランプ&ランプ類、プラスチック部品の表面を清掃するときは、きれいな水と少量の中性洗剤だけを使用してください。柔らかいスポンジまたは糸くずが出ない布を使用してください。

知識

プラスチック表面の清掃には、ウィンドウ・クリーナが適しています。クリーナの容器に記載されている注意事項を遵守してください。

ポルシェ・ウィンドウ・クリーナを推奨します。

▷ 力をかけないで優しく表面を拭いてください。

▷ 表面が乾いた状態では清掃しないでください。

▷ 他の化学成分が入ったクリーナや溶剤を使用しないでください。

▷ きれいな水で洗い流します。

合金製ホイール

合金製ホイールの表面に付着した金属の微粒子（ブレーキ・ダストに含まれる真鍮や銅など）は、長期間放置しないでください。金属同士の接触による腐食が発生し、小さな穴（ピッチング）が開きます。

知識

市販の酸化洗浄剤や、酸性／アルカリ性の洗剤を使用しないでください。また研磨器具や研磨剤も、ホイール表面を傷めます。

▷ **合金製ホイール専用クリーナ（pH値9.5）をお使いください。pH値の異なるクリーナを使用するとホイール表面の保護層を損傷します。**
ポルシェ純正合金製ホイール・クリーナを推奨します。

▷ ホイールをスポンジかブラシで、できれば2週間ごとに洗ってください。
冬季に凍結防止剤が撒かれる道路や、ばい煙の多い地域を走行する車は、毎週洗ってください。

▷ 3ヶ月に1度、ホイールを洗浄した後にカー・ワックスまたは中性グリース（例： ワセリン）を塗布してください。柔らかい布を使って、グリースを表面によくすりこみます。

▷ 洗車機を使用した合金製ホイールの清掃については：
「自動洗車機」（242ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナが付着すると、ブレーキの効きが低下して、思わぬ事故を起こす恐れがあります。

▷ ブレーキ・ディスクにホイール・クリーナを付着させないでください。

▷ ブレーキ・システムにホイール・クリーナが付着したときは、高圧の水で丁寧に洗い流してください。

▷ ブレーキ・システムに水をかけた後は、ゆっくりと走行しながらブレーキをかけて、ブレーキ・ディスクを乾燥させてください。

ステンレス製テール・パイプ

ステンレス製テール・パイプは、高温とエキゾースト・ガスの残留物で汚れます。

ステンレス本来の輝きは、市販のポリッシュ・ペーストや金属光沢剤で取り戻すことができます。

ドア、ルーフ、リッドとウィンドウ・シールの清掃

⚠ 注 意

ウィンドウ・シールをコーティングしている潤滑剤は、不適切な清掃や洗浄剤の使用によりダメージを受けることがあります。

▷ 化学性の薬品や洗浄剤を使用しないでください。

▷ 保護剤を使用しないでください。

▷ シールの汚れ（凍結防止剤、砂塵など）は、石鹸を溶かした温水で定期的に清掃してください。

▷ 凍結する恐れがある場合は、適切なカー・ケア用品でドアやリッドのシールを保護してください。

本革のお手入れ

本革の表面に見られる天然のしわや傷、虫が刺したような跡、模様の違い、色合い、銀面などの微妙な変化が、高品質本革の天然素材としての魅力を一層引き立てます。お手入れに関しては、以下の点に注意してください：

⚠ 注 意

不適切なクリーナ、清掃剤、保護剤などを使用すると、本革を傷める原因になります。

▷ 刺激性の強い洗剤や、硬い清掃具を使用しないでください。

▷ 表面に小さな穴を開けたメッシュ加工の本革は、裏側まで湿らせないでください。

▷ 無色の柔らかい毛織物または市販のマイクロ・ファイバー布を湿らせて汚れを拭き取ります。定期的にお手入れしてください。

▷ 汚れがひどいときは、レザー・クリーナを使用してください。容器の取扱説明書をよく読んでから使用してください。ポルシェ･レザー・クリーナを推奨します。

▷ 清掃後は、レザー・ケア剤でお手入れしてください。
ポルシェ･レザー・クリーナを推奨します。

カーペットとフロア・マットの清掃

▷ 掃除機か、中程度の硬さのブラシを使用してください。

▷ 汚れやしみは、しみ抜き剤で除去します。ポルシェ純正のしみ抜き剤を推奨します。

フロア・カーペットの汚れや傷つきを防ぐため、正しいサイズでしっかりと固定できるフロア・マットをアクセサリとして用意しています。

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあります。

▷ ペダル操作の妨げにならないように、フロア・マットを確実に固定してください。

エアバッグ・カバーの清掃

⚠ 危 険

不適切な方法で清掃すると、エアバッグ・システムが故障する原因となり、いざというときに重傷または致命傷を負う恐れがあります。

▷ ステアリング・ホイールのパッド、フロント・シート、ルーフ・ピラー、ルーフ・ライニングなどの部品を改造しないでください。

▷ これらの部品を清掃するときは、ポルシェ正規販売店にご依頼ください。

ファブリック・ライニングの清掃

▷ ピラー、ルーフ・ライニング、サン・ブラインドなどのファブリック・ライニングは、素材に適した清掃剤やドライ・フォームと柔らかいブラシを使用してください。

アルカンターラの清掃

アルカンターラの清掃に、本革用のカー・ケア用品を使用しないでください。
日常のお手入れとしては、表面を柔らかいブラシで拭くだけで十分です。
研磨材を使用したり強く擦ると、アルカンターラの表面が傷むので注意してください。

軽度の汚れ

▷ 柔らかい布を水または中性の石鹸水で濡らして、汚れを拭き取ります。

頑固な汚れ

▷ 柔らかい布を、ぬるま湯または薄めたクリーニング用溶剤で濡らして、外側から汚れた部分を軽くたたきます。

シートベルトのお手入れ

▷ シートベルトは、刺激性の少ない洗剤で清掃してください。
▷ ベルトを乾燥させるときは、直射日光を避けてください。
▷ 適切な洗剤だけを使用してください。
▷ ベルトを染色および脱色しないでください。ベルト素材の強度が低下し、いざというときの安全性が損なわれます。

車の長期保管

車を長期間使用しないで保管する場合は、ポルシェ正規販売店にご相談ください。
腐食防止対策、特別なお手入れとメンテナンス、保管方法などについてアドバイスをします。
また「車の保管」に関する重要な情報は、他の章にも記載しています。

▷ 「バッテリ」(282ページ) を参照してください。
▷ バッテリを切り離した状態で車をロックするときは：
▷ 「すべてのドアがロックできない」(23ページ) を参照してください。

万一のときは

軽修理について 249
発炎筒 249
タイヤとホイール 251
ジャッキ 256
工具セット 257
コンプレッサー 257
スペーサ 257
ホイール・ボルト 258
パンクしたときの処置 259
タイヤ空気の充填 269
スペア・タイヤ 270
電気系統 274
バッテリ 282
リモート・コントロールの電池交換 285
ジャンパー・ケーブルによる
エンジンの始動 286
バルブの交換 288
ヘッドランプ 289
リア・ランプ 295
ライセンス・ランプ 297
ヘッドランプの調整 298
右側通行から左側通行への変更に伴う
ヘッドランプの切り替え 298
バルブ・リスト 299
けん引とけん引によるエンジンの
始動 300

軽修理について

ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
お客様ご自身でメンテナンスされる場合も、細心の注意を払って作業を実施してください。これらの注意事項を守ったときだけ、信頼できる走行性能が保証されます。
不適切なメンテナンスを行うと、保証期間中でも保証が適用されないことがあります。

工具セット

工具セットは、ラゲッジ・コンパートメントのフロア・カバー下に収納しています。

知識

コラプシブル・スペア・タイヤまたは標準サイズのスペア・タイヤ装備車のみ、タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・レンチ、ホイール取り付け補助工具、輪止めなど）を搭載しています。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

応急処置セット＊

右側リア・シートの下に応急処置セットの収納スペースがあります。

▷ リア・シートの倒し方については「リア・シートを倒す、戻す」（183ページ）を参照してください。

停止表示板＊

停止表示板は左側リア・シート・クッションの下に収納しています。

⚠ 警 告

急ブレーキや事故の際に、乗員が怪我をしたり車が損傷する恐れがあります。

▷ シート・クッションと成型材の間に物を置かないでください。

＊日本仕様に設定はありません。

発炎筒

発炎筒は、事故や故障で路上に停車したとき、周囲に危険を知らせるために使用します。
発炎筒は、助手席足元前部のドア側に固定してあります。

⚠ 警 告

火傷や火災につながる恐れがあります。

▷ 燃料などの可燃物の近くでは使用しないでください。引火する恐れがあります。

▷ 発炎筒を使用するときは、顔や身体に向けたり、近づけないでください。火傷をする恐れがあります。

▷ お子様がさわらないように注意してください。誤って使用すると火傷をしたり、車を損傷する恐れがあります。

⚠ 注 意

トンネルの中などで使用すると、事故につながる恐れがあります。

▷ トンネルの中など換気が悪い場所で使用すると、発炎筒の煙で視界が遮られて事故につながる恐れがあります。必要に応じてハザード・ランプを使用してください。

発炎筒の使い方

1. キャップを外します。本体をひねりながら、ケースから取り出します。
2. 本体を逆に向けて、ケースに差し込みます。
3. 本体の点火部を、キャップの擦り薬でこすると着火します。

知識

▷ 発炎筒の燃焼時間は約5分間です。

▷ 発炎筒には有効期限があります。表示してある有効期限が切れる前に、新しい発炎筒に交換してください。ポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

⚠ 危 険

メンテナンス作業は危険を伴いますので十分に注意してください。致命的な事故、怪我および火災になる恐れがあります。

▷ バッテリや燃料系統の近くで喫煙したり、火気を近付けないでください。

▷ メンテナンス作業は、屋外か、または屋内の換気が良い場所で実施してください。

▷ 火傷の危険性がありますので、加熱したエンジン部品の近くで作業をする場合は十分注意してください。

▷ エンジン・ルーム内を整備する前に、エンジンを停止し、十分冷やしてください。

▷ やむを得ずエンジンをかけたまま作業する場合は、必ずパーキング・ブレーキをかけ、ティプトロニック・セレクタ・レバーを **“P”** の位置にします。

▷ 手、指、衣服の一部（ネクタイ、袖など）、装飾品、長い髪などがファン、ドライブ・ベルト、その他の可動部品に巻き込まれることがないように、特に注意してください。

▷ ラジエータおよびラジエータ・ファンは車両の前側にあります。

ラジエータ・ファンは、エンジンが停止していてもクーラントが一定の温度に達すると作動することがあります。ラジエータ・ファン付近で作業をする場合は、エンジンおよびイグニッションをOFFにしてください。怪我をする危険性がありますので十分注意してください。

▷ イグニッションがONのときは、点火装置に接続されているすべてのケーブルとリード線に高電圧がかかっています。特に注意が必要です。

▷ やむを得ず車体の下に入って作業する場合は、必ず強固なリフトで車体を持ち上げてください。ジャッキだけで支えた車体の下に入ることは危険ですので、絶対にやめてください。

レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンションのジャッキ・アップについては：

「ジャッキ・アップ」（172ページ）を参照してください。

▷ エンジン・オイル、ブレーキ液、クーラントなどの液体は人体に有害です。これらの液体は、お子様の手の届かない所に保管してください。廃棄する場合は、法規に従ってください。

タイヤとホイール

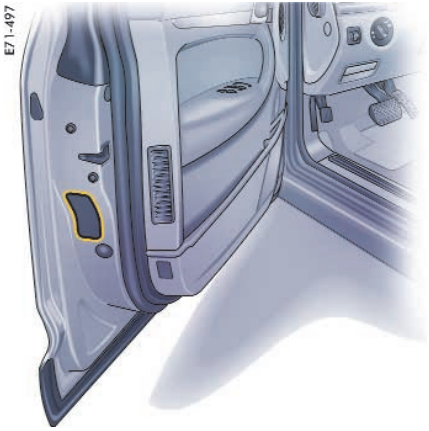
タイヤの寿命は、タイヤ空気圧やホイール・アライメントだけでなく、お客様の運転スタイルに大きく左右されます。
急加速や高速でのコーナリング、ブレーキを酷使する運転スタイルは、タイヤの摩耗を早めます。また、外気温度が高いときや悪路での走行も、タイヤ・トレッドの摩耗を早める原因です。
エンジンと同様、タイヤも正常な状態で使用しなければなりません。タイヤを正しく取り扱うことで、長期にわたって安全な走行が可能になります。いつまでも安全に車をお使いいただくために、以下のタイヤの取り扱い方法を守ってください。
オフロードを走行した後は、タイヤの損傷がないか詳しく点検してください。

荷重と速度

▷ 過積載をしないでください。規定荷重を超える荷物をルーフに積まないでください。
過積載をすると、特に以下の状況で非常に危険です：
十タイヤの空気圧不足
十高速走行
十高い外気温度（真夏の炎天下など）

タイヤの空気圧

規定の空気圧を維持してください。



タイヤ空気圧の規定値は、以下で確認ができます：
— 左側フロント・ドア開口部のラベル
— 本書のテクニカル・データ：
「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。
タイヤ空気圧の規定値は、タイヤが冷えているとき（20℃）を基準にしています。
▷ 最低でも2週間に1度はタイヤ空気圧を点検してください。必ずタイヤが冷えているときに点検してください。
▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装備車は：
「タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定」（116ページ）を参照してください。

タイヤの温度が上昇すると、空気圧も高まります。
▷ タイヤの温度が高い状態で空気を抜かないでください。温度が下がったときに空気圧が不足します。
タイヤのバルブ・キャップは、バルブからの空気漏れを防ぎ、ほこりや汚れが入るのを防ぎます。
▷ 必ずキャップを完全に締めてください。
▷ 紛失した場合は、直ちに新しいキャップを取り付けてください。
タイヤ空気圧が不足しているとタイヤが過熱して、目に見えない損傷が発生します。このような損傷が発生した場合は、空気圧を調整しても正常な機能を回復できません。

タイヤの損傷

高圧洗車装置を使用すると、タイヤを傷付けることがあります。
▷ 高圧洗車装置の取り扱いについては：
「高圧洗車装置、スチーム洗浄装置」（241ページ）を参照してください。

⚠ 警 告

目に見えない小さな傷でも、それが原因で高速走行中にバースト（破裂）する恐れがあります。

▷ 定期的にタイヤの状態（側面も含めて）を点検し、異物の噛み込み、欠損、切り傷、亀裂、側面の膨れなどがないか確認してください。
▷ 縁石を乗り越えるときは、速度を下げて、できるだけ直角に通過してください。段差が大きな縁石や、尖った縁石を乗り越えないでください。
▷ ホイール・リムが損傷したとき、特に内側が損傷した可能性がある場合は、専門家による点検を受けてください。

以下の場合は、安全のためにタイヤ交換を行ってください：

— タイヤ内部の構造物の層が損傷した可能性があるとき
— タイヤ空気圧が低いまま走行したときや、以前に損傷していた箇所がある場合など、それらが原因でタイヤが過熱したり、異常な負荷がかかった可能性があるとき

知識

損傷したタイヤを修理しないでください。

▷ オフロードを走行した後は、タイヤに亀裂、損傷、膨れ、異物の噛み込みなどがないか点検してください。必要に応じてタイヤを交換してください。

縁石

縁石の鋭角部分や尖った部分がタイヤに当たると、その衝撃で目に見えない損傷が生じます。損傷が生じたときは気づかなくても、高速走行中にタイヤがバースト（破裂）する原因になります。
タイヤに加わる衝撃が大きいと、ホイール・リムを損傷することがあります。

タイヤの保管

▷ タイヤは常に乾燥した冷暗所に保管してください。ホイールに取り付けていないタイヤは、立たせた状態で保管してください。
▷ 燃料、オイル、グリースなどにタイヤが触れないようにしてください。

製造から6年以上が経過したタイヤを使用しない

「タイヤは、保管して古くなった方が摩耗しにくい」という説がありますが、これは完全な誤りです。年数が経過すると、ゴムに伸縮性を与えるために添加している化学薬品の効果が弱まり、ゴムがもろくなってしまいます。
タイヤの製造時期は、タイヤ側面のDOTコードでわかります。コードの下4桁が製造年と週を示しており、例えば「1208」というコードであれば2008年の第12週目に製造されたタイヤです。

トレッド（接地面の溝）

トレッドが摩耗して溝深さが浅くなるほど、ハイドロプレーニング現象が発生する危険性が高まります。

▷ 走行安全性を維持するため、トレッドのスリップ・サインが見える前にタイヤを交換してください。スリップ・サインは、溝深さが1.6mmまで摩耗すると現れます。
▷ タイヤを定期的に点検してください。特に長距離走行の前後は、入念に調べてください。

ホイール・バランス

▷ 安全で快適なドライブを楽しむため、サマー・タイヤは春季に、ウインター（スノー）・タイヤは秋季にホイール・バランスを点検してください。

バランス・ウエイトは、必ずポルシェ社が承認したものを使用してください。接着式のバランス・ウエイトは洗浄剤で落下することがあります。

ホイールの交換

▷ 車からホイールを取り外すときは、それぞれのタイヤが付いていた位置（前後左右）と、前進時のタイヤの回転方向をマーキングしてください。
例：
右前のホイールは「FR」、左前は「FL」、右後ろは「RR」、左後ろは「RL」
▷ ホイールを再度取り付けるときは、マーキングに従って同じ位置に取り付けてください。

ホイール・アライメント

トレッドの摩耗度合いに偏りがあるときは、ホイール・アライメントに狂いがあることを示しています。この場合、車を点検する必要があります。

▷ ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

⚠ 警 告

タイヤの不具合を修理することなく運転を続けると、突然コントロールを失うことがあり大変危険です。

走行中、タイヤや車の損傷が原因と思われる不規則な回転振動が発生したときは：

▷ 急ブレーキをかけないで、すみやかに速度を下げてください。

▷ 停車してタイヤを点検してください。不具合原因がわからないときは、慎重な運転を心がけ、最寄りのポルシェ正規販売店で点検を受けてください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

タイヤの交換

▷ 新しいタイヤを取り付ける前に、ポルシェ社が承認している最新のタイヤについてポルシェ正規販売店にお尋ねください。

▷ ポルシェ社がテストを行い、承認したメーカーの指定の製品だけを使用してください。

原則として、装着するタイヤの組み合わせは同じメーカーの同じ仕様番号（N0、N1…）に統一してください。

新品のタイヤはグリップ性能を十分に発揮できません。

▷ 交換後100～200kmは、高速走行を避けて慎重に運転してください。

フロントまたはリア・タイヤだけを交換すると、前後アクスルのタイヤ・トレッド溝深さに差が生じるため、それまでとは違った走行感覚になります。この違和感は、特にリア・タイヤだけを交換すると顕著に現れます。走行距離が伸びるにつれて、違和感が次第に減少します。

▷ ハンドリング特性の変化に合わせて運転してください。

タイヤの交換は、必ず専門技術を持つ整備工場などで実施してください。損傷したタイヤ1本だけを交換する場合は、左右のタイヤ・トレッド溝深さに30%以上の差がないことを確認してください。

▷ 使用経歴が不明な中古タイヤは使用しないでください。

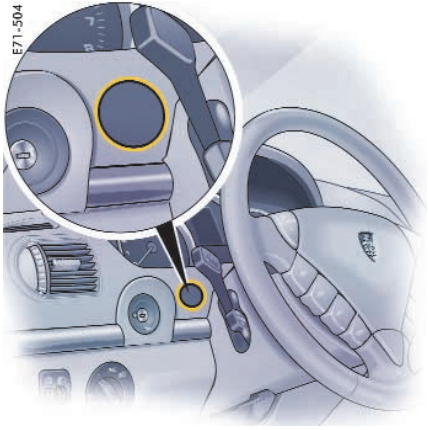
タイヤ・バルブ

▷ プラスチック製のバルブ・キャップだけを使用してください。

ラバー製のタイヤ・バルブは、タイヤ交換と同時に必ず交換してください。スチール・バルブは純正品のみを使用し、取り付けまたは交換に関する注意事項を遵守してください。

ポルシェ純正スチール・バルブ、またはポルシェ社が要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。

▷ バルブの汚れを防ぐため、必ずバルブ・キャップを取り付けてください。
バルブが汚れると、タイヤの空気圧が低下する原因となります。



最高速度ステッカーの貼り付け位置

ウインター・タイヤ

⚠ 警 告

法定速度を遵守してください。思わぬ事故を起こす原因になります。

▷ タイヤの許容最高速度を超えないでください。

▷ 最高速度を示すステッカーを、ドライバーの視野に貼り付けてください。
各国の法律を遵守してください。

▷ 積雪や凍結の恐れがある時期が近づいたら、早めにウインター・タイヤを4輪すべてに装着してください。ウインター・タイヤについては、最寄りのポルシェ正規販売店にご相談ください。

知識

サマー・タイヤは外気温度が7℃以下になると性能が低下します。早めにウインター・タイヤに交換することをお勧めします。サマー・タイヤを極低温時に使用すると、修復不可能な損傷が生じる可能性があります。

ウインター・タイヤは、トレッド溝深さが4mm以下になると性能が低下します。

▷ ウインター・タイヤと同様、オール・シーズン・タイヤやオール・ラウンド・タイヤも「M＋S」のカテゴリーに属します。

ホイールの交換

▷ 車からホイールを取り外すときは、それぞれのタイヤが付いていた位置（前後左右）と、前進時のタイヤの回転方向をマーキングしてください。
例：
右前のホイールは「FR」、左前は「FL」、右後ろは「RR」、左後ろは「RL」

▷ ホイールを再度取り付けるときは、マーキングに従って同じ位置に取り付けてください。

スノー・チェーン

スノー・チェーンはリア・タイヤだけに装着してください。

▷ スノー・チェーンまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、スペーサ＊を取り外してください。

⚠ 注 意

リア・ホイールのスペーサを取り付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、リア・ホイールの17mmスペーサを必ず取り外してください。

▷ スペーサについては：
「スペーサ」（257ページ）を参照してください。
スペーサの取り外しについては：
「17mmスペーサの取り外し」（266ページ）を参照してください。

▷ スノー・チェーンとホイール・ハウジングのすき間に十分な余裕を確保するため、ポルシェ社が推奨または承認したファイン・リンク・チェーンだけを使用してください。

＊日本仕様に設定はありません。

▷ ポルシェ社が承認したスノー・チェーンについては：
テクニカル・データ「タイヤ、ホイール、トレッド」（307ページ）を参照してください。
▷ スノー・チェーンを装着する前に、ホイール・ハウジングの内側にこびりついた雪や氷を取り除いてください。
▷ スノー・チェーンを装着したときは**50km/h**以下で走行してください。

タイヤ空気圧モニタリング・システム（TPM）のセンサ付きホイール

ホイールを交換する前に、車両のタイヤ空気圧モニタリング・システムに適合するホイールであることを確認してください。

▷ 詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。

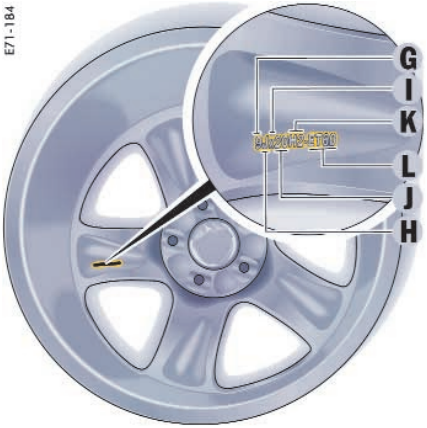
A - *タイヤ幅（mm）*
B - *扁平率（%）*
C - *タイヤ構造記号（ラジアル）*
D - *リム径（インチ）*
E - *ロード・インデックス*
F - *速度記号*

ラジアル・タイヤの見方

速度記号
速度記号**F**は、そのタイヤの許容最高速度を示します。
この記号はタイヤの側面（サイド・ウォール）に表示しています。

T = 190km/h以下
H = 210km/h以下
V = 240km/h以下
W = 270km/h以下
Y = 300km/h以下

知識
▷ タイヤの側面に「M+S」の表示があるタイヤに限り、許容最高速度がこの車の最高速度に満たないタイヤを装着できます。
ウインター・タイヤの他、オール・シーズン・タイヤやオール・ラウンド・タイヤも、この「M+S」のカテゴリーに属します。M+Sの表示があることを確認してください。



G - *リム幅（インチ）*
H - *フランジ形状記号*
I - *ドロップ・センター・リム記号*
J - *リム径（インチ）*
K - *ダブル・ハンプ*
L - *リム・オフセット（mm）*

合金製ホイールの記号

ホイールについての情報は、ホイール・スポークの裏面に表示されています。なおリム幅（インチ）**G**およびリム・オフセット**L**は、ホイールを車に装着した状態でも見えるように、外側に記されています。この表示は、タイヤ・バルブの近くにあります。

A - *工具セット*

ジャッキ

車載ジャッキは、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下にある工具セット**A**に収納しています。

知識

コラプシブル・スペア・タイヤまたは標準サイズのスペア・タイヤ装備車のみ、タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・レンチ、ホイール取り付け補助工具、輪止めなど）を搭載しています。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

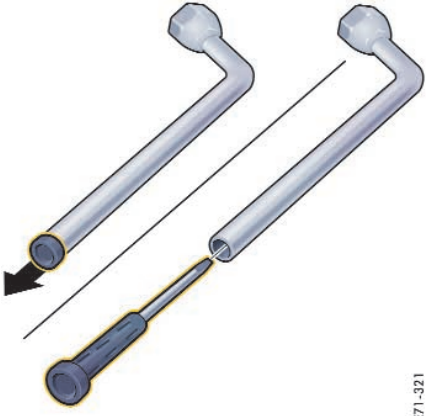
⚠ 警 告

ジャッキが車体から外れて致命的な怪我をする恐れがあります。

▷ 車載ジャッキは、タイヤ交換だけに使用してください。
▷ 車の下に入るときは、安全スタンドで車体を支えてください。ジャッキだけで支えた状態で、車の下に入らないでください。

リフトまたはトロリ・ジャッキによるリフト・アップ

▷ タイヤ交換については：「タイヤ交換」（265ページ）を参照してください。
▷ 車体をリフト・アップするときは、ジャッキ・ポイントだけを使ってください。
▷ リフトに乗り入れるときは、車体下部とリフト・プラット・フォームの間に十分なスペースがあることを確認してください。
▷ エンジン、トランスミッション、およびアクスルにはジャッキをかけないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。



工具セット

工具セットおよびプレッシャ・テスタ付きコンプレッサーは、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納しています。

知識

コラプシブル・スペア・タイヤまたは標準サイズのスペア・タイヤ装備車では、スクリュー・ドライバーがホイール・レンチのハンドル部に収納されています。

コンプレッサー

レベリング・システム用のコンプレッサーを使用してタイヤに空気を入れることができます。
このために必要なアダプタ・ホースは、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下にあるスペア・ホイール内に収納しています。

▷ レベリング・システム用のコンプレッサーでタイヤに空気を補充するときは：
「タイヤ空気の充填」（269ページ）を参照してください。

スペーサ＊

▷ スペーサは、ポルシェ社が承認したホイールだけに使用してください。
スペーサを取り付ける前に、ポルシェ社が承認している最新のホイールについてポルシェ正規販売店にお尋ねください。

▷ スノー・チェーンまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、スペーサを取り外してください。

⚠ 危 険

スペーサを取り付けたままコラプシブル・スペア・タイヤを装着すると、事故を起こす恐れがあります。

▷ コラプシブル・スペア・タイヤを装着する前に、必ず17mmスペーサを取り外してください。スペーサを取り付けたままだとホイールが正しく装着できません。

＊日本仕様に設定はありません。

⚠ 注 意

スノー・チェーンを装着するときは、必ずスペーサを取り外してください。リア・ホイールのスペーサを取り付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、リア・ホイールの17mmスペーサを必ず取り外してください。

知識

▷ スペーサの取り外しについては：「17mmスペーサの取り外し」（266ページ）を参照してください。

▷ スペーサの取り付けについては：「17mmスペーサの取り付け」（268ページ）を参照してください。

E41-328

ホイール・ボルト

▷ ホイール・ボルトを取り外したときは、取り付け前に清掃してください。

知識

▷ ホイール・ボルトには絶対に油脂類を塗布しないでください。

▷ 損傷したホイール・ボルトは交換してください。その際は、必ずこの車専用のポルシェ純正ホイール・ボルト、またはポルシェ社が要求する性能、品質規準を満たす同等部品を使用してください。

締付けトルク

ホイール・ボルトは**160Nm**のトルクで締め付けてください。

盗難防止ホイール・ボルト

盗難防止ホイール・ボルトを脱着するためのアダプターは、工具セットに収納しています。

盗難防止ホイール・ボルトを脱着するときは、このアダプターをホイール・ボルトとホイール・レンチの間に入れて使用します。

▷ アダプターは取り付ける位置が決められています。アダプターがホイール・ボルトにしっかりとはまっていることを確認してから、ホイール・レンチに力をかけてください。

知識

リア・ホイールに17mmスペーサ＊を取り付けている車では、スチール製ホイール・ナットを使用しています。このホイール・ナットには盗難防止機能が付いていません。

車を修理工場に預けるとき、ホイールを脱着する可能性があるときは、車のキーと一緒に盗難防止ホイール・ボルト用のアダプターも忘れずお渡しください。

＊日本仕様に設定はありません。

パンクしたときの処置

知識

コラプシブル・スペア・タイヤまたは標準サイズのスペア・タイヤ装備車のみ、タイヤ交換に必要な工具（ジャッキ、ホイール・レンチ、ホイール取り付け補助工具、輪止めなど）を搭載しています。詳しくはポルシェ正規販売店にお問い合わせください。

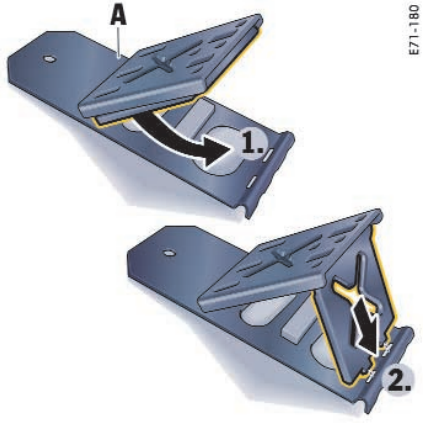
1. 走行車線からできるだけ離れた安全な場所に停車します。地面が固くて水平な場所を選んでください。
2. ハザード・ランプを点滅させます。
3. パーキング・ブレーキをしっかりとかけます。
4. ティプトロニック・セレクタ・レバーを**“P”**の位置にします。
5. フロント・ホイールを直進位置にします。
6. 誤ってエンジンが始動しないよう、イグニッション・キーを抜き、ステアリングをロックします。
7. すべての乗員を安全な場所に避難させます。
8. 停止表示板を適切な場所に設置します。

A - *輪止め*

車の固定

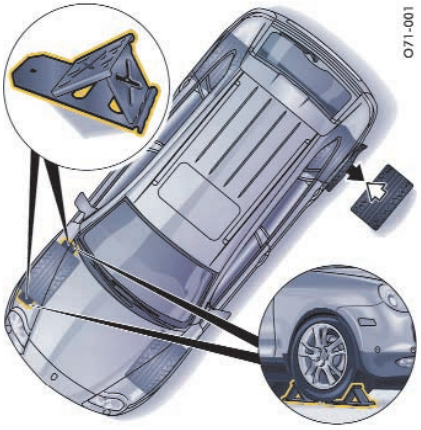
工具セットに収納している輪止め**A**を使用して、車が不意に動かないように固定します。

1. マジック・テープを緩め、輪止めを取り出します。



A - *折りたたみ式の輪止め*

2. 折りたたんである輪止めを起こします。
3. 起こした位置でロックします。



4. ジャッキで持ち上げるタイヤと対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めを設置します。

パンク修理剤

タイヤのパンク修理剤（シーラント）は、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納しています。
このパンク修理剤は、タイヤ・トレッドに小さな傷が付いて空気が漏れているときに使用できます。
パンク修理剤は、緊急の場合の応急措置として使用してください。パンク修理剤を使うとタイヤの気密性が一時的に保持され、最寄りの修理工場まで車を運転できますが、あくまで緊急用の短距離走行だけにしてください。

パンク修理剤は、以下のパーツで構成されます：
— 充填ボトル
— 充填ホース
— バルブ回し
— スペア・バルブ・インサート
— 最高速度ステッカー
— 製品の取扱説明書

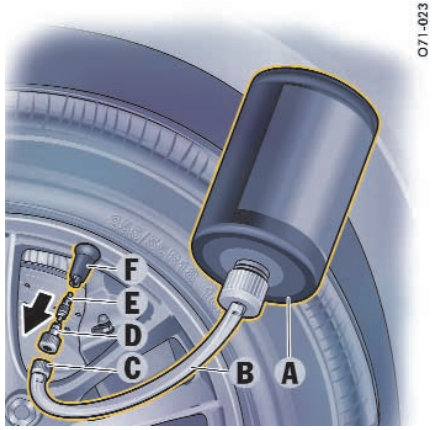
⚠ 危 険

事故を起こす恐れがあります。
▷ タイヤ・パンク修理剤は、大きさが4mm以下の切り傷や刺し傷だけに使用してください。
▷ ホイール・リムが損傷している場合は、パンク修理剤を使用しないでください。

⚠ 警 告

パンク修理剤は可燃性で、人体に有害です。
▷ パンク修理剤を使用するときは喫煙したり、火気を近づけないでください。
▷ 皮膚、目、衣服に付着しないように注意してください。
▷ お子様の手の届かない場所に置いてください。
▷ パンク修理剤が気化したガスを吸い込まないでください。

パンク修理剤が付着したとき：
▷ 皮膚に付着したり目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い流してください。
▷ 衣服に付着したときは、すぐに着替えてください。
▷ パンク修理剤でアレルギー反応を起こしたときは、直ちに医師の診察を受けてください。
▷ 誤って飲み込んだときは、直ちに多量の水でゆすぎ、さらに多量の水を飲んでください。嘔吐せず、至急医師の診察を受けてください。



A - *充填ボトル*
B - *充填ホース*
C - *充填ホースのプラグ*
D - *バルブ回し*
E - *バルブ・インサート*
F - *タイヤ・バルブ*

パンク修理剤（シーラント）の充填

1. タイヤの空気が抜けた原因の異物は取り除かず、そのままタイヤに残しておきます。
2. ラゲッジ・コンパートメントからパンク修理剤と同封のステッカーを取り出します。
3. ステッカーをドライバーの視野に入る位置に貼り付けます。
4. 充填ボトル**A**をよく振ります。
5. 充填ホース**B**を充填ボトルにねじ込みます。
6. タイヤ・バルブ**F**からバルブ・キャップを外します。
7. バルブ回し**D**を使用して、バルブ・インサート**E**をタイヤ・バルブから取り外します。バルブ・インサートを、きれいで乾いた場所に置きます。
8. 充填ホース**B**のプラグ**C**を取り外します。
9. 充填ホースをタイヤ・バルブに押し付けます。
10. 充填ボトルをタイヤ・バルブより上方に持ち上げ、ボトルを強く握って中身をすべてタイヤに充填します。
11. ホースをタイヤ・バルブから抜きます。
12. バルブ回しを使用して、バルブ・インサートをタイヤ・バルブにしっかりねじ込みます。
13. 規定のタイヤ空気圧にセットし、タイヤに空気を入れます。
    規定のタイヤ空気圧については、テクニカル・データ「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。
14. バルブ・キャップをタイヤ・バルブにねじ込みます。
15. 約10分間走行し、タイヤ空気圧を点検します。
    タイヤ空気圧が1.5 bar以下の場合は、運転を中止してください。
    タイヤ空気圧が1.5 barを超えている場合は、規定のタイヤ空気圧に再度調整してください。
16. ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

タイヤ空気圧モニタリング・システムに関する知識

タイヤ・パンク修理剤を使ってタイヤ空気圧を調整したときは、マルチ・ファンクション・ディスプレイにタイヤ空気圧を設定してください。「タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定」(116ページ)を参照してください。

取り扱い上の注意

周囲に付着したパンク修理剤は、乾燥するとフィルム状に剥がして取り除くことができます。

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあります。

- ▷ パンク修理剤は緊急時の応急措置です。すみやかに整備工場でタイヤを交換してください。
- ▷ 急加速したり、カーブを高速で走行しないでください。
- ▷ 最高速度80km/h以下で走行してください。
- ▷ パンク修理剤およびコンプレッサーに添付している安全および取り扱い上の注意事項を遵守してください。

ジャッキ・アップ

⚠ 警 告

車からジャッキが外れて致命的な怪我をする恐れがあります。

- ▷ ジャッキ・アップしてタイヤを交換する前に、すべての乗員を降ろしてください。
- ▷ 坂道や安全を確保できない道路脇ではジャッキ・アップしないでください。
- ▷ 車載ジャッキは、タイヤ交換時に車体を持ち上げるためだけに使用してください。
- ▷ 車体の下に入る場合は、適切なリジッド・ラックなどで車体を支えてください。車体を支えるためにジャッキを使用しないでください。

タイヤ交換中にレベリング・システムが作動して怪我をする恐れがあります。

- ▷ タイヤ交換時は、ジャッキ・モードに設定してください。
- ▷ ジャッキ・モードについては：「ジャッキ・アップ」（172ページ）を参照してください。

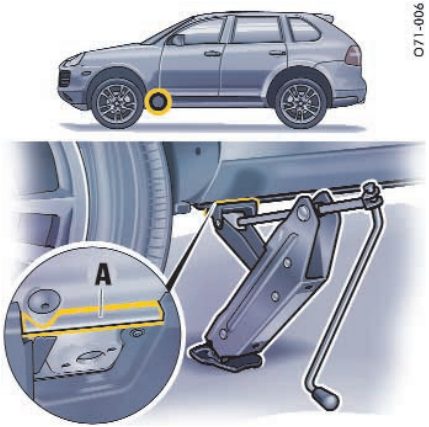
車が動き出し、怪我または車が損傷する恐れがあります。

- ▷ 車が動き出さないように固定してください。
  車の固定については：「車の固定」（259ページ）を参照してください。

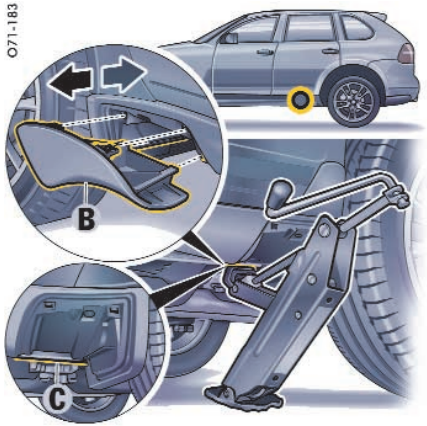
知識

車体下部のジャッキ・ポイントを清掃してください。

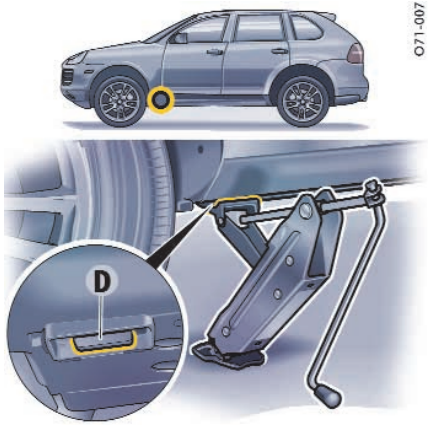
1. 取り外すホイールのボルトを少しだけ緩めます。
2. 指定のジャッキ・ポイントにジャッキをセットします。このとき、ジャッキの接地部分が傾かないように、ジャッキ・ポイントの真下にジャッキを置きます。必要に応じて、適切なリジッド・ラックを併用してください。
3. ジャッキが動かないように固定し、ジャッキの皿がジャッキ・ポイントに接触するまで、ジャッキを伸ばします。取り外すタイヤの接地面がわずかに地面から離れるまで、車体を持ち上げます。
4. 車体を下げた後、ジャッキを取り外します。



ジャッキ・ポイント、フロント



ジャッキ・ポイント、リア



ランニング・ボード装備車のジャッキ・ポイント、フロント

指定のジャッキ・ポイントは、車の装備仕様によって異なります。

ジャッキ・ポイント

▷ 車載ジャッキは、必ず指定のジャッキ・ポイント**A**または**C**だけにセットします。

サイド・シル・カバーのキャップ**B**を取り外すと、リア・ジャッキ・ポイントが現れます。

キャップの取り外し：

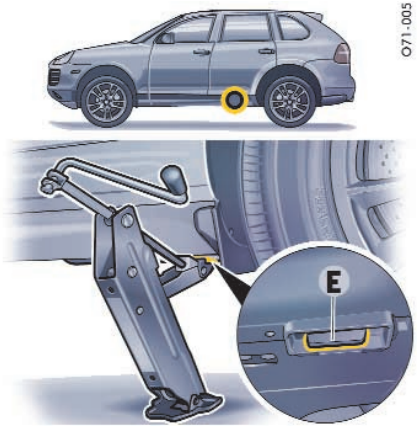
▷ キャップ**B**の後方下部を引くと、キャップが外れます。

キャップの取り付け：

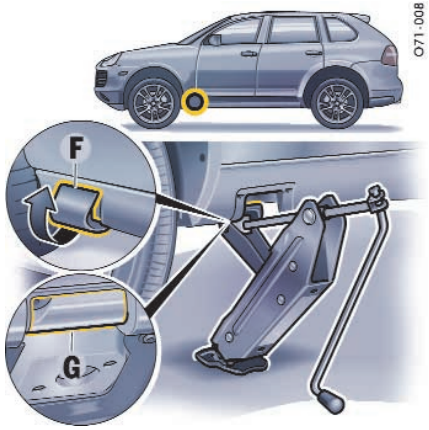
▷ キャップ**B**の下部をガイドに差し込み、カチッという手応えがあるまでしっかりと上部をはめ込みます。

ランニング・ボード装備車のジャッキ・ポイント

▷ 車載ジャッキは、必ず指定のジャッキ・ポイント**D**または**E**だけにセットします。



ランニング・ボード装備車のジャッキ・ポイント、リア



サイド・シル・カバー装備車のジャッキ・ポイント、フロント

サイド・シル・カバー装備車のジャッキ・ポイント

サイド・シル・カバーのプラスチック・キャップ**F**または**H**を取り外すと、ジャッキ・ポイントが現れます。

キャップの取り外し：

1. キャップの切り欠きを使用し、キャップを手前（矢印の方向）に引いて取り外します。

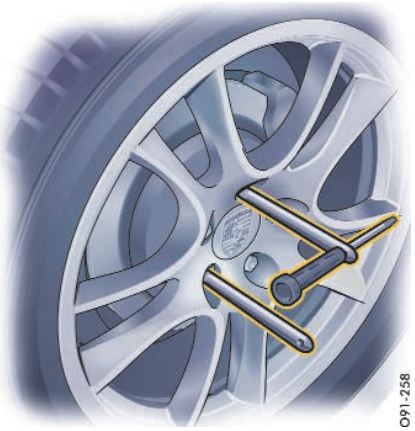
サイド・シル・カバー装備車のジャッキ・ポイント、リア

2. 車載ジャッキは、必ず指定のジャッキ・ポイント**G**または**I**だけにセットします。

キャップの取り付け：

▷ キャップ**F**または**H**をサイド・シル・カバーの溝に差し込み、カチッという手応えがあるまでしっかりと押し込みます。

1本の補助工具を挿入（PCCB非装備車）



2本の補助工具を挿入（PCCB装備車）

タイヤ交換

1. 図の位置にある1本または2本のホイール・ボルトを取り外します。

⚠ 注 意

ブレーキ・ディスクを損傷する恐れがあります。

▷ タイヤを交換する場合は、必ずホイール取り付け補助工具を挿入してください。

2. 取り外したホイール・ボルトの代わりに、ホイール取り付け補助工具をねじ込みます。
3. 残りのホイール・ボルトを外します。
   ホイール・ボルトについては：
   「ホイール・ボルト」（258ページ）を参照してください。
4. ホイールを交換します。
5. ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めします。
   ホイール取り付け補助工具を外し、残りのホイール・ボルトを仮締めします。
   すべてのホイール・ボルトを対角線方向の順に少しだけ締め付け、ホイールの中心位置がずれないようにします。

6. 必要に応じて、タイヤに空気を補充します。
   タイヤ空気圧については：
   テクニカル・データ「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。
7. 車両を下ろした後、ジャッキを取り外します。
8. 対角線方向の順に、ホイール・ボルトを完全に締め付けます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムについての知識

タイヤを交換したときは、マルチ・ファンクション・ディスプレイにタイヤ空気圧を設定してください。「タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定」(116ページ)を参照してください。

知識

▷ **ホイール・ボルトを締め付けたら、できるだけ早くトルク・レンチでホイール・ボルトの締付けトルクを点検してください。締付けトルクは160Nmです。**

17mmスペーサの取り外し＊

⚠ 危 険

スペーサを取り付けたままコラプシブル・スペア・タイヤを装着すると、事故を起こす恐れがあります。

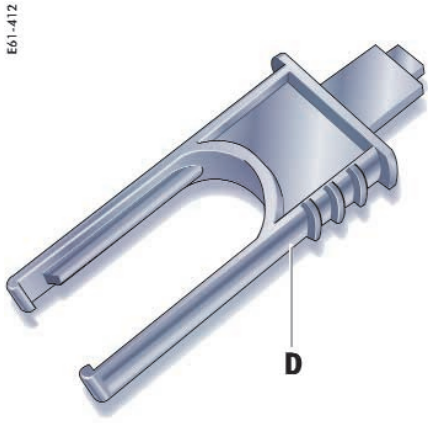
▷ コラプシブル・スペア・タイヤを装着する前に、必ず17mmスペーサを取り外してください。スペーサを取り付けたままだとホイールが正しく装着できません。

⚠ 注 意

スノー・チェーンを装着するときは、必ずスペーサを取り外してください。リア・ホイールのスペーサを取り付けたままスノー・チェーンを装着すると、ホイール・ハウジングを損傷する恐れがあります。

▷ スノー・チェーンを装着する前に、リア・ホイールの17mmスペーサを必ず取り外してください。

▷ スノー・チェーンまたはコラプシブル・スペア・タイヤを装着するときは、スペーサを取り外します。
▷ スペーサにホイールを取り付けるときは、ホイール取り付け補助工具が不要です。



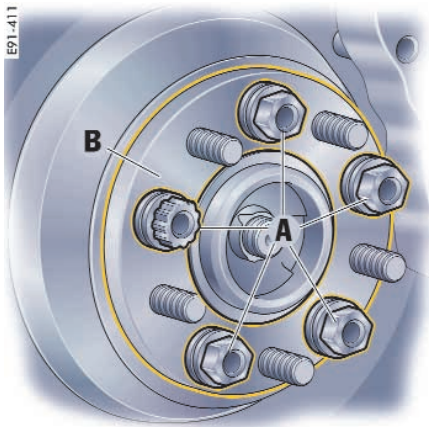
プーラー

▷ スペーサについては：
「スペーサ」（257ページ）を参照してください。

1. プーラー**D**を使用して、ホイール・ナットのプラスチック・カバーを取り外します。

＊日本仕様に設定はありません。

2. ホイール・ナットを取り外します。



3. スペーサ**B**を取り付けているホイール・ボルト**A**を取り外します。
4. スペーサ**B**を取り外します。
5. 取り外したホイール・ボルトの代わりに、ホイール取り付け補助工具をねじ込みます。
6. ホイールを組み付けます。
7. スペーサ**B**を取り付けていたホイール・ボルト**A**を使用して、ホイールを固定します。
   ホイール・ボルトを挿入し、手で仮締めします。ホイール取り付け補助工具を外し、残りのホイール・ボルトを仮締めします。
   すべてのホイール・ボルトを対角線方向の順に少しだけ締め付け、ホイールの中心位置がずれないようにします。
8. 必要に応じて、タイヤに空気を補充します。
   タイヤ空気圧については：
   テクニカル・データ「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。
9. 車両を下ろした後、ジャッキを取り外します。
10. 対角線方向の順に、ホイール・ボルトを完全に締め付けます。

タイヤ空気圧モニタリング・システムについての知識

タイヤを交換したときは、マルチ・ファンクション・ディスプレイにタイヤ空気圧を設定してください。「タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定」(116ページ)を参照してください。

知識

▷ **ホイール・ボルトを締め付けたら、できるだけ早くトルク・レンチでホイール・ボルトの締付けトルクを点検してください。締付けトルクは160Nmです。**

▷ 取り外したスペーサ、ホイール・ナット、プラスチック・カバーを紛失しないように収納してください。

17mmスペーサの取り付け＊

1. ホイールを取り外します。
2. ホイールを取り付けていたホイール・ボルト**A**を使用して、スペーサを取り付けます。
   締付けトルクは**160Nm**です。
3. ホイールを取り付けます。
   ホイール・ナットはポルシェ純正品を使用してください。締付けトルクは**160Nm**です。
   ホイール・ナットを締め付けた後、プラスチック・カバーを取り付けます。

知識

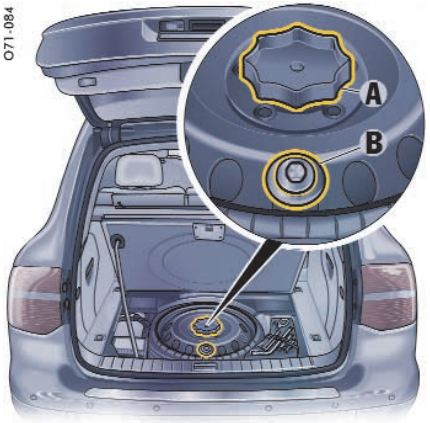
ホイール・ナットには盗難防止装置が付いていません。

コラプシブル・スペア・タイヤ

コラプシブル・スペア・タイヤは、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下に収納しています。

17mmスペーサ装着車＊：

▷ リア・タイヤをコラプシブル・スペア・タイヤに交換するときは、必ずホイール・スペーサを取り外してください。
スペーサについては：
「スペーサ」（257ページ）を参照してください。
スペーサの取り外しについては：
「17mmスペーサの取り外し」（266ページ）を参照してください。



1. ノブ**A**を取り外し、スクリュー**B**に取り付けます。
2. スクリュー**B**を外し、コラプシブル・スペア・タイヤを取り出します。
3. 車をジャッキ・アップしたまま、空気を入れていない状態でコラプシブル・スペア・タイヤを車に取り付けます。
   タイヤ交換については：
   「タイヤ交換」（265ページ）を参照してください。
4. タイヤに空気を入れます。テクニカル・データ「冷間時（20℃）のタイヤ空気圧」（308ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあります。

▷ コラプシブル・スペア・タイヤは、緊急時に短距離を走行するためだけに使用してください。安全性を確保するため、スリップ・サインが現れる（タイヤ・トレッド溝深さが1.6mmになる）よりも前にタイヤを交換してください。

▷ ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）を解除しないでください。

▷ 急加速したり、カーブを高速で走行しないでください。コラプシブル・スペア・タイヤを装着すると走行特性が大きく変化します。またタイヤの摩耗を避けるためにも、**80km/h**の最高速度を遵守してください。

▷ 他車のコラプシブル・スペア・タイヤを使用しないでください。

▷ この車のコラプシブル・スペア・タイヤを他車に装着しないでください。

▷ 1度に複数のコラプシブル・スペア・タイヤを装着しないでください。

▷ エア・サスペンション装備車では、コラプシブル・スペア・タイヤに空気を入れる場合だけにタイヤ充填コネクタを使用してください。

コラプシブル・スペア・タイヤの使用後

▷ バルブを緩めて空気を抜きます。

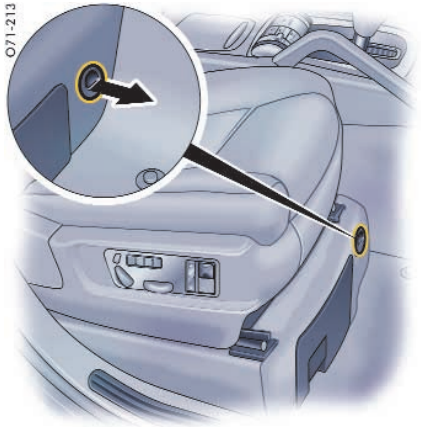
知識

コラプシブル・スペア・タイヤは、空気を抜いてから数時間が経過しないと、タイヤが元の形状に戻りません。タイヤが膨れているときは、ラゲッジ・コンパートメントの元の位置に収納できません。
工具セットには、損傷したホイール&タイヤを収納するためのビニール・シートがあります。

知識

コラプシブル・スペア・タイヤの修理は、必ずメーカーに依頼してください

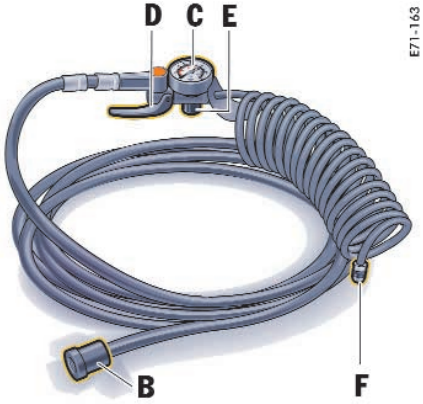
▷ コラプシブル・スペア・タイヤに不具合が発生したら、ポルシェ正規販売店で点検を受けてください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。



タイヤ空気の充填

タイヤ空気充填用ハンド・バルブを収納したバッグが、ラゲッジ・コンパートメントのフロア下にあります。

1. バッグからタイヤ空気充填用ハンド・バルブを取り出します。
2. 右側フロント・シートの足元にあるカバーを取り外します。



E71-163

B - *コンプレッサー接続スクリュー*
C - *プレッシャ・テスタ*
D - *タイヤ充填用ハンド・バルブ*
E - *エア・ブリード・スクリュー*
F - *タイヤ・バルブ接続フィラー*

3. 接続スクリュー**B**をコンプレッサー接続口（右側フロント・シートの足元）にねじ込みます。
4. 接続フィラー**F**をタイヤ・バルブにねじ込みます。

⚠ 警 告

取り扱い方法を誤ると負傷および損傷の恐れがあります。

▷ この装置は、この車のタイヤに空気を充填または抜くときだけ使用してください。

5. イグニッションをONにします。
6. プレッシャ・テスタ**C**で空気圧を監視しながら、規定の空気圧になるまでハンド・バルブ**D**を押します。
7. 接続スクリューをコンプレッサー接続口から外します。
8. 接続フィラーをタイヤ・バルブから外します。
9. タイヤ空気充填用ハンド・バルブをバッグに収納します。

知識

コンプレッサーにはオーバーヒート防止機能があり、過熱すると自動停止します。自動停止した場合は、コンプレッサーが冷えるまで2～3分待ってください。

タイヤ空気抜き

▷ プレッシャ・テスタ**C**で空気圧を監視しながら、規定の空気圧になるまでエア・ブリード・スクリュー**E**を開きます。

スペア・タイヤ

⚠ 警 告

事故を起こす恐れがあります。

スペア・タイヤのホイール・サイズ、タイヤ・サイズ、タイヤ品質は、通常のタイヤとは異なることがあります。

コラプシブル・スペア・タイヤなど、応急専用のスペア・タイヤを使用する場合は、いつもと走行特性が違うことに注意してください。

▷ スペア・タイヤは、緊急時に短距離を走行するためだけに使用してください。安全性を確保するため、スリップ・サインが現れる（タイヤ・トレッド溝深さが1.6mmになる）よりも前にタイヤを交換してください。
▷ ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）を解除しないでください。
▷ 製造から4年以上が経過したスペア・タイヤは、通常のタイヤがパンクしたときの応急用に限定して使用してください。
▷ 急加速したり、カーブを高速で走行しないでください。取り付けたスペア・タイヤが他の3つのタイヤと異なる場合、走行特性が大きく変化します。またタイヤの摩耗を避けるためにも、**80km/h**の最高速度を遵守してください。

スペア・タイヤのブラケットからの取り外し＊

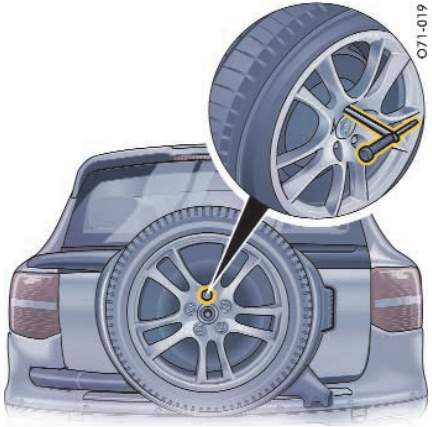
⚠ 警 告

スペア・タイヤの取り出し方を誤ると、負傷する恐れがあります

▷ スペア・タイヤ・ブラケットが固定されている場合のみ、スペア・タイヤを取り外してください。

▷ スペア・タイヤ・ブラケットからタイヤを取り外すときは十分注意してください。ホイールはたいへん重い（最大約35kg）ことを念頭に置いてください。

＊日本仕様に設定はありません。

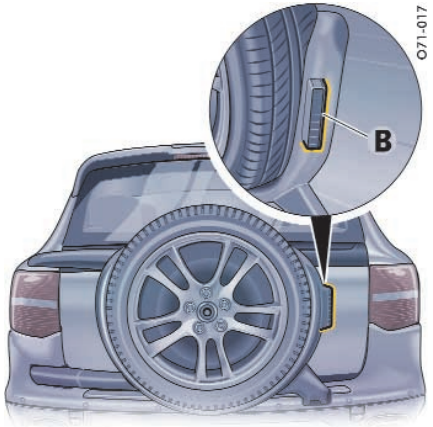


1. すべてのホイール・ボルト（5本）を緩めます。
2. 上側のホイール・ボルトを外します。工具セットのホイール取り付け補助工具を、取り外したホイール・ボルトの代わりに取り付けます。残りのホイール・ボルトを外します。

スペア・タイヤのブラケットへの取り付け＊

▷ ホイール取り付け補助工具を利用してタイヤを取り付け、ホイール・ボルトを仮締めします。ホイール取り付け補助工具を外し、残りのホイール・ボルトを仮締めします。すべてのホイール・ボルトを対角線方向の順に少しだけ締め付け、ホイールの中心位置がずれないようにします。

▷ すべてのホイール・ボルトを**150Nm**のトルクで締め付けます。



B - *スペア・タイヤ・ブラケットのロック解除ボタン*

スペア・タイヤ・ブラケットの開け方＊

⚠ 警 告

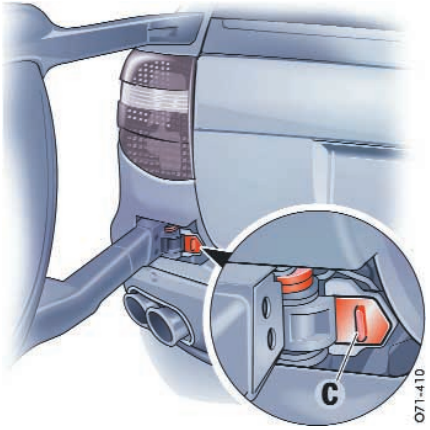
スペア・タイヤ・ブラケットの開け方を誤ると、負傷および事故の恐れがあります。

▷ スペア・タイヤ・ブラケットを操作するときは、周囲に人や動物がいないこと、障害物がないことを確認してください。スペア・タイヤ・ブラケットの操作には必ずボタン**B**を使用してください。

▷ 車が左右いずれかに傾いている場合は、スペア・タイヤ・ブラケットに補助ロック**C**をかけてください。

作業の前に
セントラル・ロッキングのロックを解除します。
▷ ボタン**B**を押してスペア・タイヤ・ブラケットを開きます。

知識
— スペア・タイヤ・ブラケットを**30° 以上の角度**まで開くと、自動的に全開位置まで動きます。全開位置ではリア・リッドを開くことができます。
— スペア・タイヤ・ブラケットが**30° 未満の角度**まで閉まると、自動的に全閉位置まで動きます。ただし、この状態ではスペア・タイヤ・ブラケットが完全に閉じていません。手で押し付けて閉じてください。



C - *補助ロック*

車が左右に傾いているときのスペア・タイヤ・ブラケットの補助ロック
1. スペア・タイヤ・ブラケットを開きます。
2. 補助ロック**C**を左にスライドさせると、スペア・タイヤ・ブラケットが機械的に固定されます。「リア・リッド」警告灯が点灯し、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイにメッセージが表示され、スペア・タイヤ・ブラケットが開いていることをドライバーに知らせます。

スペア・タイヤ・ブラケットの閉め方＊

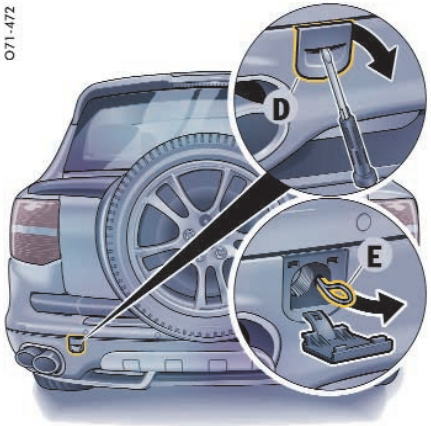
⚠ 警 告

スペア・タイヤ・ブラケットの閉め方を誤ると、負傷および事故の恐れがあります。
▷ スペア・タイヤ・ブラケットの操作には必ずボタン**B**を使用してください。
▷ 車が左右いずれかに傾いている場合は、スペア・タイヤ・ブラケットを動かすために大きな力が必要です。
▷ スペア・タイヤ・ブラケットを操作するときは、周囲に人や動物がいないこと、障害物がないことを確認してください。

1. 補助ロック**C**がかかっているときは、補助ロック**C**を右にスライドさせます。
2. スペア・タイヤ・ブラケットを手で閉めます。
3. スペア・タイヤ・ブラケットがロックされていることを確認し、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されていないことを確認します。
   スペア・タイヤ・ブラケットをロックすると、警告灯が消灯します。

＊日本仕様に設定はありません。

オートロック
メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイを使用して、ドアとリア・リッドのロック／ロック解除機能、およびハザード・ランプの点滅パターンを設定できます。設定した内容は、そのとき使用しているリモート・コントロールに記憶されます。
「リア・リッド・ロックの設定」（127ページ）を参照してください。



D - *けん引フック・カバー（左）*
E - *エマージェンシー・リリース・ケーブル*

スペア・タイヤ・ブラケットの緊急ロック解除

バッテリがあがると、ボタン操作でスペア・タイヤ・ブラケットのロックが解除できません。この場合は、エマージェンシー・リリースを使用して機械的にロックを解除します。

⚠ 警 告

スペア・タイヤ・ブラケットの操作を誤ると、負傷および事故の恐れがあります。

▷ 水平な場所に停車してから、エマージェンシー・リリースを使ってスペア・タイヤ・ブラケットの緊急ロック解除を行ってください。

1. 車の左側にあるけん引フック・カバー**D**を外します。
2. エマージェンシー・リリース・ケーブル**E**を矢印の方向に引きます。スペア・タイヤ・ブラケットのロックが解除され、手動で開くことができます。

電気系統

車の電気・電子回路の損傷を回避するため、電装品（アクセサリー）などの取り付け作業はポルシェ正規販売店にご依頼ください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

▷ 電装品（アクセサリー）は、ポルシェ社が承認したものだけを使用してください。

O01-117

O71-083

⚠ 警 告

電気回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業を行うときは、バッテリ・マイナス（−）ケーブルの端子を事前に外してください。

リレー
リレーの点検および交換は、必ずポルシェ正規販売店で実施してください。

プラグ・ソケット
アクセサリー・プラグ・ソケットの位置は車により異なります。
このソケットには、12V仕様の電装品（アクセサリー）を接続できます。

知識
アクセサリー・プラグ・ソケットは、イグニッションがOFFのときでも、イグニッション・キーを抜いていても使用できます。エンジンを停止したままアクセサリーを使用すると、バッテリがあがる原因になります。

ヒューズの交換

電気系統のショートや、過負荷によるケーブルや電装品の損傷を防ぐために、各々の電気回路がヒューズで保護されています。ヒューズ・ボックスは、エンジン・ルーム内とダッシュ・ボードの両端にそれぞれ1つずつあります。

1. 交換するヒューズと関係がある電装品をOFFにしてください。
2. ヒューズ・ボックスのカバーを開きます。
3. ヒューズ・リムーバを使用して、ヒューズを引き抜きます。
   切れたヒューズは、内部の金属線が溶けていることで判別できます。
4. 同じ容量のヒューズと交換します。容量が異なるヒューズは取り付けないでください。ポルシェ純正ヒューズの使用を推奨します。

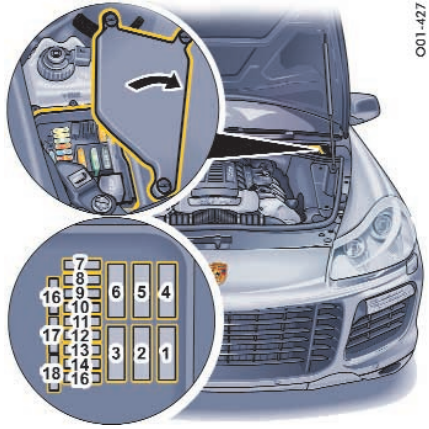
知識

▷ 同じヒューズが何度も切れる場合は、ポルシェ正規販売店で原因を確かめてください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

エンジン・ルームのヒューズ・ボックス・カバー

エンジン・ルームのヒューズ・ボックス・カバーを開ける

1. スクリュー・ドライバーで両方のロックを反時計方向に90°回し、カバーを取り外します。



エンジン・ルームのヒューズ・ボックスとヒューズの配置

2. スクリュー・ドライバーでヒューズ・ボックス・リッドのロックを反時計方向に90°回し、リッドを取り外します。

Aーヒューズ・リムーバ

ダッシュ・ボードのヒューズ・ボックス・カバーを開ける

1. スクリュー・ドライバーでプラスチック・カバー（矢印）を慎重に開け、取り外します。
   プラスチック・カバーの裏側に、ヒューズの配置図があります。
2. ヒューズ・リムーバ**A**を使用して、ヒューズを抜き取ります。

ヒューズの配置ーダッシュ・ボード左側のヒューズ・ボックス

No.	用途	容量（A）
1	プラグ・ソケット（フロント中央、センター・コンソール・リア左右）	20
2	補助ヒータ、リモート・スタート・レシーバ、残熱ヒータ＊	5
3	プラグ・ソケット（助手席足元）	20
4	補助ヒータ＊	20
5	プラグ・ソケット（ラゲッジ・コンパートメント）	20
7	ダイアグノーシス・ソケット、レイン・センサ	5
8	ウィンドウ・スクリーン・ワイパ・モータ	30
9	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（ウォッシャ・フルード・ポンプ）	15
10	パワー・ウィンドウ／セントラル・ロッキング・システム（左リア・ドア）	30
14	パワー・ウィンドウ／セントラル・ロッキング・システム（左フロント・ドア）	30
15	リア・ランプ（右側）	15
16	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（ホーン）	20
17	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（左側方向指示灯、左側ヘッドランプ・ロー・ビーム、右側車幅灯）	30
18	ヘッドランプ・ウォッシャ・システム	25
19	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（室内灯）	5
20	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（インストルメント照明、左側フォグランプ、左側ヘッドランプ補助ハイ・ビーム）	30
22	リア・ディファレンシャル・ロック、オートマチック・リア・リッド	30
23	トランスバース・ロック	10
24	タイヤ空気圧モニタリング・システム	5
26	エンジン・コントロール・ユニット（エンジン・マネージメント）、ラジエータ・ファン、エアバッグ、メータ・パネル、ナビゲーション・システム（日本仕様）	10
33	ステアリング・コラム・モジュール	15
34	室内モニター、傾斜センサ＊	5
35	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（右側フォグランプ、右側ヘッドランプ補助ハイ・ビーム、ルーム・ランプ）	30
36	電動シート・コントロール・ユニット（左側）	30
39	リア・ウィンドウ・ヒータ・リレー（コントロール）	5
40	メータ・パネル、ダイアグノーシス	5
41	KESSYコントロール・ユニット（ステアリング・コラム・ロック、イグニッション・ロック、ポルシェ・エントリー＆ドライブ）	15
42	スライディング／チルティング・ルーフまたはパノラマ・ルーフ・システム	30
43	サブ・ウーファー	30
44	電動シート調節（左側）	30
45	リア・シート・ヒータ	25
47	リア・ディファレンシャル・ロック	10
49	サーボトロニック	5
51	エア・クオリティ・センサ、ダイアグノーシス・ソケット、パーキング・ブレーキ	5

＊日本仕様に設定はありません。

No.	用途	容量（A）
52	リア・ワイパ	15
53	エレクトリカル・システム&リア・エンド・コントロール・ユニット、（ロー・ビーム・ヘッドランプ・スイッチ、ステアリング・コラム・モジュール）	5
54	ヘッドランプ光軸調整、左側キセノン・ヘッドランプ	10
56	ファン、フロント・エアコン・システム	40
57	レベリング・システム・コンプレッサ	40
RES1	スペア・ヒューズ1	
RES2	スペア・ヒューズ2	

注記

この一覧表に掲載されていないヒューズNo.は未使用です。

ヒューズの配置ーダッシュ・ボード右側のヒューズ・ボックス

No.	用途	容量（A）
1	トレーラ・カップリング	15
2	パーキング・アシスタント	5
3	トレーラ・カップリング	15
5	トレーラ・カップリング	15
6	ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）	30
7	トランスファ・ボックス（センター・ディファレンシャル・ロック）、携帯電話コネクタ	5
8	エレクトリカル・システム・コントロール・ユニット、（右側方向指示灯、右側ヘッドランプ・ロー・ビーム、左側車幅灯）	30
9	ナビゲーション・システム（中国仕様）＊	5
10	TVチューナ、リア・シート・エンターテインメント	10
11	ラジオまたはポルシェ・コミュニケーション・マネージメント・システム（PCM）＊、ナビゲーション・システム（日本仕様）	10
12	サウンド・パッケージ・アンプ、BOSEサウンド・システム	30
14	リア・ランプ（左側）	15
15	パワー・ウィンドウ／セントラル・ロッキング・システム（右リア・ドア）	30
18	リア・ウィンドウ・ヒータ・リレー（ロード）	30
19	トレーラ・カップリング、トレーラ・ソケット接続ポイント	25
21	スペア・タイヤ・ブラケット・リリース・リレー（ロード）＊、警報システム・ホーン	10

＊日本仕様に設定はありません。

No.	用途	容量（A）
22	フロント・シート・ヒータ	25
23	エアコン	10
24	電動シート・コントロール・ユニット／シート・メモリー（右フロント）	30
25	エアコン2+2、リア	5
27	レベリング・システム、ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC）	15
29	ティプトロニック・コントロール・ユニット、ティプトロニック・セレクタ・レバー・スイッチ	5
30	リア・リッド・パワー・クロージング・メカニズム・リレー（コントロールおよびロード）	20
31	燃料フィラー・フラップ、リア・エンド・コントロール・ユニット（モータ）	15
34	パワー・ウィンドウ／セントラル・ロッキング・システム（右フロント・ドア）	30
35	電動シート・コントロール・ユニット（右側）	30
36	ルーフ・コンソール、コンパス	5
38	ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）	10
39	ダイアグノーシス	5
40	トランスファ・ボックス（センター・ディファレンシャル・ロック）	10
41	トレーラ・カップリング・コントロール・ユニット	10
42	ルーフ・モジュール	5

No.	用途	容量（A）
43	後退灯	5
44	ウォッシャ・ノズル・ヒータ、シャシー・スイッチ、シート・ヒータ・ポテンショメータ、ポルシェ・ダイナミック・シャシー・コントロール・システム（PDCC）	5
46	リア・シート・エンターテインメント	5
48	レベリング・システム	10
49	自動防眩ルーム・ミラー、サイドビュー・モニター（日本仕様）	5
50	右側キセノン・ヘッドランプ	10

No.	用途	容量（A）
51	ティプトロニック・トランスミッション・コントロール・ユニット	15
52	ティプトロニック・セレクタ・レバー・スイッチ、トランスミッション・ワイヤリング	5
55	バック・カメラ・コントロール・ユニット*	5
56	ポルシェ・スタビリティ・マネージメント（PSM）	40
57	トランスファ・ボックス・コントロール・ユニット	40

注記

この一覧表に掲載されていないヒューズNo.は未使用です。

*日本仕様に設定はありません。

ヒューズの配置—エンジン・ルームのヒューズ・ボックス

No.	用途	容量（A）
1	ファン	60
2	ファン	30
7	イグニッション・コイル	15
8	タンク・ベンチレーション・バルブ、エアコン・コンプレッサ、エアコン・コントロール・ユニット、ブースト圧コントロール・バルブ、クランクケース・ベンチレーション	15
9	フューエル・バルブ、カムシャフト・アジャスタ、バルブ・リフト・アジャスタ	15
10	クーリング・エア・アウトプット・ステージ、エアコン圧力センサ、タンク漏れダイアグノーシス、オイル・レベル・センサ	10
11	エンジン・コントロール・ユニット、フューエル・バルブ	15
12	クーラント・アフターラン・ポンプ	10
13	フューエル・ポンプ（右側）	15
14	フューエル・ポンプ（左側）	15
15	エンジン・コントロール・ユニット、メイン・リレー	10
17	酸素センサ（触媒コンバータ上流側）	15
18	酸素センサ（触媒コンバータ下流側）	7.5

注記

▷ ダッシュ・ボードのヒューズ・ボックスに収納されているヒューズ・リムーバを使用してヒューズを抜き取ります。
この一覧表に掲載されていないヒューズNo.は未使用です。
▷ ヒューズの配置について：
「エンジン・ルームのヒューズ・ボックスとヒューズの配置」（275ページ）を参照してください。

バッテリ

⚠ 危 険

爆発や怪我をする恐れがあります。オルタネータおよび電子制御コントロール・ユニットがショートまたは損傷する恐れがあります。

▷ バッテリの取り外しと取り付け作業は、整備工場で実施してください。

バッテリは、左側フロント・シート下のバッテリ・ボックスにあります。

⚠ 警 告

電気回路がショートしたり、火災になる恐れがあります。

▷ 電気系統の作業を行うときは、バッテリ・マイナス（−）ケーブルの端子を事前に外してください。

▷ 工具や電気を通すアクセサリー（指輪、ブレスレット、時計など）が、車の電装品と接触しないように注意してください。電気回路がショートする恐れがあります。

爆発の危険があります。

▷ 乾いた布でバッテリを拭かないでください。

▷ バッテリに触れる前に、車の金属部分などに触れて身体の静電気を取り除いてください。

バッテリ取り扱い上の注意

作業前に取扱説明事項をお読みください。

保護眼鏡を必ず着用してください。

お子様を絶対に近付けないでください。

爆発の危険があります。
バッテリ充電中は、引火・爆発性が高いガスが発生します。

火気の使用や火花の発生は厳禁で、禁煙です。
車の電気配線や電装品を取り扱うときは、火花を発生したり、ショートさせないでください。
ガス抜きホースが付いたバッテリは、ホース出口から高濃度の電解質ガスが放出されます。ホースに捩れや詰まりがないようにしてください。

酸による火傷の危険があります。
バッテリ液には極めて強い腐食性があります。保護手袋と保護眼鏡を必ず着用してください。
ガス抜き穴からバッテリ液が漏れる恐れがあるので、バッテリを傾けないでください。

応急処置
バッテリ液が目に入った場合は、直ちにきれいな水で数分間洗い流し、医者の診察を受けてください。
皮膚や衣服に付着した場合は、直ちに石鹸水で中和し、多量の水で洗い流してください。
万一、バッテリ液を飲み込んだ場合は、直ちに医者の診察を受けてください。

廃棄
古いバッテリは、適切な方法で廃棄してください。

古いバッテリを一般ゴミとして廃棄しないでください。

バッテリの充電状態

バッテリの充電状態を良好に維持することで、エンジン始動不良を回避でき、バッテリの寿命を延ばすことにもつながります。
道路交通量の増加、法定速度制限、車外騒音やエキゾースト・エミッションに関する規制、燃費効率の要求などによって、日常的に使用するエンジン回転数（つまりオルタネータの発電量）が低下しています。
しかし一方で、車の電装品は著しく増加し、これに伴って電力消費量も大幅に増えています。

不意のバッテリあがりを回避するため、下記に注意してください：

- ▷ 市街地での低速走行や短距離移動、交通渋滞の中では、必要最低限の電装品だけを使用してください。
- ▷ 車を離れるときは、必ずイグニッション・キーを抜いてください。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車はイグニッションをOFFにしてください。
- ▷ エンジンがかかっていないときは、ポルシェ・コミュニケーション・マネージメント・システム（PCM）を使用しないでください。＊
- ▷ バッテリがあがったときの充電については：
  「バッテリの充電」（287ページ）を参照してください。

知識

特に外気温度が低くなる冬季や、短距離での運転が多い車両は、バッテリを定期的に充電する必要があります。

バッテリのお手入れ

- ▷ バッテリの表面と端子は、常にきれいで乾いた状態にしてください。
- ▷ バッテリ・セル・プラグをしっかりと閉め、バッテリ端子を確実に接続してください。

バッテリ液量の点検（ロー・メンテナンス・バッテリのみ）

外気温度が高くなる夏季は、より頻繁にバッテリ液量を点検してください。

- ▷ バッテリ液を補充するときは、きれいな容器だけを使用し、アルコール成分（ウィンドウ・クリーナなど）をバッテリに混入させないでください。
- ▷ すべてのセル・プラグを緩めます。水平な場所に停車し、各バッテリ・セルの電解液の液面が規定のマーク高さにあるか点検してください。液量のマークは、バッテリ・ケースに線または突起で示されており、セル・プラグの開口部から目視できます。
- ▷ バッテリ液を補充する場合は、蒸留水だけを入れてください。決して希硫酸を加えないでください。バッテリ液を規定量以上に注入しないでください。

冬季のバッテリの取り扱い

外気温度が低下すると、バッテリの効率が低下します。またリア・ウィンドウ・ヒータ、ヒータ、ランプ類、フロント・ワイパーなどの使用頻度が増えるので、外気温度が高いときに比べて大きなバッテリ電力が必要になります。

- ▷ 冬季になる前に、バッテリの充電状態を点検してください。

知識

バッテリの凍結を防止するため、常に完全充電の状態を保ってください。
充電量が不足していると、−10℃でも凍結することがあります。完全に充電されていれば、−40℃まで凍結しません。

＊日本仕様に設定はありません。

車を長期保管するとき

車庫や整備工場などで長期保管するときは、ドア、エンジン・フード、トランク・リッドを確実に閉めてください。

▷ イグニッション・キーを抜き、必要に応じてバッテリ端子のケーブルを外してください。

知識

▷ バッテリ端子のケーブルを外していると、警報システムが作動しません。
バッテリ端子のケーブルを外すときに車がロックされていると、ケーブルを再接続したときに警報システムが作動します。

▷ 警報システムが作動したときは、いったん車をロックし、再度ロックを解除してください。

警報システム、セントラル・ロッキング

▷ バッテリ端子のケーブルを外しても、警報システムやセントラル・ロッキングの作動状態は切り替わりません。

知識

車を使わないで保管している間も、バッテリは常に放電しています。

▷ バッテリの充電状態を良好に維持するため、約6週間ごとにバッテリを充電してください。

▷ このときバッテリ液量も点検し、不足しているときは蒸留水を補充してください。

▷ 車から取り外したバッテリは、湿度が低く通気性が良い冷暗所に保管してください。

バッテリの交換

バッテリは年月の経過とともに消耗します。バッテリの寿命は、お手入れの状態、気候、走行条件（距離や負荷）により大きく差が生じます。バッテリ・ケースに表示された規格・仕様だけでは、そのバッテリがポルシェ社の要求する基準を満たしているか判りません。

▷ ポルシェ社の仕様に適合するバッテリだけを使用してください。ポルシェ純正バッテリの使用を推奨します。

▷ 使用済みバッテリを廃棄処分するときは、定められたルールに従ってください。

長期保管後の車の作動復帰

バッテリ端子のケーブルを接続したときや、完全にあがったバッテリを充電したときは、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。この場合、以下の手順で対処してください。

1. エンジンを始動します。
イグニッション・キーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車）を、イグニッション・ロックの2の位置に**2度**回します。
2. 停車状態でステアリング・ホイールを左右に数回動かします。次に、PSM警告灯が消灯してマルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージが消去されるまで、直進で短距離走行します。
3. 警告灯と警告メッセージが消えない場合は、最寄りのポルシェ正規販売店まで慎重に運転し、故障を修理してください。
4. 警告灯と警告メッセージが消えた場合は、安全な場所に停車します。
5. パワー・ウィンドウの停止位置を記憶させます。
「バッテリ接続後のドア・ウィンドウ停止位置の記憶」（76ページ）を参照してください。
6. タイヤ空気圧モニタリング・システムにタイヤを記憶させます。
「タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定」（116ページ）を参照してください。
7. 電動格納式トレーラー・ヒッチ（装備車）＊の最終位置を記憶させます。
「トレーラー・ヒッチの固定位置の記憶」（213ページ）を参照してください。
8. パノラマ・ルーフ・システム（装備車）の停止位置を記憶させます。
「パノラマ・ルーフ・システムの停止位置の記憶」（85ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

E71-238

リモート・コントロールの電池交換

知識

▷ 電池を廃棄処分するときは、定められたルールに従ってください。

車両キー

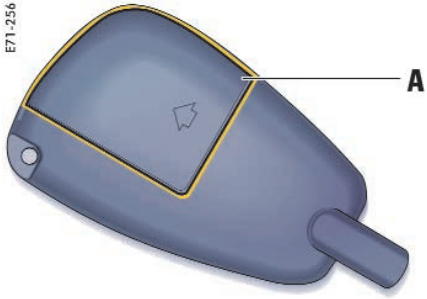
リモート・コントロールの電池が弱まると、メータ・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイに警告が表示されます。すみやかに電池を交換してください。

電池の交換

1. 先端の細いスクリュー・ドライバーでキー・ハウジング背面のカバーを開けます。
2. 新しい電池に交換します。プラス（＋）、マイナス（－）の向きを間違えないでください。
3. カバーをしっかりと取り付けます。

補助ヒータのリモート・コントロール＊

リモート・コントロールの電波が届く距離が短くなったときや、LEDがオレンジ色に点灯した場合は、電池を交換してください。



E71-256

電池の交換

1. カバー**A**を矢印の方向に引きます。
2. 電池を取り外します。
3. 新品の電池に交換します。プラス（＋）、マイナス（－）の向きを間違えないでください。
   リモート・コントロールには2個の12V電池を使用します。
4. カバー**A**を閉じます。

＊日本仕様に設定はありません。

ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動

バッテリがあがって自力でエンジンを始動できないときは、他車のバッテリとジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動することができます。
ジャンパー・ケーブルを使用してこの車のエンジンを始動するときは、他車のバッテリが12V仕様で、この車のバッテリよりも容量（アンペア・アワー：Ah）が大きいことを確認してください。
また、この車のバッテリ（あがっているバッテリ）のケーブルは接続したままにしてください。

⚠ 警 告

ショートして怪我や損傷する危険があります。

- ▷ ジャンパー・ケーブルはエンジン始動用の製品を使用し、バッテリ容量に対して十分な断面積があることを確認してください。また、端子接続部のクリップが完全に絶縁体で覆われているものを使用してください。ジャンパー・ケーブルのメーカーが定めた取り扱い方法を遵守してください。
- ▷ ジャンパー・ケーブルがエンジンの回転部品に巻き込まれない位置にケーブルを通してください。
  この車と他車の金属部分（ボディ）を接触させないでください。接触していると、ジャンパー・ケーブルのプラス（＋）端子を接続した瞬間に電流が流れ、電気回路がショートする恐れがあります。
- ▷ 電気を通すアクセサリー（指輪、ブレスレット、時計など）が、車の電装品と接触しないように注意してください。

バッテリから漏れたバッテリ液で火傷する恐れがあります。

- ▷ バッテリを傾けないでください。

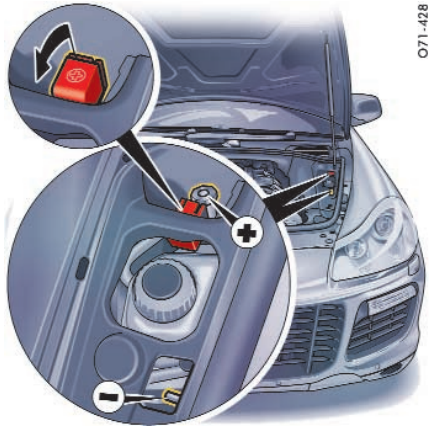
爆発の危険があります。

- ▷ バッテリの近くは火気厳禁です。火花を発生させたり、喫煙しないでください。
- ▷ ジャンパー・ケーブルを接続する前に、バッテリが凍結していないことを確認してください。

ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動

必ず以下の手順に従ってください：

1. カバー**A**を取り外します。
2. ジャンパー・ケーブル接続用のプラス（＋）端子カバーを開きます。
3. ジャンパー・ケーブル接続用のプラス（＋）端子に、プラス（＋）ケーブルを接続します。次に、プラス（＋）ケーブルの反対側を他車のバッテリ・プラス（＋）端子に接続します。



＋ = *ジャンパー・ケーブル接続用のプラス（＋）端子*
－ = *ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス（－）端子*

4. 他車のバッテリ・マイナス（－）端子に、マイナス（－）ケーブルを接続します。次に、マイナス（－）ケーブルの反対側をこの車のジャンパー・ケーブル接続用のマイナス（－）端子に接続します。
5. 他車のエンジンを始動し、高回転を維持します。
6. エンジンを始動します。
   ジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動するときは、スタータを15秒以上作動させないでください。始動に失敗したときは、1分以上待ってから再始動します。
7. エンジン始動後、ジャンパー・ケーブル接続用のマイナス（－）端子からケーブルを外します。次に、他車のバッテリ・マイナス（－）端子からケーブルを外します。
8. 他車のバッテリ・プラス（＋）端子からケーブルを外します。次に、ジャンパー・ケーブル接続用のプラス（＋）端子からケーブルを外します。
9. ジャンパー・ケーブル接続用のプラス（＋）端子カバーを閉めます。

バッテリの充電

ポルシェ社が推奨するバッテリ充電器については、ポルシェ正規販売店にお尋ねください。

▷ バッテリ充電器メーカーの取扱説明書に従ってください。
▷ 十分に換気ができる場所でバッテリを充電してください。

1. バッテリ液量を点検します（ロー・メンテナンス・バッテリの場合）。
2. バッテリ充電器のケーブルを、ジャンパー・ケーブル接続用の端子に接続します。
   ケーブルを確実に接続した後、バッテリ充電器の電源プラグを差し込み、充電器をONにしてください。
3. バッテリ充電器の電源をONにします。
4. バッテリの充電が完了したら、すみやかに充電器の電源をOFFにして、充電器を外してください。
5. バッテリ液量を点検します（ロー・メンテナンス・バッテリの場合）。

バッテリ充電後の処置

バッテリ端子のケーブルを接続したときや、完全にあがったバッテリを充電したときは、インストルメント・パネルのPSM警告灯が点灯し、マルチ・ファンクション・ディスプレイに警告メッセージが表示されます。この場合、以下の手順で対処してください。

1. エンジンを始動します。
   イグニッション・キーまたはコントロール・ユニット（ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車）を、イグニッション・ロックの2の位置に**2度**回します。
2. 停車状態でステアリング・ホイールを左右に数回動かします。次に、PSM警告灯が消灯してマルチ・ファンクション・ディスプレイの警告メッセージが消去されるまで、直進で短距離走行します。
3. 警告灯と警告メッセージが消えない場合は、最寄りのポルシェ正規販売店まで慎重に運転し、故障を修理してください。
   ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊富なスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。
4. 警告灯と警告メッセージが消えた場合は、安全な場所に停車します。
5. パワー・ウィンドウの停止位置を記憶させます。
   「バッテリ接続後のドア・ウィンドウ停止位置の記憶」（76ページ）を参照してください。
6. タイヤ空気圧モニタリング・システムにタイヤを記憶させます。
   「タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定」（116ページ）を参照してください。
7. 電動格納式トレーラー・ヒッチ（装備車）＊の最終位置を記憶させます。
   「トレーラー・ヒッチの固定位置の記憶」（213ページ）を参照してください。
8. パノラマ・ルーフ・システム（装備車）の停止位置を記憶させます。
   「パノラマ・ルーフ・システムの停止位置の記憶」（85ページ）を参照してください。

＊日本仕様に設定はありません。

バルブの交換

⚠ 警 告

ショートする恐れがあります。

▷ バルブを交換するときは、必ず該当するランプ・スイッチをOFFにしてください。

ヘッドランプには高電圧が作用するため、感電する恐れがあります。

▷ ヘッドランプとその周辺の作業を行うときは、感電しないように十分注意してください。

高出力バルブを使用すると、ランプ・ハウジングが損傷する恐れがあります。

▷ ポルシェ社が指定した規格のバルブだけを使用してください。

▷ バルブに汚れやグリースを付着させないでください。

▷ バルブ交換時は、バルブをきれいな布かやわらかい紙でバルブを包み、素手で触れないでください。

▷ 常にスペア・バルブを携帯してください。

ヘッドランプ

⚠ 注 意

高温によりヘッドランプが損傷する恐れがあります。

▷ ヘッドランプにカバー（フィルム、ストーン・ガードなど）を装着しないでください。

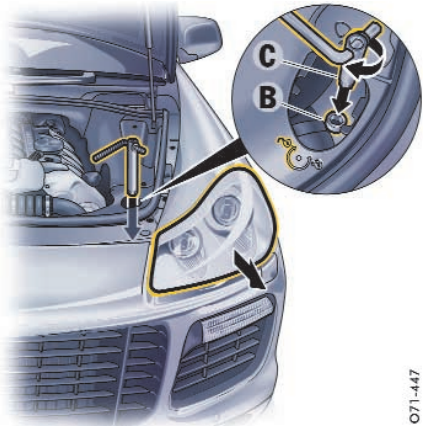
知識

外気温度や湿度により、ヘッドランプの内側が曇ることがあります。

▷ ヘッドランプの通気性を確保するために、ランプ・ハウジングとボディのすき間を塞がないでください。

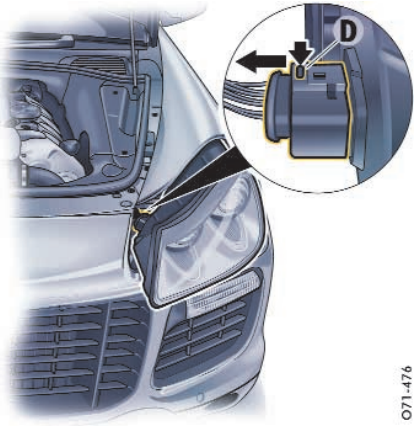
ヘッドランプの取り外し

1. イグニッションをOFFにして、イグニッション・キーを抜き取ります。
2. エンジン・フードを開けます。
3. エンジン・ルーム内のカバー**A**を矢印の方向に押し下げ、取り外します。

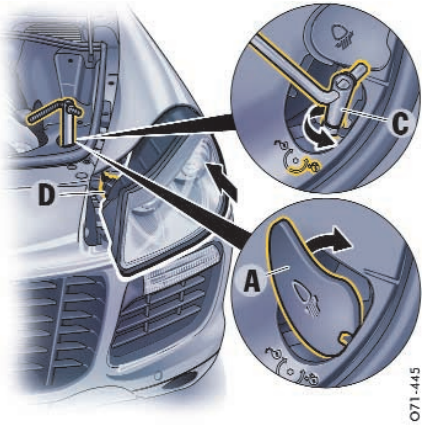


B - *ヘッドランプ・リリース*
C - *ソケット・レンチ*

4. 工具セットからソケット・レンチ**C**を取り出します。
5. ソケット・レンチ**C**をリリース**B**にはめ込み、矢印の方向に回します。ヘッドランプ・ホルダのロックが外れます。



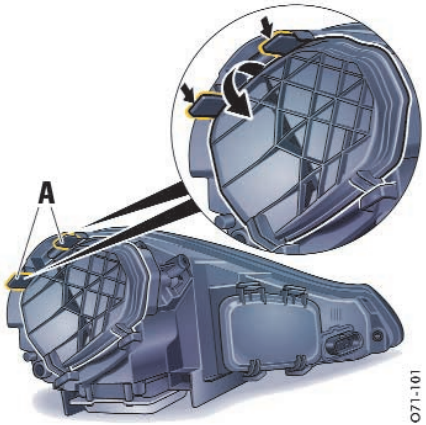
6. ヘッドランプを約10cm前方に引き出します。
7. コネクタ**D**のリリース・タブを後方に引き、ヘッドランプからコネクタを取り外します。
8. ヘッドランプを取り外します。

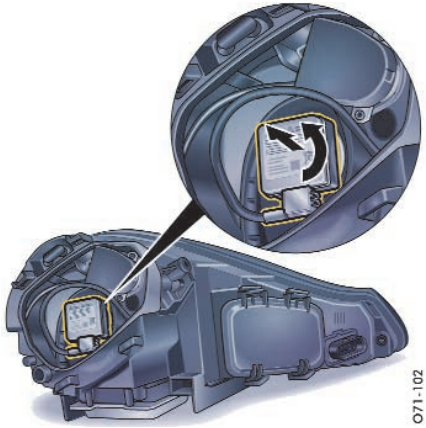


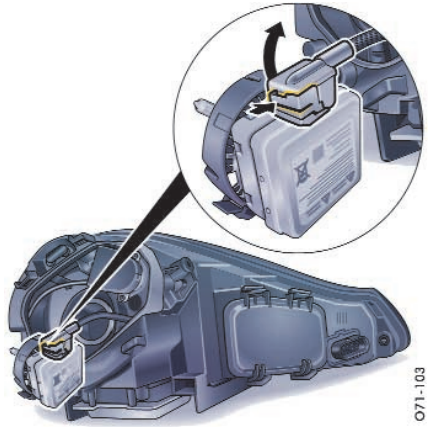
A - *カバー*
C - *ソケット・レンチ*
D - *コネクタ*

ヘッドランプの取り付け

1. ヘッドランプをガイド・レールに差し込み、コネクタ**D**を接続します。次に、ヘッドランプを元の位置に押し込みます。
2. ヘッドランプをボディに押し付けながら、ソケット・レンチ**C**を矢印の方向に回します。
   カチッという音がして、ヘッドランプのロックがかかります。
3. ヘッドランプがしっかりと取り付けられていることを確認します。
4. ソケット・レンチ**C**を取り外し、工具セットに収納します。
5. カバー**A**を取り付け、矢印の方向に押してはめ込みます。
6. エンジン・フードを閉めます。



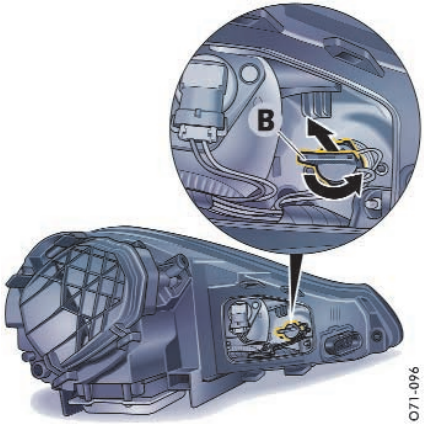


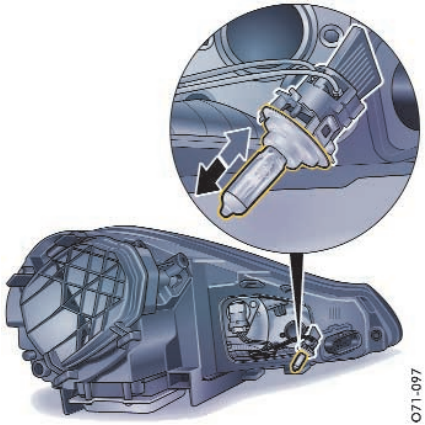


バイキセノン・ヘッドランプとコーナリング・ランプのバルブ交換

ロー・ビーム／ハイ・ビーム／ダイナミック・コーナリング・ランプのキセノン・バルブ交換

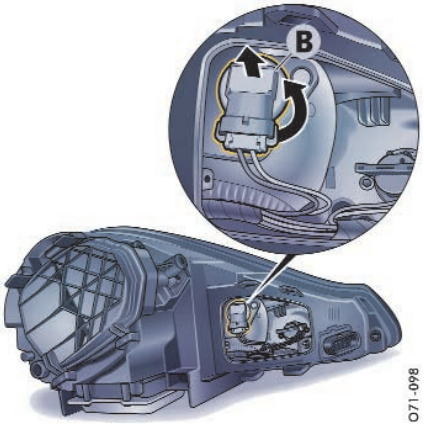
1. ヘッドランプを取り外します。
   ヘッドランプの取り外しについては：「ヘッドランプの取り外し」（289ページ）を参照してください。
2. 両方のタブ**A**を押し下げ、カバーを取り外します。
3. キセノン・バルブを反時計方向に回して取り外します。
4. コネクタのリリース・タブを押して、コネクタを抜き取ります。
5. 新しいキセノン・バルブにコネクタを接続します。
6. キセノン・バルブを差し込み、時計方向に回して固定します。
   バルブが正しい位置に取り付けられていることを確認します。
7. ヘッドランプにカバーを取り付けます。
   両方のタブが確実に固定されていることを確認します。
8. ヘッドランプを取り付けます。
   ヘッドランプの取り付けについては：「ヘッドランプの取り付け」（290ページ）を参照してください。
9. ランプの作動を確認します。

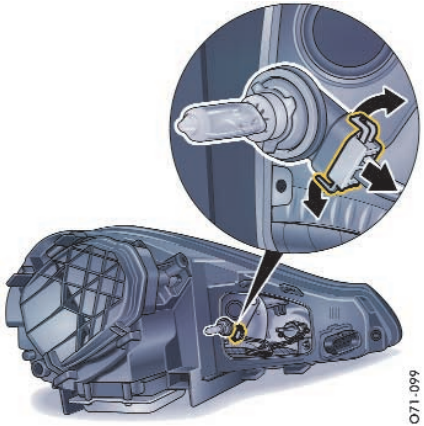




補助ハイ・ビームのバルブ交換

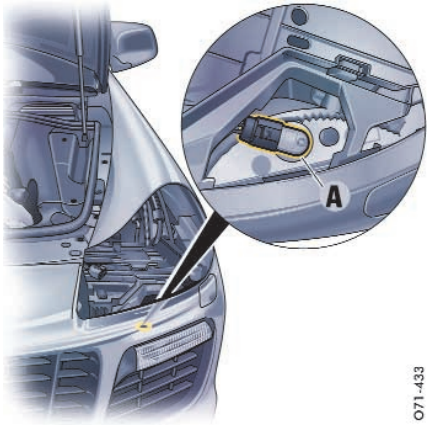
1. ヘッドランプを取り外します。
   ヘッドランプの取り外しについては：「ヘッドランプの取り外し」（289ページ）を参照してください。
2. 両方のタブ**A**を押し下げ、カバーを取り外します。
3. バルブ・ソケット**B**を反時計方向に回して取り外します。
4. バルブを交換します。
5. バルブ・ソケットを差し込み、時計方向に回して固定します。
   バルブが正しい位置に取り付けられていることを確認します。
6. ヘッドランプにカバーを取り付けます。
   両方のタブが確実に固定されていることを確認します。
7. ヘッドランプを取り付けます。
   ヘッドランプの取り付けについては：「ヘッドランプの取り付け」（290ページ）を参照してください。
8. ランプの作動を確認します。





固定式コーナリング・ランプのバルブ交換

1. ヘッドランプを取り外します。
   ヘッドランプの取り外しについては：「ヘッドランプの取り外し」（289ページ）を参照してください。
2. 両方のタブ**A**を押し下げ、カバーを取り外します。
3. バルブ・ソケット**B**を反時計方向に回して取り外します。
4. コネクタの両方のリリース・タブを引いて、バルブ・ソケットからコネクタを取り外します。
5. バルブを交換します。
   バルブが正しい位置に取り付けられていることを確認します。
6. ヘッドランプにカバーを取り付けます。
   両方のタブが確実に固定されていることを確認します。
7. ヘッドランプを取り付けます。
   ヘッドランプの取り付けについては：「ヘッドランプの取り付け」（290ページ）を参照してください。
8. ランプの作動を確認します。



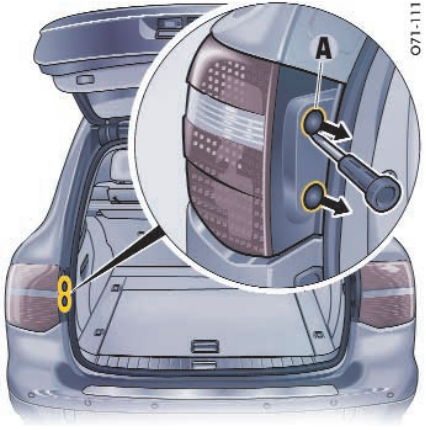
方向指示灯のバルブ交換

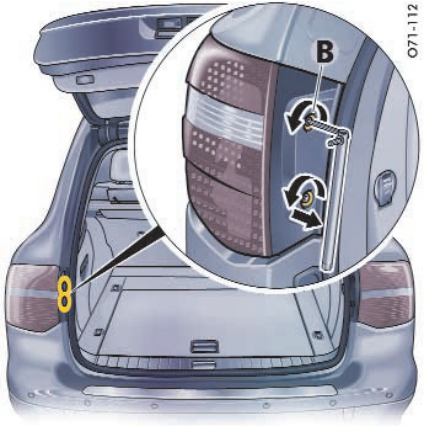
1. ヘッドランプを取り外します。
   ヘッドランプの取り外しについては：「ヘッドランプの取り外し」（289ページ）を参照してください。
2. ソケット**A**を反時計方向に回して取り外します。
3. バルブを交換します（バヨネット・ロック）。
4. ソケット**A**を差し込み、時計方向に回します。
   バルブが正しい位置に取り付けられていることを確認します。
5. ランプの作動を確認します。
6. ヘッドランプを取り付けます。
   ヘッドランプの取り付けについては：「ヘッドランプの取り付け」（290ページ）を参照してください。

リア・ランプ

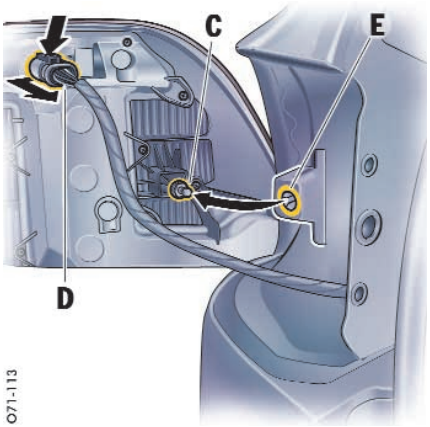
リア・ランプの取り外し

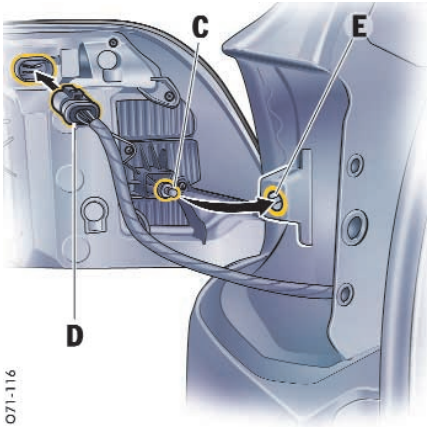
ボディ・デザインの関係上、リア・ランプの取り外しにはコツが必要です。
リア・ランプの取り外しが困難なときは、ポルシェ正規販売店にご依頼ください。
ポルシェ車に関する全ての整備点検は、ポルシェ正規販売店での実施を推奨します。十分なトレーニングを受けた経験豊かなスタッフが、最新の技術情報と専用工具や専用装置を駆使し、確かな整備をお約束します。

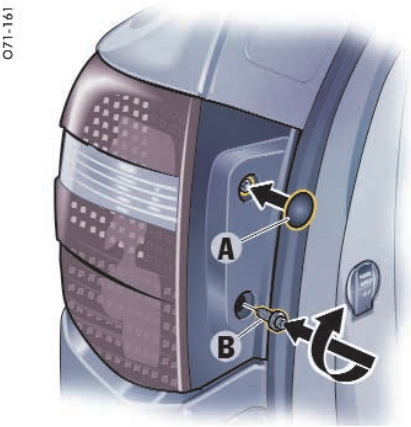




1. イグニッションをOFFにします。
2. リア・リッドを開きます。
3. スクリュー・ドライバーなどでキャップ**A**（2個）を取り外します。
4. 工具セットに収納しているソケット・レンチを使用して、スクリュー**B**（2個）を取り外します。



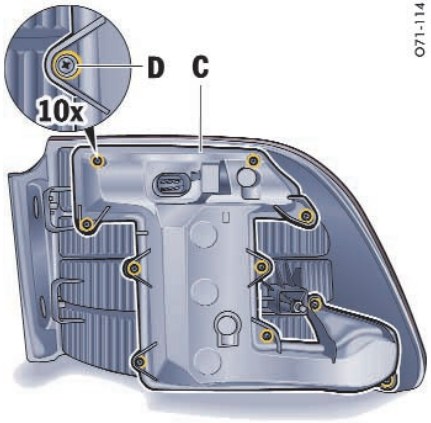




5. ランプ・ユニットを横方向（矢印の方向）に引き、ボール・ヘッド**C**をクリップ・ナット**E**から外します。
6. ランプ・ユニットのケーブルを解放します。次に、コネクタ**D**のリリース（矢印）を押し、コネクタを引き抜きます。

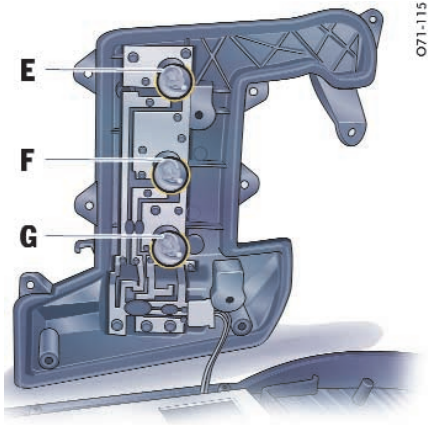
リア・ランプの取り付け

1. コネクタ **D**を接続し、カチッという音がするまで押し込みます。ランプ・ユニットのケーブルを固定します。
2. ボール・ヘッド**C**をクリップ・ナット**E**に差し込み、ランプ・ユニットをボディに取り付けます。
3. スクリュー**B**を取り付けます。スクリューを締め込むとき、ランプ・ユニットとボディの面が平らになっていることを確認します。
4. キャップ**A**を押し込みます。
5. リア・リッドを閉めます。



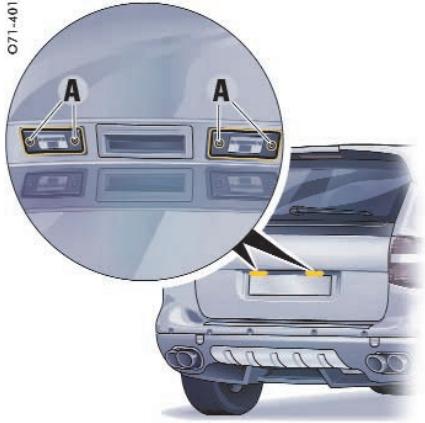
リア・ランプのバルブ交換

1. リア・ランプを取り外します。
   リア・ランプの取り外しについては：「リア・ランプの取り外し」（295ページ）を参照してください。
2. 工具セットに収納しているプラス・ドライバーを使用して、スクリュー**D**を外します。
3. ランプ・ブラケット**C**を取り外します。



E - *リヤ・フォグランプ*
F - *方向指示灯*
G - *後退灯*

4. バルブを交換します（バヨネット・ロック）。
   ランプ・ブラケットを差し込み、スクリューを締め付けます。
5. リア・ランプを取り付けます。
   リア・ランプの取り付けについては：「リア・ランプの取り付け」（296ページ）を参照してください。
6. ランプの作動を確認します。



ライセンス・ランプ

ライセンス・ランプのバルブ交換

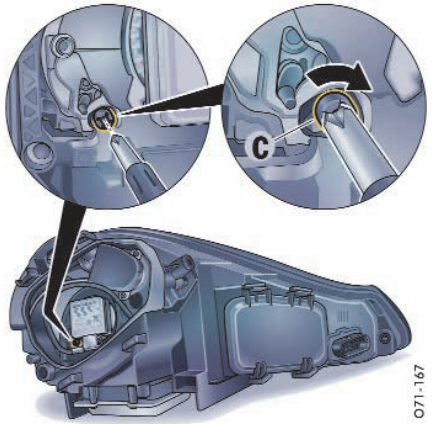
1. 両方のスクリュー**A**を緩め、ランプを取り外します。
2. バルブ・ホルダーを押して、ソケットからバルブを引き抜きます。
3. バルブを交換します。
4. ランプを取り付け、両方のスクリュー**A**を均等に締め付けます。

ヘッドランプの調整

ヘッドランプの光軸（照射角度）の調整は、専用装置がある整備工場だけで実施できます。
車が走行できる状態で、燃料タンクを満タンにして調整します。

右側通行から左側通行への変更に伴うヘッドランプの切り替え

車両通行帯（右側通行または左側通行）が異なる国で走行するときは、対向車のドライバーの幻惑を防ぐために、ヘッドランプの照射方向を切り替える必要があります。
ヘッドランプの照射方向を切り替えたときは、元に戻すことを忘れないでください。



ヘッドランプの照射方向の切り替え

1. ヘッドランプを取り外し、両方のタブ**A**を押し下げてカバーを取り外します。「ヘッドランプの取り外し」（289ページ）を参照してください。
2. プラス・ドライバーを使用して、スピンドル**C**を時計方向にいっぱいまで回します。
3. ヘッドランプにカバーを取り付けます。両方のタブ**A**が確実に固定されていることを確認します。
4. ヘッドランプを取り付けます。「ヘッドランプの取り付け」（290ページ）を参照してください。
5. もう一方のヘッドランプも同様に切り替えます。

バルブ・リスト

エクステリア・ランプ	タイプ、容量
キセノン・ヘッドランプ、	
ロー・ビーム／ハイ・ビーム	D1S
方向指示灯（フロント）	PY21W
方向指示灯（リア）	P21W
コーナリング・ランプ	H11
ライセンス・ランプ	C5W
フォグランプ	H11
リア・フォグランプ	P21W
後退灯	P21W
補助ハイ・ビーム	H7

インテリア・ランプ	タイプ、容量
室内灯（フロント）	W5W
読書灯	W5W
ラゲッジ・コンパートメント・ランプ	K12V10W
フットウェル・ランプ	W3W
グローブ・ボックス・ランプ	W3W
センター・コンソール・ランプ	W3W
ドア照明	W3W
ドア非常灯	W3W
リア・リッド照明	W5W
ガード・ランプ（リア・リッド）	W5W

けん引とけん引によるエンジンの始動

知識

▷ けん引およびけん引によるエンジンの始動を行うときは、法規等を遵守してください。

▷ 車をけん引するときは十分注意してください。
走り出す前に、けん引する車とけん引される車のドライバーが、通常とは異なる運転特性をしっかりと理解しておくことが大切です。

▷ イグニッションをONにしてハザード・ランプを点滅させているときに、方向指示灯を作動させると、方向指示灯だけが点滅します。この状態で方向指示灯を停止すると、ハザード・ランプの点滅に戻ります。

けん引ロープ

▷ けん引ロープの規格と取り扱い方法は、製品メーカーの取扱説明書を参照してください。
製品メーカーが指示する注意事項と取り扱い方法に従ってください。

▷ けん引ロープの定格荷重を遵守してください。ロープの許容荷重が、けん引される車の重量よりも大きいことを確認してください。製品メーカーが指定するけん引ロープの定格荷重を超えてはなりません。

▷ ブレーキ・システムが故障した車をけん引しないでください。

▷ けん引による走行中はロープがたるまないように注意し、急な衝撃をロープにかけないでください。

けん引バー

▷ けん引バーの規格と取り扱い方法は、製品メーカーの取扱説明書を参照してください。
製品メーカーが指示する注意事項と取り扱い方法に従ってください。

▷ けん引バーの定格荷重を遵守してください。バーの許容荷重が、けん引される車の重量よりも大きいことを確認してください。製品メーカーが指定するけん引バーの定格荷重を超えてはなりません。

▷ けん引バーを斜め方向に取り付けないでください。

▷ ブレーキ・システムが故障した車をけん引しないでください。

けん引または押しがけによるエンジンの始動

バッテリがあがったときや、バッテリに不具合があるときは、ジャンパー・ケーブルを使用してエンジンを始動するか、またはバッテリを交換してください。それ以外の方法でエンジンを始動しないでください。

▷ バッテリについては：
「バッテリ」（282ページ）を参照してください。

▷ ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動については：
「ジャンパー・ケーブルによるエンジンの始動」（286ページ）を参照してください。

▷ ティプトロニック装備車は、けん引または押しがけによるエンジンの始動ができません。
不適切な方法でエンジンを始動すると、トランスミッションに深刻な損傷が発生する恐れがあります。

けん引
他車をけん引するときは、この車よりも重量が小さいことを確認してください。自車よりも重い車をけん引しないでください。

⚠ 警 告

エンジンがかかっていないとパワー・アシスト機能が作用しないため、ブレーキやステアリングの操作にいつもより大きな力が必要です。このことを理解していないと、事故を起こす恐れがあります。

▷ 車をけん引するときは十分注意してください。

エンジンがかかっていないと、トランスミッション・オイルが循環しないため、トランスミッションが損傷する恐れがあります。トランスミッションの損傷を回避するため、以下の点に注意してください：

▷ ティプトロニック・セレクタ・レバーを**“N”**の位置にしてください。
電気回路に不具合があると、ティプトロニック・セレクタ・レバーを動かすことができません。この場合は、緊急操作でレバーを**“P”**の位置から動かすことができます。「セレクタ・レバーの緊急解除」（155ページ）を参照してください。

▷ けん引時は、4輪すべてを常に接地させてください。
ブレーキ・ランプや方向指示灯が作動し、ステアリング・ロックがかからないようにするため、イグニッションをONにしてください。

▷ けん引中は、50km/h以下で走行してください。
また、走行距離を50km以下にしてください。
これ以上の距離をけん引する場合は、積載車などを使用して運搬してください。

フロントまたはリア・アクスルを持ち上げてのけん引
エンジンがかかっていないと、トランスミッション・オイルが循環しないため、トランスミッションが損傷する恐れがあります。トランスミッションの損傷を回避するため、以下の点に注意してください：

▷ 原則として、フロントまたはリア・アクスルだけを持ち上げた状態でのけん引を禁止します。
やむを得ず、片側のアクスルだけを持ち上げてけん引するときは、接地しているアクスルのドライブシャフト（カルダン・シャフト）を取り外してください。

▷ ティプトロニック・セレクタ・レバーを**“N”**の位置にしてください。

▷ イグニッションをOFFにしてください。
イグニッション・ロックにキーを差し込んだままにして、ステアリング・ロックの作動を防止します。ポルシェ・エントリー＆ドライブ装備車は、コントロール・ユニットをイグニッション・ロックから取り外してキーを差し込んでください。「コントロール・ユニットのイグニッション・ロックからの抜き取り」（141ページ）を参照してください。

▷ けん引中であることが周囲に目立つようにしてください。

▷ けん引中は、50km/h以下で走行してください。
また、走行距離を50km以下にしてください。
これ以上の距離をけん引する場合は、積載車などを使用して運搬してください。

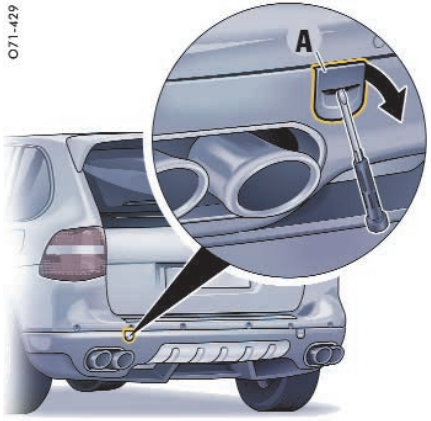
雪や砂などで立ち往生した車の救援
立ち往生した車を救出するときは十分に注意してください。
車の装備仕様により、スペア・タイヤ収納部に1個または2個のけん引フックを収納しています。

▷ 立ち往生した車を救出するときは、できる限り2個のけん引フックを使用してください。
けん引フックは、フロントまたはリアのどちらか一方に取り付けてください。

▷ 車を急に引っ張ったり、角度を付けて斜め方向に引かないでください。

▷ 可能な限り、立ち往生した車が進入したタイヤの軌跡に沿って、元の方向に引き出してください。

▷ トレーラー車両を連結した状態でけん引しないでください。



けん引フック

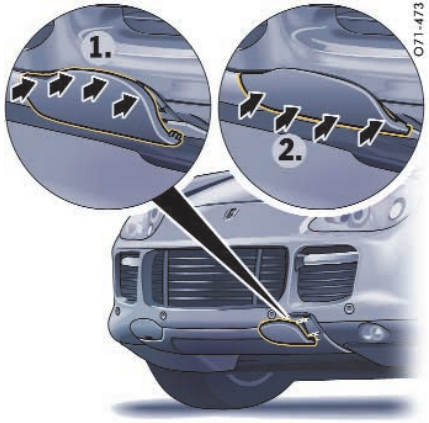
車の装備仕様により、スペア・タイヤ収納部に1個または2個のけん引フックを収納しています。

車体後部への取り付け

1. スクリュー・ドライバーを使用して、リア・バンパーのけん引フック取り付け部を覆っているプラスチック・カバー**A**を慎重に取り外します。このカバーにはストラップが付いていますので、ぶら下げた状態にします。
2. けん引フック**B**を手でいっぱいに締め込みます。このフックはネジの方向が逆になっており、反時計方向に回すと締め込むことができます。

車体前部への取り付け

1. スクリュー・ドライバーを使用して、フロント・バンパーのけん引フック取り付け部を覆っているプラスチック・カバー**A**を慎重に取り外します。



2. けん引フック**B**を手でいっぱいに締め込みます。このフックはネジの方向が逆になっており、反時計方向に回すと締め込むことができます。

フロントけん引フック取り付け部のプラスチック・カバーの取り付け

▷ プラスチック・カバー上部のロッキング・タブをバンパーにはめ込み、次にカバー側面と下部のタブを均等に押し込みます。

タイヤ空気圧とテクニカル・データ

車両の識別データ 305
エンジン 306
燃費 306
タイヤ、ホイール、トレッド 307
冷間時（20℃）のタイヤ空気圧 308
車両重量 309
地上高 310
容量 311
車両寸法 312
動力性能 313

車両の識別データ

スペア・パーツを注文するときや、車に関するお問い合わせに際しては、必ず車体番号をお知らせください。

ビークル・データ・キャリア

この車の大切な情報が記載されているデータ・キャリアが、ラゲッジ・コンパートメント・フロア下の左側にあります。

知識

このデータ・キャリアは、紛失や損傷しても再発行ができません。

車体番号（VIN）

この車に固有の車体番号は、ラゲッジ・コンパートメント・フロア下の右側（工具セットの奥）、およびフロント・ウィンドウ枠の左下に刻印しています。

ビークル・プレート＊

ビークル・プレートは、エンジン・ルーム右側の隔壁にあります。

＊日本仕様に設定はありません。

エンジン（メーカー発表値）

	カイエン・ターボ	カイエン・ターボ・ ハイパフォーマンス・キット装着車＊	カイエン・ターボS
エンジン・タイプ	V型、水冷式	V型、水冷式	V型、水冷式
シリンダ数	8	8	8
ボア	96mm	96mm	96mm
ストローク	83mm	83mm	83mm
総排気量	4,806cm³	4,806cm³	4,806cm³
最高出力（80/1269/EEC）	368kW（500HP）/6,000rpm	397kW（540HP）/6,000rpm	404kW（550HP）/6,000rpm
最大トルク（80/1269/EEC）	700Nm/2,250～4,500rpm	750Nm/2,250～4,500rpm	750Nm/2,250～4,500rpm
エンジン・オイル消費量	最大1.5ℓ/1,000km	最大1.5ℓ/1,000km	最大1.5ℓ/1,000km
許容最高回転数	6,700rpm	6,700rpm	6,700rpm

燃費（メーカー発表値）

80/1268/ECC基準に則って測定した数値です。

	市街地走行 （ℓ/100km）	自動車専用道走行 （ℓ/100km）	平均 （ℓ/100km）	CO_2排出量（平均） （g/km）
カイエン・ターボ	22.5	10.5	14.9	358
カイエン・ターボ・ハイパフォーマンス・キット装着車＊				
カイエン・ターボS				

＊日本仕様に設定はありません。

タイヤ、ホイール、トレッド		タイヤ	ホイール フロント　リア	リム・オフセット フロント　リア	トレッド フロント	 リア
サマー・タイヤ		275/45 R 19 108 Y XL[2)]	9J×19	60 mm	1,641 mm	1,656 mm
		275/40 R 20 106 Y XL	9J×20	60 mm	1,641 mm	1,656 mm
	★	275/40 R 20 106 Y XL	9J×20／10J×20	60 mm／55 mm	1,641 mm	1,666 mm
	★	295/35 R 21 107 Y XL	10J×21	50 mm	1,661 mm	1,676 mm
	★	295/35 R 21 107 Y XL	10J×21	50 mm／45 mm	1,661 mm	1,686 mm
ウィンター・タイヤ		255/50 R 19 107 V XL[1) 2)]	9J×19	60 mm	1,641mm	1,656mm
		275/40 R 20 106 V XL[1)]	9J×20	60 mm	1,641 mm	1,656 mm
	★	275/40 R 20 106 V XL	9J×20／10J×20	60 mm／55 mm	1,641 mm	1,666 mm
オール・シーズン・タイヤ		275/45 R 19 108 V XL[1) 2)]	9J×19	60 mm	1,641 mm	1,656 mm
コラプシブル・スペア・タイヤ		195/65-19	6.5×19	43.5 mm		

タイヤに記されているロード・インデックス（「106」など）と速度記号（「T」など）は、この車の性能・仕様を超えるものをお選びください。新しいタイヤを装着するときや、タイヤを交換する場合は、「タイヤとホイール」（251ページ）を参照してください。

タイヤ／ホイール・サイズ

ポルシェ社が指定するタイヤ／ホイール・サイズは、さまざまな条件の走行テストに基づいて決定したものです。
タイヤ／リム・サイズの適切なサイズについては、最寄りのポルシェ正規販売店までお気軽にお尋ねください。
ポルシェ社が承認したタイヤを装着することで、ポルシェ車に最適な走行性能が得られます。
20インチおよび21インチ・タイヤはオンロード走行を前提にしています。

1)
スノー・チェーンとクリアランス

1)のタイヤは、ポルシェ社指定のスノー・チェーン（部品番号955.044.600.13）を装着したときのクリアランスだけが保証されています。さらに1)のタイヤは、リア・ホイールだけにスノー・チェーンを装着してください。
スノー・チェーンを装着したときは、50km/h以下で走行してください。
ポルシェ社が承認したファイン・リンク・クロス・チェーンまたはエッジ・チェーンだけを使用してください。
「スノー・チェーン」（254ページ）を参照してください。

2)
ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ

2)のタイヤは20インチ・ポルシェ・セラミック・コンポジット・ブレーキ装備車には装着できません。

★

ホイール・アーチ・エクステンション付き車のみ装着可能です。

冷間時（20℃）のタイヤ空気圧

ここに掲載したタイヤ空気圧は、ポルシェ社が承認したタイヤを装着したときだけ適用されます。
必ず「タイヤとホイール」（251ページ）の指示に従ってください。

部分積載時 （乗員3名および21kgの荷物まで）		
	フロント	リア
255/50R19	2.6 bar (38 psi)	2.9 bar (43 psi)
275/45R19		
275/40R20		
295/35R21		
195/65-19　コラプシブル・タイヤ	3.5 bar (51 psi)	3.5 bar (51 psi)

全積載時 （乗員4名以上および21kg以上の荷物）		
	フロント	リア
255/50R19	2.7 bar (39 psi)	3.4 bar (50 psi)
275/45R19		
275/40R20		
295/35R21		
195/65-19　コラプシブル・タイヤ	3.5 bar (51 psi)	3.5 bar (51 psi)

▷ タイヤ空気圧モニタリング・システム装備車は、インストルメント・パネルのマルチ・ファンクション・ディスプレイで車両重量を設定してください。「車の荷重とタイヤ空気圧の設定」（119ページ）を参照してください。

知識

オール・シーズン／ウィンター・タイヤは「M+S」と表記しています。

車両重量（メーカー発表値）

空車重量	
空車重量（規格より）	
DIN70020規格	2,355～2,665 kg
70/156/EEC規格 [1]	2,430～2,740 kg
最大軸荷重、フロント [2]	1,490 kg
最大軸荷重、リア [2]	1,700 kg
最大総重量 [2]	3,080 kg
EU規格トレーラー	
最大総重量	3,180 kg
最大軸荷重、フロント／リア	1,490 / 1,800 kg
ルーフ積載荷重	
最大ルーフ積載荷重 [3]	100 kg
ルーフ・レール装備車	75 kg
けん引重量（車両＋トレーラーの重量）	
最大けん引重量（トレーラー・ブレーキ装備車）（最大勾配12%）	3,500 kg
最大けん引重量（トレーラー・ブレーキ非装備車）	750 kg
最大車両重量＋トレーラー重量	6,580 kg
垂直連結荷重	140 kg

[1] 空車重量にはドライバー1名（75 kg）が含まれます。

[2] 最大総重量および最大軸荷重を超えてはなりません。

注記： アクセサリなどを装備している場合は、その重さを加えた重量が、最大重量を超えてはなりません。

[3] ポルシェ・テクイップメント、またはポルシェ社がテストを実施して承認したルーフ・トランスポート・システムを使用した場合に限ります。

地上高（メーカー発表値）

エア・サスペンション／ノーマル・レベル	
ランプ・アングル	20.0˚
アプローチ・アングル	28.5˚
デパーチャー・アングル	22.3˚
最低地上高（アクスル中央部）	215 mm
エア・サスペンション／ロー・レベル	
ランプ・アングル	17.6˚
アプローチ・アングル	27.3˚
デパーチャー・アングル	20.6˚
最低地上高（アクスル中央部）	191 mm
エア・サスペンション／ローディング・レベル	
ランプ・アングル	14.8˚
アプローチ・アングル	21˚
デパーチャー・アングル	18.5˚
最低地上高（アクスル中央部）	161 mm
エア・サスペンション／オフロード・レベル	
ランプ・アングル	22.1˚
アプローチ・アングル	30.2˚
デパーチャー・アングル	23.6˚
最低地上高（アクスル中央部）	241 mm
エア・サスペンション／スペシャル・オフロード・レベル	
ランプ・アングル	24.7˚
アプローチ・アングル	31.8˚
デパーチャー・アングル	25.4˚
最低地上高（アクスル中央部）	271 mm

容量

ポルシェ社指定のオイル、フルード、燃料だけを使用してください。詳しくはポルシェ正規販売店にお尋ねください。

エンジン・オイル （交換時、オイル・フィルタを含まず）	約8.5リットル
エンジン・オイル （交換時、オイル・フィルタを含む）	約9.0リットル 規定のオイル量はオイル・レベル・ゲージで点検してください。 「オイル・レベルの点検」（228ページ）を参照してください。
エンジン・クーラント[1)]	約18～21リットル
オートマチック・トランスミッション・フルード （トルク・コンバータを含む）	約9.0リットル
トランスファ・ギヤ・オイル	約0.85リットル
フロント・ディファレンシャル・オイル	約1.0リットル
リア・ディファレンシャル・オイル	約1.4リットル
ロッキング・リア・ディファレンシャル・オイル	約1.6リットル
燃料タンク	約100リットル （予備用約12リットルを含む）
燃料オクタン価	この車のエンジンは、オクタン価が98RON/88MON以上の無鉛プレミアム・ガソリンを使用したときに最大の出力と最高の燃費を引き出すように設計しています。 オクタン価が95RON/85MON以上の無鉛プレミアム・ガソリンも使用できますが、この場合はエンジンのノック制御システムが自動的に点火時期を補正します。
パワー・ステアリング・フルード	約1.5リットル （ハイドロリック・フルード・ペントシンCHF202）
ブレーキ・フルード（ブレーキ液タンク）	約0.95リットル ポルシェ社純正または同等品質のブレーキ液だけを使用してください。
ウォッシャ液タンク （ヘッドランプ・クリーニング・システム付）	約7.5リットル

[1)] 車の装備仕様により異なります。

車両寸法

全長	4,810 mm
全幅	1,930 mm
ドア・ミラーを含む全幅	2,200 mm＊
全高（DIN規格空車重量）／ノーマル・レベル	1,700 mm
ルーフ・レール装備車／ノーマル・レベル	1,735 mm＊
ルーフ・トランスポート・システム装備車／ノーマル・レベル	1,784 mm＊
リア・リッド・オープン時の全高（DIN規格空車重量）	2,211 mm＊
全高（DIN規格空車重量）／スペシャル・オフロード・レベル	1,748 mm＊
ルーフ・レール装備車／スペシャル・オフロード・レベル	1,789 mm＊
ルーフ・トランスポート・システム装備車／スペシャル・オフロード・レベル	1,837 mm＊
許容最大渡川能力／スペシャル・オフロード・レベル	555 mm＊

ホイールベース	2,855 mm
オーバーハング、フロント	933 mm＊
オーバーハング、リア	1,007 mm＊
最小回転直径	11.7 m＊

＊メーカー発表値

動力性能（メーカー発表値）

DIN規定空車重量および最大200 kgの積載条件により計測しています。なお動力性能を損なう付加装置（特殊タイヤなど）は使用していません。

	カイエン・ターボ	カイエン・ターボ・ ハイパフォーマンス・キット装着車＊	カイエン・ターボS
最高速度	275 km/h	279 km/h	280 km/h
0〜100 km/h発進加速	5.1秒	4.9秒	4.8秒
トレーラー車両けん引時の最高速度	各国の法規制に準じる		

＊日本仕様に設定はありません。

さく引

あ

アクセサリー・ソケット ……274
新しいタイヤの慣らし運転 ……139
新しいブレーキ・パッドの
慣らし運転 ……139
アームレストの小物入れ（フロント）…198
アームレストの小物入れ（リア）……199
アルカンターラの清掃 ……247
安全運転について ……138
アンダー・コーティングの修復 ……244
アンチ・スリップ・コントロール
（ASR） ……162
アンチロック・ブレーキ・システム
（ABS） ……167
　オフロードABS（ロー・レンジ・
　オフロード走行プログラムのABS）…168
　機能 ……168
　警告灯 ……168

い

イグニッション・キーの緊急
ロック解除 ……142
イグニッション・ロック ……141
イージー・エントリー機能 ……30
　降車するとき ……30
　乗車するとき ……30
ISOFIXシステム付きチャイルド・シートの
取り付け ……44
ISOFIX幼児用補助拘束装置……43
イモビライザー
（キー内蔵型盗難防止装置） ……225
インストルメント・クラスタ ……6

う

ウインター・タイヤ ……254
ウィンドウ、スライディング／
チルティング・ルーフ ……73
ウィンドウの開閉 ……74
ウィンドウの清掃 ……244
ウィンドウのワンタッチ作動 ……75
植え込み型除細動器 ……25a
植え込み型心臓ペースメーカー ……25a
ウェルカム・ホーム機能
（消灯遅延機能）……91、95
ウォッシャ液の補充……233、311
　容量 ……311
雨天時の自動点灯機能（オートマチック・
ドライビング・ランプ・アシスト） ……91
運転席シートの自動メモリー ……29
運転席シート・メモリー ……29

え

エア・クリーナの交換 ……234
エアコン・コントロール・パネル
（2ゾーン・オート・エアコン） ……57
エアコン・コントロール・パネル
（4ゾーン・オート・エアコン） ……62、63
エアコン・コンプレッサに関する知識 …55
エアコン・システムの概要 ……54
　2ゾーン・オート・エアコン ……54、56
　4ゾーン・オート・エアコン ……54、60
エアコン、補助ヒータ、リア・
ウィンドウ・ヒータ ……53
エア・サスペンション ……170
　オフロード・レベル ……170
　警告メッセージ ……172
　車高の手動設定 ……171
　ジャッキ・アップ時の注意点 ……172
　スペシャル・オフロード・レベル …170
　設定車高の表示 ……172
　鉄道、カーフェリー、トランスポータに
　よる車両の輸送 ……172
　ノーマル・レベル ……170
　レベリング・システムの解除 ……172
　レベリング・システムの再作動 ……172
　ローディング・レベル ……171
　ロー・レベル ……170
エア・デフレクター（パノラマ・ルーフ・
システム） ……83
エアバッグ・カバーの清掃 ……247
エアバッグ警告灯 ……38

エアバッグ・システム……37
エアバッグの廃棄……38
機能……37
警告灯……38
助手席エアバッグOFF表示灯……38、42
PASSENGER AIRBAG
OFF表示灯……38、42
エア・ベント（吹き出し口）……66
ASR（アンチ・スリップ・
コントロール）……162
ECONモード（エアコン）……55
ABS（アンチロック・ブレーキ・
システム）……167
オフロードABS（ロー・レンジ・
オフロード走行プログラムのABS）…168
機能……168
警告灯……168
ABD（オートマチック・ブレーキ・
ディファレンシャル）……162
エミッション・コントロール……107
エミッション・コントロール警告灯…107
エミッション・コントロール・
システム……238
MSR（エンジン・ドラッグ・トルク・
コントロール）……164
エンジン・オイル……228、311
エンジン・オイルの種類……229
エンジン・オイルの補充……229
オイル・フィラー・キャップ……229
オイル容量（オイル・
フィルタを含まず）……311
オイル容量（オイル・
フィルタを含む）……311
オイル・レベル警告……228
オイル・レベル・ゲージ……228
オイル・レベルの点検……228
エンジン・オイルの種類……229
エンジン・オイルの補充……229
エンジン回転計……104
エンジン諸元……306
エンジン水温警告……105
エンジン・ドラッグ・トルク・
コントロール（MSR）……164
エンジンの始動……143
エンジンの停止……143
エンジン・ブースト圧計……105
エンジン・フードの開閉……21
エンジン・ブレーキ・サポート
（下り坂走行アシスタント）……169
エンジン・ルームの清掃……243

お

オイル消費量……139、306
オイル・レベルの点検……228
応急処置セット……249
お子様を乗せるとき……39
ISOFIXシステム付きチャイルド・
シートの取り付け……44
ISOFIX幼児用補助拘束装置……43
助手席エアバッグの作動／非作動……42
推奨する幼児用補助拘束装置……40
PASSENGER AIRBAG
OFF表示灯……38、42
体重グループ0、0+のお子様……39
体重グループIのお子様……39
体重グループIIのお子様……39
体重グループIIIのお子様……39
お出かけの前に……139
オートマチック・ドライビング・
ランプ・アシスト……90
オートマチック・ブレーキ・
ディファレンシャル（ABD）……162
オートマチック・モード
（オフロード走行プログラム）……152
キックダウン……153
ステアリング・ホイールでのギヤ・
シフト……152
オートマチック・モード
（オンロード走行プログラム）……151
一時的なシフトダウン……152
キックダウン……152
ステアリング・ホイールでのギヤ・
シフト……152
オートマチック・リア・リッド……14
オドメータ……104
オート・モード（2ゾーン・オート・
エアコン）……58
オート・モード（4ゾーン・オート・
エアコン）……63
オート・ロック機能……19
オフロードABS……168

オフロード走行 ……175
オフロード走行後 ……176
オフロード走行のルール ……175
オフロード走行前 ……176
オフロード走行用のドライビング・システム ……176
下り坂走行 ……178
砂上走行 ……181
障害物の乗り越え方 ……180
上り坂走行 ……177
水たまりや浅瀬の走行 ……179
わだちの走り方 ……181
オフロード走行プログラム ……157
オフロード走行用のドライビング・システム ……176
オフロードPSM ……164
オフロード・レベル（レベリング・システム）……170
オルタネータ ……106
オン・ザ・カー・ホイール・バランス ……160
オンロード走行プログラム ……157

か

外観図 ……4
コックピット ……5
ステアリング・ホイールとインストルメント・クラスタ ……6
センター・コンソール（フロント）……7
外気導入口（エアコン）……67
外部電源によるエンジンの始動 ……286
開閉操作とロック ……8
カーゴ・マネージメント・システム …187
加速する（クルーズ・コントロール）…148
ガソリンの種類……239、311
カップ・ホルダ ……200
カーテシ・ランプ……91、95
カバー・フラップを開く（エアコン）…54
カーペットの清掃 ……246
ガレージ・ドア・オープナー ……219
可変コード式システムの同期 ……221
ガレージ・ドア・オープナー信号のボタンへの登録 ……220
ガレージ・ドア・オープナーの操作 ……221
登録したすべての信号の消去 ……220
プログラム・ボタンへの登録 ……221

き

キーおよびセントラル・ロッキング・システムの知識 ……24
キーの交換 ……24
キー・ブレードを収納する ……24
キー・ブレードを取り出す ……24
作動待機の解除 ……25
セントラル・ロッキング・システム …25
キックダウン（ティプトロニックS）……152、153
キーでウィンドウを開閉する ……75
キー内蔵型盗難防止装置（イモビライザー）……225
キーによるロック……10、12
キーによるロックの解除……10、11、13、18
キーの交換 ……24
ギヤ・ポジション・インジケータ ……151
給油 ……239
燃料オクタン価……239、311
燃料タンク容量 ……311
燃料の品質……239、311
フィラー・フラップの手動ロック解除（緊急解除）……240
許容最高回転数（エンジン）……306
距離計 ……104
緊急解除―セレクタ・レバー ……155
緊急時の電動閉機能（パノラマ・ルーフ・システム）……85
緊急操作―イグニッション・キーの抜き取り ……142

く

下り坂走行 ……178
下り坂走行アシスタント ……169
クーラント・リザーバ・タンク ……230
クーラント・レベル警告 ……105
クーラント・レベルの点検と補充……230、311
容量 ……311
ラジエータ・ファン ……231
クーリング・システム ……105
クルーズ・コントロール ……148
加速する ……148
減速する ……149

システムのON/OFF ……148、149
システムの再開 ……149
システムの自動中断 ……149
システムを中断する ……149
速度を設定する ……148
クルーズ・コントロールOFF ……149
クルーズ・コントロールON ……148
クルーズ・コントロールの再開 ……149
クルーズ・コントロールの自動中断 …149
クルーズ・コントロールを中断する …149
車のお手入れ……226、241
アルカンターラの清掃 ……247
アンダー・コーティングの修復 ……244
ウィンドウの清掃 ……244
エアバッグ・カバーの清掃 ……247
エンジン・ルームの清掃 ……243
カーペットの清掃 ……246
車の長期保管 ……247
高圧洗車装置 ……241
合金製ホイール ……245
自動洗車機 ……242
シートベルトのお手入れ ……247
シールの清掃 ……246
スチーム洗浄装置 ……241
ステンレス製テール・パイプ ……245
洗車 ……242
デコラティブ・フィルム ……241
ドア・ロックの保護 ……241
塗装の保護 ……243
ファブリック・ライニングの清掃 …247
プラスチック部品の清掃 ……245
フロア・マットの清掃 ……246
ヘッドランプ、ランプ類の清掃 ……245
本革のお手入れ ……246
ワイパー・ブレードの清掃 ……244
車の開閉およびロックの設定変更（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……126
アンサー・バックの設定 ……126
オート・ロック解除（AUTO UNLOCK）の設定……127
オート・ロック（AUTO LOCK）の設定 ……127
ドア・ロック解除の設定 ……126
リア・リッド・ロックの設定 ……127
車の技術的な仕様変更 ……140
車の長期保管 ……247
グローブ・ボックス ……198

け

警告灯および警告メッセージ一覧（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……131
警告灯／表示灯 ……103
警告メッセージの表示（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……114
軽修理について ……249
携帯用燃料容器 ……238
警報システム ……223
機能表示 ……224
傾斜センサの手動解除 ……223
警報が作動したときの解除 ……223
誤作動を防止するために ……224
作動 ……223
作動解除 ……223
室内モニタ・システムの手動解除 …223
警報システムと盗難防止 ……222
警報システムをOFFにする ……9
けん引 ……301
けん引フック ……302
けん引とけん引によるエンジンの始動 ……300
押しがけによるエンジンの始動 ……300
けん引バー ……300
けん引ロープ ……300
フロントまたはリア・アクスルを持ち上げてのけん引 ……301
雪や砂などで立ち往生した車の救援 ……301
けん引能力 ……205
減速する（クルーズ・コントロール）……149

こ

高圧洗車装置 ……241
合金製ホイールの記号 ……256
合金製ホイールの清掃 ……245
工具セット……249、257
工場出荷時の設定（マルチ・ファンクション・ディスプレイの初期設定へのリセット）……130
高速道路での自動点灯機能（オートマチック・ドライビング・ランプ・アシスト）……91

コックピット ……5
固定式ガラス・ルーフ
（パノラマ・ルーフ・システム）……83
コラプシブル・スペア・タイヤ ……268
コンパスの表示（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……111
コンフォート・メモリー ……28
コンフォート・ランプ ……94
　明るさ調整 ……95
コンプレッサー ……257

さ

最高出力（エンジン）……306
最大トルク（エンジン）……306
サイドビュー・カメラ ……47
サイドビュー・モニター ……47
サイドビュー・モニター付き
ルーム・ミラー ……47
砂上走行 ……181
サングラス・ケース ……197
サンバイザ ……52
サン・ブラインド
（リア・サイド・ウィンドウ）……52

し

CO_2排出量 ……306
シガー・ライタ（フロント）……203
シガー・ライタ（リア）……203
室内防塵用フィルタの交換 ……234
室内モニタ・システムおよび傾斜センサの
停止（マルチ・ファンクション・
ディスプレイ）……125
室内モニタ・システムをOFFにする ……9
シート ……27
　イージー・エントリー機能 ……30
　シート位置 ……27
　シートの調節 ……27
　メモリー機能付きフロント・シート …28
　メモリーのキャンセル ……28
　メモリーの自動呼び出し機能の
　キャンセル ……28
　メモリーの呼び出し ……28
　メモリーへの記憶（運転席） ……29
　メモリーへの記憶（助手席） ……29
シート位置 ……27
自動車電話 ……144
自動洗車機 ……242
自動速度制御装置（クルーズ・
コントロール）……148
　加速する ……148
　減速する ……149
　システムのON/OFF ……148、149
　システムの再開 ……149
　システムの自動中断 ……149
　システムを中断する ……149
　速度を設定する ……148
自動内気循環（2ゾーン・オート・
エアコン） ……59
自動内気循環（4ゾーン・オート・
エアコン） ……65
シート下の引き出し ……200
シートの調節 ……27
シート・ヒータ（フロント・シート） …32
シート・ヒータ（リア・シート） …32、33
シートベルト ……34
　警告灯および警告メッセージ ……34
　シートベルト・プリテンショナー ……34
　シートベルトの高さ調節
　（手動調節）……36
　シートベルトの高さ調節
　（電動調節）……36
　シートベルトの着用 ……35
　シートベルトの外し方 ……35
シートベルト警告灯 ……34
シートベルトのお手入れ ……247
シートベルトの高さ調節（手動調節） …36
シートベルトの高さ調節（電動調節） …36
シートベルトの着用 ……35
シートベルトの外し方 ……35
シートベルト・プリテンショナー ……34
シート、ミラー、ステアリング・
ホイール ……26
シート・メモリーの自動呼び出し
機能のキャンセル ……28
シート・メモリーの
パーソナル・ボタン ……28
シート・メモリーの呼び出し ……28
車外からの開閉とロック ……9、10
　警報システムをOFFにする ……9
　室内モニタ・システムをOFFにする …9
　人や動物を車内に残したまま
　ロックする ……9
　ロックする ……9

ロックを解除する ……9
車高調整機能付きエア・
サスペンション ……170
オフロード・レベル ……170
警告メッセージ ……172
車高の手動設定 ……171
ジャッキ・アップ時の注意点 ……172
スペシャル・オフロード・レベル …170
設定車高の表示 ……172
鉄道、カーフェリー、
トランスポータによる車両の輸送 …172
ノーマル・レベル ……170
レベリング・システムの解除 ……172
レベリング・システムの再作動 ……172
ローディング・レベル ……171
ロー・レベル ……170
車高の手動設定
（レベリング・システム）……171
車高を上げる
（レベリング・システム）……171
車高を下げる
（レベリング・システム）……171
車体番号（VIN）……305
ジャッキ ……256
ジャッキ・アップ ……262
ジャッキ・アップ ……262
サイド・シル・カバー装備車の
ジャッキ・ポイント ……264
ジャッキ・ポイント ……263
ランニング・ボード装備車の
ジャッキ・ポイント ……263
ジャッキ・アップ・モード
（レベリング・システム）……172
車内からドアを開く ……19
車内からドアをロックする ……19
車幅灯 ……90
車両重量 ……309
空車重量 ……309
最大けん引重量 ……309
最大軸荷重 ……309
最大総重量 ……309
ルーフ積載荷重 ……309
車両寸法 ……312
車両の識別データ ……305
ジャンパー・ケーブルによる
エンジンの始動 ……286
収納スペース ……197
ジュニア・シート ……40
障害物の乗り越え方 ……180
消火器 ……32
消灯遅延機能（ウェルカム・
ホーム機能）……91、95
消灯遅延機能の設定（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……129
初期設定への表示のリセット（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……130
助手席エアバッグOFF表示灯 ……38、42
助手席エアバッグの作動／非作動 ……42
助手席シート・メモリー ……29
シールの清掃 ……246

す

水温計 ……105
垂直連結荷重 ……205
スキー・バッグ ……194
スチーム洗浄装置 ……241
ステアリング調節（電動調節）……49
ステアリング・ロック……141、225
ステアリング・ホイール ……6、48
ステアリング調節（電動調節）……49
ステアリング・ホイールの
照明ボタン ……51
ステアリング・ホイール・ヒータ ……48
ティプトロニック・ロッカー・
スイッチ ……48
ファンクション・ボタン ……50
マルチ・ファンクション・
ステアリング ……50
ステアリング・ホイールの照明ボタン …51
ステアリング・ホイール・ヒータ ……48
ステンレス製テール・パイプの清掃 …245
ストラップ・リール ……187
スノー・チェーン……254、307
スピードメータ（速度計）……105
スペア・タイヤ ……270
スペア・タイヤのブラケットからの
取り外し ……271
スペア・タイヤのブラケットへの
取り付け ……271
スペア・タイヤ・ブラケットの
開け方 ……271

スペア・タイヤ・ブラケットの
緊急ロック解除 ……273
スペア・タイヤ・ブラケットの
閉め方 ……272
スペア・タイヤ・ブラケットの
補助ロック ……272
スペア・タイヤ・ブラケット ……271
開け方 ……271
緊急ロック解除 ……273
閉め方 ……272
補助ロック ……272
スペーサ ……257
17mmスペーサの取り付け ……268
17mmスペーサの取り外し ……266
スペシャル・オフロード・レベル
（レベリング・システム） ……170
すべてのエアコン・システムに
共通の操作 ……55
エアコン・コンプレッサに
関する知識 ……55
ECONモード ……55
RESTモード ……55
スポーツ・モード ……159
スライディング／
チルティング・ルーフ ……77
緊急操作 ……80
コンフォート位置 ……78
バッテリ・セーブ機能 ……78
ポルシェ・エントリー&ドライブ
装備車のコンフォート機能 ……79
ルーフを開ける ……77、79
ルーフを閉める ……77、79
ルーフをチルトアップする ……77、79
スライディング／チルティング・
ルーフの緊急操作 ……80
スライディング／チルティング・
ルーフのバッテリ・セーブ機能 ……78
スライディング／チルティング・ルーフ
（パノラマ・ルーフ・システム） ……83
スライディング／チルティング・ルーフを
コンフォート位置まで開ける ……79
スライディング／チルティング・ルーフを
全開する ……79
スライディング／チルティング・ルーフを
全閉する ……79
スライディング／チルティング・ルーフを
チルトアップする ……79
スライディング・ルーフ（パノラマ・
ルーフ・システム） ……83

せ

制限速度の設定（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ） ……113
積算距離計 ……104
設定車高の表示
（レベリング・システム） ……172
セレクタ・レバー ……150
セレクタ・レバーの位置 ……151
P―パーキング・ロック ……151
R―リバース ……151
N―ニュートラル ……151
D―オートマチック・モード
（オンロード走行プログラム） ……151
D―オートマチック・モード
（オフロード走行プログラム） ……152
M―マニュアル・モード
（オンロード走行プログラム） ……153
M―マニュアル・モード
（オフロード走行プログラム） ……154
セレクタ・レバーの緊急解除 ……155
セレクタ・レバー・ポジション・
インジケータ ……151
センサ（2ゾーン・オート・
エアコン） ……58
センサ（4ゾーン・オート・
エアコン） ……63
洗車 ……242
センター・コンソール（フロント） ……7
センター・ディファレンシャル・
ロック ……158
セントラル・ロッキング・システム ……25

そ

走行制限プログラム
（ティプトロニックS） ……155
総排気量（エンジン） ……306
速度計 ……105
速度を設定する
（クルーズ・コントロール） ……148

た

タイダウン・ベルト ……190
タイダウン・リング……186、189
タイヤ空気圧の表示（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……111
タイヤ空気圧モニタリング・システムの設定（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……116
　車の荷重とタイヤ空気圧の設定 ……119
　警告「FLAT TYRE（タイヤのパンク）」……120
　警告「TYRE PRESSURE TOO LOW（タイヤ空気圧の異常低下）」……121
　コラプシブル・スペア・タイヤの設定 ……122
　システムの機能 ……117
　システムの故障 ……124
　スペア・タイヤの設定 ……122
　スペア・タイヤ／パンク修理剤の使用上の知識 ……123
　タイヤ空気圧の知識 ……124
　タイヤの種類とサイズの設定 ……118
タイヤ空気の充填 ……269
タイヤとホイール ……251、307、308
　ウインター・タイヤ ……254
　縁石 ……252
　荷重と速度 ……251
　空気圧……251、308
　合金製ホイールの記号 ……256
　コラプシブル・スペア・タイヤ ……268
　コンプレッサー ……257
　サマー・タイヤ ……307
　ジャッキ ……256
　ジャッキ・アップ ……262
　スノー・チェーン……254、307
　スペア・タイヤ……270、307
　スペーサ ……257
　タイヤ空気の充填 ……269
　タイヤ・サイズ……255、307
　タイヤの交換……253、265
　タイヤの速度記号 ……255
　タイヤの損傷 ……251
　タイヤの保管 ……252
　タイヤ・バルブ ……253
　盗難防止ホイール・ボルト ……258
　トレッド（接地面の溝）……252
　パンクしたときの処置 ……259
　パンク修理剤 ……260
　ホイール・アライメント ……253
　ホイール・サイズ……256、307
　ホイールの交換 ……252
　ホイール・バランス ……252
　ホイール・ボルト ……258
　ラジアル・タイヤの見方 ……255
タイヤの荷重と速度 ……251
タイヤの空気圧……251、308
タイヤの交換……253、265
タイヤの損傷 ……251
タイヤの保管 ……252
タイヤ・バルブ ……253
タイヤ、ホイール、トレッド ……307
タコメータ（回転計）……104

ち

チェック・エンジン警告灯 ……107
地上高 ……310
チャイルド・シート ……39
　ISOFIXシステム付きチャイルド・シートの取り付け ……44
　ISOFIX幼児用補助拘束装置……43
　助手席エアバッグの作動／非作動 ……42
　推奨する幼児用補助拘束装置 ……40
　PASSENGER AIRBAG OFF表示灯 ……38、42
チャイルド・プロテクションのON/OFF ……20
チャイルド・プロテクション（パワー・ウィンドウ）……75
チャイルド・ロック機能の作動／解除 ……20
着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチ ……207
　安全確認 ……210
　お手入れ ……211
　ボール・ジョイントの取り付け ……208
　ボール・ジョイントの取り外し ……211
駐車 ……214
駐車時の助手席ドア・ミラー位置の記憶 ……29
駐車時の助手席ドア・ミラーの下向き自動調節 ……46、219
駐車（ティプトロニックS）……155

つ

2ゾーン・オート・エアコン ……56
エアコン・コンプレッサに関する知識 ……55
ECONモード ……55
オート・エアコンを使用する ……56
オート・モード ……58
自動内気循環 ……59
車内温度を設定する ……56、58
センサ ……58
送風口を切り替える ……56、59
送風量を調節する ……56、58
同期（MONO）機能 ……59
内気循環 ……59
フロント・ウィンドウ・デフロスタを作動させる ……56、57
RESTモード ……55

て

停止位置の記憶（パノラマ・ルーフ・システム）……85
停止（ティプトロニックS）……154
停止表示板 ……249
デイタイム・ドライビング・ランプ ……91、128
デイタイム・ドライビング・ランプの点灯／消灯（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……128
ティプトロニックS……150
ティプトロニック・ロッカー・スイッチ（ステアリング・ホイール）……48
テクニカル・データ ……304
デコラティブ・フィルム ……241
テスト・ベンチでの点検 ……160
鉄道、カーフェリー、トランスポータによる車両の輸送（レベリング・システム） ……172
テール・パイプ ……140
テレスコピック・バー ……187
テレスコピック・レール ……187
電気系統 ……274
ヒューズ ……275
プラグ・ソケット ……274
リレー ……274
電動格納式トレーラー・ヒッチ ……212
お手入れ ……213
オーバーロード・プロテクション …213
故障 ……213
トレーラー・ヒッチの格納 ……212
トレーラー・ヒッチの固定位置の記憶 ……213
トレーラー・ヒッチの取り出し ……212
電話の操作（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……112
最後の通話先表示 ……112
重要な番号の表示 ……113
電話がかかってきたときの相手先表示 ……112
電話帳の表示 ……113
電話を受ける、通話を拒否する、通話を終了する ……112
不在通知 ……113

と

ドア・ハンドルのボタンでウィンドウを閉める ……76
ドア・ミラー ……45
助手席ドア・ミラーの下向き自動調節 ……46
電動格納機能が故障したとき ……45
電動調節機能が故障したとき ……45
電動復帰機能が故障したとき ……45
ドア・ミラー設定の保存 ……46
ドア・ミラーの調節 ……45
ドア・ミラーを格納する ……45
ドア・ミラーを復帰する ……45
ミラー・ヒータを使用する ……46
ドア・ミラーの電動格納機能が故障したとき ……45
ドア・ミラーの電動調節機能が故障したとき ……45
ドア・ミラーの電動復帰機能が故障したとき ……45
ドア・ミラーの同期調節（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……125
ドア・ミラー・ヒータ ……46
ドア・ロックの保護 ……241
ドア・ロックを解除してドアを開ける …11
ドアをロックする ……12
冬季の走行（ティプトロニックS）……155
同期（MONO）機能（2ゾーン・オート・エアコン） ……59

同期（MONO）機能（4ゾーン・オート・エアコン）……65
盗難防止ホイール・ボルト……258
盗難を防止するために……225
動力性能……313
読書灯（フロント）……93
読書灯（リア）……94
時計……104
時計の設定（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……129
塗装の保護……243
　小さな塗装の傷……243
　艶出し……243
　ワックス……243
ドライビング・ランプ・アシスト……90
トランスミッションおよびシャシー・コントロール・システム……161
　ABD……162
　ABS……167
　ASR……162
　MSR……164
　PASM……173
　PDCC……174
　PSM……163
　PTM（フルタイム4WDシステム）…162
　エア・サスペンション（レベリング・システムおよび車高調整機能付き）…170
トリップ・メータ……104
トレーラー・カップリング……205
　着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチ……207
　電動格納式トレーラー・ヒッチ……212
トレーラー車両の連結……204
トレーラー・スタビリティ・マネージメント……166
トレーラーのけん引能力……205
トレーラー・ヒッチ……205
　着脱式ボール・ジョイント付きトレーラー・ヒッチ……207
　電動格納式トレーラー・ヒッチ……212
トレーラー・ヒッチの固定位置の記憶（電動格納式トレーラー・ヒッチ）……213

な

内気循環（2ゾーン・オート・エアコン）……59
内気循環（4ゾーン・オート・エアコン）……65
ナビゲーション情報の表示（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……111
慣らし運転……139

に

荷物の積載……190

ね

燃費……139、306
燃料計……104
燃料残量警告……104
燃料残量による可走距離の表示（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……111
燃料の給油……239
　給油……239
　燃料オクタン価……239、311
　燃料タンク容量……311
　燃料の品質……239、311
　フィラー・フラップの手動ロック解除（緊急解除）……240

の

上り坂走行……177
ノーマル・レベル（レベリング・システム）……170

は

灰皿（フロント）……202
灰皿（リア）……202
ハイ・ビーム……90
ハイ・レンジ（オンロード走行プログラム）……157
パーキング・アシスタント……215
　警告音……217
　警告灯……217
　故障表示……218
　作動／停止……215
　障害物との距離……217
　セレクタ・レバーの位置……215
　センサ（超音波センサ）……216
　センサの限界……218
　トレーラー車両をけん引するとき…218
パーキング・センサ……215
　警告音……217

警告灯 ……217
故障表示 ……218
作動／停止 ……215
障害物との距離 ……217
セレクタ・レバーの位置 ……215
センサ（超音波センサ）……216
センサの限界 ……218
トレーラー車両をけん引するとき …218
パーキング・ブレーキ ……146
パーキング・ブレーキを解除する …146
パーキング・ブレーキをかける ……146
パーキング・ブレーキ・テスト ……160
パーキング・ランプ ……92
ハザード・ランプ ……93
挟み込み防止機能（パノラマ・ルーフ・システム）……85
発炎筒 ……249
発進アシスタント（ヒルホルダー）……169
パッシング ……92
PASSENGER AIRBAG OFF表示灯 ……38、42
バッテリ ……282
液量の点検 ……283
お手入れ ……283
車を長期保管するとき ……284
交換 ……284
充電 ……287
充電後の処置 ……288
充電状態 ……283
長期保管後の車の作動復帰 ……284
冬季の取り扱い ……283
取り扱い上の注意 ……282
リモート・コントロールの電池交換 ……285
バッテリ／オルタネータ ……106
バッテリ接続後のドア・ウィンドウ停止位置の記憶 ……76
バッテリ・セーブ機能（スライディング／チルティング・ルーフ）……78
バッテリ・セーブ機能（パノラマ・ルーフ・システム）……83
バニティー・ミラー ……52
パノラマ・ルーフ・システム ……82
緊急時の電動閉機能 ……85
緊急操作 ……87
停止位置の記憶 ……85
挟み込み防止機能 ……85
バッテリ・セーブ機能 ……83
ポルシェ・エントリー&ドライブ装備車のコンフォート機能 ……85
ポルシェ・エントリー&ドライブ非装備車のコンフォート機能 ……85
ルーフ3を開ける ……82、84
ルーフ3をチルトアップする ……82、84
ルーフ2を開ける ……82、84
ルーフを閉める ……82、84
ルーフを全開する ……82、84
ローラー・ブラインド ……86
ローラー・ブラインドの清掃位置 ……87
パノラマ・ルーフ・システムの緊急操作 ……87
パノラマ・ルーフ・システムのスライディング／チルティング・ルーフを開ける ……84
パノラマ・ルーフ・システムのスライディング／チルティング・ルーフをチルトアップする ……84
パノラマ・ルーフ・システムのスライディング・ルーフを開ける ……84
パノラマ・ルーフ・システムのバッテリ・セーブ機能 ……83
パノラマ・ルーフ・システムを全開する ……84
パノラマ・ルーフ・システムを全閉する ……84
バルブの交換 ……288
バイキセノン・ヘッドランプとコーナリング・ランプのバルブ交換 ……291
バルブ・リスト ……299
ヘッドランプの取り外し、取り付け ……289
方向指示灯のバルブ交換 ……294
ライセンス・ランプのバルブ交換 …297
リア・ランプの取り外し、取り付け ……295
バルブ・リスト ……299
パワー・ウィンドウ ……74
キーでウィンドウを開閉する ……75
チャイルド・プロテクションのON/OFF ……75

ドア・ハンドルのボタンで
ウィンドウを閉める ……76
バッテリ接続後のドア・ウィンドウ停止
位置の記憶 ……76
フロント・ドア・ウィンドウの
ワンタッチ作動 ……75
リア・ドア・ウィンドウの作動停止
（チャイルド・プロテクション）……75
ロッカー・スイッチでウィンドウを
開閉する ……74
パワー・ウィンドウ・スイッチ ……74
パワー・ステアリング ……234
パワー・ステアリング・オイルの
点検と補充……234、311
容量 ……311
パンクしたときの処置 ……259
パンク修理剤 ……260
パンク修理剤が付着したとき ……260
パンク修理剤の充填 ……261

ひ

PASM（ポルシェ・アクティブ・
サスペンション・マネージメント）……173
警告メッセージ ……173
シャシー設定の選択 ……173
シャシー設定の表示 ……173
PSM（ポルシェ・スタビリティ・
マネージメント）……163
オフロードPSM（ロー・レンジ・
オフロード走行プログラムのPSM）…164
機能 ……163
警告灯 ……165
作動例 ……164
トレーラー・スタビリティ・
マネージメント ……166
PSMおよびPTM/PTM Plusの併用……164
PSMの解除 ……165
PSMを再度ONにする……166
引き出し ……200
ビークル・データ・キャリア ……305
ビークル・プレート ……305
PCM（ポルシェ・コミュニケーション・
マネージメント）……144
PCCB（ポルシェ・セラミック・
コンポジット・ブレーキ）……140
PTM（ポルシェ・トラクション・
マネージメント）……162
PDCC（ポルシェ・ダイナミック・
シャシー・コントロール・システム）…174
機能 ……174
警告メッセージ ……174
人や動物を車内に残したまま
ロックする ……9
ヒューズ ……275
交換 ……275
ヒューズ・ボックス
（エンジン・ルーム）……275、281
ヒューズ・ボックス
（ダッシュ・ボード）……276、277、279
ヒューズ・リムーバ ……276
表示言語の変更（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……130
表示単位の変更（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……130
ヒルホルダー発進アシスタント ……169
VIN（車体番号）……305

ふ

ファブリック・ライニングの清掃 ……247
ファンクション・ボタンの操作 ……50
フォグランプ ……90
4ゾーン・オート・エアコン ……60
エアコン・コンプレッサに
関する知識 ……55
ECONモード ……55
オート・モード ……63
自動内気循環 ……65
センサ ……63
同期（MONO）機能 ……65
内気循環 ……65
フロント・ウィンドウ・デフロスタを
作動させる ……60、62
フロント・コントロール・
パネル ……60、62
フロント・コントロール・パネルで
オート・エアコンを使用する ……60
フロント・コントロール・パネルで
リア・エアコンを制御する ……66
フロント・シートの車内温度を
設定する ……60、64
フロント・シートの送風口を
切り替える ……60、64

フロント・シートの送風量を
調節する……60、64
リア・コントロール・パネル……61、63
リア・コントロール・パネルで
オート・エアコンを使用する……61
リア・コントロール・パネルの
機能停止……66
リア・シートの車内温度を
設定する……61、64
リア・シートの送風口を
切り替える……61、64
リア・シートの送風量を
調節する……61、64
RESTモード……55
フット・ブレーキ……146
プラグ・ソケット……274
プラスチック部品の清掃……245
フルタイム4WD……162
ブレーキ……146
警告メッセージ……147
ブレーキ・パッドおよびブレーキ・
ディスク……147
ブレーキ液レベルの点検と交換…232、311
警告灯および警告メッセージ……233
ブレーキ液の交換……233
ブレーキ液レベルの点検……232
容量……311
ブレーキ・テスト……160
フロア・マットの清掃……246
フロント・シート……27
フロント・シート・ヒータ……32
フロント・シート・ヘッドレスト……31
フロント・デフロスタ（2ゾーン・
オート・エアコン）……57
フロント・デフロスタ（4ゾーン・
オート・エアコン）……62
フロント・ワイパー……96
フロント・ワイパー&
ウォッシャ作動……96、99
フロント・ワイパー・オート作動
（レイン・センサ）……96、97
フロント・ワイパー作動……96、97
リア・ワイパー&
ウォッシャ作動……96、99
リア・ワイパー作動……96、99
レイン・センサ感度の調節……96、98
フロント・ワイパー&ウォッシャ作動…99
フロント・ワイパー・オート作動
（レイン・センサ作動）……97
フロント・ワイパーの操作……97
フロント・ワイパーのワンタッチ作動…98

へ

平均速度の表示／リセット（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……111
平均燃費の表示（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……116
ペースメーカー……25a
ヘッドランプ自動高さ調整……92
ヘッドランプ照射方向の切り替え……298
ヘッドランプの調整……298
ヘッドランプのバルブ交換……289
バイキセノン・ヘッドランプと
コーナリング・ランプの
バルブ交換……291
ヘッドランプの取り付け……290
ヘッドランプの取り外し……289
ヘッドランプ、ランプ類の清掃……245
ヘッドレスト（フロント・シート）……31
ヘッドレスト（リア・シート）……31
ベビー・シート……40

ほ

ホイール・アライメント……253
ホイールの交換……252
ホイール・バランス……252
ホイール・ボルト……258
盗難防止ホイール・ボルト……258
方向指示灯……92
方向指示灯のバルブ交換……294
補助ヒータ……68
エアコン・コントロール・パネルによる
作動／停止……69
故障……72
プログラム……70
リモート・コントロールによる
作動／停止……69
ポルシェ・アクティブ・サスペンション・
マネージメント（PASM）……173
警告メッセージ……173
シャシー設定の選択……173
シャシー設定の表示……173

ポルシェ・エントリー&ドライブ……25a
ポルシェ・エントリー&ドライブによる
ロック（キーレス操作）……10、12
ポルシェ・エントリー&ドライブによる
ロックの解除
（キーレス操作）……10、11、13、18
ポルシェ・エントリー&ドライブの
アンテナの取り付け位置……25a
ポルシェ・コミュニケーション・
マネージメント（PCM）……144
ポルシェ・スタビリティ・
マネージメント（PSM）……163
オフロードPSM（ロー・レンジ・
オフロード走行プログラムのPSM）…164
機能……163
警告灯……165
作動例……164
トレーラー・スタビリティ・
マネージメント……166
PSMおよびPTM/PTM Plusの併用……164
PSMの解除……165
PSMを再度ONにする……166
ポルシェ・セラミック・コンポジット・
ブレーキ（PCCB）……140
ポルシェ・ダイナミック・シャシー・
コントロール・システム（PDCC）……174
機能……174
警告メッセージ……174
ポルシェ・トラクション・
マネージメント（PTM）……162
ボール・ジョイント（着脱式ボール・
ジョイント付きトレーラー・ヒッチ）…207
安全確認……210
お手入れ……211
ボール・ジョイントの取り付け……208
ボール・ジョイントの取り外し……211
ホーン……48
本革のお手入れ……246
ボンネットの開閉……21

ま

マニュアル・モード
（オフロード走行プログラム）……154
マニュアル・モード
（オンロード走行プログラム）……153
マルチ・ファンクション・
ステアリング……50
ファンクション・ボタン……50
マルチ・ファンクション・
ディスプレイの操作……108
基本操作……108
車の開閉およびロックの設定変更…126
警告灯および警告メッセージ一覧…131
警告メッセージの表示……114
工場出荷時の設定
（初期設定への表示のリセット）……130
コンパスの表示……111
室内モニタ・システムおよび
傾斜センサの停止……125
消灯遅延機能の設定……129
初期設定への表示のリセット……130
制限速度の設定……113
タイヤ空気圧の表示……111
タイヤ空気圧モニタリング・
システムの設定……116
デイタイム・ドライビング・
ランプの点灯／消灯……128
電話の操作……112
ドア・ミラーの同期調節……125
時計の設定……129
ナビゲーション情報の表示……111
燃料残量による可走距離の表示……111
表示言語の変更……130
表示単位の変更……130
平均速度の表示／リセット……111
平均燃費の表示……116
メイン・メニューを開く……109
メニュー概要……110
レベリング・システム（車高）の
ステータス表示……115
ロック／リダクションの
ステータス表示……115
マルチ・ファンクション・ディスプレイ、
メータ・パネル……101
基本操作……108
警告灯および警告メッセージ一覧…131
警告灯／表示灯……103
メイン・メニューを開く……109
メータ・パネル……102、103
メニュー概要……110
万一のときは……248

み

右側通行から左側通行への変更に伴う
ヘッドランプの切り替え ……298
水たまりや浅瀬の走行 ……179
ミラー ……45、47

む

無鉛ガソリン……239、311
無鉛プレミアム・ガソリン……239、311
無線機 ……144

め

メイン・メニューを開く（マルチ・
ファンクション・ディスプレイ）……109
メータ・パネル……102、103
メータ・パネル・ランプ ……91
メニュー概要（マルチ・ファンクション・
ディスプレイ）……110
メモリー機能付きフロント・シート ……28
メモリーへの記憶（運転席） ……29
メモリーへの記憶（助手席） ……29
メンテナンス上の諸注意 ……227

も

目次 ……1

ゆ

油温計 ……104

よ

幼児用補助拘束装置 ……39
　ISOFIXシステム付きチャイルド・
　シートの取り付け ……44
　ISOFIX幼児用補助拘束装置……43
　助手席エアバッグの作動／非作動 ……42
　推奨する幼児用補助拘束装置 ……40
　PASSENGER AIRBAG
　OFF表示灯 ……38、42
容量 ……311
予備燃料タンク ……238

ら

ライセンス・ランプのバルブ交換 ……297
ラゲッジ・コンパートメント・
カバー ……191
ラゲッジ・コンパートメント左右の
収納スペース ……199
ラゲッジ・コンパートメント・
フロアの開閉 ……186
ラゲッジ・コンパートメント、
ローディング・スペースおよび
収納スペース ……182
ラゲッジ・セーフティ・ネット…190、192
ラジアル・タイヤの見方 ……255
　速度記号 ……255
ラジオ ……144
ランプ・スイッチ ……90
ランプの自動点灯機能（オートマチック・
ドライビング・ランプ・アシスト） ……90
ランプ、方向指示灯、
フロント・ワイパー ……89

り

リア・ウィンドウ・ヒータ ……67
リア・ウィンドウ・ロックを解除して
リア・ウィンドウを開ける ……18
リア・ウィンドウを閉める ……18
リア・コントロール・パネルの機能停止
（4ゾーン・オート・エアコン） ……66
リア・シート・ヒータ ……32、33
リア・シート・ヘッドレスト ……31
リア・シートを倒す ……183
リア・シートを戻す ……183
リア・ディファレンシャル・ロック …158
リア・ドア・ウィンドウの作動停止 ……75
リア・ドアのチャイルド・ロック ……20
リア・フォグランプ ……90
リア・ランプのバルブ交換 ……295
　リア・ランプの取り付け ……296
　リア・ランプの取り外し ……295
リア・リッド開動作中の障害物の検出 …16
リア・リッド自動開閉動作の中断 ……16
リア・リッドの緊急操作 ……17
リア・リッド閉動作中の障害物の検出 …17
リア・リッド・ロックを解除して
リッドを開ける ……13
リア・リッドを自動開閉する ……14
リア・リッドを開く高さの設定 ……17
リア・リッドをロックする ……14
リア・ワイパー&ウォッシャ作動 ……99

リア・ワイパーの操作 ……99
リア・ワイパーのワンタッチ作動 ……99
リモート・コントロールの電池交換 …285
リレー ……274

る

ルーフ・トランスポート・システム …196
ルーム・ミラー ……47
ルーム・ランプ（フロント） ……93
ルーム・ランプ（リア） ……94

れ

冷間時のタイヤ空気圧 ……308
レイン・センサの感度調節 ……98
RESTモード（エアコン）……55
レベリング・システムおよび車高調整機能付きエア・サスペンション ……170
　オフロード・レベル ……170
　警告メッセージ ……172
　車高の手動設定 ……171
　ジャッキ・アップ時の注意点 ……172
　スペシャル・オフロード・レベル …170
　設定車高の表示 ……172
　鉄道、カーフェリー、トランスポータによる車両の輸送 ……172
　ノーマル・レベル ……170
　レベリング・システムの解除 ……172
　レベリング・システムの再作動 ……172
　ローディング・レベル ……171
　ロー・レベル ……170
レベリング・システム（車高）のステータス表示（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……115
レベリング・システムの警告メッセージ ……172

ろ

ロッカー・スイッチでウィンドウを開ける ……74
ロックする ……9
ロック／リダクションのステータス表示（マルチ・ファンクション・ディスプレイ）……115
ロック／ロック解除の異常 ……22
　車のロックを解除できない ……22
　車をロックできない ……22
　すべてのドアがロックできない ……23
　1つのドアだけロックが解除される …22
ロックを解除する ……9
ローディング・スペース ……186
ローディング・レベル（レベリング・システム） ……171
ロー・ビーム ……90
ローラー・ブラインド（パノラマ・ルーフ・システム） ……86
　開閉 ……86
　清掃位置 ……87
ロー・レベル（レベリング・システム）……170
ロー・レンジ・インジケータ・ランプ ……159
ロー・レンジ（オフロード走行プログラム） ……157

わ

ワイパー・ブレード ……235
　ワイパー・ブレードの交換（フロント・ウィンドウ・ワイパー）……236
　ワイパー・ブレードの交換（リア・ワイパー）……237
ワイパー・ブレードの清掃 ……244
わだちの走り方 ……181
輪止め ……259

- 車両の仕様およびオプションの変更により、この取扱説明書の内容の一部が車両と一致しない場合があります。
- 説明図は一部日本仕様と異なる点があります。
- この取扱説明書に関してのお問い合わせは下記までお願い致します。

ポルシェ ジャパン株式会社　アフターセールス部

〒153-0064
東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

車両受領証
（販売店で保管）

VIN：車両識別ナンバー

エンジンナンバー

上記車両については、取扱説明書および整備手帳に記載されている車両の取扱い、および保証内容、並びに納車点検内容の説明を受け了承の上、車両およびツールキットを完全な状態で受領しました。

販売店スタンプ

日時　　お客様の署名

ポルシェジャパン株式会社
〒153-0064　東京都目黒区下目黒1-8-1
アルコタワー16F

DM9079PAT10300